

福井県埋蔵文化財調査報告 第172集

# 波寄三宅田遺跡

—一般国道416号道路改良工事に伴う調査—

第3分冊 遺物編Ⅱ

2021

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



福井県埋蔵文化財調査報告 第172集

な み よ せ み や け だ い せ き  
波寄三宅田遺跡

—一般国道416号道路改良工事に伴う調査—

第3分冊 遺物編Ⅱ

2 0 2 1

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



## 例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが一般国道416号道路改良事業に伴い、平成22年度から平成23年度にかけて発掘調査を実施した波寄三宅田遺跡(福井市波寄町所在)の発掘調査報告書である。報告書は第1分冊遺構編、第2分冊遺物編Ⅰ、第3分冊遺物編Ⅱで構成され、本書は第3分冊遺物編Ⅱにあたり、弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器、土製品、石器・石製品、木器・木製品を掲載した。
- 2 出土遺物の整理作業は、平成23年4月1日から令和3年3月31日まで、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。
- 3 本書の編集は山本孝一があたり、執筆は赤澤徳明、富山正明(現白馬村教育員会)、鈴木篤英(現朝倉氏遺跡資料館)、中原義史、吉田悠歩、山本が行った。分担は次のとおりである。なお、第5章第7・8節は各分析を委託した株式会社パレオ・ラボから提出された結果報告を鈴木・山本が加筆・編集して掲載した。

赤澤 第1章・第6章	山本 第2章第1節	中原 第2章第2節
吉田 第3章	富山 第4章	鈴木 第5章第1～4節
黒沼保子(パレオ・ラボ) 第5章第7節		
竹原弘展・藤根久・米田恭子(パレオ・ラボ) 第5章第8節		
- 4 波寄三宅田遺跡に関するこれまでの成果の発表のうち、本書と齟齬のある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 5 第3分冊作成に係る作業のうち、外部委託で実施したものは、次のとおりである。

平成25年度 木器・木製品の保存処理	株式会社エイテック
平成25年度 木器・木製品の樹種同定および塗膜分析	株式会社パレオ・ラボ
平成30年度 遺物実測図のトレース	株式会社吉田建設
- 6 本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管している。
- 7 遺物整理作業は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理・普及グループ職員および整理作業員があたった。

## 凡 例

- 1 遺物実測図の縮尺は以下のとおりである。

土器、墨書土器：1/4	土製品：1/2・1/4	瓦：1/4
石器・石製品：2/3・1/3	玉作り関連遺物、玉製品：1/2・2/3・1/1	木器・木製品：1/4
- 2 遺物番号は写真図版、挿図、表、および第1分冊中の表記においても符号する。
- 3 各遺物観察表に付す( )は、土器では推定値、石器では残存値を示す。
- 4 写真図版の縮尺は不同である。

# 目 次

	頁
第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器 .....	1
第1節 第Ⅰ区域7区出土土器 .....	1
第2節 第Ⅱ区域5・6区出土土器 .....	7
第3節 第Ⅲ区域2・3・4区出土土器 .....	12
第4節 第Ⅳ区域1・8区出土土器 .....	18
第5節 第Ⅳ区域8区周辺工事立会出土土器 .....	53
第6節 墨書土器 .....	55
第2章 土製品、瓦 .....	59
第1節 土製品 .....	59
第2節 瓦 .....	59
第3章 石器・石製品 .....	61
第1節 剥片石器、石核 .....	61
第2節 礫器 .....	63
第3節 打製石斧 .....	67
第4節 磨製石斧 .....	71
第5節 磨石類、石皿、多孔石、砥石 .....	77
第6節 石 錘 .....	90
第7節 その他の石器・石製品 .....	97
第4章 玉作り関連遺物、玉製品 .....	99
第1節 玉作り関連遺物 .....	99
第2節 その他の玉類 .....	100
第5章 木器・木製品 .....	107
第1節 雑器 .....	107
第2節 容器 .....	108
第3節 農工具 .....	108
第4節 部材 .....	115
第5節 用途不明部材 .....	115
第6節 祭祀具 .....	116
第7節 樹種同定 .....	121
第8節 漆製品の塗膜分析 .....	127
第6章 まとめ .....	131

## 写真図版目次

- 図版第1 第Ⅰ・Ⅱ区域出土土器
- 図版第2 第Ⅱ・Ⅲ区域出土土器
- 図版第3 第Ⅲ・Ⅳ区域出土土器
- 図版第4 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第5 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第6 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第7 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第8 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第9 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第10 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第11 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第12 第Ⅳ区域出土土器
- 図版第13 第Ⅳ区域・工事立会出土土器・  
墨書土器
- 図版第14 墨書土器
- 図版第15 墨書土器
- 図版第16 墨書土器、土製品、瓦  
(1) 墨書土器  
(2) 土製品、瓦
- 図版第17 石器・石製品 剝片石器、礫器  
(1) 石鏃、尖頭器、石匙、石錐、楔形石器、  
削器  
(2) 楔形石器、削器、石核、礫器
- 図版第18 石器・石製品 打製石斧  
(1) 打製石斧  
(2) 打製石斧
- 図版第19 石器・石製品 磨製石斧  
(1) 磨製石斧  
(2) 磨製石斧
- 図版第20 石器・石製品 磨製石斧、磨石類  
(1) 磨製石斧  
(2) 磨石類
- 図版第21 石器・石製品 磨石類、石皿  
(1) 磨石類  
(2) 磨石類、石皿
- 図版第22 石器・石製品 石錘  
(1) 石錘  
(2) 石錘
- 図版第23 石器・石製品 石皿、多孔石、砥石、そ  
の他の石器・石製品  
(1) 石皿、多孔石、砥石  
(2) 多孔石、砥石、大珠、石棒、その他の石  
製品
- 図版第24 石器・石製品、玉作り関連遺物、その  
他の玉類  
(1) 玉作り関連遺物  
(2) 玉作り関連遺物、その他の玉類、石庖丁
- 図版第25 木器・木製品 雑器、容器
- 図版第26 木器・木製品 容器、農工具、部材、用  
途不明部材、祭祀具

## 挿 図 目 次

第1図 第Ⅰ区域7区出土土器…………… 2	第30図 打製石斧…………… 68
第2図 第Ⅰ区域7区川出土土器…………… 3	第31図 打製石斧…………… 69
第3図 第Ⅱ区域5・6区出土土器…………… 8	第32図 磨製石斧…………… 72
第4図 第Ⅱ区域5区出土土器…………… 9	第33図 磨製石斧…………… 73
第5図 第Ⅲ区域2～4区出土土器…………… 13	第34図 磨製石斧…………… 74
第6図 第Ⅲ区域3区出土土器…………… 14	第35図 磨石類…………… 79
第7図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 24	第36図 磨石類…………… 80
第8図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 25	第37図 磨石類…………… 81
第9図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 26	第38図 磨石類、石皿…………… 82
第10図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 27	第39図 石皿…………… 83
第11図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 28	第40図 多孔石、砥石…………… 87
第12図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 29	第41図 多孔石、砥石…………… 88
第13図 第Ⅳ区域1区出土土器…………… 30	第42図 石錘…………… 91
第14図 第Ⅳ区域8区川(Ⅰ～Ⅲ層)出土土器…………… 31	第43図 石錘…………… 92
第15図 第Ⅳ区域8区川(Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ-1層) 出土土器…………… 32	第44図 石錘…………… 93
第16図 第Ⅳ区域8区川(Ⅳ層・Ⅴ-1・2層)出 土土器…………… 33	第45図 その他の石器・石製品…………… 97
第17図 第Ⅳ区域8区川(Ⅴ-2層)出土土器 …… 34	第46図 石庖丁…………… 98
第18図 第Ⅳ区域8区川(Ⅴ-2層)出土土器 …… 35	第47図 玉作り関連遺物…………… 101
第19図 第Ⅳ区域8区川(Ⅴ-2層)出土土器 …… 36	第48図 玉作り関連遺物…………… 102
第20図 第Ⅳ区域8区川(Ⅴ-2～Ⅶ層)出土 土器…………… 37	第49図 玉作り関連遺物…………… 103
第21図 第Ⅳ区域8区周辺工事立会出土 土器…………… 53	第50図 玉作り関連遺物、その他の玉類…………… 104
第22図 墨書土器…………… 55	第51図 雑器…………… 109
第23図 墨書土器…………… 57	第52図 雑器、容器…………… 110
第24図 鳥形土製品、土製三角盤…………… 59	第53図 容器…………… 111
第25図 土錘…………… 59	第54図 農工具…………… 112
第26図 瓦…………… 60	第55図 農工具、部材…………… 113
第27図 石鏃、尖頭器…………… 62	第56図 用途不明部材…………… 114
第28図 石匙、楔形石器、削器、礫器…………… 65	第57図 祭祀具…………… 115
第29図 楔形石器、削器、石核、礫器…………… 66	第58図 出土材の光学顕微鏡写真…………… 125
	第59図 出土材の光学顕微鏡写真…………… 126
	第60図 塗膜構造と反射電子像…………… 129
	第61図 塗膜構造と反射電子像および赤外 分光スペクトル…………… 130



## 表 目 次

第1表 第Ⅰ区域出土土器観察表…………… 4	第18表 石錘観察表…………… 94
第2表 第Ⅱ区域出土土器観察表…………… 9	第19表 その他の石器・石器観察表…………… 98
第3表 第Ⅲ区域出土土器観察表…………… 15	第20表 玉作り関連遺物観察表…………… 105
第4表 第Ⅳ区域出土土器観察表…………… 38	第21表 その他の玉製品観察表…………… 106
第5表 第Ⅳ区域周辺工事立会出土土器観察表… 54	第22表 雑器観察表…………… 117
第6表 墨書土器観察表…………… 58	第23表 容器観察表…………… 118
第7表 土錘観察表…………… 59	第24表 農工具観察表…………… 119
第8表 瓦観察表…………… 60	第25表 部材観察表…………… 119
第9表 石鏃観察表…………… 64	第26表 用途不明部材観察表…………… 120
第10表 尖頭器観察表…………… 64	第27表 祭祀具観察表…………… 120
第11図 石匙、石錐、楔形石器、削器、石核、 礫器観察表…………… 66	第28表 遺構別集計表…………… 121
第12表 打製石斧観察表…………… 70	第29表 器種別の樹種構成表…………… 123
第13表 磨製石斧観察表…………… 75	第30表 樹種同定結果一覧表…………… 124
第14表 磨石類観察表…………… 84	第31表 分析対象一覧…………… 127
第15表 石皿観察表…………… 85	第32表 生漆の赤外吸収位置とその強度…………… 127
第16表 多孔石観察表…………… 89	第33表 赤色塗膜層のX線分析結果表…………… 128
第17表 砥石観察表…………… 89	第34表 塗膜分析結果表…………… 128
	第35表 各地区の概要一覧表…………… 136



# 第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

## 第1節 第I区域7区出土土器

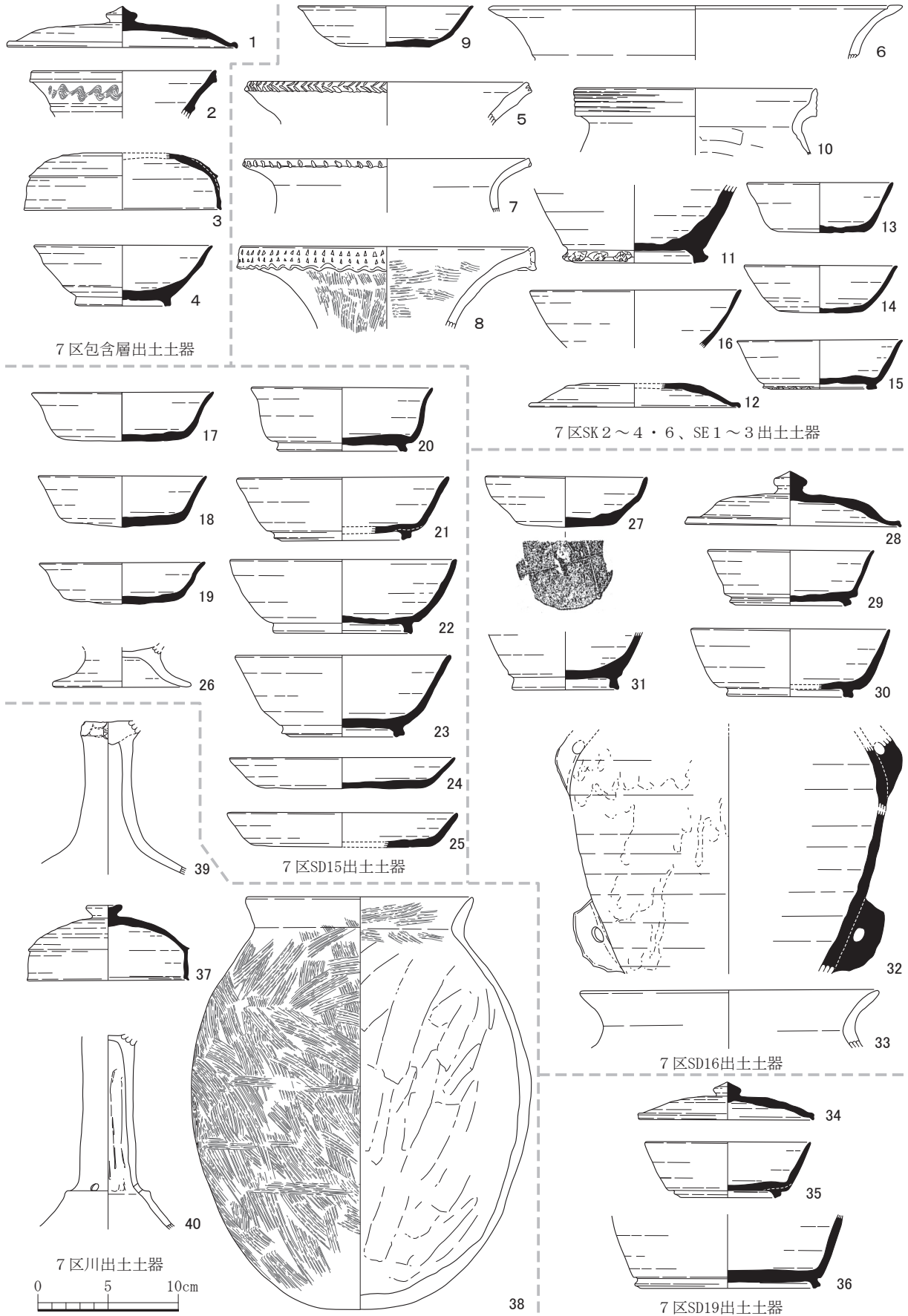
SK2からは弥生時代中期の広口壺口縁（第1図5）が、SK4からも弥生時代中期の広口壺口縁（第1図8）に加えて甕の口縁（第1図7）が出土している。前者の口縁部には羽状のヘラ刺突列点文を、後者は貼り付けた口縁帯に三角のヘラ刺突を2段加え、さらに下端を指で押圧する。SK3からは弥生時代後期の口縁端部の内面が肥厚する高坏（第1図6）が出土している。

SE1からは弥生時代後期の擬凹線を施文する有段口縁甕（第1図10）が出土している。口縁部が直立して立ち上がり、擬凹線を施文する。SE2からは須恵器の長頸瓶底部（第1図11）が出土している。SE3からは須恵器の蓋（第1図12）と埴（第1図16）と高台坏（第1図15）1点ずつに、無台坏2点（第1図13・14）の5点が出土している。また底部に「五月女」の墨書がある皿（第23図7）も出土している。SK6から出土している無台坏（第1図9）は、SD15出土の破片と接合した。

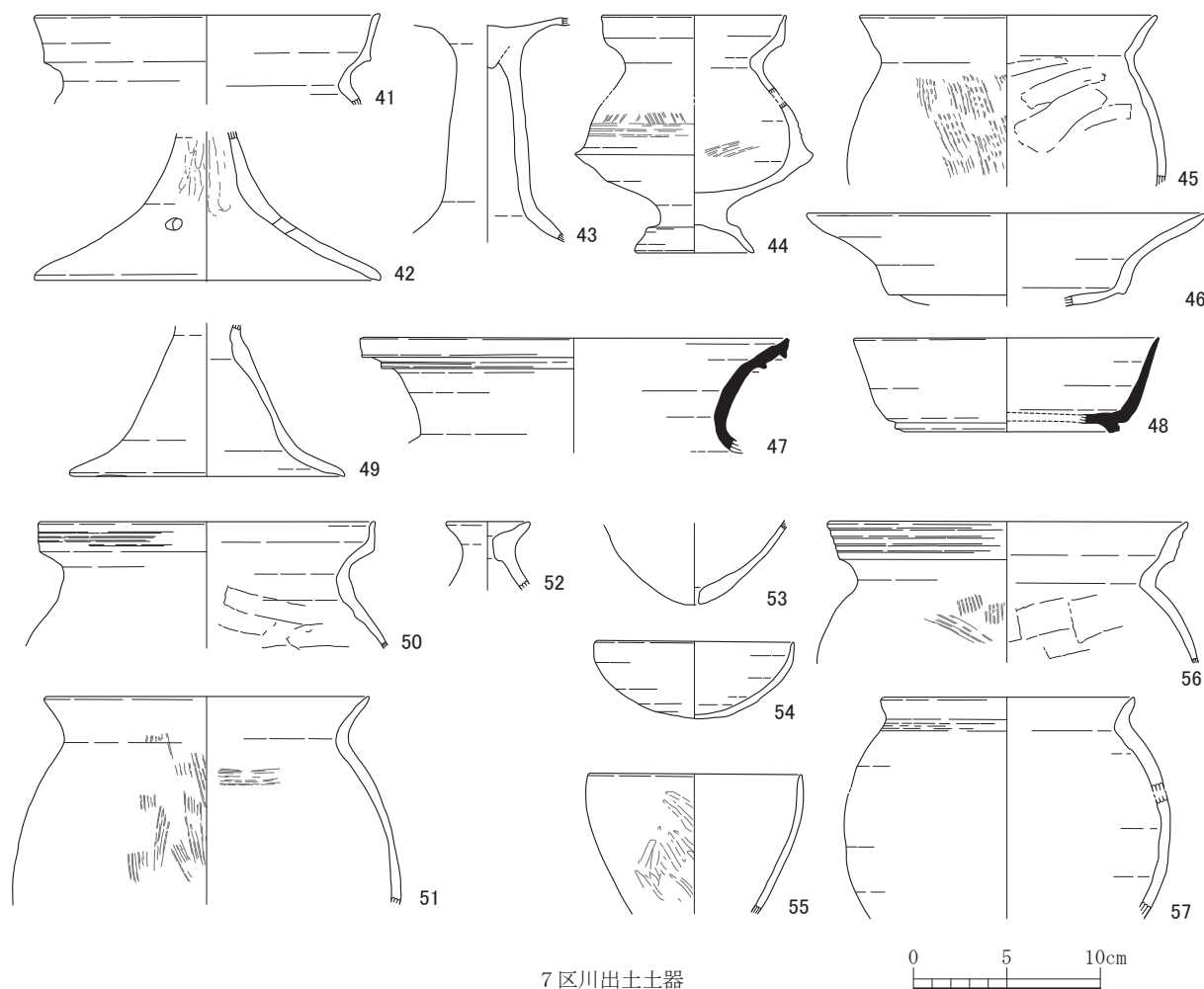
SD15からは多数出土している須恵器から、無台坏3点（第1図17～19）、高台坏2点（第1図20・21）、高台埴2点（第1図22・23）、皿2点（第1図24・25）と土師器（第1図26）を1点ずつを図化した。古代の土師器皿には底部に糸切痕を残すものが多いが、この土師器は胎土や色調から判断すると弥生時代後期から古墳時代初頭の壺などの脚台である可能性が高い。胴部との接合部と考えられるところの摩滅が著しいため確実ではない。また、底部に「×」の墨書がある皿（第23図9）、5点の無台坏の底部にそれぞれ「下家」（第23図17）、「幸？」（第23図18）、「正本」（第23図19）、「五月」（第23図20）、「吉万」（第23図21）と合計6点の墨書土器が確認されている。SD16からは須恵器の高台坏2点（第1図29・30）と蓋（第1図28）、無台坏（第1図27）と長頸瓶の底部（第1図31）、双耳瓶の胴部（第1図32）と土師器甕口縁（第1図33）の合計7点を図化した。無台坏の底部には「×」の線刻がある。双耳瓶は耳が縦に2カ所復元される。土師器甕も須恵器と同時期のもので、長胴で丸底となるものであろう。SD19からは須恵器の蓋（第1図34）と、大中の高台坏2点（第1図35・36）を図化した。

川からの出土品として、弥生時代後期の土器は擬凹線が僅かに残る2点（第2図50・56）と無文の1点（第2図41）の有段口縁甕を3点、「く」の字甕を2点（第2図45・57）、壺は台付壺（第2図44）、直口壺の口縁（第2図55）、高坏は口縁（第2図46）、脚部（第2図42）と脚部上半を3点（第1図39・40、第2図43）、その他頂部が穿孔された蓋の摘み部（第2図52）、有孔鉢の底部（第2図53）の合計14点を図化した。いずれも摩滅が著しく、調整と施文の不明瞭なものが多い。有段口縁擬凹線が施文される2点（第2図50・56）の口縁端部は先細りするが、無文のもの（第2図41）は端部が丸くなる。「く」の字甕の2点（第2図45・57）は、古墳時代初頭まで降る可能性もあるが、他に古墳時代にまで降ると思われる土器は確認できなかった。現段階ではこの前後の土器について、特に「く」の字甕の単独では時期を明確にすることはできない。小型の台付壺（第2図44）は装飾性の高い精製品と思われるが、胴部中位の凸帯の上に櫛描直線文と刺突列点文がかすかに残る程度である。

古墳時代中期の土器として、坏蓋（第1図37）とやや小型の甕の口縁（第2図47）の須恵器2点と、ほぼ完形に復元できた土師器甕（第1図38）、さらに頸部の外反が緩い「く」の字甕（第2図51）、高坏脚部（第2図49）の合計6点を図化した。須恵器の坏蓋の稜の突出は鋭く、口径の量法からはTK47と考えられる。この時期の須恵器が古墳の副葬品ではなく、集落域から出土する事例は越前では珍しい。胎



第1図 第I区域7区出土土器 (縮尺1/4)



第2図 第I区域7区出土土器 (縮尺1/4)

土が陶邑産に特徴的なものではないので、周辺の丘陵部にこの時期の須恵器窯跡がある可能性がある。ほぼ完形の甕（第1図38）は被熱を受けて一部に表面が剥落している部分もあるが、それ以外は外面のハケや内面のケズリなどもよく残っている。甕の胴部は丸くはなく、やや長胴になりつつあるが、7世紀以降ほどは長胴とはなっていないため、須恵器と同時期と考えられる。弥生土器または古式土師器は、周辺からの流れ込み、または長期間川底にあったためか摩滅が著しい。古代は須恵器の高台坏（第2図48）だけである。

包含層出土の土器として、古墳時代の須恵器の坏蓋（第1図3）と壺の口縁部（第1図2）、古代の須恵器の蓋（第1図1）と高台坏（第1図4）の4点を図化した。須恵器の蓋（第1図1）は内面に墨痕が残り、転用硯として使われた可能性が高い。

弥生時代中期、さらに弥生時代後期から古墳時代初頭の古式土師器はいずれも摩滅が著しく、川や溝（SD）に限らず、土坑（SK）や井戸（SE）で出土した土器も同様である。その一方で古墳時代中期と考えられる完形に近い甕（第1図38）は非常に遺存状態が良好である。古墳時代の須恵器に伴う土師器の甕は完形に復元できるものが少なく、さらに共伴事例が極端に少ない。古墳時代の須恵器は包含層も含めて3点（第1図2・3・37）で、この前後の須恵器は現在のところ見当たらない。このほぼ完形に復元された甕（第1図38）は、5世紀末から6世紀前半のものと考えられる。

第1表 第I区域出土土器観察表(第1・2図、図版第1)

( )は推定値 単位: cm

挿図 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
1	須恵器 高台坏蓋	口: 16.4 高: 2.9 天: 10.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	天井部: 中央平坦/口縁部と天井部の稜線は不明瞭/扁平擬宝珠ツマミ 口縁部: 口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外: 天井部回転ヘラケズリ/回転台右回転/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ/回転台右回転	7区S34・36/包含層 7区T36/包含層 内面に墨痕/転用硯	
1	須恵器 壺	口: 13.0 高: 3.3	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端部下端を肥厚して口端面をつくる/口端面は浅い凹面/口端部下に櫛描き波状文/波状文下に断面半円状の突帯 胴部: 欠損	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	7区S40/I層	
1	須恵器 坏蓋	口: 14.0 高: 4.0 天: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	天井部: 中央欠損/天井部は丸みをもつ/シャープ 口縁部: やや内湾して短く下方へのびる/上端は突出/口唇部は外傾して平坦/内側に段をもつ/シャープ	外: 天井部回転ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内: 口縁部～天井部回転ナデ	7区T40/I層	
1	須恵器 高台坏	口: 12.6 高: 4.3 底: 6.4	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 多量 白色粒子 多量 精緻 1/2	口縁部: やや内湾して斜め外方に立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部: 平坦/高台端面平坦/端面内側で接地/シャープ	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/下位回転ヘラケズリ/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	7区S37/I層	1
1	赤生土器 壺	口: 20.0 高: 3.0	焼: 良好 色: 橙色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: く字口縁/口縁部は短く外反し、口縁面は平坦/ヘラによる綾杉状の押し刻目文 胴部: 欠損	外: 口縁部摩耗 内: 口縁部摩耗	7区T43/SK 2	
1	赤生土器 高坏	口: 29.0 高: 4.2	焼: 良好 色: 淡茶褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部: 欠損 脚部: 欠損	外: 口縁部摩耗/ 内: 口縁部摩耗	7区S43/SK 3	
1	赤生土器 甕	口: 20.2 高: 4.0	焼: 良好 色: 橙色	小砂粒 多量 白色粒子 多量 軟質 1/10以下	口縁部: く字口縁/口縁部は短く外反し、口端面は平坦/押圧棒状文が巡る 胴部: 欠損	外: 口縁部～頸部摩耗 内: 口縁部～頸部摩耗	7区T41/SK 4	
1	赤生土器 壺	口: 21.0 高: 6.0	焼: 良好 色: 白褐色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部上・下端を肥厚して口端面をつくる/2段の三角刺突文/口端部下端は波状に成形頸部: 屈曲して大きく外反して開く 胴部: 欠損	外: 頸部タテハケ 内: 口縁部ナデ/頸部ヨコハケ後ナデ	7区T41/SK 4 内: 口縁部スス付着	
1	須恵器 無台坏	口: 12.4 高: 2.9 底: 6.6	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 2/3	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部で弱く外反し丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	7区R36/SK 6 7区R35/SD15/I層	1
1	赤生土器 甕	口: 19.4 高: 4.8	焼: 良好 色: 淡橙白色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/不明瞭な7の条線頸部: 短く屈曲して外反 胴部: 胴部上位で張る	外: 頸部～胴部上位ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	7区T43/SE 1 外: 口縁部スス付着	
1	須恵器 長頸瓶	高: 5.8 底: 10.0	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	胴部: 胴部中位～下位はわずかに内湾して外方へ立ち上がる/胴部下位は窄まる/シャープ 底部: 平坦/高台はハの字に踏ん張る/端面は浅い凹面/端面内側で接地/焼成後高台側面を数ヶ所浅く抉る	外: 胴部下位回転ヘラケズリ 内: 胴部下位～底部回転ナデ	7区S41/SE 2 外: 胴部下位自然釉 内: 底部自然釉	
1	須恵器 高台坏蓋	口: 15.0 高: 1.7 天: 9.0	焼: 良好 色: 暗青灰色	白色粒子 精緻 1/6	天井部: 中央平坦/口縁部と天井部の稜線は不明瞭 口縁部: 口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外: 天井部回転ヘラケズリ/回転台右回転/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ/回転台右回転	7区T42/SE 3 内面に墨痕/転用硯	
1	須恵器 無台坏	口: 10.4 高: 3.5 底: 6.0	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後未調整 内: 回転ナデ	7区T42/SE 3 外: 口縁部スス付着	1
1	須恵器 無台坏	口: 10.8 高: 3.1 底: 5.8	焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部はやや外反して丸く収める/墨痕あり 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ	7区T42/SE 3 外: 口縁部ヤキムラ	1
1	須恵器 高台坏	口: 11.8 高: 3.5 底: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方に立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部: 平坦/高台端面平坦/端面内側で接地/高台端部にスノコ状圧痕	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ内: 口縁部～底部回転ナデ	7区T42/SE 3 外: 口縁部一部降灰・自然釉付着	1
1	須恵器 壺	口: 15.0 高: 4.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 精緻 1/6	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 欠損	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	7区T42/SE 3	
1	須恵器 無台坏	口: 13.0 高: 3.5 底: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部で弱く外反する/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	7区S36/SD15/I層 外: 口端部ヤキムラ	1
1	須恵器 無台坏	口: 12.0 高: 3.6 底: 7.4	焼: 不良 色: 灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平坦/中央やや膨らむ	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	7区S35/SD15/I層 外: 口端部ヤキムラ/底部ナマヤケ	1
1	須恵器 無台坏	口: 11.8 高: 3.0 底: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 精緻 4/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部で弱く外反/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	7区S36/SD15 7区R32/SD23 外: 口縁部～底部ヤキムラ・降灰	1

第1節 第1区域7区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号	器種	法量	焼成 色調	胎土 残存	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
							備考	
1 20	須惠器 高台環	口：13.0 高：4.6 底：9.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 4/5	口縁部：直線状に上方に立ち上がる/口端部はやや外反/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い面/端面で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	7区R35/SD15/I層 7区R34/SD15/I層 全体片口状に歪む	1
1 21	須惠器 高台環	口：15.0 高：4.5 底：8.6	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部：直線状に外傾して上方に立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い面/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	7区S35/SD15/I層 7区R37/SD16/I層	
1 22	須惠器 高台環	口：16.0 高：5.2 底：10.0	焼：良好 色：暗灰黒色	極砂粒 白色粒子 精緻 4/5	口縁部：やや内湾して斜め外方に立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ/平面は楕円形 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面外側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部シッタ痕	7区S36/SD15/I層 7区S36/SD16/I層 外：口縁部一部ヤキムラ	1
1 23	須惠器 高台環	口：15.4 高：5.8 底：7.4	焼：良好 色：明青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 4/5	口縁部：直線状に斜め外方に立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	7区R35/SD15/I層 7区S35/SD15/I層	1
1 24	須惠器 皿	口：16.0 高：2.2 底：11.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/2	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ・スノコ状圧痕 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデツケ	7区T35/SD15/I層 外：口端部ヤキムラ	
1 25	須惠器 皿	口：16.4 高：2.5 底：12.4	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/4	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	7区T35/SD15/I層 外：口端部ヤキムラ	1
1 26	土師器 受台	口：5.0 高：2.9 底：10.0	焼：良好 色：淡黄褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：強く外反して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：縁側の器壁が厚い/中央は接地しない	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	7区S35/SD15/I層	1
1 27	須惠器 無台環	口：11.4 高：3.7 底：6.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/3	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲する/口唇部は丸く収める 底部：平坦/外面中央寄りに「×」のヘラ記号	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	7区R37/SD16/I層 7区S36/SD16/I層 外：口縁部下位ヤキムラ	
1 28	須惠器 高台環蓋	口：15.4 高：3.8 天：9.0	焼：良好 色：紫灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/2	天井部：中央に擬宝珠摘み/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ屈曲後、口唇部を斜め下方へ屈曲させ丸く収める/口端面は平坦/シャープ	外：天井部中央ヘラ切り後粗いナデ/ 天井部縁辺回転ヘラケズリ/口縁部 回転ナデ 内：回転ナデ/天井部中央ナデツケ	7区S36/SD16/I層	1
1 29	須惠器 高台環	口：12.0 高：3.9 底：8.0	焼：良好 色：紫灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 4/5	口縁部：直線状に斜め外方に立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部シッタ痕	7区T36/SD16/I層 外：口縁部自然袖全 体片口状に歪む	1
1 30	須惠器 高台環	口：14.2 高：4.8 底：8.5	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/8	口縁部：直線状に斜め外方に立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	7区T36/SD16/I層	
1 31	須惠器 長頸瓶	高：4.1 底：7.4	焼：良好 色：暗青灰色	極砂粒 非常に精緻1/10 以下	胴部：胴部下位はわずかに内湾して外方へ立ち上がる/ 胴部下位窄まる/シャープ 底部：平坦/高台はハの字に踏ん張る/端面は浅い凹面/ 端面外側で接地/シャープ	外：胴部下位回転ナデ 内：胴部下位回転ナデ	7区S37/SD16 I層 外：胴部下位ヤキムラ	1
1 32	須惠器 双耳壺	高：16.0 最：22.8	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	胴部：胴部上位は張り、胴部下位で窄まる/胴部左右上下位に径1.0cmの楕円孔を穿孔した耳部をもつ/耳部は側辺を多角形に面取	外：胴部上位～中位回転ナデ/回転 台右回転/胴部下位回転ヘラケズリ 内：胴部回転ナデ	7区T36/SD16 7区T36/包含層 7区S36/包含層 外：胴部上位～下位 自然袖付着	
1 33	土師器 甕	口：21.0 高：4.1	焼：良好 色：橙色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：くの字口縁/頸部から短く外反して立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外：口縁部～頸部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ	7区R35/SD16/I層 7区R36/SD16/I層	
1 34	須惠器 高台環蓋	口：12.5 高：2.7 天：6.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 4/5	天井部：中央に擬宝珠摘み/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ屈曲した後、口唇部を斜め下方へ屈曲させて丸く収める/口端面は浅い凹面/シャープ	外：天井部中央ヘラケズリ/口縁部 回転ナデ/回転台右回転 内：回転ナデ	7区S37/SD19 口端部ヤキムラ	1
1 35	須惠器 高台環	口：12.0 高：4.0 底：6.8	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/2	口縁部：直線状に斜め外方に立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面平坦/端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	7区S34/包含層 7区S34/SD19	1
1 36	須惠器 高台環	口：- 高：5.0 底：12.4	焼：良好 色：灰黒色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/2	口縁部：直線状に斜め外方に立ち上がる/口端部欠損 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ ケズリ 内：口縁部～底部回転ナデ/底部中 央ナデツケ	7区S35/包含層 7区S34/包含層 7区S34/SD19	
1 37	須惠器 高台環蓋	口：11.6 高：5.3 天：7.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 4/5	天井部：中央に扁平凹面摘み/天井部は丸みをもつ 口縁部：口端部は短く下方へのびる/口端部上端突出/ 口唇部は浅い凹面/内側に段をもつ/シャープ	外：天井部回転ヘラケズリ/回転台 左回転/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ/回転台左回転	7区S38/川b/X001	1
1 38	土師器 甕	口：16.2 高：29.7 最：24.2 底：6.0	焼：良好 色：茶褐色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：くの字口縁/短く外傾する/器壁厚い頸部：屈曲して外方へ立ち上がる 胴部：長球形/胴部中位で弱く張る/胴部下位半球形 底部：丸底	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位 ～中位タテハケ後ナメハケ/胴部下 位ナメハケ後ヨコハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコハケ/胴部上位 ～底部タテ方向のヘラケズリ	7区S38/川/X002/III層 外：全面スス付着内： 胴部下位～底部スス 付着	1
1 39	赤生土器 高環	高：10.5	焼：良好 色：淡白褐色	微砂粒 軟質 1/8	杯部：中央に粘土板を充填して脚部と接合 脚部：脚柱部は棒状/シボリ痕が無く棒巻き成形と推定/ 脚裾部はハの字に外反して開く	外：脚部ナデ 内：脚部ナデ	7区S38/川c/IV層	

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号	器種	法量	焼成 色調	胎土 残存	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
							備考	
1 40	赤生土器 高坏	高：13.6	焼：良好 色：灰褐色	微砂粒 軟質 1/5	脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に外方へ開く/脚柱部最下位に径0.5cmの円孔を配す/方向数不明	外：脚部摩耗 内：脚柱部シボリ痕/脚台部上位摩耗	7区S38/川a/X006	
2 41	赤生土器 甕	口：18.5 高：4.6	焼：不良 色：灰黄褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は突出/稜は鈍い/平面は楕円形 頸部：鋭く屈曲して外反	外：口縁部～頸部摩耗 内：口縁部～頸部摩耗	7区R37/川c/X007	
2 42	赤生土器 高坏	高：8.0 底：18.5	焼：良好 色：淡灰褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	脚部：大きくハの字に下方へ外反する/脚端面丸く収める/脚裾部中位に径1.0cmの円孔を配す/方向数不明	外：脚裾部上位ミガキ/下位摩耗 内：脚裾部上位シボリ痕/下位摩耗	7区S37/川c/X003	
2 43	赤生土器 高坏	高：11.5 底：	焼：良好 色：淡橙褐色	微砂粒 軟質 1/8	脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部強く屈曲して短く開く	外：杯部～脚部摩耗 内：杯部摩耗/脚柱部～脚裾部摩耗	7区T39/川a/X005	
2 44	土師器 台付加 師壺	口：10.0 高：12.7 最：12.6 底：6.2	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 軟質2/3	口縁部：有段口縁/口端部は短く上方へ直立する/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲して外反胴部：算盤玉形/胴部下位で屈曲して張る/胴部下位肥厚して突出 底部：径3.5cmの短脚柱部が付く/脚台部はハの字に開く/脚端部は丸く収める	外：/口縁部～頸部ナデ/胴部上位ハケ後ナデ・摩耗/胴部中位に3条の浅い条線/胴部下位～脚部ヨコナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位～底部ハケ後ナデ/脚台部ナデ	7区T39/川/IV層	
2 45	土師器 甕	口：16.0 高：9.0 最：17.2	焼：良好 色：淡褐色	小石粒 多量 軟質1/10以下	口縁部：くの字口縁/頸部から短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：球形/体部中位張る	外：口縁部～頸部ナデ/体部上位タテハケ 内：口縁部～頸部ナデ/体部上位ヘラケズリ	7区S38/川/III層	
2 46	土師器 高坏	口：21.4 高：5.0	焼：良好 色：灰褐色	小砂粒 多量 軟質1/10以下	口縁部：外反して斜め外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は鈍い	外：口縁部～杯部摩耗 内：口縁部～杯部ナデ摩耗	7区T30/川/IV層 外：口端部スス付着	
2 47	須恵器 甕	口：22.8 高：6.2	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 精緻 1/10以下	口縁部：口縁部はやや外反して外方へ立ち上がる/口端部下端は肥厚/口端面をつくる/口端部の下に1条の突線/非常にシャープ 頸部：強く屈曲して外反	外：口縁部～頸部回転ナデ 内：口縁部～頸部回転ナデ	7区R37/川III層	
2 48	須恵器 高台坏	口：16.2 高：5.1 底：11.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/5	口縁部：直線状に斜め外傾して立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部：高台端面平坦/端面内側で接地/シャープ 墨書：底部外面縁辺に墨痕あり	外：口縁部回転ナデ/回転右回転 内：回転ナデ	7区/T39・40/I層 7区/川/III層	
2 49	土師器 高坏	高：8.2 底：14.6	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 軟質 1/5	脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部強く屈曲して短く外反する/脚端面は丸く収める	外：脚部摩耗 内：脚部摩耗	7区/川a/III層	1
2 50	赤生土器 甕	口：18.0 高：6.4	焼：良好 色：淡茶褐色	小砂粒 多量 軟質 1/8	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/不明瞭な4条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位張る	外：/頸部ナデ～胴部上位摩耗 内：口縁部～頸部ナデ・摩耗/胴部ヨコ方向へのヘラケズリ	7区S39/川a/III層 外：口縁部～胴部上位スス付着	1
2 51	土師器 甕	口：17.4 高：11.0 最：20.8	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：くの字口縁/頸部から短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：球形/体部中位張り出す	外：口縁部～頸部ナデ/体部上位タテハケ 内：口縁部～頸部ナデ/体部ハケ後ナデ	7区S38/川a/III層	
2 52	赤生土器 小型器台	口：2.4 高：3.5	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 1/6	受部：中央に径0.5cmの穿孔/短く斜め外方へのびる/器壁厚い 脚部：ハの字に外反して開く	外：受部～脚部ナデ 内：受部～脚部ナデ	7区J39/川a/III層	
2 53	赤生土器 有孔鉢	高：4.2 底：1.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 軟質 1/5	底部：尖底/中央に径0.5cmの穿孔をもつ/やや膨らみをもって上方へ立ち上がる	外：脚部ナデ 内：脚部ナデ	7区T39/川a/III層	
2 54	土師器 壺	口：10.6 高：4.2 底：2.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部：口端部は内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：半球形 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	7区S38/川c/IV層 7区S38/川/III層	1
2 55	赤生土器 壺	口：11.4 高：7.3	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部～体部はゆるやかに内湾して上方へ立ち上がる/口唇部平坦 体部：カップ形/体部下位窄まる 底部：欠損	外：口縁部～体部下位ミガキ・摩耗 内：口縁部～体部下位摩耗	7区K37/川c/IV層	
2 56	赤生土器 甕	口：19.4 高：8.3 最：20.4	焼：良好 色：淡茶色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は斜め外方へ立ち上がる/口唇部は外傾して丸く収める/口端部下端は肥厚/不明瞭な4条の擬凹線/口端部下端の稜は鈍い 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向へのヘラケズリ	7区S37/川c/III層 外：胴部上位スス付着	1
2 57	赤生土器 甕	口：13.4 高：11.9 最：17.5	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 雲母 軟質 1/10以下	口縁部：くの字口縁/頸部から短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：球形/体部中位張り出す	外：口縁部ナデ/頸部ヨコナデ/体部上位～下位ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/体部上位～下位ナデ	7区T39/川a/IV層 7区T39/川c/III層 7区S38/川c/IV層	



## 第2節 第Ⅱ区域5・6区出土土器

5区の掘立柱建物に復元された柱穴からは、7点の須恵器を図化した。SB1の柱穴3からは皿（第3図62）が出土している。また、SB1の柱穴2からは「志豆□」の墨書がある皿底部（第23図11）、柱穴5からは「大」の墨書がある無台坏底部（第23図24）が出土している。SB2の柱穴2からは底部に「三田」の墨書がある皿（第22図2）、柱穴7からは高台坏（第3図63）、柱穴9からは無台坏（第3図61）が出土している。SB3の柱穴3からは無台坏（第3図64）と、高台坏（第3図65）が出土している。SB4の柱穴7からは蓋（第3図66）、柱穴2からは高台坏（第3図67）が出土している。ピット57からは高台坏（第3図73）、ピット74からも高台坏（第3図72）が出土している。ピット88からは蓋（第3図70）、ピット92からもピット88と同じような器形と口径の須恵器蓋が出土している（第3図71）。また、ピット110からは底部に「空」の墨書がある無台坏（第23図14）が出土している。

5区SK1からは甕の口縁（第3図69）と高坏脚部上半（第3図68）を図化した。弥生時代後期であろう。

5区SE1からは弥生時代の広口壺2点と壺の底部（第3図77）と、混入と考えられる縄文晩期の深鉢の底部（第3図76）を図化した。広口壺の1点は口縁部（第3図74）のみで、もう1点（第3図75）はほぼ完形である。どちらも装飾性の高いと思われる器形の壺ながら無文であるが、前者は器壁が薄く丁寧なヨコナデ、一部ミガキ調整である。後者は器壁が厚く部分的にミガキ調整もあるが、全体にはハケ調整である。広口壺として北陸ではあまり見慣れない器形であるが、SK1の土器とともに弥生時代後期でも前半の時期と考えられる。SE3からは須恵器の無台坏3点（第3図78・79・80）、高台坏2点（第3図82・83）、蓋（第3図81）、皿2点（第3図84・85）、高坏脚部上半（第3図86）、広口鉢の胴部（第3図88）と埴（第3図87）の合計11点を図化した。埴としたものは外に摘み出して外反する口縁端部で、在地の須恵器の系譜では追えないものである。越前町の小曾原窯跡群で出土している「平鉢」と呼称しているものと同じタイプと思われ、猿投窯跡群の灰釉陶器の系譜を引くものとされている。この想定が正しければ、SE3は9世紀前半以降の時期と考えられる。またこれらに加えて、皿底部に「木戸」（第23図8）と「寺」（第23図10）の墨書土器が出土している。

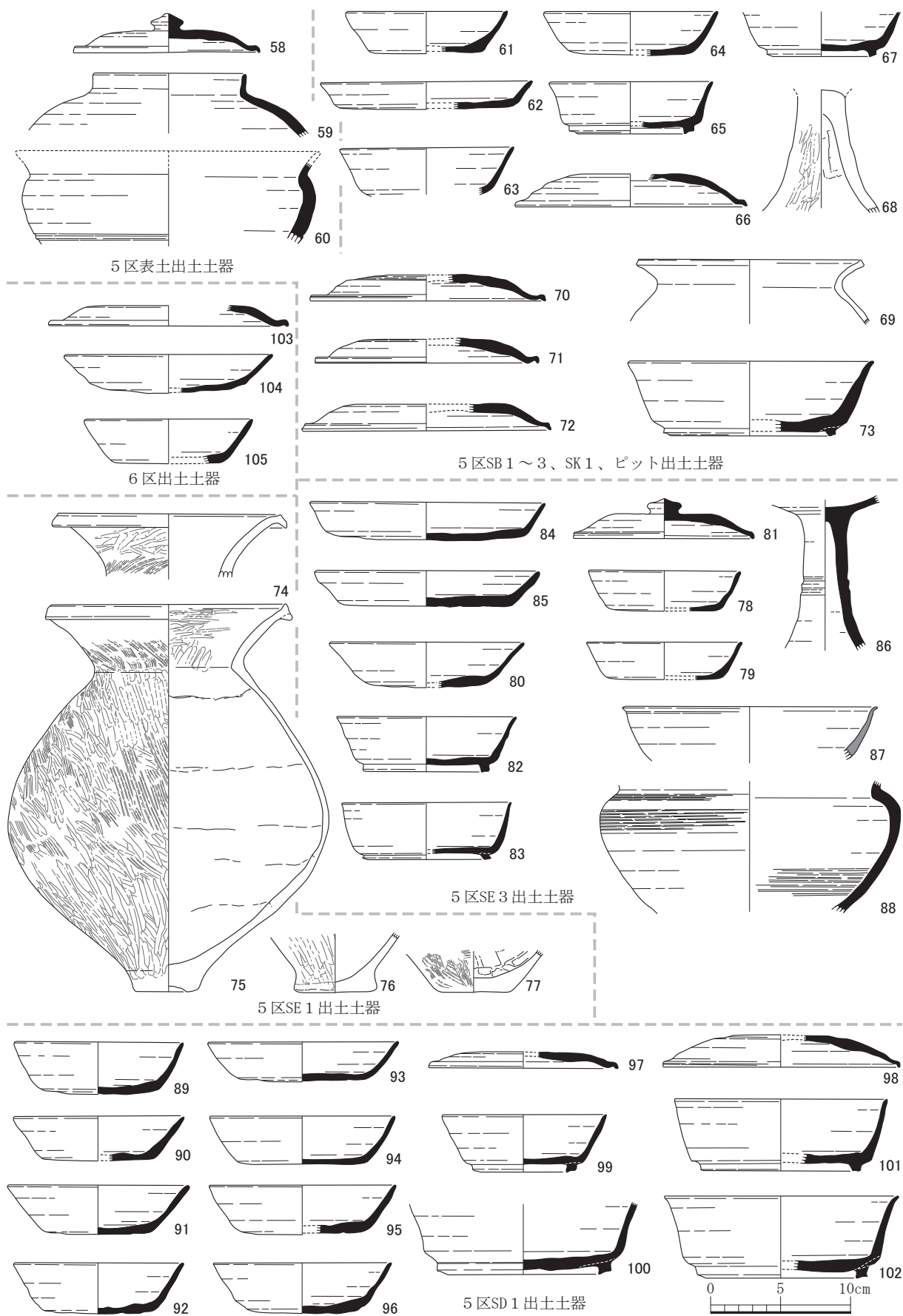
5区SD1からは多数の須恵器が出土している。須恵器の供膳器としては無台坏8点（第3図89～96）、高台坏4点（第3図99～102）、皿3点（第4図106～108）、蓋2点（第3図97・98）、貯蔵器としては広口鉢3点（第4図110～112）、中型の長頸瓶（第4図109）、大型の長頸瓶（第4図113）の計22点を図化した。蓋の2点は無紐のタイプと考えられる。1点の無台坏（第3図95）の口縁部には墨痕が残されている。これらに加えて、3点の無台坏底部にそれぞれ「娶？」（第23図22）、「大一」（第23図23）、「空？」（第23図25）、高台坏底部に「鬼？□」、皿底部に「中山」（第23図12）の墨書土器が出土している。

5区の表土出土の土器として、須恵器の蓋（第3図58）、短頸壺（第3図59）、鉢（第3図60）の3点を図化した。鉢は焼成があまり、生焼けの須恵器である。

5区から出土した須恵器でもここで図化したものには、SD1の無台坏に8世紀代に遡りそうなものもあるが、特に柱穴や井戸などから出土したものはほぼ9世紀代と考えられる。

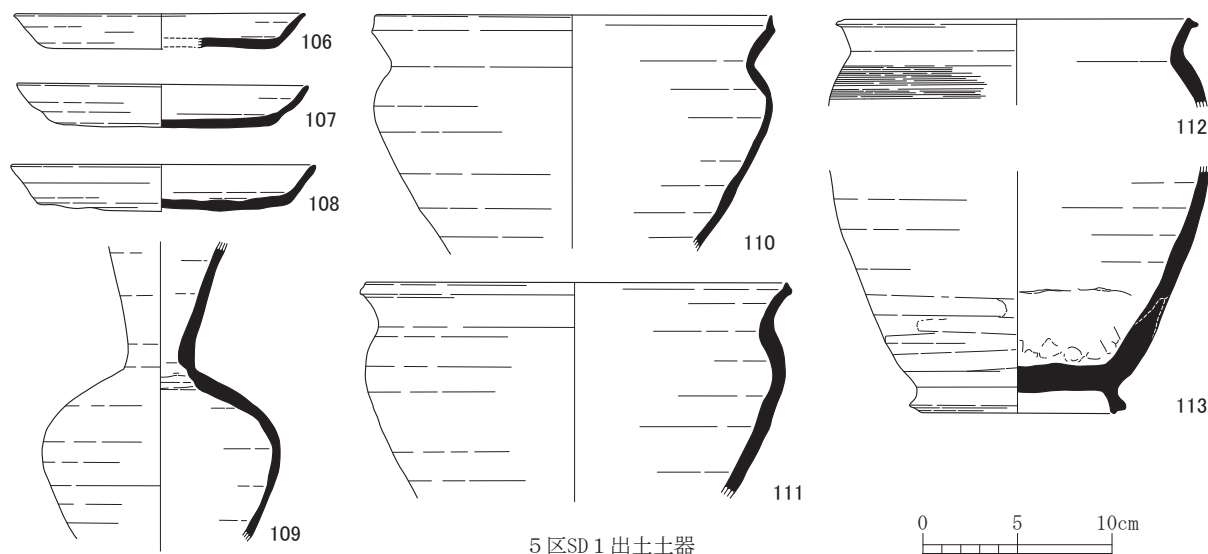
6区は全体に出土した土器が少ない。

6区SB1の柱穴2からは須恵器の蓋（第3図103）が出土しており、破片内面全体に墨痕が残り転用硯として使用されている。ピット5からは須恵器の皿（第3図104）が出土している。ピット29からは須恵器の無台坏（第3図105）が出土している。6区で図化できたのは、この3点だけである。



第3図 第II区域5・6区出土土器 (縮尺1/4)

第2節 第II区域5・6区出土土器



第4図 第II区域5区出土土器 (縮尺1/4)

第2表 第II区域出土土器観察表 (第3・4図、図版第2)

( )は推定値 単位: cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
3 58	須恵器 高台坏蓋	口: 13.8 高: 2.8 天: 8.0	焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 3/4	天井部: 中央に扁平擬宝珠揃み/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部: 口端部は一旦外方へ屈曲した後、口唇部を斜め下方へ屈曲/丸く収める/口端面は丸みをもつ/シャープ	外: 天井部ヘラケズリ/回転台左回転/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ/回転台右回転	5区表土 外: 口端部ヤキムラ	1
3 59	須恵器 短頸壺	口: 8.8 高: 4.4	焼: 良好 色: 暗灰黑色	極砂粒 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: 短く直立する/口唇部は丸く収める頸部: 屈曲して直立 胴部: 扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位が窄まる器形	外: 口縁部～胴部上位回転ナデ 内: 口縁部～胴部上位回転ナデ	5区表土 外: 口縁部～胴部上位ヤキムラ	
3 60	須恵器 鉢	高: 5.1 最: 11.0	焼: 良好 色: 白色	極砂粒 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: 短く斜め外方へのびる 頸部: 屈曲して外反 体部: 扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位は窄まる/胴部下位に2条の凹線を施す	外: 口縁部～胴部下位回転ナデ 内: 口縁部～胴部下位回転ナデ	5区Q30/表土 外: 胴部上位白色の化粧土塗布	
3 61	須恵器 無台坏	口: 11.4 高: 3.0 底: 8.0	焼: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/6	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦/縁部の器壁厚い	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部回転ナデ	5区Q30/SB2柱穴9 (P2)	
3 62	須恵器 皿	口: 15.0 高: 2.0 底: 12.0	焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 1/5	口縁部: 短く外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り後粗いナデ/底部縁辺回転ヘラケズリ 内: 口縁部回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区R31/SB1柱穴3 (P8)	1
3 63	須恵器 高台坏	口: 12.4 高: 3.3	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 欠損	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転 内: 口縁部回転ナデ	5区Q30/SB2柱穴7 (P36)	
3 64	須恵器 無台坏	口: 12.4 高: 3.0 底: 8.0	焼: 良好 色: 暗青灰色	極砂粒 白色粒子 多量 堅緻 1/3	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	5区Q29/SB3柱穴3 (P45)	1
3 65	須恵器 高台坏	口: 11.8 高: 3.7 底: 3.8	焼: 良好 色: 灰黑色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/8	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦/高台端面は浅い凹面/端面内側で接地	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内: 口縁部～底部回転ナデ	5区R29/SB3柱穴 (P39)	
3 66	須恵器 高台坏蓋	口: 16.6 高: 2.4 天: 9.0	焼: 良好 色: 淡灰黑色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/4	天井部: 中央欠損/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部: 口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外: 天井部ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ/回転台右回転	5区P28/SB4柱穴7 (P48)	
3 67	須恵器 高台坏	高: 3.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 暗青灰色	極砂粒 多量 白色粒子 多量 堅緻 1/6	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる 底部: 平坦/高台端面平坦/端面内側で接地	外: 口縁部回転ナデ/回転台右回転/底部回転ヘラケズリ 内: 口縁部～底部回転ナデ	5区P25/SB7柱穴2 (P122)	
3 68	赤生土器 高环	高: 7.5	焼: 良好 色: 淡橙褐色	小砂粒 多量 軟質 1/4	脚部: ラッパ状に下方へ開く	外: 脚部ミガキ・摩耗 内: 脚部上位ヘラナデ/脚部下位ナデ	5区R30/SK1 外: 脚部上位一部黒斑	
3 69	赤生土器 甕	口: 16.0 高: 4.4	焼: 良好 色: 橙色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: ゆるやかに外反して立ち上がる/口端部上端を上方へつまみ出し、内面に段をもつ/口端面は平坦 頸部: 短く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部上位で張り出す	外: 口縁部～胴部上位ナデ・摩耗 内: 口縁部～胴部上位ナデ・摩耗	5区R30/SK1 外: 脚部上位一部黒斑	
3 70	須恵器 高台坏蓋	口: 16.6 高: 1.9 天: 11.0	焼: 良好 色: 淡紫灰色	極砂粒 精緻 1/3	天井部: 中央欠損/口縁部と天井部の稜に1条の条線を施す 口縁部: 口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外: 天井部回転ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ	5区R29/P88 SB3関連か? 内: 降灰	

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
3 71	須惠器 高台坏蓋	口：16.0 高：1.6 天：10.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/8	天井部：中央欠損/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外：天井部ナデ/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ/回転台右回転	5区R29/P92 SB3 関連か？	
3 72	須惠器 高台坏蓋	口：17.8 高：1.9 天：10.0	焼：良好 色：紫灰色	極砂粒 精緻 1/5	天井部：中央欠損/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を斜め下方へ屈曲させ丸く収める/口端部は浅い凹面/シャープ	外：天井部ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ/回転台右回転	5区S30/P74	
3 73	須惠器 高台坏	口：17.5 高：5.3 底：11.4	焼：良好 色：暗灰褐色	極砂粒 白色粒子 多量 1/3	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める/シャープ/器壁厚い 底部：平坦/器壁厚い/高台端面は浅い凹面、内側で接地	外：口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ 切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区R30/P57 外：底部降灰	
3 74	赤生土器 壺	高：4.5 底：16.0	焼：良好 色：橙色	小砂粒 若干量 軟質 1/10以下	脚部：脚台部はハの字に外反して開く/脚端部上端を斜め外方へつまみ出し脚端面をつくる/脚端部下端は内面に段をもち接地/脚端面は平坦	外：脚台部上位ハケ/下位ミガキ 内：脚台部ヨコナデ	5区R30/SE 1	2
3 75	赤生土器 壺	口：16.7 高：27.6 底：4.5	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 堅緻 1/1	口縁部：短く斜め上方へのびる/口端部上端を上方へ摘みだす/口端部下端を肥厚して端面をつくる/口唇部は丸く収める/非常にシャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：算盤玉形/胴部中位で屈曲して張る/胴部下位窄まる 底部：凹底	外：/口縁部～胴部中位ハケ後ミガキ/胴部下位ミガキ 内：口縁部～頸部ハケ後ミガキ/胴部上位～底部ナデ/接合痕5段	5区R30/SE 1 外：底部黒斑 内：胴部上位～底部煮沸による変色・スス付着	2
3 76	縄文土器 深鉢	高：4.2 底：5.5	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	胴部：胴部下位窄まる 底部：平底/器壁は厚い	外：胴部下位縦位条痕/底部ナデ内： 胴部下位～底部ナデ	5区R30/SE 1 外：スス付着晩期後葉	
3 77	赤生土器 壺	高：2.8 底：5.0	焼：良好 色：淡黄褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	胴部：胴部下位窄まる 底部：平底/器壁は厚い	外：胴部下位～底部粗いハケ 内：胴部下位～底部ヘラケズリ	5区R30/SE 1 外：半身スス付着	
3 78	須惠器 無台坏	口：11.0 高：2.9 底：8.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ	5区Q30/SE 3	
3 79	須惠器 無台坏	口：11.0 高：2.6 底：8.0	焼：良好 色：明青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/5	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ 切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ	5区Q30/SE 3 外：ヤキムラ	
3 80	須惠器 無台坏	口：14.0 高：3.2 底：8.0	焼：不良 色：灰褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦/縁側の器壁厚い	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデツケ	5区Q30/SE 3 ナマヤケ	2
3 81	須惠器 高台坏蓋	口：12.8 高：2.7 天：7.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/1	天井部：中央平坦/口縁部と天井部の稜線は明瞭 口縁部：浅く外反する/口唇部は下方へ屈曲/丸く収める/シャープ その他：扁平擬宝珠ツマミが付く	外：天井部回転ヘラケズリ/回転台 右回転/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ/回転台右回転	5区Q30/SE 3 内面に墨痕/転用硬全体やや歪む	2
3 82	須惠器 高台坏	口：12.8 高：4.0 底：9.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/3	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面は浅い凹面/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	5区Q30/SE 3	2
3 83	須惠器 高台坏	口：12.2 高：4.1 底：11.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/2	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面は平坦/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	5区Q30/SE 3	2
3 84	須惠器 皿	口：16.8 高：2.5 底：12.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/4	口縁部：短く直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ/底部 縁側回転ヘラケズリ 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区Q30/SE 3 全体歪む	2
3 85	須惠器 皿	口：16.0 高：2.5 底：11.6	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/2	口縁部：短く直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/器壁厚い/シャープ 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデ ツケ	5区Q30/SE 3 外：底部中央に墨痕	2
3 86	須惠器 高坏	高：11.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 多量 堅緻 1/8	脚部：脚柱部は棒状/脚柱部中位に2条の浅い凹線/脚楯部はラッパ状に開く	外：杯底部回転ヘラケズリ/脚柱部 回転ナデ 内：杯底部ナデ/脚柱部口縁部回転 ナデ	5区Q30/SE 3	
3 87	灰輪陶器 埴	口：18.0 高：4.0	焼：良好 色：灰白色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は外反して丸く収める 底部：欠損	外：口縁部回転ナデ 内：口縁部回転ナデ	5区Q30/SE 3	
3 88	須惠器 広口鉢	高：9.3 最：21.9	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/8	口縁部：短く斜め外方へのびる頸部：屈曲して外反 体部：扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位窄まる	外：胴部上位回転ナデ後カキメ/胴 部下位回転ヘラケズリ 内：胴部上位～中位回転ナデ/胴部 下位回転ナデ後カキメ	5区R30/SE 3	
3 89	須惠器 無台坏	口：12.0 高：3.7 底：7.8	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/2	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/底部との稜は不明瞭 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
3 90	須惠器 無台坏	口：12.0 高：3.2 底：8.0	焼：不良 色：灰褐色	極砂粒 白色粒子 若干量 軟質 1/3	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1 ナマヤケ	2
3 91	須惠器 無台坏	口：13.0 高：3.6 底：7.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/2	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
3 92	須惠器 無台坏	口：12.2 高：3.6 底：3.8	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 2/3	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2

第2節 第Ⅱ区域5・6区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
3 93	須惠器 無台坏	口：13.8 高：2.8 底：8.6	焼：良好 色：淡灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
3 94	須惠器 無台坏	口：13.0 高：3.4 底：9.0	焼：不良 色：灰褐色	極砂粒 白色粒子 若干量 軟質 2/3	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
3 95	須惠器 無台坏	口：13.2 高：3.5 底：7.0	焼：良好 色：明灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 軟質 1/2	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	5区P27/SD 1 外：口端部ヤキムラ 内：口端部一部墨痕 一部ナマヤケ	2
3 96	須惠器 無台坏	口：12.6 高：3.6 底：6.6	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 多量 精緻 1/2	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口縁部と底部の稜は不明瞭 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1 外：口端部ヤキムラ/ 底部焼成前にヒビ	2
3 97	須惠器 高台坏蓋	口：13.4 高：1.1 天：8.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻	天井部：中央欠損/口縁部と天井部の稜線は不明瞭 口縁部：口端部は直線状に下方へのびる口端部はやや外方へ屈曲/口唇部は下方へ肥厚して丸く収める/シャープ	外：天井部回転ヘラケズリ/口縁部 回転ナデ 内：天井部～口縁部回転ナデ	5区P27/SD 1	
3 98	須惠器 高台坏蓋	口：16.8 高：2.3 天：10.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/5	天井部：中央欠損/口縁部と天井部の稜線は不明瞭 口縁部：口端部は直線状に下方へのびる口端部はやや外方へ屈曲/口唇部は下方へ肥厚して丸く収める/シャープ	外：天井部回転ヘラケズリ/口縁部 回転ナデ 内：天井部～口縁部回転ナデ/回転 台右回転	5区P27/SD 1	
3 99	須惠器 高台坏	口：11.8 高：4.1 底：3.6	焼：良好 色：灰黒色	極砂粒 白色粒子 多量 堅緻 1/4	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：高台端面浅い凹面/端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	
3 100	須惠器 高台坏	高：4.5 底：12.7	焼：良好 色：明灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 1/6	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる 底部：高台端面浅い凹面/端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデ ツケ	5区R27/SD 1	
3 101	須惠器 高台坏	口：15.0 高：5.1 底：11.4	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/8	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面平坦/端面で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	5区P27/SD 1	
3 102	須惠器 高台坏	口：16.8 高：5.8 底：11.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 精緻 1/3	口縁部：直線状に外傾して立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部：平坦/高台端面浅い凹面/端面内側で接地	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部ナデ	5区P27/SD 1 外：口端部ヤキムラ	2
3 103	須惠器 高台坏蓋	天：11.0 高：1.4 口：17.0	焼：良好 色：灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	天井部：欠損/口縁部と天井部の稜線は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ開き、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める	外：口縁部回転ナデ 内：口縁部回転ナデ	6区O21/SB 1 柱穴 2 (P11) 内面に墨痕/ 転用靛 口端部：焼きムラ	
3 104	須惠器 皿	口：14.8 高：2.8 底：9.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/4	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデ ツケ	6区N21/P 5	
3 105	須惠器 無台坏	口：12.0 高：3.2 底：7.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 精緻 1/8	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 内：口縁部回転ナデ	6区N23/P29 外：口端部ヤキムラ	
3 106	須惠器 皿	口：15.4 高：2.0 底：12.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/4	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦/中心はわずかに接地しない	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
4 107	須惠器 皿	口：15.6 高：2.2 底：10.6	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/1	口縁部：短く直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転/ 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	5区P27/SD 1	2
4 108	須惠器 皿	口：16.0 高：2.5 底：13.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 1/5	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦/中心はわずかに接地しない	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ/底部 縁辺ナデツケ 内：口縁部回転ナデ	5区P27/SD 1 外：ヤキムラ	2
4 109	須惠器 長頸瓶	高：15.8 最：12.4	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 堅緻 1/3	頸部：屈曲して直線状に外方へ立ち上がる 体部：扁球形/胴部上位で屈曲する/胴部下位窄まる	外：頸部～胴部上位回転ナデ/胴部 中位～下位回転ヘラケズリ 内：頸部～胴部下位回転ナデ/回転 台右回転	5区P27/SD 1 外：頸部～胴部上位 ヤキムラ	2
4 110	須惠器 広口鉢	口：21.0 高：12.4 最：21.1	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 若干量 白色粒子 若干量 精緻 1/8	口縁部：短く斜め上方へのびる/口端部上端を上方へ摘みだし端面をつくる/口端面は平坦/シャープ 頸部：屈曲して外反する 体部：扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位窄まる	外：口縁部～体部下位回転ナデ 内：口縁部～胴部下位回転ナデ/回 転台右回転	5区P27/SD 1	
4 111	須惠器 広口鉢	口：22.0 高：11.5 最：22.2	焼：良好 色：淡灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部：短く斜め上方へのびる/口端部上端を上方へ摘みだし端面をつくる/口端面は平坦/シャープ 頸部：屈曲して外反する 体部：扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位窄まる	外：口縁部～胴部下位回転ナデ 内：口縁部～胴部下位回転ナデ/回 転台右回転	5区P27/SD 1	
4 112	須惠器 広口鉢	口：19.0 高：4.3	焼：良好 色：灰白色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：短く斜め外方へのびる/口端部下端を外方へ摘みだし端面をつくる/口端面は平坦 頸部：屈曲して外反 胴部：扁倒卵形/胴部上位で屈曲して張る/胴部下位窄まる	外：口縁部回転ナデ/胴部上位カキ メ 内：口縁部～胴部上位回転ナデ	5区P27/SD 1	
4 113	須惠器 長頸瓶	高：13.1 底：10.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 多量 堅緻 1/5	胴部：胴部中位～下位はわずかに内湾して外方へ立ち上がる/胴部下位窄まる 底部：平坦/高台はハの字に踏ん張る/端面は浅い凹面/端面内側で接地	外：胴部中位回転ナデ/胴部下位 回転ヘラケズリ 内：口縁部～胴部下位回転ナデ/回 転台右回転/胴部下位接合痕/底部 ユビ痕	5区Q27/SD 1	

### 第3節 第Ⅲ区域2・3・4区出土土器

2区SB2の柱穴1からは須恵器の高台坏（第5図114）が出土している。ピット108からは鉢（第5図115）が出土している。口縁に近い内面に断面三角形の凸帯が貼り付く。胎土や色調などから弥生時代後期、またはそれに続く古式土師器と考えられるが、北陸ではこのような土器の類例はない。ピット143からは弥生土器の壺（第5図116）が出土している。口縁を上に摘み出して有段となっているが、有段口縁の系譜ではなく、広口壺の系譜であろう。後期中頃の時期と考えられる。

2区SE3からは小サイズ（第5図117～119）と中サイズ（第5図120）のカワラケが4点出土している。SE4からは土師器の羽釜（第5図121）が出土している。周辺の井戸から出土しているカワラケと同時期の13世紀代のものと考えられる。SE5からは中サイズのカワラケ（第5図122）と片口鉢（第5図123・124）3点が出土している。SE7からは須恵器の壺（第5図125）が出土している。

2区SD1からは甕4点、鉢1点、器台1点の計6点を図化した。略完形に復元できた甕（第5図128）の口縁は無文であるが、その有段口縁の立ち上がりと胴部上半の肩部に木目の残る刺突押圧の列点文を加える。残る甕の3点（第5図129～131）は、ほぼ直立して有段口縁が立ち上がり擬凹線が施文される。鉢（第5図127）は口径が30cm以上に復元される有段口縁であるが、口縁部に擬凹線などの施文はない。器台は受部を欠損する有段脚の部分のみ（第5図126）で、沈線の間にはS字のスタンプ文を連続して押印する。この2区SD1は1区のSD1の延長と考えられ、出土している土器もほぼ同じ弥生時代後期中頃から後半と考えられる。

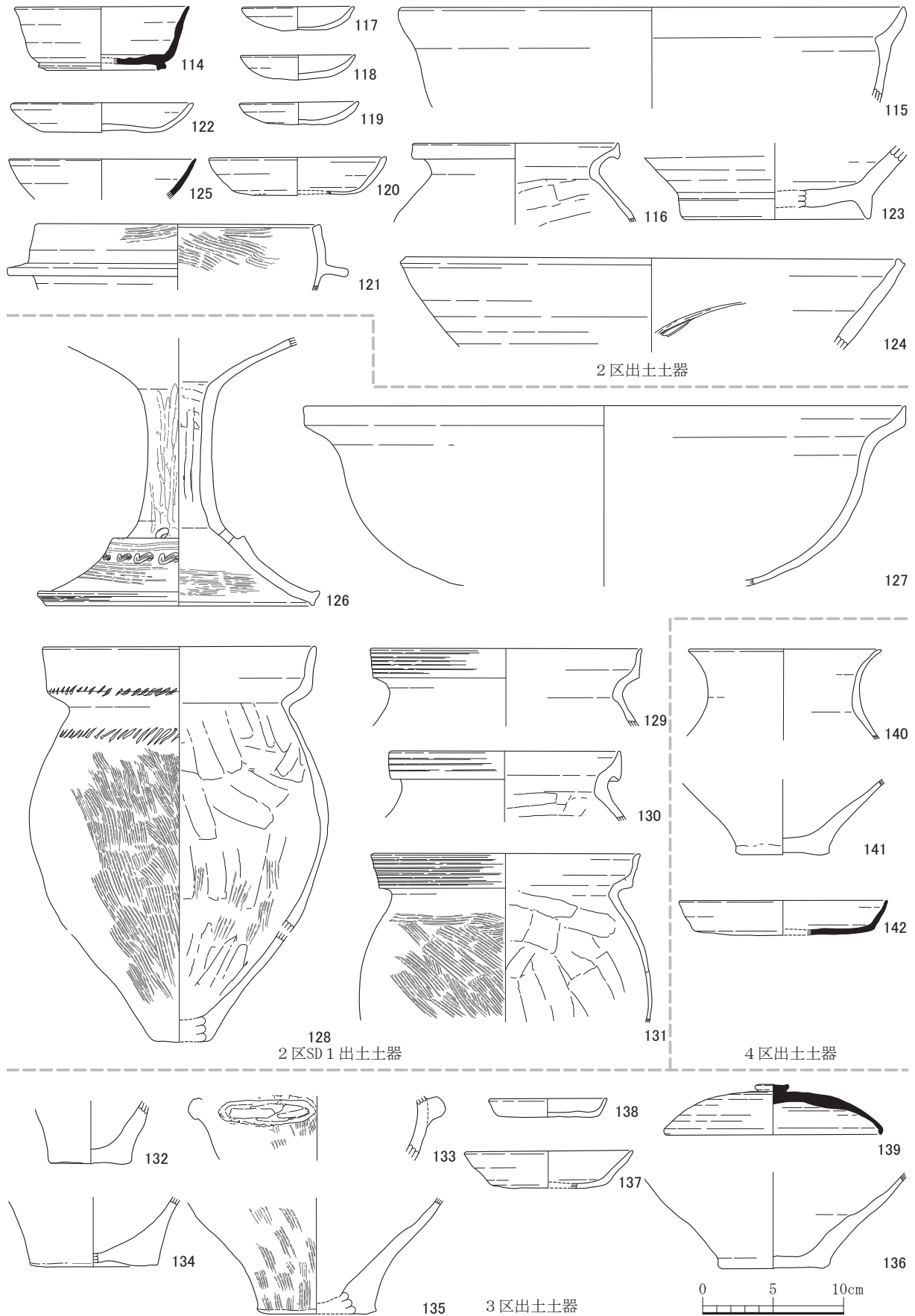
3区SK4からは弥生土器の壺の底部（第5図132）が出土している。SK5からは壺の底部（第5図135）と甕の底部（第5図134）、鉢の把手部分（第5図133）が出土している。SK6からは壺の底部（第5図136）が出土している。SK14からは甕2点（第6図143・144）が出土している。SK15からは大型壺の底部（第6図145）が出土している。SK17からは小型の甕（第6図146）と口縁の開きが異なる壺2点（第6図148・149）、壺の底部（第6図147）、さらに岩滑式壺の口縁部（第6図150）の5点が出土している。岩滑式の壺は胎土から在地と考えられるが、施文技法などは東海のものに非常に近い。SK19からは壺の底部2点（第6図151・152）が出土している。SK4～SK6とSK14・15、さらにSK17とSK19の7つの遺構から出土した16点の土器は土器の摩滅が著しいものの、器形や色調・胎土から中期でも前半と考えられる。SK9からは中サイズのカワラケ（第5図137）が、SB8の柱穴2からは小サイズのカワラケ（第5図138）が出土している。SB3の柱穴1からは須恵器の蓋（第5図139）が出土している。

3区SE1とSE3からは小サイズのカワラケがそれぞれ1点ずつ（第6図153・154）出土した。SE4からは小サイズのカワラケが10点（第6図155～164）、中サイズのカワラケ8点（第6図165～171）出土している。SE5からは小サイズのカワラケ3点（第6図173～175）、中サイズのカワラケ2点（第6図176・177）、土師器の鍋（第6図178）、接合はしないが同一個体と考えられる片口鉢の口縁と底部（第6図179）が出土している。SE1・3・4・5の井戸から出土しているカワラケはいずれも一段ナデで、時期も13世紀後半から末の時期と考えられるが、SE5の越前焼片口鉢の時期が若干降る可能性があることから、カワラケもやや時期幅がある可能性があるかもしれない。

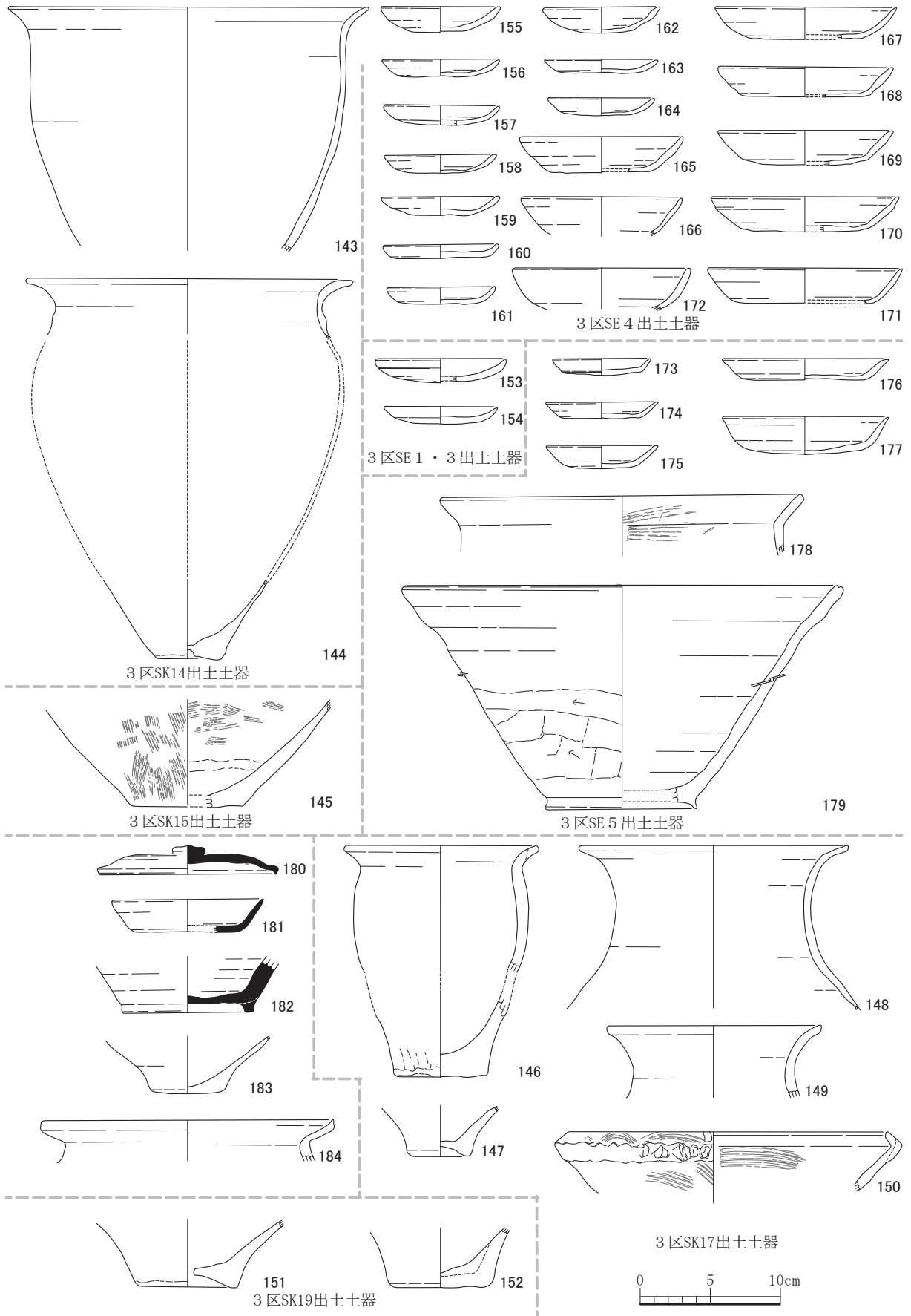
3区ピット66からは弥生時代後期初頭の甕の口縁（第6図184）が出土している。

3区ピット122からは弥生時代中期の壺の底部（第6図183）が出土している。SX3からは須恵器の瓶類底部（第6図182）が出土している。

3区ではこの他に、須恵器の無台坏（第6図181）と、同じく蓋（第6図180）を図化した。



第5図 第Ⅲ区域2～4区出土土器 (縮尺1/4)



第6図 第三区域3区出土土器 (縮尺1/4)



第3節 第三区域2・3・4区出土土器

4区SK1からは非常に薄い甕の口縁(第5図140)と、同じような胎土の底部(第5図141)が出土している。復元口径が12cm強と小さく、壺としては器壁が薄すぎる。器形や胎土から弥生時代中期前半と考えられる。SK2からは須恵器の皿(第5図142)が出土したが、5区SD1から出土した破片と接合した。

第3表 第三区域出土土器観察表(第5・6図、図版第2～3)

( )は推定値 単位: cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
5 114	須恵器 高台杯	口: 12.4 高: 4.5 底: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/6	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平坦/高台端面は浅い凹面/端面内側で接地	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ 切り後ナデ 内: 口縁部回転ナデ/底部シタ痕	2区I12/SB2柱穴 1(P221)	2
5 115	弥生土器 鉢	口: 36.0 高: 7.0	焼: 良好 色: 淡黄褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: 口端部はやや内湾して受口状に開く/口唇部は平坦 頭部: 外面は緩やかに外方へ開く/内面は肥厚して屈曲する 胴部: 半球形 底部: 丸底	外: 口縁部～胴部上位ナデ・摩耗 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ	2区K11/P108	
5 116	土師器 壺	口: 14.6 高: 5.8	焼: 良好 色: 橙色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出す/口端部下端は下方へ肥厚して口端面をつくる 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部上位で張る	外: 口縁部～胴部上位摩耗 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	2区I12/P143 外: 口縁部～胴部上位スス付着	
5 117	カワラケ	口: 8.0 高: 1.6 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部: ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部上位やや屈曲 底部: 丸底	外: 口端部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	2区I13/SE3	2
5 118	カワラケ	口: 8.2 高: 1.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部: ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口端部～底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	2区I13/SE3 全体大きく歪む	2
5 119	カワラケ	口: 8.5 高: 1.6 底: 4.0	焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部: ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部上位やや屈曲 底部: 丸底	外: 口端部ヨコナデ/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	2区I13/SE3 全体大きく歪む	2
5 120	カワラケ	口: 12.6 高: 2.7 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/3	口縁部: やや内湾して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口端部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	2区I13/SE3	
5 121	羽釜	口: 20.0 高: 4.7 最: 24.2	焼: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して短く立ち上がる/口唇部は内傾して平坦/羽部は厚さ1.6cm外方へ突出 体部: 欠損	外: 口端部ハケ後ナデ/羽部ヨコナデ 内: 口縁部ハケ	2区I13/SE4 外: 羽部下スス付着	
5 122	カワラケ	口: 13.0 高: 2.1 底: 8.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 若干量 堅緻 4/5	口縁部: 内湾して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口端部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデツケ	2区K12/SE5 全体大きく歪む	2
5 123	越前焼 片口鉢	高: 5.5 底: 12.8	焼: 良好 色: 淡黄褐色	極砂粒 若干量 堅緻 1/10以下	底部: 高台は断面三角形のケズリ出し	外: 体部下位回転ヘラケズリ/底部ナデ 内: 体部下位回転ナデ	2区K12/SE5	
5 124	越前焼 片口鉢	口: 38.0 高: 6.2	焼: 良好 色: 赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 口端部は直線状に斜め外方へ大きく開く/口唇部は浅い凹面/内面に節目3条	外: 口縁部ナデ～体部回転ナデ/焼締 内: 口縁部～体部ヨコナデ/焼締	2区K12/SE5	
5 125	須恵器 碗	口: 13.4 高: 2.8	焼: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 欠損	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	2区J12/SE7	
5 126	弥生土器 器台	口: 18.9 高: 19.0 底: 19.0	焼: 良好 色: 淡茶褐色	微砂粒 赤色粒子 軟質 1/2	受底部: 直線状に斜め外方へのびる 脚部: 脚柱部は棒状/脚台部はハの字に外反/脚柱部最下位に径1.0cmの円孔を4方向に配す/脚台部上位に2条のヘラガキ条線・渦状S字スタンプ文/中位に6条のヘラガキ条線/脚端部上端は上方へつまみ出す/脚端部下端は下方へつまみ出す/脚端面は浅い凹面/シャープ	外: 受底部～脚部摩耗 内: 受底部摩耗/脚柱部シボリ痕/脚台部上位摩耗/脚根部つよいヨコナデ	2区L10/SD1 外: 脚端部一部黒斑/ 受底部～脚部化粧土 塗布後赤彩	2
5 127	弥生土器 鉢	口: 42.8 高: 12.8	焼: 良好 色: 赤褐色	小砂粒 軟質 1/8	口縁部: 有段口縁/口端部上端が上方へ直立して口端面をつくる/口唇部は丸く収める 頸部: 屈曲して斜め外方へ開く 胴部: 半球形 底部: 丸底	外: 口縁部～胴部下位ナデ・摩耗 内: 口縁部～胴部下位ナデ・摩耗	2区L10/SD1	
5 128	弥生土器 甕	口: 19.5 高: 28.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 淡褐色	微砂粒 赤色粒子 多量 軟質 2/3	口縁部: 有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ直立する/口端部下端に斜行刻目文/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部上位で張る/胴部上位に斜行刻目文/胴部下位窄まる 底部: 平底	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下位タテハケ/底部摩耗 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位タテ方向のヘラケズリ/胴部中位～下位タテハケ後タテ方向のヘラケズリ/底部ナデ	2区L10/SD1 外: 口縁部～胴部中位 内: 口縁部一部スス 付着	3
5 129	弥生土器 甕	口: 19.4 高: 5.3	焼: 良好 色: 淡黄褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/不明瞭な6～7条の条線 頸部: 鋭く屈曲して外反	外: 頸部～胴部上位摩耗 内: 口縁部～胴部上位摩耗	2区L10/SD1	3
5 130	弥生土器 甕	口: 16.6 高: 4.9	焼: 良好 色: 淡白褐色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端肥厚/不明瞭な3条の擬凹線/シャープ 頸部: 鋭く屈曲して外反	外: 頸部ナデ/胴部上位ハケ後ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	2区L10/SD1	
5 131	弥生土器 甕	口: 19.2 高: 12.0 最: 20.8	焼: 良好 色: 淡茶褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端肥厚して下方に突出/不明瞭な3条の条線 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部中位で張る	外: 頸部～胴部上位摩耗 内: 口縁部～頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	2区L10/SD1	
5 132	弥生土器 壺	高: 4.0 底: 5.7	焼: 良好 色: 淡白褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	底部: 平底/器壁は厚い/胴部下位窄まる	外: 底部ナデ 内: 底部ナデ	3区G14/SK4	3
5 133	弥生土器 鉢	高: 3.6 最: 19.0	焼: 良好 色: 橙褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	胴部: 胴部中位に幅2.0cm、長さ7.0cm、高さ1.1cmの突起が張り付く/突起配置は不明/突起は面取	外: 胴部中ハケ後ナデ 内: 胴部中位ナデ	3区I13/SK5	
5 134	弥生土器 甕	高: 4.7 底: 9.0	焼: 良好 色: 橙褐色	小砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/10以下	底部: 平底/器壁厚い	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	3区I13/SK5	
5 135	弥生土器 壺	高: 8.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	胴部: 胴部下位は外反して立ち上がった後膨らむ 底部: 平底	外: 胴部下位タテハケ/底部ナデ 内: 胴部下位～底部摩耗	3区I13/SK5	
5 136	土師器 壺	高: 6.7 底: 7.4	焼: 良好 色: 淡茶褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	胴部: 胴部下位は直線状に外方へのびる 底部: 平底	外: 胴部下位～底部ナデ 内: 胴部下位～底部ナデ	3区K14/SK6 外: 胴部下位一部黒 斑	

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
5 137	カワラケ	口：12.0 高：2.6 底：8.0	焼：良好 色：淡茶白色	極砂粒堅緻1/6	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/底部との稜は不明瞭 底部：平底	外：口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区K17/SK 9	
5 138	カワラケ	口：8.4 高：1.4 底：6.6	焼：良好 色：淡橙色	極砂粒1/2	口縁部：直線状に短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部～底部粗いナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J14/SB 8 柱穴 2 (P536) 外：一部スス付着片 口状に歪む	3
5 139	須恵器 高台杯蓋	口：15.0 高：3.5 天：8.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒白色粒子 若干量精緻 1/2	天井部：扁平擬宝珠の摘みが付く/口縁部と天井部の稜線は不明瞭 口縁部：口端部は内湾して下方へ屈曲/口唇部はやや肥厚して丸く収める/シャープ	外：天井部回転ヘラケズリ/口縁部 回転ナデ 内：回転ナデ	3区K15/SB 3 柱穴 1 (P342)	
5 140	赤生土器 甕	口：13.4 高：6.5	焼：良好 色：橙色	小砂粒 多量軟質 1/10以下	口縁部～頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外：口縁部～頸部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ	4区N18/SK 1	
5 141	赤生土器 甕	高：5.2 底：6.2	焼：良好 色：橙色	小砂粒 多量軟質 1/10以下	胴部：胴部下位は直線状に外方へのびる 底部：平底	外：体部下位～底部ナデ 内：体部下位～底部ナデ	4区N18/SK 1 歪む140と同一個体	3
5 142	須恵器 皿	口：14.8 高：2.5 底：12.0	焼：良好 色：淡灰色	極砂粒白色粒子堅 緻 1/4	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部回転ナデ/底部中央ナデ ツケ	4区M20/SK 2 5区P27/SD 1	3
6 143	赤生土器 甕	口：25.8 高：17.4	焼：良好 色：淡茶褐色	小砂粒極多量軟質 1/10以下	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反する/口唇部は丸く収める 胴部：倒卵形/胴部上位でやや張る/胴部下位窄まる/器壁薄い	外：口縁部～胴部下位ナデ 内：口縁部～胴部下位ナデ	3区M17/SK14	
6 144	赤生土器 甕	口：23.5 高：(27.0) 底：4.8	焼：良好 色：淡茶灰色	小砂粒極多量1/10 以下	口縁部：くの字口縁/口縁部は強く外反する/口唇部は丸く収める 胴部：倒卵形/胴部上位でやや張る/胴部下位窄まる 底部：平底/中央径1.0cmの未穿孔の孔	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区M17/SK14	
6 145	赤生土器 壺	高：7.5 底：8.0	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 多量軟質 1/10以下	胴部：胴部下位は直線状に斜め外方へのびる 底部：平底	外：胴部下位タテハケ/底部ナデ 内：胴部下位～底部ハケ後摩耗	3区N17/SK15 外：胴部下位一部ス ス付着	
6 146	赤生土器 甕	口：13.8 高：(16.6) 底：6.4	焼：良好 色：淡茶色	小砂粒 多量軟質 1/2	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反し、口端面は平坦 胴部：倒卵形/胴部上位でやや張る/胴部下位窄まる 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区L17/SK17	
6 147	赤生土器 壺	高：3.5 底：4.0	焼：良好 色：赤橙褐色	小砂粒 多量白色 粒子軟質 1/10以 下	胴部：胴部下位はやや外反して立ち上がる 底部：凹底	外：胴部下位～底部ナデ 内：胴部下位～底部ナデ	3区L17/SK17 外：胴部下位一部ス ス付着	
6 148	赤生土器 壺	口：19.0 高：11.6	焼：良好 色：明橙色	小砂粒 多量軟質 1/10以下	口縁部～頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外：口縁部～頸部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ	3区L17/SK17	
6 149	赤生土器 壺	口：15.4 高：5.0	焼：良好 色：橙色	小砂粒 多量軟質 1/10以下	口縁部～頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外：口縁部～頸部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ	3区L17/SK17	
6 150	赤生土器 壺	口：24.7 高：3.8	焼：良好 色：淡茶褐色	小砂粒軟質1/10以 下	口縁部：口端部は内側へくの字に屈曲する/口唇部は丸く収める/押圧文帯が巡る 頸部：ゆるやかに外反して立ち上がる	外：/口縁部貝殻条痕 内：口縁部貝殻条痕	3区L17/SK17 外：口縁部スス付着	
6 151	赤生土器 壺	高：5.0 底：7.0	焼：良好 色：橙赤色	小砂粒 多量軟質 1/10以下	胴部：胴部下位は外反して立ち上がる 底部：凹底/中央に径1.5cmの焼成後穿孔/器壁厚い	外：胴部下位～底部ナデ 内：胴部下位～底部ナデ	3区K17/SK19 外：被熱	
6 152	赤生土器 壺	高：4.0 底：7.0	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒白色粒子軟 質 1/10以下	胴部：胴部下位はやや外反して立ち上がる 底部：平底/器壁厚い/内側から粘土を補充した接合痕	外：胴部下位～底部ナデ 内：胴部下位～底部ナデ	3区K17/SK19	
6 153	カワラケ	口：17.2 高：1.7 底：3.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒軟質1/5	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区G14/SE 1 内：口縁部スス付着	
6 154	カワラケ	口：8.0 高：1.3 底：4.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量軟 質1/3	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：丸底	外：口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区H14/SE 3 全体大きく歪む	3
6 155	カワラケ	口：8.6 高：2.0 底：3.4	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量軟 質1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口端部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	3
6 156	カワラケ	口：8.4 高：1.2 底：6.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量軟 質1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口端部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4 全体歪む	3
6 157	カワラケ	口：8.0 高：1.5 底：3.5	焼：良好 色：淡橙色	極砂粒軟質1/8	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 158	カワラケ	口：8.0 高：1.3 底：4.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒軟質1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口端部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	3
6 159	カワラケ	口：8.4 高：1.3 底：3.4	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒軟質1/4	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4 外：底部歪む	3
6 160	カワラケ	口：8.2 高：1.0 底：6.4	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒軟質1/8	口縁部：短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	

第3節 第三区域2・3・4区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
6 161	カワラケ	口：7.6 高：1.2 底：5.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒軟質 1/4	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 162	カワラケ	口：8.2 高：1.8 底：3.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口端部でやや内側に屈曲/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	3
6 163	カワラケ	口：8.2 高：1.0 底：5.2	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区J13/SE 4 全体歪む	3
6 164	カワラケ	口：7.2 高：1.3 底：5.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部：ゆるやかに内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	3
6 165	カワラケ	口：11.6 高：2.6 底：7.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒軟質 1/8	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/器壁厚い 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 166	カワラケ	口：11.4 高：2.8	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒軟質 1/8	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：欠損	外：口縁部ナデ 内：口縁部ヨコナデ	3区J13/SE 4	
6 167	カワラケ	口：12.8 高：2.3 底：7.4	焼：良好 色：淡橙色	極砂粒軟質 1/5	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 168	カワラケ	口：12.4 高：2.1 底：8.4	焼：良好 色：淡橙褐色	極砂粒軟質 1/2	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底/器壁薄い	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 169	カワラケ	口：12.4 高：2.4 底：6.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒軟質 1/2	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口端部で弱く屈曲して外反する/口唇部は丸く収める/底部との境は不明瞭 底部：平底/器壁薄い	外：口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 170	カワラケ	口：13.4 高：2.5 底：8.0	焼：良好 色：淡白褐色	微砂粒 若干量 軟質 1/4	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口端部で弱く屈曲して外反する/口唇部は丸く収める 底部：平底/器壁薄い	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J13/SE 4	
6 171	カワラケ	口：14.0 高：2.5 底：9.0	焼：良好 色：淡橙色	極砂粒 若干量 軟質 1/6	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部ナデ	3区J13/SE 4	
6 172	カワラケ	口：12.8 高：2.9	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒 若干量 軟質 1/8	口縁部：やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/器壁厚い 底部：欠損	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部ナデ	3区J13/SE 4	
6 173	カワラケ	口：7.0 高：1.3 底：5.0	焼：良好 色：淡白褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/底部との境は不明瞭 底部：平底/器壁薄い	外：口端部～底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区J14/SE 5 片口状に歪む	3
6 174	カワラケ	口：8.0 高：1.2 底：5.2	焼：良好 色：淡黄褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部：直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	3区J14/SE 5	3
6 175	カワラケ	口：8.0 高：1.7 底：4.0	焼：良好 色：白褐色	極砂粒 若干量 軟質 4/5	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底	外：口縁部ヨコナデ/底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区J14/SE 5 片口状に大きく歪む	3
6 176	カワラケ	口：11.8 高：1.5 底：8.0	焼：良好 色：淡黄褐色	極砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部：やや外反して短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平底/器壁薄い	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデツケ	3区J14/SE 5	3
6 177	カワラケ	口：11.9 高：2.6 底：7.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒軟質 1/2	口縁部：やや外反して短く外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口縁部下位に弱い段をもつ平面は楕円形 底部：平底/器壁薄い	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/底部ナデ	3区J14/SE 5 全体やや歪む	3
6 178	土師器 鍋	口：25.7 高：4.5	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：くの口縁/口端部は短く直線状に外方へのびる/口唇部は平坦 頸部：外方へ屈曲	外：口縁部～頸部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコハケ	3区J14/SE 5	
6 179	越前焼 片口鉢	口：31.6 高：15.8 底：10.8	焼：良好 色：暗赤茶色	微砂粒 多量 堅緻 1/8	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める/1条の沈線 底部：高台は端部を外方へ小さく摘み出す	外：口縁部～体部中位回転ナデ。体部下位ヨコ方向のヘラケズリ。 内：口縁部～体部回転ナデ	3区J14/SE 5	
6 180	須恵器 高台坏 蓋	口：12.4 高：2.1 天：8.0	焼：良好 色：淡灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/6	天井部：中央に扁平擬宝珠摘み/口縁部と天井部の稜は不明瞭 口縁部：口端部は一旦外方へ屈曲した後、口端部下位を下方へつまみだして口端面をつくる/口端部は平坦/シャープ口唇部は丸く収める	外：天井部回転ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ	3区J14/表土 外：天井部降灰	3
6 181	須恵器 無台坏	口：10.6 高：2.3 底：7.5	焼：良好 色：灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り後ナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	3区排土 外：口縁部ヤキムラ 内：口端部・底部ヤキムラ全体片口状に歪む	
6 182	須恵器 瓶	高：4.0 底：9.0	焼：良好 色：暗灰色	極砂粒 白色粒子 多量 1/10以下	胴部：胴部下位は窄まる 底部：平坦/高台はハの字に踏ん張る/端面は平坦/端面内側で接地/粗い	外：胴部下位回転ナデ 内：胴部下位～底部回転ナデ	3区K16/SX 3 外：胴部下位ヤキムラ・降灰	
6 183	赤生土器 壺	高：4.0 底：5.0	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	胴部：胴部下位はやや外反して立ち上がる 底部：平底	外：胴部下位～底部ナデ 内：胴部下位～底部ナデ	3区J14/P122 内：胴部下位半身スス付着	
6 184	赤生土器 甕	口：20.8 高：2.9	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：口縁部は短く直線状に外方へ開く/口端部上端を上方へつまみだし、口端面をつくる/口端部は平坦 頸部：鋭く屈曲 胴部：欠損	外：口縁部～頸部摩耗 内：口縁部～頸部摩耗	3区I13/P66	

#### 第4節 第IV区域1・8区出土土器

1区SE1からは須恵器の皿（第7図185）と土師器の無台坏（第7図186）、高台碗（第7図187）、小型の甕（第7図188）が出土している。時期は9世紀前半と考えられる。

1区SD3からは、弥生土器の受口状口縁の壺（第7図189）が出土している。SD4からは、縦のハケ調整で頸部施文のようにヨコハケが入る口縁が受口状の小型鉢（第7図191）と、擬凹線が施文された有段口縁甕（第7図190）が出土している。前者は弥生時代中期中葉、後者は後期前半の時期と考えられる。このSD3とSD4は方形周溝墓と判断され、SX1の周溝と考えられる。理由はまとめて述べるが、後者は混入で、SX1の時期は中期後半と考えられる。SD5からも擬凹線が施文された有段口縁甕（第7図192）が出土している。

1区SD1からは大量の弥生土器が出土しており、93点を図化した（第7図～第12図）。なお、このSD1は2区のSD1の南側に延長する溝と考えられる。

甕は基本的にこの時期に最も多い有段口縁のもの27点（第10図247～第11図273）を図化した。口縁端部に面だけ作るか上に僅かに摘み上げて立ち上げるものと、摘み上げるだけでなく、大きく直立に立ち上げて有段とするもの、立ち上げた有段が外傾するもの大きくは3タイプである。

最初のタイプは、口縁端部に面を作るだけのものは1点（第10図245）だけで、摘み出すように僅かに上に立ち上がるものが7点（第10図244・246・251～255）ある。擬凹線を施文するのは後者のもので2点（第10図254・255）だけで、残りの6点（第10図244・246・251～253）は無文である。有段の口縁が大きく直立に立ち上がるものは14点（第10図250・256・257、第11図258～268）で、1点（第10図250）だけが、ヨコナデの無文の口縁で、残る13点は全て擬凹線を施文する有段口縁である。また、口縁端部が先細りするものは4点（第11図258・259・263・266）で、残る10点（第10図250・256・257、第11図260～262・264～268）は先端部を丸くするか、厚くする。

最後のタイプは立ち上がった有段口縁が外傾するもので、擬凹線を施文するもの4点（第11図269・271～273）、ヨコナデの無文の口縁3点（第10図247～249）の合計7点である。口縁の立ち上がり部分はないが、有段口縁の甕に良く見られる肩部に刺突列点文があるもの（第11図270）があり、ヘラ工具による刺突文を巡らせるもの（第11図258）もある。

壺には畿内のもとはやや異なるが、卵形の胴部から伸びた口縁がそのまま端部となる長頸壺、把手が付く水差しの壺、形状は様々であるが有段口縁の壺、大型の広口口縁壺などがある。

長頸壺は全面タテハケ調整の大型のもの（第12図278）と、胴部はタテハケ調整で伸びた口縁部をヨコナデするもの（第12図277）が基本である。長頸に粘土帯を足してさらに長くするもの（第13図283）や、口縁端部直下を小さく屈曲させて有段にするものがあるが、その屈曲させた有段部が無文のもの（第12図276）と、沈線または擬凹線を施文するもの（第13図282）など、畿内とは異なり様々な変化をしている。水差し壺はこの後者の口縁を僅かに有段とするタイプの壺である。長頸壺と同様に大型のもの（第12図274）と、小型のもの（第12図275）の2種類がある。その把手はいずれも胴の肩部に空けた穴に差し込み、その周辺を粘土で補強する。無頸壺にも大型のもの（第9図237）と、小型（第9図236）または中型のもの（第9図238）があり、小型のものには口縁部に沈線を施文するもの（第9図236）が良く見られる。このタイプの壺には把手が付くものがあるが、ここでは確認できなかった。さらに脚台が付くものも多いが、3点とも底部を欠くため、その有無は不明である。小型の壺（第9図229）には脚台が付くのが一般的であるが、ここで図化した脚台（第9図228）は胎土や色調も異なり同一個体ではない。

頸部がすぼまる明瞭な有段口縁には、甕の有段と同じように端部に面を作り両端を僅かに肥厚させるもの（第10図242）、頸部が短く甕のような有段口縁のもの（第10図241）、頸部が長く筒状に伸びる有段口縁のもの（第13図284）など個体差が大きい。頸部が短い有段口縁壺（第10図241）は、割れた胴部下方の凹凸を無くし、平滑に面を作り直している。

壺にはさらに器高が40cmを超える大型のものがあるが、大きな胴部に対して小さな直口の口縁のもの（第13図285）と、口縁部がないため確実ではないが、頸部が伸びて有段もしくは二重口縁となるもの（第13図286）の2個体ある。

SD1から図化したものは、弥生時代後期か一部に古墳時代初頭に降る可能性もあるが、弥生時代でも中期のもので図化できたのは、岩滑式を模倣した袋状口縁壺（第13図281）で、胎土が在地のものと同じで、調整も東海とはことなり粗いハケ調整である。

図化できた高坏は大型品が多い。坏部からの立ち上がりで屈曲して大きく開く口縁のものは、端部内面が肥厚するものが目立つ。脚部が「ハ」の字状に開き無段のもの5点（第7図194～196・200・201）と、有段の脚部となるもの2点（第8図203・207）の2タイプがあり、坏部のみのもの2点（第7図193、第8図202）では違いがなく判断できない。同じように大型の高坏には坏の底部が丸くなり、くびれて屈曲し口縁が開くもの3点があるが、こちらにも無段のもの（第8図208）と、有段のもの（第8図209）があり、脚部がないと判断できない。有段のものには沈線を巡らせS字のスタンプを押印するもの（第8図203・205～207）、沈線だけのもの（第8図204）がある。「ハ」の字状に開く無段の脚部だけ（第8図197・198）、または有段の脚部だけ（第8図205・206）では、高坏か器台なのか判断できない。

脚部でも孔の径も、脚底径も小さいもの（第8図214）は高坏の脚ではなく、鉢などの脚台部となる可能性が高い。

台付鉢とも呼べる高坏の坏部が塊状に深いもの（第8図212）は、脚部も小さい。器壁は厚いが同様の器形の坏部のもの（第8図211）の底部に剝離面があることから、やはり小さな脚台が付く台付鉢の部類かも知れない。

器台は受部が有段で無文のもの（第9図216・217）と沈線を巡らせる有文のもの（第9図218）があり、前者には有段部の立ち上がりを凸帯状に突出させるもの（第9図215）があり、やや小型である。口縁帯に円形浮文を2個一対で貼り付け、幅広の垂下帯を付けるもの（第9図219）もある。器台のなかでも装飾性の高いもの（第8図210）は、受部と脚台との間の柱状部を欠くが、胎土が似通る点や、SD1の中でも非常に悪い遺存状況などから、同一個体と考えられる。2本一対の棒状浮文を貼付け、その間に円形竹管文を巡らせる受部や、沈線間に円形竹管文・刺突列点文などを充填して巡らせるなど、これ以外には類例がない。

鉢には北陸特有の有段口縁のもの、底部から開きながら立ち上がってそのまま口縁となるもの、立ち上がった口縁が内傾して若干すぼまったようになるもの、単に開いて口縁となるもの、甕などの胴部のように深くなり上半部が内湾するのみで口縁となるものなど、図化した点数は15点と少ないが、多様な器形となる。有段口縁の鉢にも甕と同じように、口縁端部に単に面だけ作るものが2点（第9図226・230）ある。摘み出すように僅かに上に立ち上がるものが3点あるが、口径が胴部の最大径を上回るか同じ大きさで、分類としては鉢として問題がないもの（第9図225・230）と、口径が胴部の最大径よりも小さく、頸部の屈曲が強くて小型の壺とも言えるもの（第9図227）がある。有段の口縁を大きく立ち上げるもの（第9図232～235）は、口縁帯を外傾させる。口縁帯に擬凹線を施文するもの（第9図

233～235) と、無紋でヨコミガキのもの(第9図232)がある。口縁が単に開くもの(第9図224)は、小型の「く」の字甕とも言える。口縁部が内傾するもの(第9図222・223)は、平底の底部から横に開いて立ち上がり、丸みのある屈曲から直立して口縁部となる。このタイプの鉢には把手が付くものがあるが、大きいもの(第9図223)には確認されず、小さいもの(第9図222)は胴部が半分しか残ってなくて不明である。甕の胴部のように深いものでより長いもの(第10図240)には焼成前の穿孔があり、やや浅いもの(第9図239)には穿孔がない。底部から立ち上がってそのまま口縁となるものは、平底の底部から丸くなりながら立ち上がるもの(第9図220)と、平底の底部から直線的に開いて立ち上がるもの(第9図221)である。

蓋には甕用と壺用の2種類があり、一般的には前者の個体数が多いが、ここで図化できたのは蓋用のもの(第9図231)で、皿状の覆い部に小さな摘みが付く。

8区川から出土した土器で時代が新しいのが古代の須恵器である。高台坏3点(第14図287～289)と蓋(第14図290)の4点である。土師器もあるが、須恵器と同じ時期と考えられるのは、口縁の外周だけが受口状になるもの(第14図292)であろう。この他は須恵器が出現する直前、または初期須恵器に伴う可能性がある高坏や小型土器、手捏土器などが多数ある。指押えのみで成形して調整などを加えない手捏土器は、平底の鉢(第14図294)と、屈曲して直立する口縁部に、指で強く抑えて窪ませた底部の壺のようなもの(第14図295)、弥生土器の無頸壺のように屈曲の無い口縁部に、指で押さえて安定した底部とするもの(第14図296)などがある。手捏土器とは異なり、指押えなどで成形した後に、指ナデなど若干の調整が行われたものは、頸部の屈曲も明瞭で、平底の小型壺と呼べるものは1点(第14図297)ある。手捏土器と同じように指押えのみで成形して調整などを加えないが、小型ではない土器が2点ある。厚い平底から立ち上がった卵形の胴に屈曲して直立する口縁部が付く壺器形のもの(第14図298)と、同じく厚い平底から丸みをおびながら口縁部となる鉢器形のもの(第14図299)である。器壁も厚く、調整も意図的に雑な状態にしている感じである。これら手捏土器と同時期、または若干前後する時期の土師器として小型壺と高坏がある。小型壺は口径が7～9cm、器高が8～10cm弱と小さいながら大きさにややばらつきがあり、器形にも大小の違いがあり同じような個体はない。図化した12個体のうち、8個体(第14図300・302～306・308・311)は胎土そのものが赤かったり、外面に赤い粘土で被膜(第14図309)して、土器を赤くすることを意識している。残る3点(第14図301・307・310)は茶褐色の胎土で、丁寧に指ナデ調整で仕上げられたもの(第14図301)もあるが、ハケ調整を残したり(第14図310)、成型時の指押えをそのまま残したり(第14図307)している。一方で赤味を意識した土器は摩滅が著しいものが多いが、丁寧に指ナデ調整で仕上げられている。高坏は坏部が脚部と接合した底部から一度小さく立ち上がってほぼ直線的に開く口縁で、脚部も上半で僅かに膨らみ、屈曲して水平近くを開いて脚端部となるものがこの時期の特徴的な器形である(第14図291・313～321)。しかし、口径は15cm弱から18cm、器高も12～13.6cmと大きさにばらつきがある。ただし、いずれの高坏も赤味がかかった胎土であることは共通している。坏部の形状は同じながら、脚部が坏部との接合部からそのまま「ハ」の字状に開くものは、前述の高坏より2周り近く大きい、口径20cm、器高が16cmを超える大型のもの(第14図322)である。この他に丸い胴部に短い口縁が付く短頸壺もあるが、この土器(第14図312)も高坏や小型壺同様に胎土が赤く発色している。大型の壺(第14図323)は立ち上がりに凸帯が付く口縁部だけが復元できたが、この個体と思われるハケ調整の厚い器壁の胴部片が多数あり、これまでの事例から器高が60cmを超えるもので、北陸から西の日本海沿岸を中心に棺となるものが多い。この時期の甕と思

われるもので、唯一図化できたのが短い直立する壺のような口縁（第15図325）である。空けた復元であるが丸底の底部となる。直立気味の口縁に弱い段を有するもの（第15図326）も、この時期のものかもしれない。

川から出土した土器で最も多く図化したのは数点が古墳時代初頭に降る可能性もあるが、そのほとんどが弥生時代後期の土器に、弥生時代でも中期の土器が10点ほど加わる。

甕の多くはSD1同様に、口縁端部に面だけ作るか上に僅かに摘み上げて立ち上げるものと、摘み上げるだけではなく、大きく直立に立ち上げて有段とするもの、立ち上げた有段が外傾するものの大きくは3タイプである。口縁端部に面だけを作るものは、その平坦面が斜めになるもの（第16図358）と、垂直のもの（第18図400）の2タイプある。口縁端部を上摘み上げるもの（第15図338）は、頸部の屈曲が小さく口径が胴部の最大径を上回る鉢の器形に近い。いずれにも擬凹線を施文する。口縁を大きく立ち上げて有段とするものは、擬凹線を施文するもの15点（第15図334・339・340、第16図359～363、第18図392～396、第20図427・428）で、無文の有段口縁は図化できなかった。施文される擬凹線が小刻みな波状のもの（第18図393）を除き、摩滅が著しいことを考えれば擬凹線は比較的明瞭なものがほとんどである。立ち上がった有段口縁内面に指頭連続圧痕が明瞭に確認できたのが1点（第18図396）だけで、図化で表現できるほど明瞭ではないが、明らかにその痕跡を確認したのが1点（第20図428）で全体の1割強と少ない。また、前段階からこの口縁形状まで確認できる、肩部の刺突列点文を確認したのが2点（第16図363、第18図395）ある。口縁端部が先細りするものは6点（第15図340、第16図360・362、第18図392・394・395、第20図428）と、全体の4割程度で半分以下である。有段の口縁が明らかに外傾、または外反するものは8点（第15図335～337、第18図397～399・401、第20図429）で、無文の有段口縁は図化できなかった。施文される擬凹線は、前述の直立する有段口縁のものと比較すると明らかに条線の本数が多く、また擬凹線自体も細くなったり、施文が雑になったりするものが目立つ。口縁が明らかに外傾しているが、擬凹線の条線が少なく太いもの（第18図401）は、底部が大きく胴部の最大径がほぼ中位にあることから、その時期は古いものと考えられる。

有段口縁の甕で無文のものはないとしたが、有段の立ち上がりを強く突出させるもの（第15図341、第18図402）は、擬凹線が施文された甕より新しく古墳時代に降る山陰系の甕である。山陰系の甕の特徴は立ち上がり部の突出と、口縁内面の2段ナデと端部を押さえて面を有することにあるが（第15図341）、先端を先細りさせるもの（第18図402）も突出が明瞭で、山陰系甕の影響を受けた在地のものだと判断したい。この2点のみが最初に述べたように弥生時代の土器ではなく、確実に古墳時代まで降る時期のものである。

壺で図化したものは19点（第16図345～347・352～355・364、第17図384～386・388、第18図390・404～407、第19図408・409）あるが、個体差が大きい。長頸壺と呼べるものは、胴部があまり張らないもの（第18図407）と、頸部までしかないが口縁部より大きく張り胴部が長くなりそうなもの（第18図405）の小型の2点である。やや開く口縁に端部を上摘み上げるもの（第18図404）も同じような大きさであろう。長胴の壺には口縁部が有段になるが、丸みのある凸帯状の口縁のもの（第16図355）と、口縁部を欠くため推定となるが同様に凸帯状になるか、僅かに有段となって小さく屈曲すると思われるもの（第19図409）は、中型の壺である。北陸の弥生時代後期に一般的な有段口縁壺で図化できたのは4点と少ないが、胴部のみ図化できた2点（第16図353・354）は、やや突出する平底の形状から、中型の有段口縁壺のものであろう。中型の有段口縁壺（第16図364）は、胴部の最大径が下半になると考えられ、本

来の器形に通有の最大径が中位にあるものとは異なる。頸部がやや長い、むしろ超大型の有段口縁壺（第19図408）が、通有の形状である。口径が10cmほどの小型壺の口縁2点（第18図389・390）の胴部も、縦長ではなく丸みのある胴部が大きく張り丸みのあるものである。特に口縁内面に2孔1対の孔があるもの（第18図389）は、頸部があまり伸びないものによく見られる。この時期の北陸に特徴的な壺として、無頸壺がある。通称「ブランデーグラス型」と呼ばれ、北陸南西部から若狭湾・丹後半島に多く見ることができるもので、脚台が付くものが多いが、脚台が付かないものもある。ここでは明らかに脚台がつくもの4点（第16図346・347、第17図384、第18図406）と、その判断ができないもの4点（第16図345・352、第17図385・386）の合計8点を図化した。このタイプの無頸壺には把手が付く場合が多いが、脚台を除く全体が残されていないと判断できないため、把手があるかその痕跡が残されているもののみ、推定ラインなどを入れた。把手は基本的に半円状のものを、胴部の最大径より上の位置に縦位に貼り付けるの（第16図347）が一般的である。横位につくもの（第16図345）は珍しい。この土器同様に口縁がやや長めに伸びて、「無頸壺」の呼称にふさわしくないもの（第18図406）も類例は少ないと思われる。口縁端部に沈線を加えるもの（第16図347、第17図384）や、端部を摘み上げて沈線のようにみせるもの（第16図352、第17図385）も良く見られる。

鉢は有段口縁のものが5点、無段のものが1点図化できた。無段の鉢（第16図348）は口縁を小さく外反させる。有段口縁のものはミガキ調整のものと、甕と同じくハケ調整のものがある。前者は胴部最大径より口径が大きいもの（第17図387）がよく見られるもので、扁平な胴部から有段口縁が立ち上がるもの（第17図388）の類例は少ない。後者のものは有段の口縁帯に擬凹線文がない無文の、中型のもの（第18図403）と口径が40cm近いもの（第15図342）で、大型の鉢には横位に袋状または半環状の把手が付くものがほとんどであるが、残された部分には確認できなかった。手捏または小型土器とまでは小さくないが、通常の鉢より小さいものが3点図化できた。平底から立ち上がってすぐに小さく段を設ける浅いもの（第15図333）と、丸みのある胴部がそのまま口縁となるもの（第16図351）、口縁を屈曲させ外反するもの（第16図350）である。

高坏には丸い坏底部から屈曲して立ち上がり有段口縁となるものと、直線的な底部から外反して大きく開くものがある。前者には甕などと同じく、有段部に擬凹線を施文するもの（第17図369・370）と、無文またはヨコミガキのもの（第16図343）がある。後者の高坏には口縁端部内面だけを1cm前後に肥厚させるもの（第15図329、第17図366・367、第20図424）と、端部先端を内外面ともに摘み出し端部そのものを肥厚させるもの（第17図368）がある。後者の高坏の脚部は棒状の柱状部からくの字に屈曲して開き、その中ほどに孔をあけ、脚端部も小さく摘み上げる。高坏には大型のものが多いが、小型で口径が20cmに満たないもの（第15図331）は、有段の鉢の器形に近い。その有段部に多数の沈線を施文し、有段の立ち上がり部に刺突を加える。

器台には有段の受部に擬凹線を施文するもの（第15図330、第17図371）と、無文のもの（第17図365）がある。後者の無文のもの（第17図365）は受部と脚部の接合部分を欠くが、胎土や色調などから同一個体と考えられる。その脚部の施文は有段部の沈線の下にS字のスタンプ文を巡らせるが、このS字スタンプ文は両端の渦巻をつなぐ直線部分が当地では一般的な長さより長く、施文も雑である。脚との接合部を欠損するが、器台の受部と考えられるもの（第15図330）は、大きく伸びた有段部に多数の沈線を重ね、赤色部分が残されている。

脚部だけであるが、その上半も筒状で直線の棒状を呈するのは高坏の有段脚であろう（第15図327）。



脚端部を短い強く跳ね上げ、3段の沈線間にS字のスタンプ文を巡らせて施文する。越前では赤色塗彩される土器は少ないが、沈線やスタンプ文に赤色部分が残されており、赤色に塗られていたのは确实である。

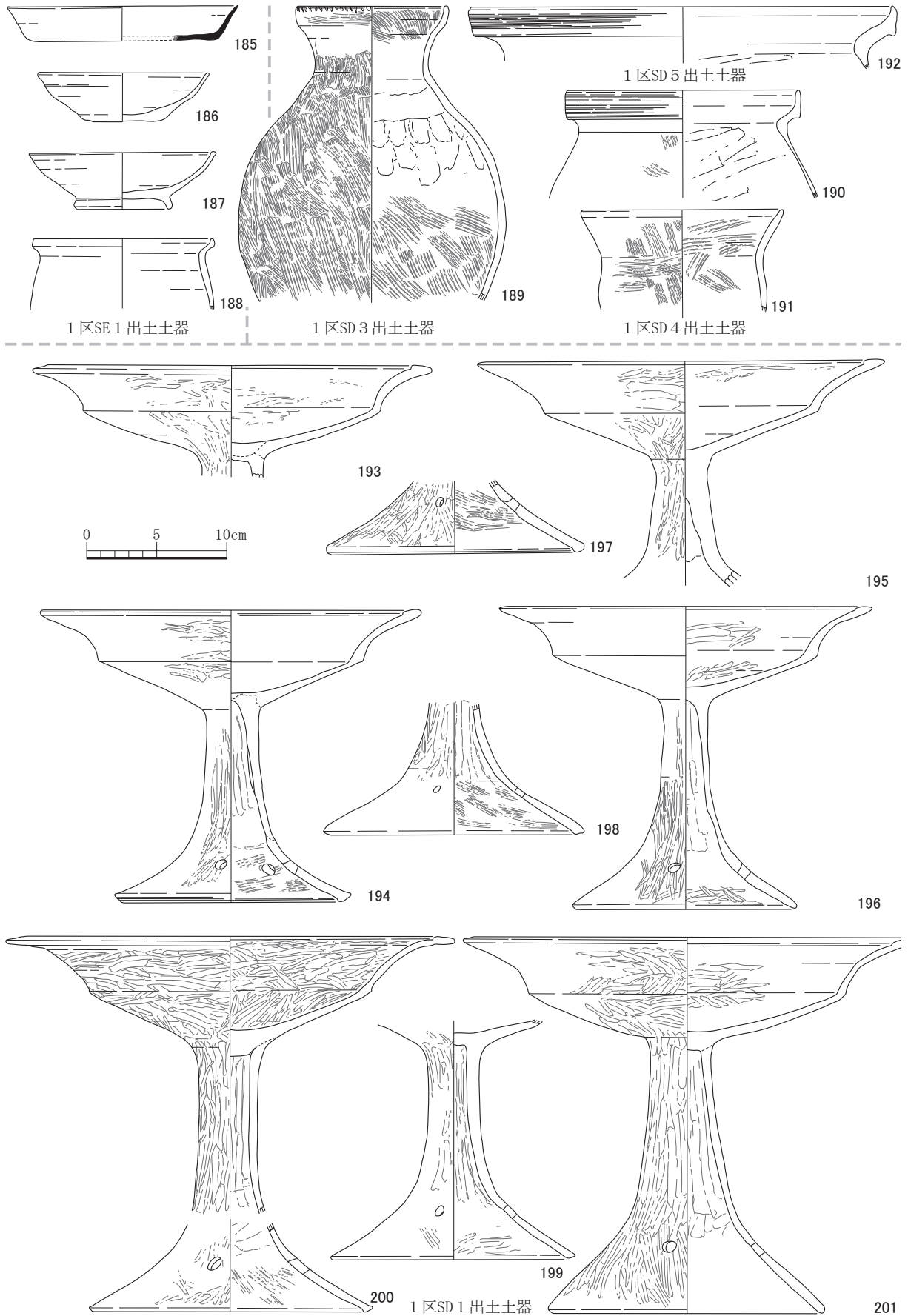
脚部だけでも、その上半が直線の棒状ではなく、開き気味となるのは器台である(第15図328)。2段の沈線間にS字のスタンプ文を巡らせて施文する。

脚部だけが、細い柱状の脚部ではなく、太めの筒部に交互に孔を設け、脚端部を有段にして擬凹線を施文するもの(第17図373)は、器台の中でも古い時期のものである。

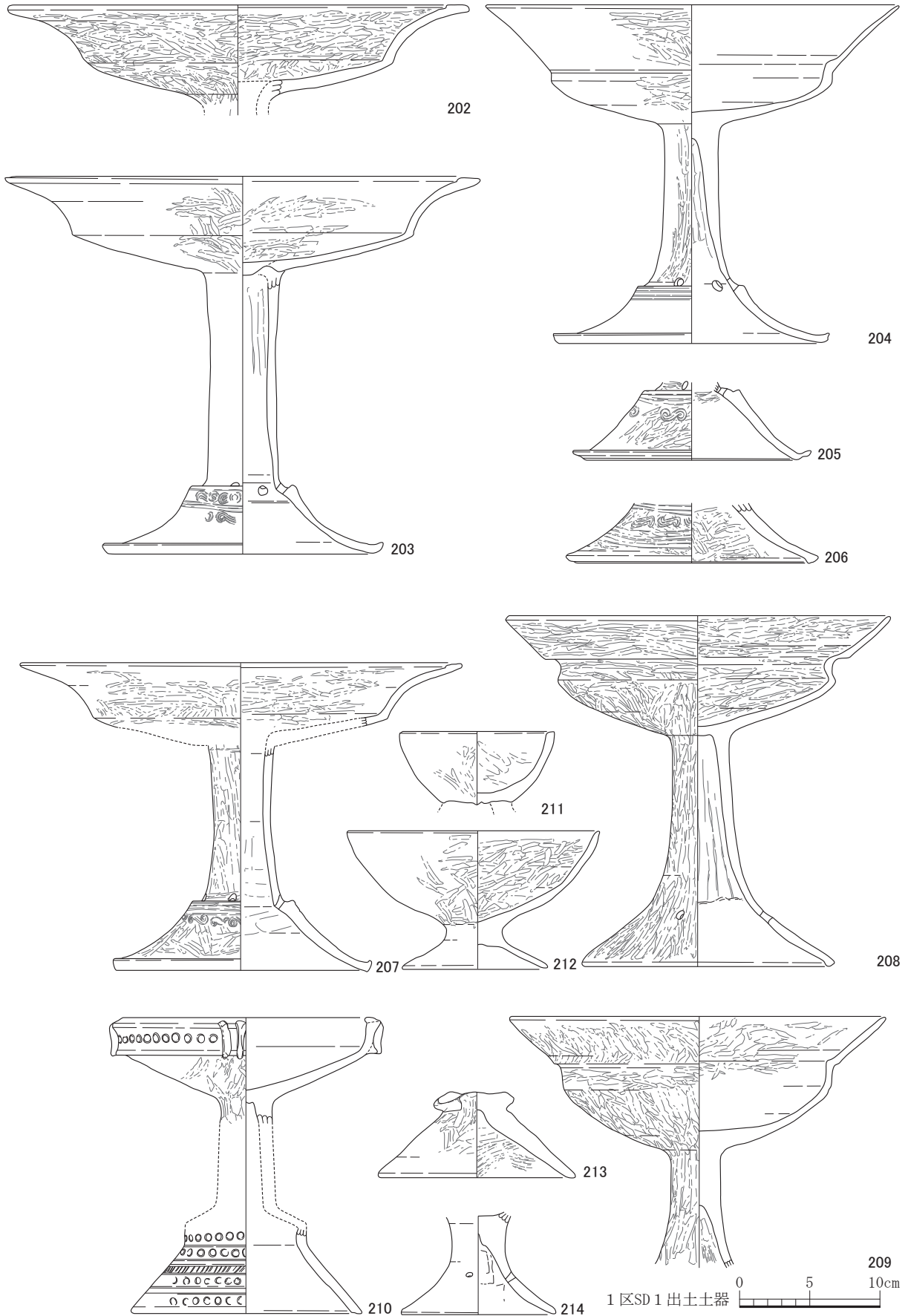
小型土器は長胴で口縁が横に開くもの(第17図380)の他は、丸底の鉢(第17図379)、逆の円錐形状の鉢(第17図381)、口径に対して胴が長い深鉢(第17図382)と鉢に分類できるものが多い。また脚台が付く台坏鉢と呼べるようなものは4点図化できたが、坏部に対して脚台が小さいもの(第20図421)、脚台が長くなるもの(第20図420)、坏部と脚台が同じような大きさのもの(第20図419)があり、これらはいずれも指押えを残したままであるが、成型ののちミガキ調整を行ったもの(第17図377)は例外である。これらの土器よりも一回り以上大きいもの(第17図383)は、長頸壺を小型化したものと考えられる。またこれらの小型土器と同じような大きさの脚台であるが有段部を丁寧に作るもの(第20図422)は、精製された器種である可能性が考えられる。

明らかに弥生時代でも中期に遡る土器は13点を図化できた。時期は中期前半から後半までであるが、中葉と言えるものはない。中期前半と判断したものは、甕では口縁下端と胴部上半に櫛刺突列点文があるもの(第20図426)と、小型の甕で口縁が波状になるもの(第19図第415)に頸部に櫛描直線を施文するもの(第19図417)である。壺は太頸から口縁が小さく開き端面に連続して指押圧を加えるもの(第20図431)と、細頸の壺(第20図425)である。細頸壺はやや長めの胴から長く伸びた頸が小さく外反して口縁端部となるもので、このような形状の細頸壺はこの時期の類例がほとんどない。文様も胴部上半に櫛描直線文を巡らせた上の頸部にヘラ描の羽状文を縦に並べた後にその間を直線の櫛描文で区画する。胴部上半の櫛描直線文の下には、ヘラで大きめの山形波状文にさらにその頂点から垂下する波状を加える。その下にも櫛描直線文の下に同様のヘラ描を加えるが、こちらは垂下するのが波状と直線の2種類である。口縁端部は櫛刺突文で蔽う。胎土や色調ともに在地の弥生土器として問題はなく、沈線文系土器の範疇と考えられるが、その系譜などは未検討である。

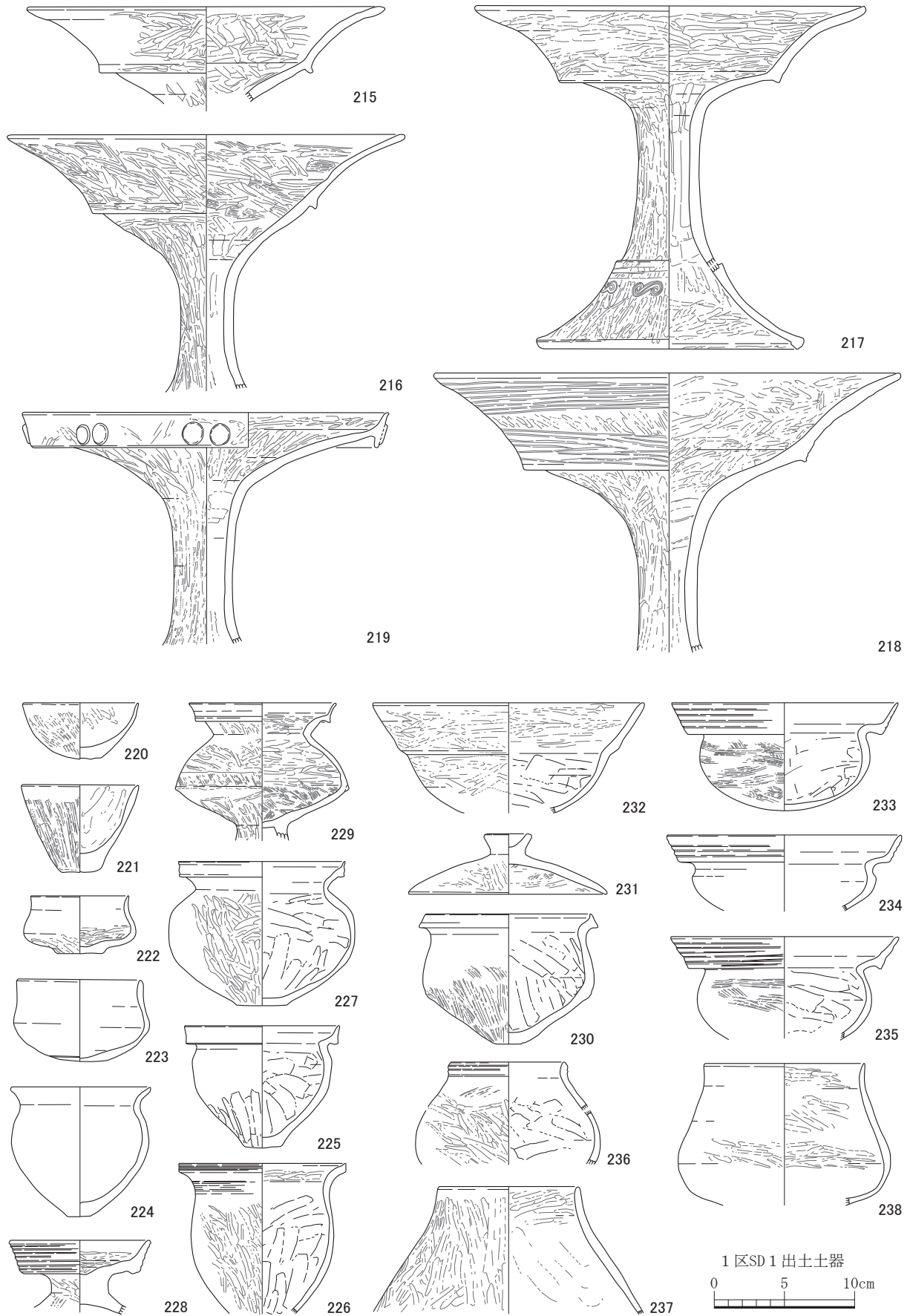
中期でも後半(畿内の3様式後半から4様式の前半に相当)と判断した土器は8点である。甕は開く口縁がやや長めでその端部にヘラの刺突文を加えるもの(第19図413)と、口縁帯を斜めにハケで搔き上げて受口状にするもの(第19図414)、無文でやや小型の長胴のもの(第19図416)の3点である。壺は胴長ですばまった頸部から短く小さい口縁が外反するものには、口縁端面に櫛刺突列点文を加えるもの(第16図357)と、摘み上げてヨコナデするもの(第19図410)の2種類の口縁があるが、いずれもタテハケ調整である。東海の影響を受けた袋状口縁のもの(第19図412)には、頸部に小刻みな波状文を巡らせる。広口壺(第16図356)は口縁部を強くヨコナデして小さな有段とし、肩部にヘラ刺突列点文を巡らせる。鉢(第19図418)は大きめの平底で、内外面ともにヨコハケ調整である。これまで川から出土した土器についてはおおよその時期を決めてきたが、そのいずれとも判断できない壺の口縁部(第19図411)がある。おそらく丸い胴部から短い口縁部が外反するが、口縁は大きい。口縁の形状からは古墳時代の壺とも考えられる。



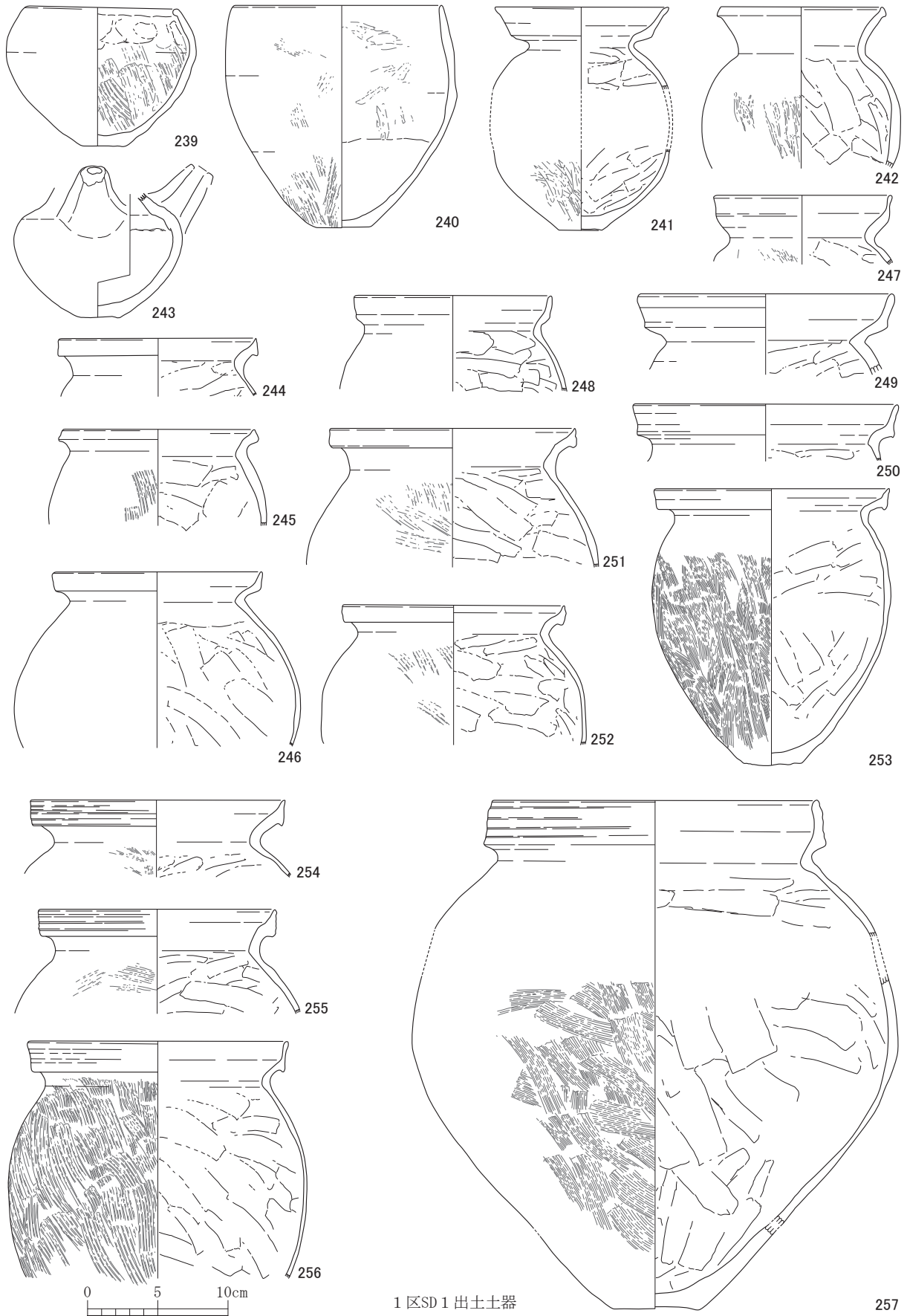
第7図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)



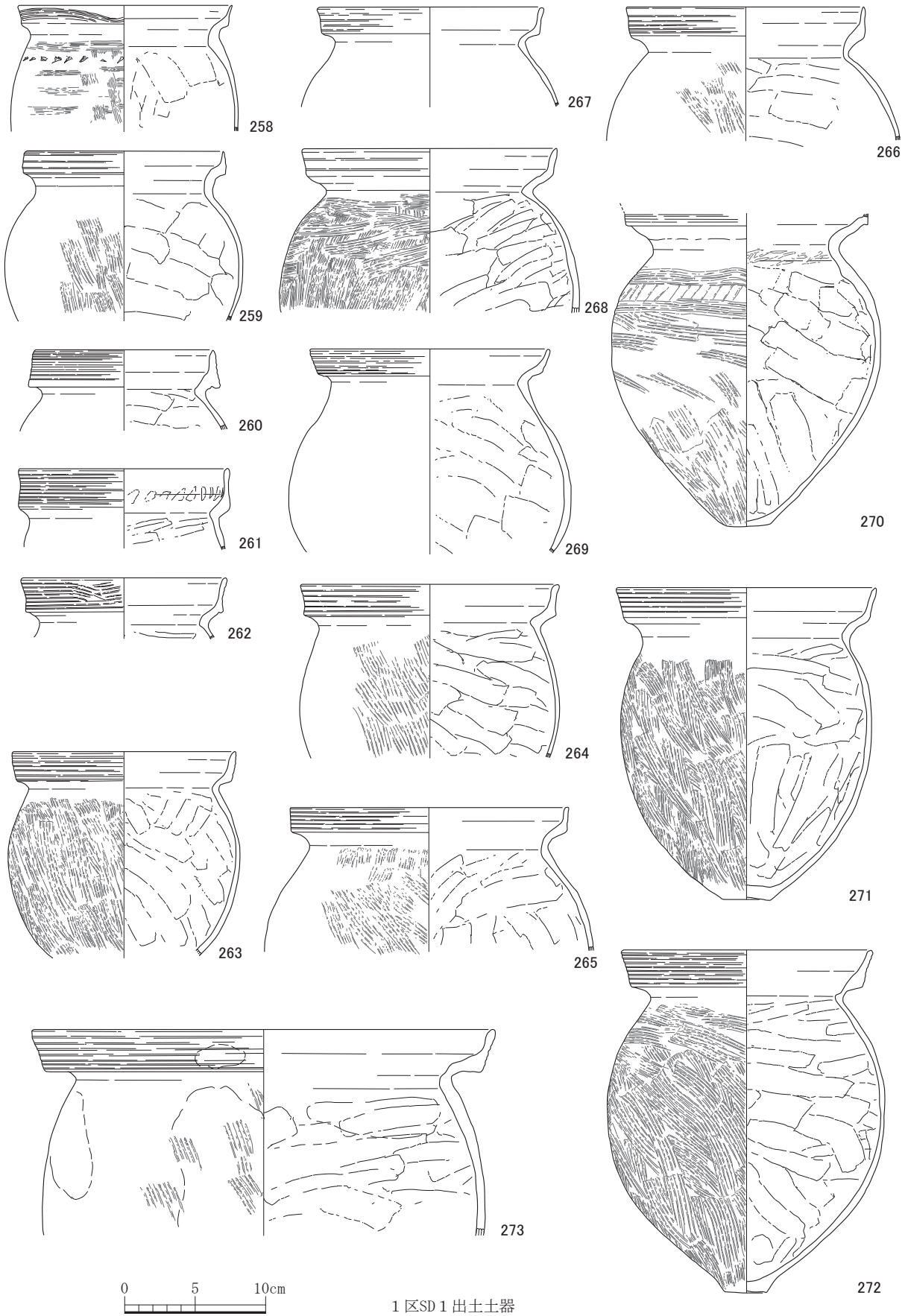
第8図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)



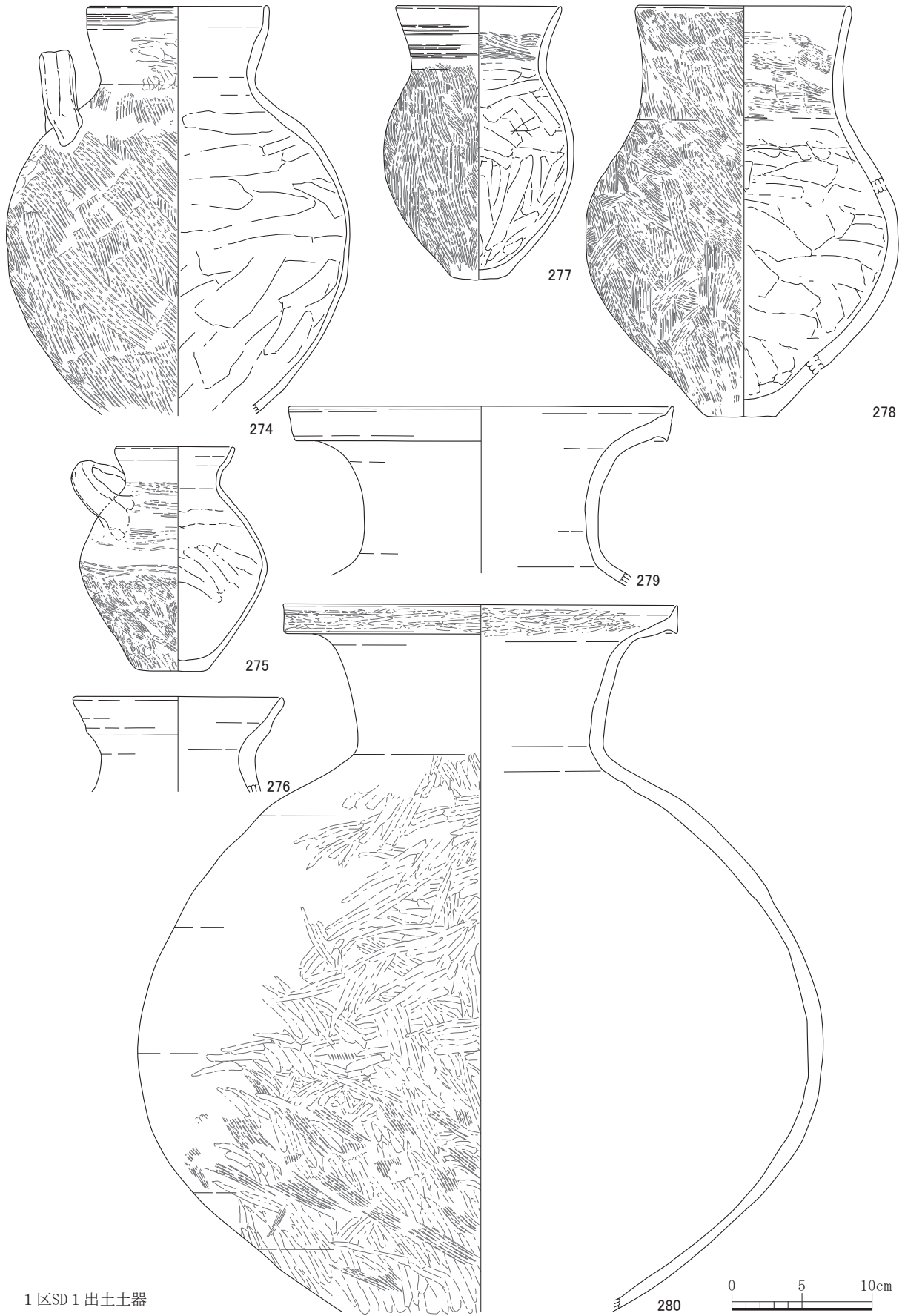
第9図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)



第10図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)

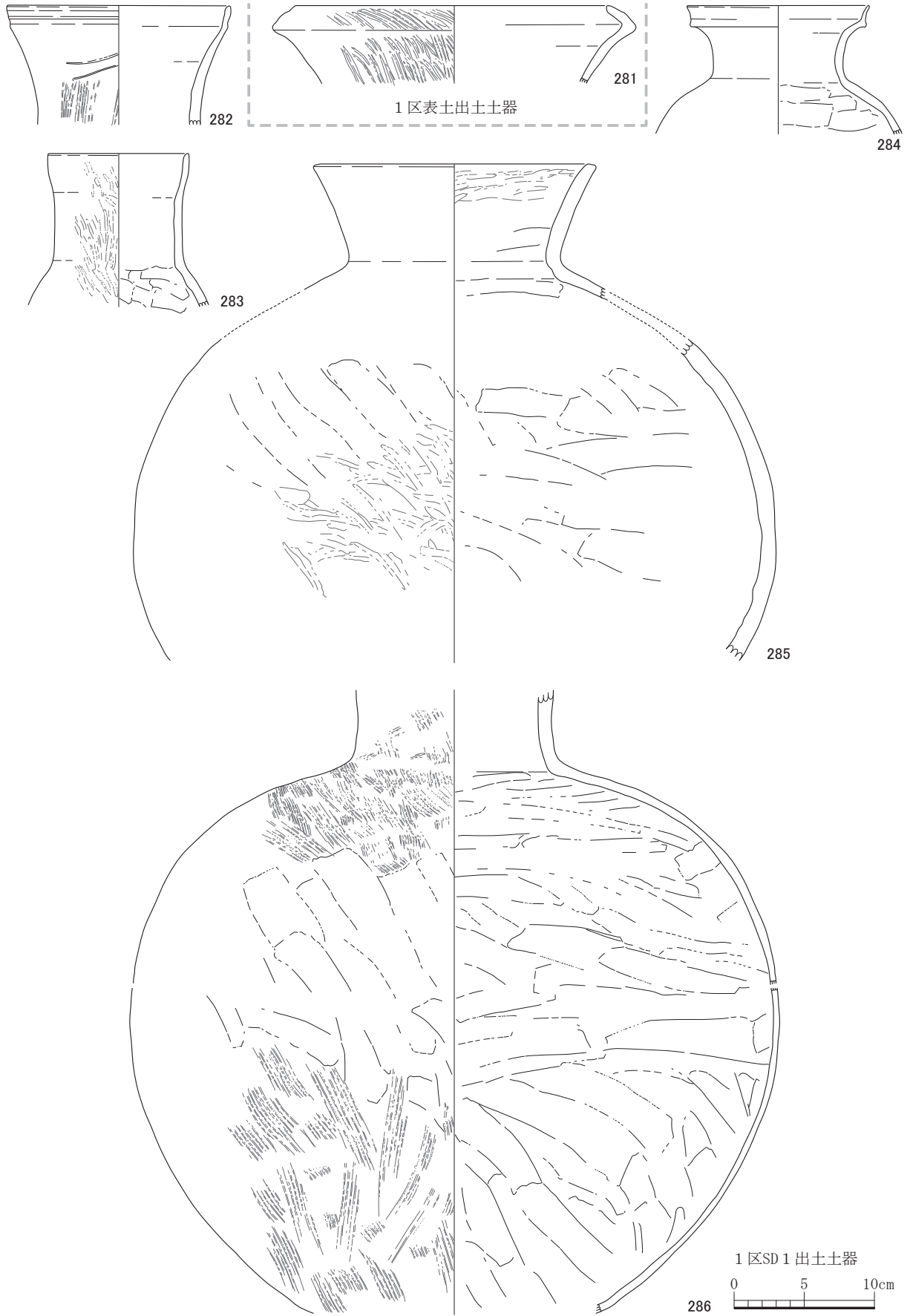


第11図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)



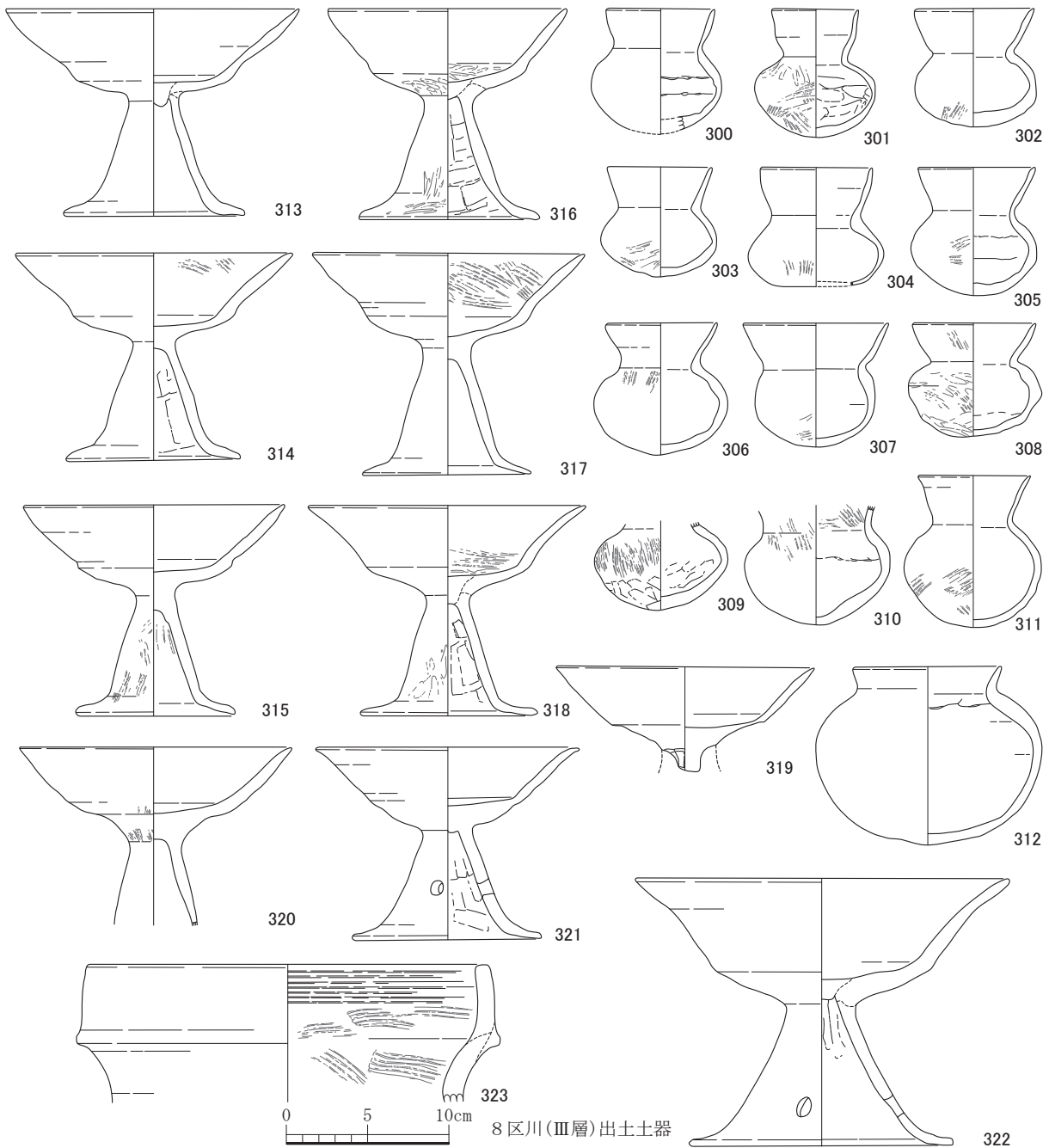
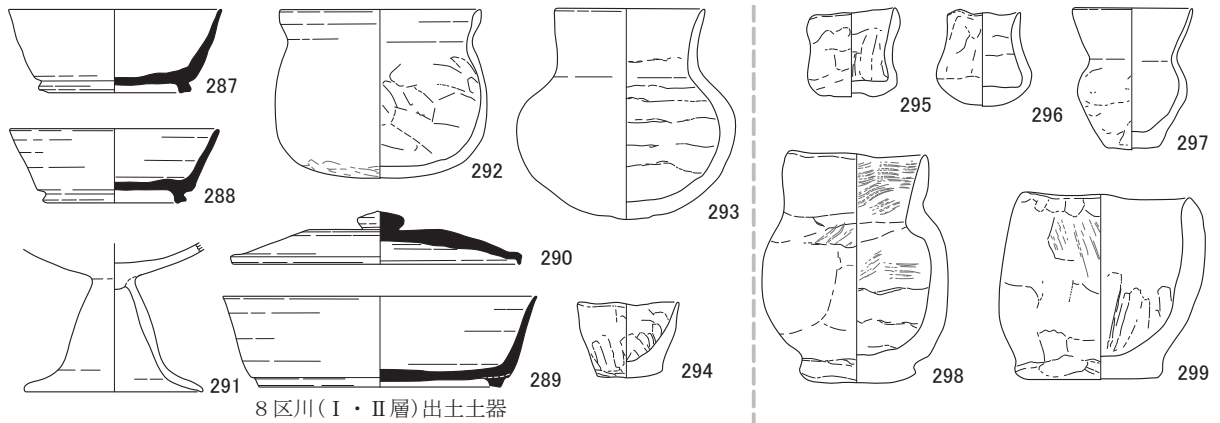
1区SD1出土土器

第12図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)

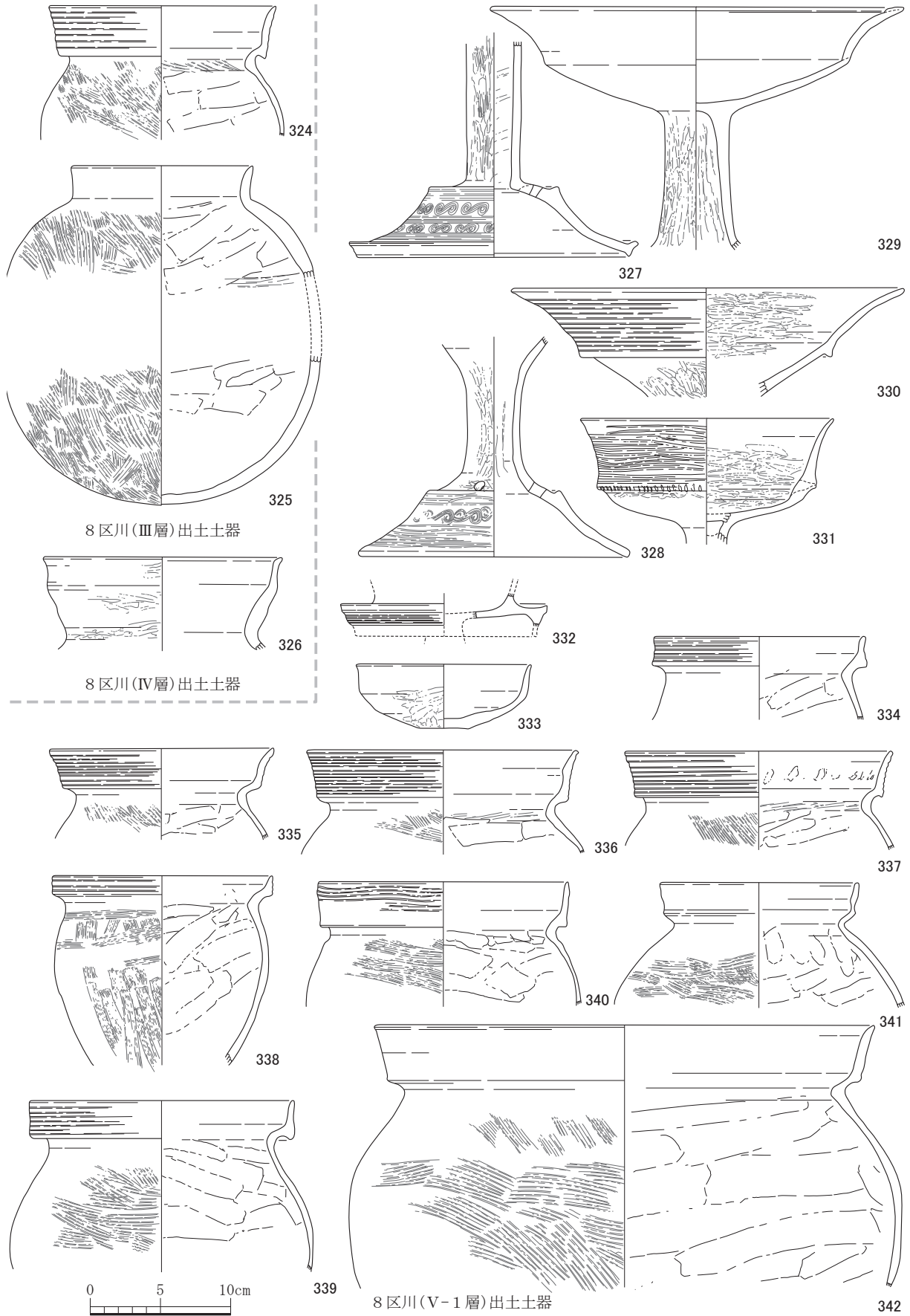


第13図 第IV区域1区出土土器 (縮尺1/4)

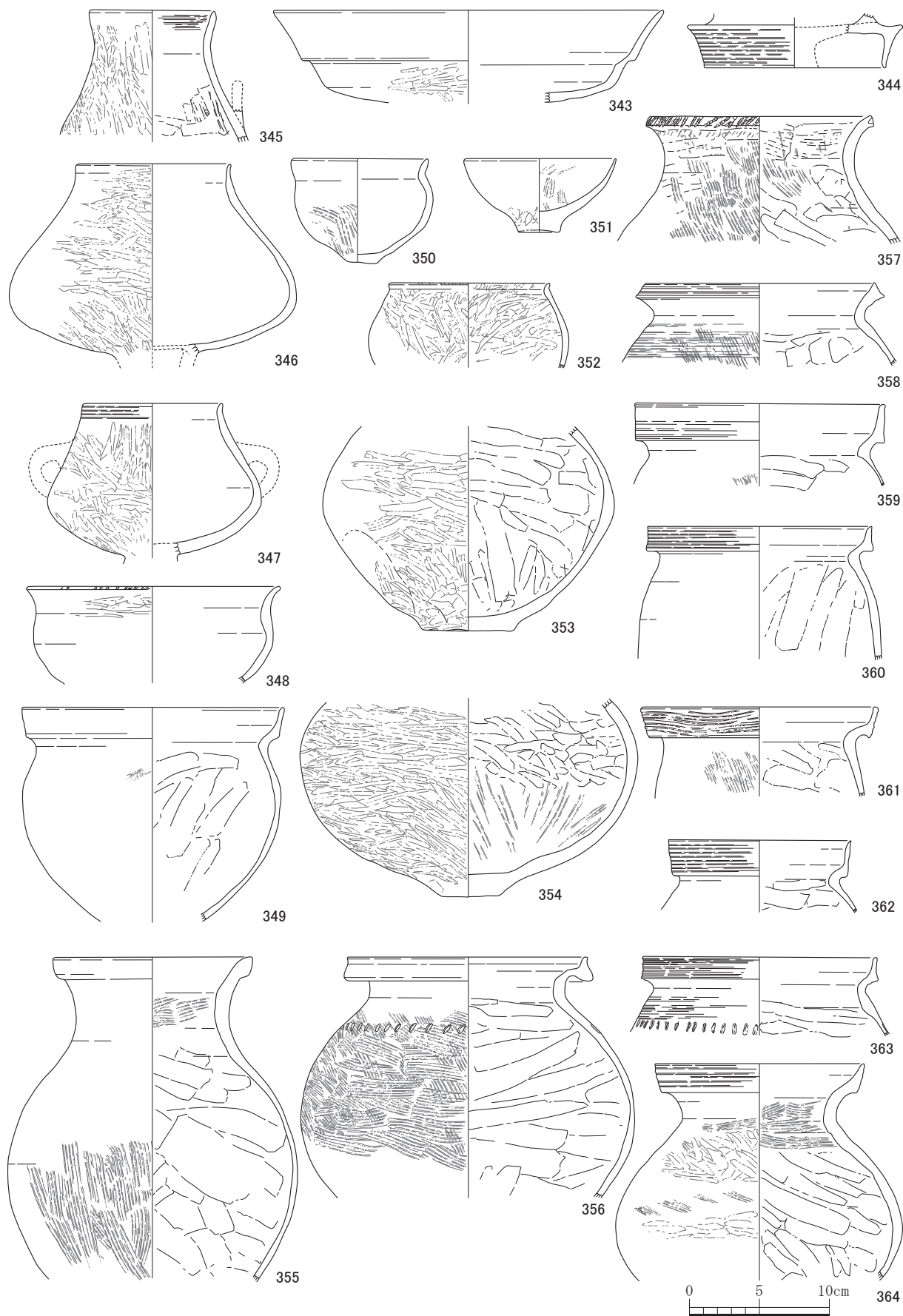




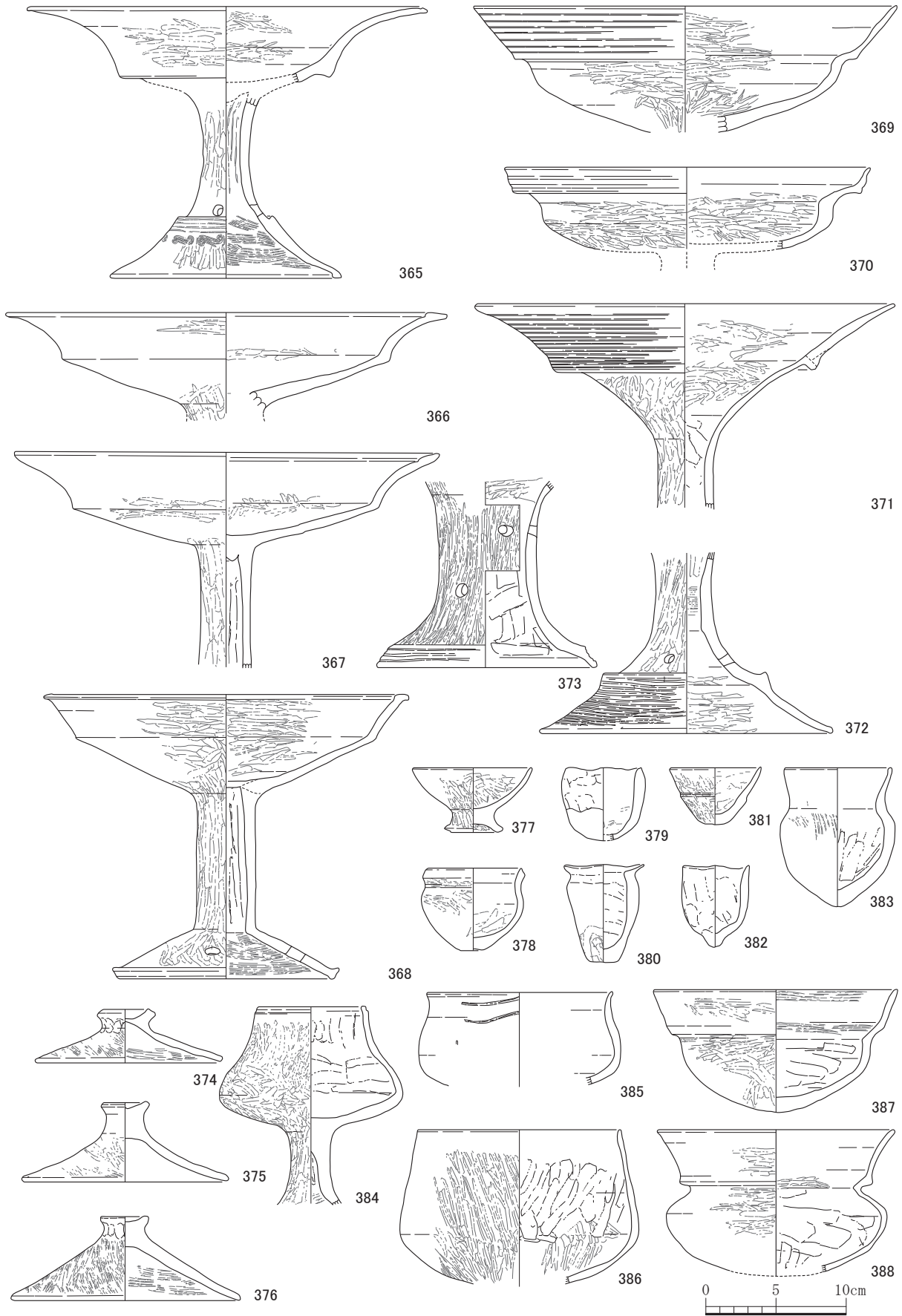
第14図 第IV区域8区川 (I層~III層) 出土土器 (縮尺1/4)



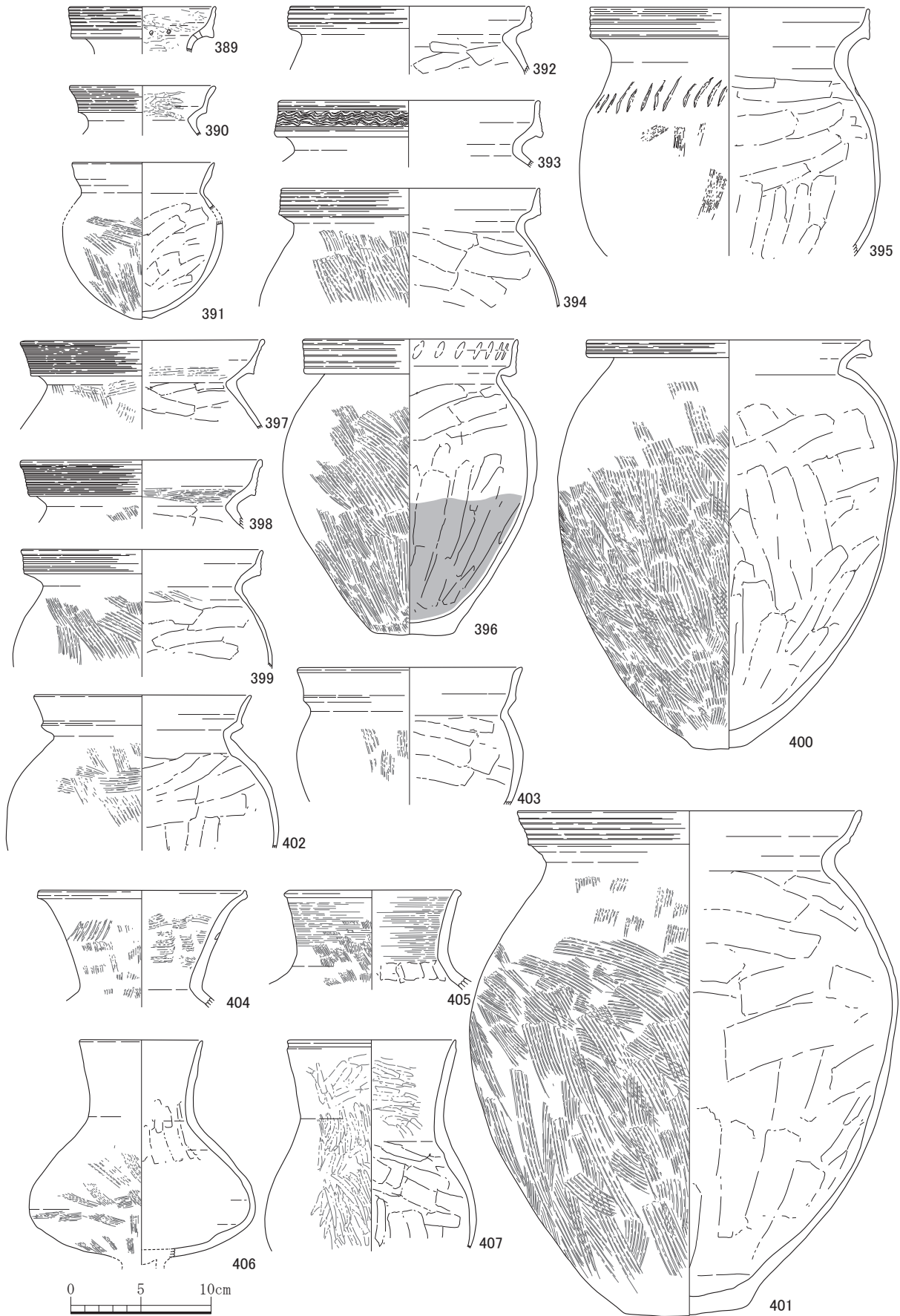
第15図 第IV区域8区川(III層・IV層・V-1層)出土土器(縮尺1/4)



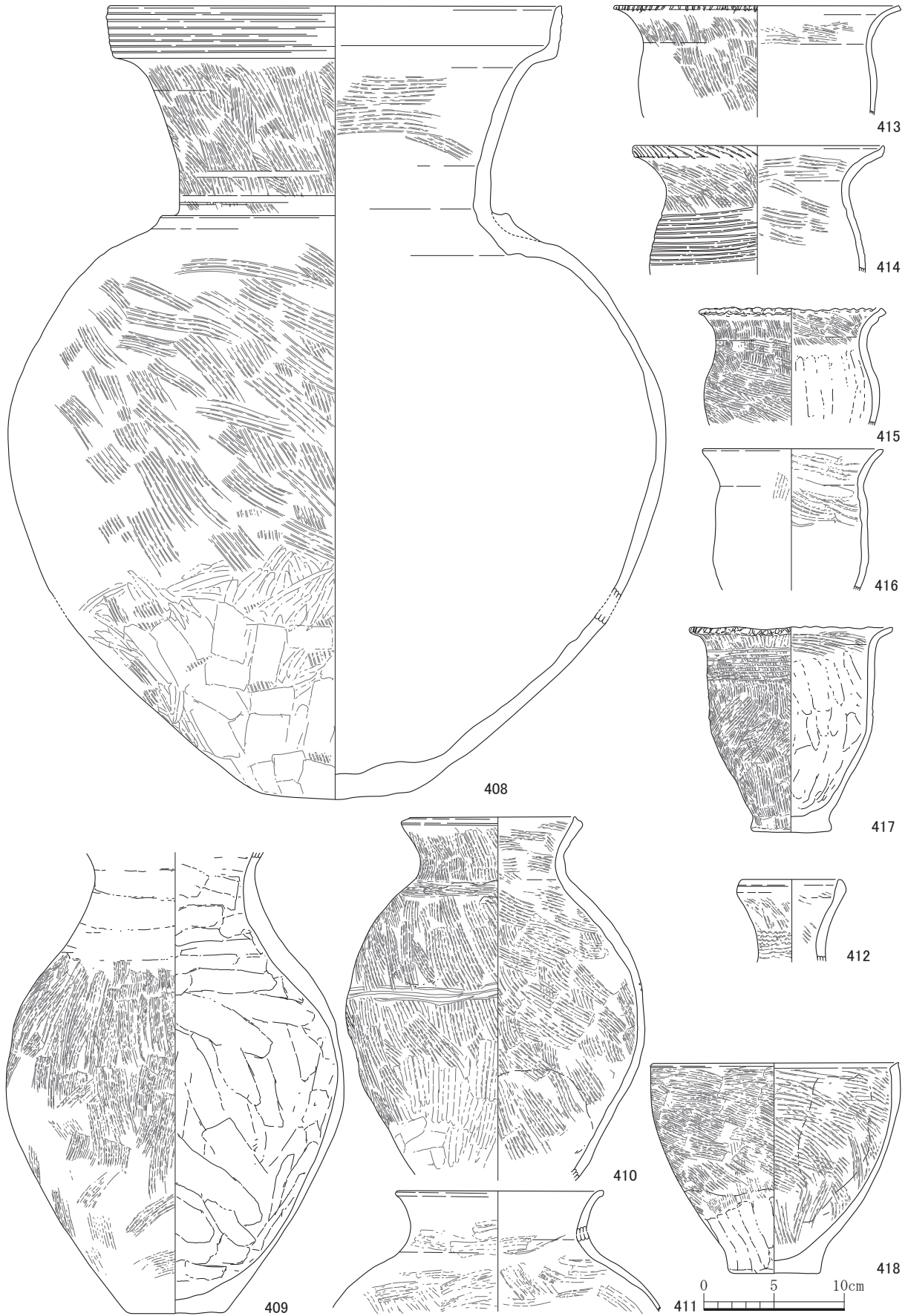
第16図 第IV区域8区川（V-1・2層）出土土器（縮尺1/4）



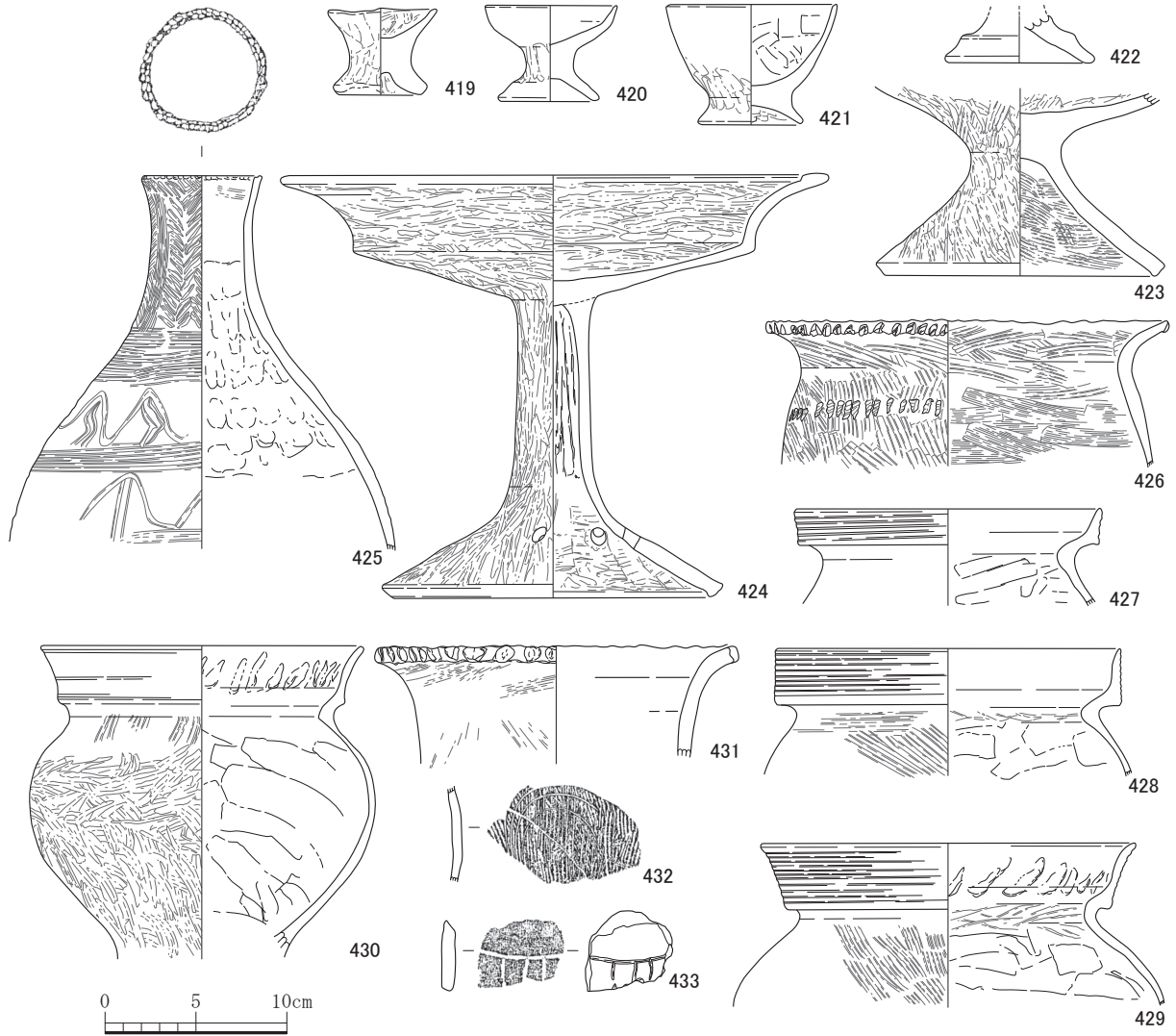
第17図 第IV区域8区川（V-2層）出土土器（縮尺1/4）



第18図 第IV区域8区川（V-2層）出土土器（縮尺1/4）



第19図 第IV区域8区川（V-2層）出土土器（縮尺1/4）



第20图 第IV区域8区川（V-2～VII層）出土土器（縮尺1/4）

第4表 第IV区域出土土器観察表 (第7～20図、図版第3～12)

( )は推定値 単位: cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
7 185	須恵器 皿	口: 16.4 高: 2.5 底: 13.2	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ 切り後ナデ 内: 回転ナデ	1 区G11/SE 1 外: 口端部焼きムラ	
7 186	土師器 無台皿	口: 12.2 高: 3.5 底: 5.0	焼: 良好 色: 褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/底部回転糸切り 内: 口縁部回転ナデ/底部中央ナデツケ	1 区G11/SE 1	3
7 187	土師器 高台碗	口: 13.2 高: 4.0 底: 6.8	焼: 良好 色: 褐色	微砂粒 白色粒子 若干量 軟質 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は肥厚して丸く収める 底部: 高台はハの字に踏ん張る	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ 切り未調整 内: 口縁部回転ナデ/底部中央ナデ	1 区G11/SE 1 / 3～6 層	3
7 188	土師器 甕	口: 12.8 高: 5.0	焼: 良好 色: 白褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 口端部上端を上方へつまみ出し、口端面をつくる 頸部: 短く屈曲して外反 胴部: 胴部中位で張る	外: 口縁部～胴部上位回転ナデ 内: 口縁部～胴部上位回転ナデ	1 区G11/SE 1	
7 189	赤生土器 壺	口: 11.0 高: 21.0 最: 19.0	焼: 不良 色: 淡茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部～頸部: ゆるやかに内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/刻目立 頸部: ゆるやかに外反して立ち上がる 胴部: 裏形/胴部中位で張り出す/胴部下位窄まる	外: /口縁部ヨコナデ/頸～胴部タテハケ 内: 口縁部タテハケ/頸部ナデ/胴部 上位ユビ圧痕・接合痕2段/胴部中位 ～下位タテ方向のハケ	1 区G8/SX 1 周溝 (SD 3) 外: 口縁部～胴部半 身スス付着	3
7 190	赤生土器 甕	口: 16.6 高: 7.8 最: 19.2	焼: やや不良 色: 黄褐色	小砂粒 多量 軟質 1/8	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる /5～6条の擬凹線/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部上位で張る	外: /頸部～胴部中位ハケ・摩耗 内: 口縁部～頸部ナデ/胴部ヘラケ ズリ	1 区H9/SX 1 周溝 (SD 4)/上層 外: 半身スス付着	3
7 191	赤生土器 鉢	口: 14.4 高: 7.3	焼: 良好 色: 淡黄白色	微砂粒 多量 白色粒子 多量 軟質 1/10以下	口縁部: く字口縁/口端部は外傾して斜め上方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める 頸部: 鈍角に屈曲 体部: 半球形 底部: 丸底	外: 口縁部～体部ハケ 内: 口縁部～体部ハケ	1 区H9/SX 1 周溝 (SD 4)/上層	
7 192	赤生土器 甕	口: 30.6	焼: 不良 色: 淡赤橙色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部: 有段口縁/口端部上・下端を上・下につまみ出 し口縁部をつくる/11条の条線/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反/器壁は厚い	外: /頸部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/頸部ヘラケ ズリ	1 区F9/SD 5	
7 193	赤生土器 高環	口: 28.4 高: 8.0	焼: 良好 色: 淡褐色	微砂粒 軟質 1/3	口縁部: 強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚し て段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部: 浅身/やや内湾した皿状/口縁部との境になる 稜は鈍い/中央に径4.6cmの粘土板を充填して脚部と接合 脚部: 脚柱部断面は楕円形	外: 口縁部～受底部ミガキ・摩耗 内: 口縁部～受底部ミガキ・摩耗	1 区I9/SD 1 / 上層 1 区G9/SD 1 / 下層 外: 口縁部一部スス 付着	
7 194	赤生土器 高環	口: 27.2 高: 20.8 底: 17.0	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して 段をもつ/口唇部は丸く収める/平面は正円形杯部: 浅 身の皿状/直線状に外方にのびる/口縁部との境になる 稜は明瞭/シャープ 脚部: 脚柱部は棒状/脚柱部はハの字に開く/径0.8cmの 円孔を4方向に配す/脚端面は平坦で1条の条線を施す /脚端部下位が肥厚して接地	外: 口縁部～脚部ミガキ・摩耗 内: 口縁部～杯部摩耗/脚柱部上位 シボリ痕/脚柱部下位ナデ/脚柱部ハ ケ	1 区H9/SD 1 / 上層 外: 口端部スス付着/ 脚端部一部スス付着	3
7 195	赤生土器 高環	口: 29.3 高: 16.0	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部: 外反して外方へ開く/口端部内側は肥厚して段 をもつ杯部: 浅身/直線状に斜め外方へのびる/口縁部 との境は屈曲し稜は鈍い 脚部: 脚柱部は棒状/脚柱部は屈曲してハの字に開く	外: 口縁部～脚部化粧土塗布後ミガ キ・摩耗 内: 口縁部～杯部化粧土塗布後ミガ キ・摩耗 脚部: 脚柱部シボリ痕/脚柱部ナデ	1 区/SD 1 外: 杯部上位一部スス 付着	
7 196	赤生土器 高環	口: 26.7 高: 21.7 底: 16.0	焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚し て段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部: 浅身の皿状/直線状に外方にのびる/口縁部との 境になる稜は明瞭 脚部: 脚柱部は棒状/脚柱部はハの字に開く/径0.8cmの 円孔を4方向に配す/脚端部は丸く収める	外: 口縁部～杯部摩耗/脚部ミガキ・ 摩耗 内: 口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚 柱部上位シボリ痕/脚柱部中位ヘラ ナデ/脚柱部ミガキ・摩耗	1 区H9/SD 1 / 上層 内: 口端部一部スス 付着	3
7 197	土師器 高環	高: 5.0 底: 18.4	焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 白色粒子 硬質 1/8	脚部: 大きくハの字に開く/脚端面は丸く収める/脚端 部下端がやや肥厚して接地/内面に弱い稜をもつ/脚柱 部中位に径0.7cmの円孔を4方向に配す	外: 脚柱部ミガキ 内: 脚柱部上位ハケ/脚端部ヨコナ デ	1 区H9/SD 1	3
7 198	土師器 高環	高: 9.5 底: 18.6	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	脚部: 脚柱部は大きくハの字に開く/脚端面は平坦/脚 端部下端で接地する/脚柱部中位に径0.7cmの円孔を4方 向に配す	外: 脚柱部化粧土塗布後ミガキ/脚 柱部摩耗 内: 脚柱部シボリ痕/脚柱部ハケ	1 区J9/SD 1 / 上層 脚柱部摩耗	4
7 199	土師器 高環	高: 17.0 底: 17.3	焼: 良好 色: 赤褐色	微砂粒 多量 軟質 3/4	受底部: ラップ状に外方へ開く 脚部: 脚柱部は弱く外反/脚柱部は大きくハの字に開く /脚端面は平坦/脚端部下端で接地して段をもつ/脚柱部 中位に径0.7cmの円孔を4方向に配す	外: 受底部意図的に敲打? /脚部ミ ガキ・摩耗 内: 受底部凹凸あり・摩耗/脚柱部 シボリ痕/脚柱部ミガキ・摩耗	1 区I9/SD 1 / 上層	4
7 200	赤生土器 高環	高: 6.3 底: 20.0	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/6	脚部: 大きくハの字に開く/脚端面は平坦/脚端部下端 がやや肥厚して接地/内面に弱い稜をもつ/脚柱部中位 に径1.2cmの円孔を3方向に配す	外: 脚柱部ミガキ・摩耗 内: 脚柱部上位シボリ痕/下位ハケ 後ナデ	1 区I9/SD 1 / 上層 外: 脚端部一部黒斑 内: 脚端部一部黒斑	4
7 200	赤生土器 高環	口: 32.0 高: 21.0	焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 堅緻 2/3	口縁部: 強く外反して大きく開く/口端部内側が肥厚し て段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部: 浅身の皿状/直線状に斜め外方へのびる/口縁部 との境になる稜は鈍い/中央に粘土板を充填して脚部と 接合/平面は正円形 脚部: 脚柱部は棒状	外: 口縁部～脚柱部ミガキ 内: 口縁部～杯部ミガキ/脚柱部シ ボリ痕	1 区I9/SD 1 / 上層	4
7 201	赤生土器 高環	口: 32.0 高: 26.8 底: 20.0	焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 強く外反して開く/口端部内側が肥厚して段を もつ/口唇部は丸く収める 杯部: 浅い鉢形/やや内湾して丸をもち外方へのびる /口縁部との境は鈍い脚部: 脚柱部は棒状/脚柱部はハ の字に開く/脚端面は丸く収める/脚柱部中位に径0.8cm の円孔を配す	外: 口縁部～脚部ミガキ・摩耗 内: 口縁部～杯部ミガキ・摩耗 脚部: 脚柱部上位シボリ痕/脚柱部 下位ヘラナデ/脚柱部摩耗	1 区H9/SD 1 / 上層 外: 口端部スス付着 全体的に歪む	4



第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
8 202	弥生土器 高坏	口：32.8 高：7.5	焼：良好 色：橙色	極砂粒 やや軟質 1/2	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側が肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 受底部：浅身/やや内湾した皿状を呈す/口縁部との境になる稜はシャープ	外：口縁部～受底部ミガキ・摩耗 内：口縁部～受底部ミガキハケ後ミガキ/受底部ミガキ/脚柱部上位ヘラケズリ/脚柱部中位～下位ヘラナデ	1区H9/SD1	4
8 203	弥生土器 高坏	口：33.7 高：26.8 底：20.0	焼：良好 色：淡白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部：強く外反して大きく開く/口端内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める/平面は正円形 杯部：浅身の皿状/やや内湾して外方にのびる/口縁部との境になる稜は明瞭/中央に径4.0cmの粘土板を充填して脚部と接合 脚部：脚柱部最下位に径0.8cmの円孔を4方向に配す/脚台部はハの字に開く/脚台部上位に2条のヘラガキ条線・渦状S字スタンプ文・3条のヘラガキ条線・渦状スタンプ文を施す/脚端部は上方へ反る	外：口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚部摩耗 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚柱部上位シボリ痕/脚柱部中位～脚台部摩耗	1区I9/SD1/上層 外：口縁部一部スス付着 内：脚柱部上位スス付着	4
8 204	弥生土器 高坏	口：29.5 高：24.0 底：19.7	焼：良好 色：白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/口唇部は丸く収める/シャープ 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へのびる/口縁部との境に段をもつ 脚部：脚柱部は棒状/最下位に径0.8cmの円孔を4方向に配す/脚台部はラッパ状に開く/脚台部上位に4条のヘラガキ条線を施す/脚端部は上方へ反る	外：口縁部～脚部ミガキ・摩耗 内：口縁部～杯部摩耗 脚部：脚柱部上位シボリ痕/脚柱部下位～脚台部摩耗	1区H9/SD1/上層 外：口縁部一部スス付着	4
8 205	弥生土器 高坏	高：5.5 底：17.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 1/10以下	脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に開く/脚柱部最下位で径0.7cmの円孔/方向不明/脚台部上位に3条のヘラ描き条線・渦状S字スタンプ文を施す/脚端部は斜め外方へ屈曲	外：脚柱部～脚台部化粧土塗布後ミガキ 内：脚台部ナデ	1区I9/SD1/上層	
8 206	弥生土器 高坏	高：4.0 底：18.0	焼：良好 色：淡褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	脚部：脚台部はハの字に開く/脚台部上位に3条のヘラガキ条線・渦状S字スタンプ文・5条のヘラガキ条線を施す/脚端部は平坦/脚端内側は肥厚し段をもつ	外：脚台部ミガキ 内：脚台部ミガキ	1区G9/SD1/上層	
8 207	弥生土器 高坏	口：31.5 高：22.0 底：18.5	焼：良好 黄色：褐色	極砂粒 多量 白色粒子 多量 軟質 1/2	口縁部：強く外反して斜めに開く/口端部内側は肥厚して段をもつ 受底部：直線状に外方へ大きく開く/口縁部との境は明瞭 脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に開く/脚台部上位に3条のヘラ描き条線・渦状S字スタンプ文を左回り方向に施す/脚端部上端を上方へつまみ出す/脚端部は平坦	外：口縁部～脚部ミガキ/脚柱部最下位で4方向に径5mmの円孔 内：口縁部～受底部ミガキ/脚柱部ナデ/脚台部上位ヘラケズリ/脚台部下位ヨコナデ・摩耗	1区H9/SD1	4
8 208	弥生土器 高坏	口：27.4 高：25.0 底：18.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 堅緻 4/5	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/口唇部は丸く収める 杯部：浅い鉢形/やや内湾して丸みをもち外方へのびる/口縁部との境はS字状に強く屈曲/稜は鈍い 脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に開く/脚端部は平坦/脚端部下端は肥厚して接地/内面に段をもつ/脚柱部中位に径0.8cmの円孔を4方向に配す	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～杯部ミガキ 脚部：脚柱部シボリ痕/脚柱部摩耗	1区I9/SD1/上層 外：杯部上位黒斑 脚部やや歪む	4
8 209	弥生土器 高坏	口：16.8 高：16.7	焼：やや不良 色：淡白褐色	微砂粒 軟質 3/4	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/口唇部は丸く収める 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へのびる/口縁部との境に段をもつ 脚部：脚柱部は棒状/脚柱部はハの字に開く	外：口縁部～脚部ミガキ・摩耗 内：口縁部ミガキ/杯部ミガキ・摩耗 脚部：脚柱部ハケ後摩耗	1区I9/SD1/上層 外：口縁部一部スス付着 内：口縁部一部スス付着	4
8 210	弥生土器 高坏	口：14.4 高：(21.0) 底：16.5	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部～胴部上位：欠損 胴部中位：断面凹面の突帯/突帯内に竹管文、2条1対に棒状浮文を貼付/底部～胴部下位は直線状に外方へのびる 脚部：脚柱部は棒状と推定/脚台部は脚柱部から一旦屈曲した後、ハの字に開く/脚台部上位から竹管文・条線・竹管文・条線・斜行文を充填して2条の条線・竹管文・2条の条線・竹管文を施す	外：底部～胴部下位ミガキ/脚台部摩耗 内：底部摩耗/脚台部摩耗	1区I9/SD1/上層 1区J9/SD1/上層 外：脚端部スス付着 内：底部スス付着・摩耗	4
8 211	弥生土器 高坏	口：11.0 高：5.1	焼：良好 色：赤橙褐色	微砂粒 軟質 1/3	口縁部：口端部は内湾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は平坦 体部：碗形 底部：焼成前に脚部は剥離	外：口縁部～体部化粧土塗布後ミガキ 内：口縁部～底部化粧塗布後ミガキ・摩耗	1区I9/SD1/上層 外：体部下位一部スス付着	4
8 212	弥生土器 高坏	口：18.0 高：9.8 底：10.4	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 多量 石英 やや軟質 3/4	口縁部：口端部は内湾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：碗形 底部：器高3.0cmのハの字に開く脚部が付く/脚端部は丸く収める	外：口縁部～体部ミガキ/脚部ナデ 内：口縁部～底部ミガキ/脚部ナデ	1区H9/SD1/上層	4
8 213	弥生土器 蓋	摘：5.5 高：6.0 底：14.0	焼：良好 色：淡橙褐色	微砂粒 堅緻 1/2	つまみ部：円盤状に成形/中央が凹む体部：ハの字に開く 裾部：裾端部は丸く収める	外：体部ミガキ・摩耗 内：体部上位ヘラケズリ/体部下位ハケ	1区I9/SD1/上層 内：体部下位黒斑 全体的に歪む	4
8 214	弥生土器 高坏	高：7.2 底：11.0	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 軟質 1/3	杯部：欠損 脚部：低脚/脚柱部～脚柱部は外反して下方へ開く/径0.4cmの円孔を4方向に配す/脚柱部上位の器壁は厚い/脚端部は丸く収める	外：脚部摩耗 内：脚柱部ヘラナデ/脚柱部ナデ	1区H9/SD1/上層	4
9 215	弥生土器 器台	口：25.5 高：7.0	焼：良好 色：淡白褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：外反して斜めに開く/口唇部は丸く収める/口端部下端は突出 杯部：やや深身/直線状に外方へのびる/口縁部との境は屈曲し稜は鈍い	外：口縁部～杯部ミガキ・摩耗 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗	1区I9/SD1/上層	
9 216	弥生土器 器台	口：28.4 高：18.3	焼：良好 色：淡灰茶色	極砂粒 堅緻 3/4	口縁部：外反して大きく斜めに開く 受底部：深身/やや内湾してラッパ状に開く/口縁部との境になる突帯は鈍い 脚部：脚柱部は浅く外反し受底部に至る	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部ハケ後ミガキ/受底部ミガキ/脚柱部上位ヘラケズリ/脚柱部中位～下位ヘラナデ	1区J9/SD1/上層 内：口縁部スス付着	4
9 217	弥生土器 器台	口：27.8 高：24.4 底：19.2	焼：良好 色：淡灰褐色	極砂粒 堅緻 5/6	口縁部：強く外反して斜めに開く/口唇部は丸く収める 受底部：直線状に外方へ開く/口縁部との境は明瞭/平面は楕円形 脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に開く/脚柱部最下位で径0.7cmの円孔を3方向に配す/脚台部上位に3条のヘラ描き条線・渦状S字スタンプ文を8個施す/脚端部下位を下方へ肥厚/内面に段をもつ/脚端部は平坦	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～受底部ミガキ/脚柱部上位ヘラケズリ/脚柱部中位～下位ヘラナデ/脚台部ミガキ	1区I9/SD1/上層 内：脚柱部スス付着 内：口縁部部分的にスス付着	5

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位: cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
9 218	赤生土器 器台	口: 33.0 高: 20.0	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 白色粒子 雲母 軟質 4/5	口縁部: 大きく外反して斜めに開く/8条の凹線を上下2段で施す/凹線は土器を回転させず一本づつツケガキで施す 受底部: ラッパ状に開き口縁部との稜は鈍い/シャープ 脚部: 脚柱部は浅く外反し受底部に至る	外: 口縁部～脚部ミガキ 内: 口縁部～受底部ミガキ/脚部上方ヘラケズリ/脚部中央シボリ痕	1区I9/SD1/上層 内: 口縁部一部黒斑	5
9 219	赤生土器 器台	口: 26.0 高: 16.5	焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 硬質 3/4	口縁部: 幅2.5cm、厚さ0.3cmの粘土帯を接合して口縁部をつくる/径1.3cmの円形浮文を2個1対で8方向に配す 受底部: 大きく外反してラッパ状に開く 脚部: 脚柱部は浅く外反	外: 受底部～脚部ミガキ 内: 口縁部～受底部ミガキ/脚柱部上位ヘラケズリ/脚柱部中位ナデ/脚柱部下位ヘラナデ	1区I9/SD1/上層 外: 脚柱部中位一部黒斑	5
9 220	赤生土器 鉢	口: 8.3 高: 4.0 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	小砂粒 石英 軟質 4/5	口縁部: 口端部は内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 椀形/シャープ 底部: 丸底/器壁は厚い	外: 口縁部～底部ハケ後ナデ 内: 口縁部～底部化粧土塗布後ミガキ・摩耗	1区I9/SD1/上層	5
9 221	赤生土器 鉢	口: 8.4 高: 6.7 底: 2.6	焼: 良好 色: 淡橙褐色	微砂粒 多量 堅緻 4/5	口縁部: 口端部は外傾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 倒台形のカップ形 底部: 平底/器壁は厚い	外: 口縁部～体部タテハケ後ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	1区G9/SD1/上層 外: 半身スス付着	5
9 222	赤生土器 鉢	口: 6.8 高: 4.2 最: 8.0 底: 3.4	焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 多量 軟質 1/2	口縁部: 直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 体部下位から内傾して立ち上がる/体部下位窄まる 底部: 平底	外: /口縁部～体部下位化粧土塗布・摩耗/体部下位ミガキ/底部ナデ 内: 口縁部摩耗/体部中位～底部化粧土塗布後ミガキ	1区G9/SD1/中層	5
9 223	赤生土器 鉢	口: 9.0 高: 6.0 底: 4.0	焼: 不良 色: 淡灰褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 4/5	口縁部: 内傾して弱く外反する//口唇部は上方に直立して丸く収める 体部: 体部下位で張る底部: 丸底/棒状脚の痕跡	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	1区I9/SD1/上層 内: スス付着 外: 体部中位～底部スス付着	5
9 224	赤生土器 甕	口: 10.0 高: 9.2 最: 10.0 底: 2.0	焼: 良好 色: 褐灰色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部: く字口縁/短く外反する/口唇部は丸く収める 頸部: 屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる 底部: 平底	外: 口縁部～胴部下位化粧土塗布後ナデ・摩耗/底部は摩耗 内: 口縁部～頸部摩耗/胴部ナデ	1区J9/SD1/上層	5
9 225	赤生土器 鉢	口: 11.0 高: 8.8 最: 10.0 底: 2.4	焼: 良好 色: 淡茶色	微砂粒 多量 堅緻 4/5	口縁部: 有段口縁/口端部下端を下方へ肥厚して口端面をつくる/シャープ/口唇部は丸く収める/3条の条線 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部: 平底	外: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部～底部ナデ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 外: 全的にスス付着/底部被熱	5
9 226	赤生土器 鉢	口: 12.0 高: (10.8) 最: 10.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部: 有段口縁/口唇部を平坦にして外方へ向け、口端面として見かけ上の有段口縁をつくる/3条の条線 頸部: 短く外反 胴部: 胴部中位で張る/胴部下位窄まる	外: 頸部強いヨコナデ/胴部上位～下位ミガキ 内: 口縁部～頸部ミガキ/胴部上位ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 内: 脚部上位～下位スス付着	5
9 227	赤生土器 壺	口: 16.0 高: 10.3 最: 13.2 底: 3.4	焼: 良好 色: 赤橙色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/1	口縁部: 有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部下端は肥厚/口唇部は丸く収める 頸部: 屈曲して外反 胴部: 扁球形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる 底部: 平底	外: /頸部ヨコナデ/胴部上位～下位ミガキ/底部ナデ 内: 口縁部～頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～底部タテ方向のヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 外: 口縁部～胴部下位被熱・スス付着	5
9 228	赤生土器 台付壺	高: 5.0 底: 10.0	焼: 良好 色: 橙褐色		脚部: 脚柱部は短い/脚台部はハの字に開く/脚端面上位は肥厚して段をもつ/脚端面には7条の擬凹線	外: 脚柱部ミガキ 内: 脚端部化粧土塗布後ミガキ	1区I9/SD1/上層 内: 脚部赤彩	5
9 229	赤生土器 台付壺	口: 10.4 高: 9.8 最: 12.2	焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 若干量 軟質 3/4	口縁部: 有段口縁/口端部は短く上方へ外反する/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 算盤玉形/胴部中位で屈曲して張る/胴部中位の裝飾帯は剥離 底部: 径3.8cmの脚柱部が付く	外: /口縁部摩耗/頸部～体部ミガキ 内: 口縁部ヨコナデ/頸部～体部中位ミガキ/体部下位～底部ハケ/脚柱部ナデ	1区H9/SD1 内: 胴部に化粧土を塗布 内: 胴部に化粧土を塗布	5
9 230	赤生土器 鉢	口: 16.2 高: 9.4 底: 2.0	焼: 良好 色: 淡橙褐色	微砂粒 堅緻 4/5	口縁部: 有段口縁/口端部上端を内傾して上方へつまみ出し、下端を斜め外方へつまみ出す/口端面は平坦 頸部: 短く屈曲して外反 胴部: 胴部中位で張る/胴部下位窄まる 底部: 平底	外: /口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層	5
9 231	赤生土器 蓋	高: 3.3 高: 4.3 底: 14.2	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部: 短く外方へ立ち上がる/中央は凹む 体部: 伏皿形/やや内湾気味にハの字に開く 裾部: 裾端部は丸く収める	外: 口縁部～体部化粧土塗布後ミガキ・摩耗 内: 体部ハケ・摩耗	1区G9/SD1/上層 外: 赤彩痕 内: 裾端部にスス付着	5
9 232	赤生土器 鉢	口: 19.2 高: 5.3	焼: 良好 色: 淡こげ茶色	微砂粒 軟質 1/4	口縁部: 有段口縁/口端部は外傾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部: 稜は鈍い 体部: 半球形 底部: 丸底	外: /口縁部～体部ミガキ 内: 口縁部ミガキ/体部ヘラケズリ	1区/SD1/上層 外: 全的にスス付着	5
9 233	赤生土器 鉢	口: 16.0 高: 7.7	焼: 不良 色: 淡こげ茶色	微砂粒 白色粒子 軟質 3/4	口縁部: 有段口縁/口端部は外傾して斜め上方へ立ち上がる/4条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反 体部: 扁球形/体部中位で張る 底部: 丸底	外: /体部ハケ 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/体部ヘラケズリ	1区H9/SD1/下層 外: 口縁部～底部スス付着	5
9 234	赤生土器 鉢	口: 16.6 高: 5.7	焼: 良好 色: 橙色	小砂粒 多量 1/2	口縁部: 有段口縁/口端部は外傾して斜め上方へ立ち上がる/3条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反 体部: 半球形/体部上位で張る 底部: 丸底	外: /頸部～体部ナデ 内: 口縁部～体部ナデ	1区H9/SD1/下層 外: 頸部一部黒斑	5
9 235	赤生土器 鉢	口: 16.2 高: 7.5	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 有段口縁/口端部下端は下方へ突出する/5条の擬凹線/シャープ/口唇部は丸く収める 頸部: 鋭く屈曲して外反 胴部: 扁球形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる	外: 頸部ナデ/胴部ヨコハケ・摩耗 内: 口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 1区I9/SD1/上層 外: 全的にスス付着/口縁部歪む	5
9 236	赤生土器 壺	口: 8.4 高: 7.3	焼: 良好 色: 赤色	小砂粒 多量 堅緻 1/10以下	口縁部: 内傾して弱く立ち上がる/口唇部は上方に直立して丸く収める/口端部に3条の条線 体部: 下膨れ気味に体部下位で張る	外: 口縁部～体部下位化粧土塗布後ミガキ 内: 口縁部ナデ/体部ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 内: 赤彩	5

第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
9 237	赤生土器 壺	口：10.0 高：9.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 硬質 1/3	口縁部：内傾して弱く外反する/口唇部は上方に直立して丸く収める 体部：フラスコ形/体部下位で張る	外：口縁部～体部ミガキ 内：口縁部ミガキ/体部ナデ後ミガキ	1区I9/SD1 外：体部一部黒斑	5
9 238	赤生土器 壺	口：11.2 高：10.0 最：15.0	焼：良好 色：明橙色	極砂粒 1/8	口縁部：内傾して弱く外反する/口唇部は上方に直立して丸く収める 体部：フラスコ形/体部下位で張る	外：口縁部摩耗/体部ミガキ/体部下位摩耗 内：口縁部～体部中位ミガキ/体部下位ナデ	1区I9/SD1上層	
10 239	赤生土器 鉢	口：10.6 高：10.0 底：3.1	焼：不良 色：淡灰茶色	小砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：体部上位から内湾して立ち上がる/口唇部は内側に肥厚して丸く収める 体部：体部上位で張る 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・摩耗 内：口縁部ナデ/体部中位～底部粗いハケ	1区J9/SD1/中層 外：全体的にスス付着	6
10 240	赤生土器 鉢	口：14.8 高：15.6 底：4.0	焼：不良 色：淡赤褐色	小砂粒 多量 軟質3/4	口縁部：体部中位からやや内湾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：体部中位で張る 底部：平底/径1.0cmの焼成前穿孔	外：口縁部～体部下位ハケ・摩耗/底部タテハケ 内：口縁部～体部中位化粧土を塗布後ミガキ/体部下位～底部摩耗	1区I9/SD1/中層 外：口縁部焼きムラ/体部下位～底部被熱スス付着	6
10 241	赤生土器 壺	口：12.2 高：(15.8) 最：(13.0) 底：3.0	焼：良好 色：淡褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して開く下端の稜は鈍い/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：球形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる底部：平底	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ/胴部下位ミガキ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位～底部ヘラケズリ	1区G9/SD1/上層 外：胴部下位スス付着	6
10 242	赤生土器 壺	口：11.8 高：11.3 最：14.0	焼：良好 色：橙色	小砂粒 多量 軟質 1/2	口縁部：やや外反して斜め外方へ立ち上がる/口端部上端を上方へつまみ出す 頸部：外反して立ち上がる 胴部：球形/胴部中位で張る	外：口縁部～胴部赤彩後ミガキ 内：口縁部ナデ/胴部上位～中位ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 外：赤彩痕	6
10 243	縄文土器 注口土器	高：9.5 最：11.0 底：2.7	焼：良好 色：黒色	微砂粒 多量 白色粒子 多量 軟質 4/5	頸部：内傾して立ち上がる 体部：扁球形/体部上位で張る/注口内径1.2cm 底部：粘土貼付により凹底とする	外：/摩滅/底部ナデ 内：頸部ナデ/体部ナデ	1区F9/包含層 後期/搬入品か	6
10 244	赤生土器 甕	口：14.0 高：4.2	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出す/口端部下端は下方へ肥厚/シャープ/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：頸部スス付着 内：化粧土塗布	
10 245	赤生土器 甕	口：12.0 高：7.0 最：15.4	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：くの字口縁/口端部上端を上方へつまみ出し、下端を下方へつまみ出す/口端面は平坦 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位タテハケ・摩耗 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	1区J9/SD1/上層 外：胴部上位スス付着	
10 246	赤生土器 甕	口：15.0 高：12.3 最：20.2	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 多量 軟質 1/3	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部中位で張る	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ヘラケズリ	1区H9/SD1/上層	
10 247	赤生土器 甕	口：12.4 高：5.0	焼：良好 色：赤褐色	小砂粒 多量 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部下端の稜は不明瞭/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲 胴部：胴部上位で張る	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層	6
10 248	赤生土器 甕	口：14.2 高：7.0 最：16.0	焼：良好 色：淡黄褐色	微砂粒 多量 軟質 1/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 頸部：屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部～胴部上位摩耗 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層	6
10 249	赤生土器 甕	口：18.3 高：5.7	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口端部下端は外方へ肥厚/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層	
10 250	赤生土器 甕	口：18.8 高：4.0	焼：良好 色：赤褐色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/口端部下端は下方へ肥厚/シャープ/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：化粧土塗布	
10 251	赤生土器 甕	口：17.6 高：9.8 最：20.8	焼：不良 色：赤褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出す/口端部下端は下方へ肥厚/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：口縁部～胴部上位化粧土塗布/頸部～胴部上位スス付着	
10 252	赤生土器 甕	口：16.0 高：9.7 最：18.6	焼：良好 色：黄白褐色	小砂粒 多量 軟質 1/5	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出し、下端を下方へつまみ出す/口端部は見かけ上直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部中位で張る	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ハケ・摩耗 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：全面的にスス付着/底部被熱	6
10 253	赤生土器 甕	口：16.6 高：19.7 最：17.0 底：4.0	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 軟質 4/5	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出し、下端を下方へつまみ出す/口端部は見かけ上直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：平底	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下位タテハケ・摩耗 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位～下位ヘラケズリ・摩耗/底部ナデ	1区J9/SD1/上層 外：胴部下位スス付着/底部被熱	6
10 254	赤生土器 甕	口：18.0 高：5.5	焼：良好 色：白褐色	小砂粒 多量 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出し、下端を下方へつまみ出す/口端部は見かけ上直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る	外：/口縁部～頸部強いヨコナデ/胴部上位ハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：頸部一部にスス付着	6
10 255	赤生土器 甕	口：16.9 高：7.6 最：20.2	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/不明瞭な3条の擬凹線/口端部下端は下方へ肥厚/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反 胴部：短倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ナデ/胴部上位ハケ・摩耗 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：口縁部被熱/胴部上位黒斑	

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
10 256	赤生土器 甕	口：18.6 高：17.0 最：21.0	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 軟質 1/6	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/不明瞭な5条の擬凹線/口端部下端は下方へ突出/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：短倒卵形/胴部中で張る	外：/頸部～胴部下位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部螺旋状へラケズリ	1区G9/SD1/上層	
10 257	赤生土器 甕	口：23.2 高：(36.0) 最：34.4 底：6.0	焼：良好 色：淡黄褐色	小砂粒 多量 軟質 1/2	口縁部：有段口縁/口端部はやや内傾気味に上方へ立ち上がる/4条の沈線/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る 底部：平底	外：/頸部～胴部上位摩擦/胴部上位～下位ハケ/底部摩擦 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：胴部中位～下位スス付着	6
11 258	赤生土器 甕	口：15.2 高：8.0 最：16.0	焼：良好 色：赤橙色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/3条の粗い波状擬凹線/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：屈曲して外反/器壁厚い 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部上位に三角形に刺突文が巡る	外：/頸部～胴部中位タテハケ後ヨコハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ/胴部へラケズリ	1区J9/SD1/上層 外：胴部赤彩	
11 259	赤生土器 甕	口：14.0 高：12.0 最：16.8	焼：不良 色：灰黄色	微砂粒 軟質 1/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/不明瞭な4条の擬凹線/口端部下端は下方へ突出/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反/器壁厚い 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ナデ/胴部上位～中位タテハケ・摩擦 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 口縁部～胴部下位被熱・スス付着 内：胴部上位スス付着	6
11 260	赤生土器 甕	口：12.6 高：6.0	焼：良好 色：淡赤褐色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや内傾して上方へ立ち上がる/8条の擬凹線/口端部下端は下方へ突出/シャープ/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲して外反	外：/頸部～胴部上位ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層	
11 261	赤生土器 甕	口：15.0 高：5.6	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/不明瞭な9条の擬凹線/口端部下端は器壁厚い/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲する	外：/胴部上位ナデ 内：口縁部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のへラケズリ	1区J9/SD1 外：スス付着	6
11 262	赤生土器 甕	口：14.6 高：4.6	焼：良好 色：淡灰茶色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/7条の擬凹線/口端部下端は下方へ突出/シャープ/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反	外：/頸部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：スス付着 内：口縁部一部スス付着	
11 263	赤生土器 甕	口：16.0 高：14.5 最：16.4	焼：良好 色：淡灰茶色	微砂粒 軟質 1/2	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾気味に上方へ立ち上がる/回転台を使用せず、5～6条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：短倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部～胴部下位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：胴部中位～下位スス付着	6
11 264	赤生土器 甕	口：18.4 高：12.4 最：18.4	焼：良好 色：淡茶白色	微砂粒 軟質 1/6	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/5条の擬凹線/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ナデ/胴部上位～中位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：口縁部～胴部下位スス付着	6
11 265	赤生土器 甕	口：19.8 高：10.3 最：23.2	焼：良好 色：淡黄褐色	微砂粒 赤色粒子 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/5～6条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ヨコナデ/胴部上位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：口縁部～胴部上位スス付着	
11 266	赤生土器 甕	口：19.2 高：9.5 最：20.9	焼：不良 色：橙褐色	微砂粒 軟質 1/3	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/不明瞭な6～7条の擬凹線/口端部下端は器壁厚い/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ヨコナデ/胴部タテハケ・摩擦 内：口縁部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のへラケズリ	1区J9/SD1/上層 外：胴部上位被熱・スス付着	6
11 267	赤生土器 甕	口：16.0 高：7.0 最：18.4	焼：不良 色：黄褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/4～5条の不明瞭な擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部～胴部中位摩擦 内：口縁部～頸部ナデ/胴部摩擦	1区I9/SD1/上層	6
11 268	赤生土器 甕	口：18.0 高：11.8 最：21.2	焼：良好 色：淡茶白色	微砂粒 多量 堅緻 1/3	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/不明瞭な2条の沈線/口唇部は丸く収める/平面は正円形 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ナデ/胴部上位タテハケ後ヨコハケ/胴部中位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：全面的にスス付着	7
11 269	赤生土器 甕	口：17.0 高：14.6 最：20.0	焼：不良 色：赤褐色	小砂粒 多量 軟質 1/6	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/6条の不明瞭な擬凹線/口唇部は丸く収め 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部中位で張る	外：/頸部～胴部中位ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部へラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：半身スス付着	
11 270	赤生土器 甕	口：(17.2) 高：22.3 最：19.0 底：3.0	焼：良好 色：灰褐色	白色粒子 石英 多量 軟質 3/4	口縁部：有段口縁/口端部はやや直立気味に上方へ立ち上がる/2条の擬凹線/口唇部欠損 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部上位に3～5条の凹線を2段施し、段の間に斜行文を充填	外：/頸部ナデ/胴部中位ハケ後ナデ/胴部下位～底部タテハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ミガキ/胴部へラケズリ	1区J9/SD1/上層 1区I9/SD1/中層 外：全体被熱スス付着 内：半身スス付着意図的に口縁部破損	7
11 271	赤生土器 甕	口：18.4 高：22.2 最：17.9 底：3.4	焼：良好 色：黄褐色	小砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/6条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：凹底	外：/頸部ナデ/胴部上位～下位タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向のへラケズリ/胴部中位～下位タテ方向のへラケズリ	1区J9/SD1/上層 外：口縁部～底部被熱・スス付着 内：胴部上位～底部スス付着	7
11 272	赤生土器 甕	口：17.8 高：24.4 最：19.6 底：3.3	焼：良好 色：淡茶白色	微砂粒 堅緻 4/5	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/10条の擬凹線/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる/シャープ 底部：平底	外：/頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ/胴部中位～下位タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部へラケズリ	1区G9/SD1/中層 外：胴部上位～底部スス付着/底部被熱	7
11 273	赤生土器 甕	口：33.0 高：14.8 最：31.4	焼：良好 色：褐灰色	小砂粒 多量 軟質 1/5	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して直立気味に立ち上がる/7条の擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：/頸部ナデ/胴部上位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向のへラケズリ	1区J9/SD1/上層 1区J9/SD1/中層 外：口縁部、胴部上位一部黒斑 内：胴部上位一部黒斑	

第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
12 274	赤生土器 壺	口：13.0 高：29.0 最：24.4 底：-	焼：良好 色：赤橙色	小砂粒 多量 軟質 2/3	口縁部：口端部は短く直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/4条の擬凹線 頸部：外反後外傾して立ち上がる 胴部：倒卵形/胴部中位で張る/胴部上位に幅2.3cm、厚さ1.3cmの半環状把手が片側に付く/把手幅中央に1条の沈線/胴部下位窄まる	外：/頸部ミガキ/胴部上位～下位タテハケ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位タテ方向のヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：口縁部～胴部下位スス附着/胴部中位被熱/胴部中位一部剥離	7
12 275	赤生土器 壺	口：8.5 高：16.0 最：12.0 底：4.8	焼：不良 色：灰黄褐色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/1	口縁部：口端部はやや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：短く直立する 胴部：胴部中位で張る/胴部上位に幅1.8cm、厚さ1.4cmの半環状把手が片側に付く/胴部上位～中位に5条の条線を4段施す 底部：平底	外：/口縁部～頸部強いナデ/胴部中位～底部タテハケ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位接合痕2段/胴部中位ヘラケズリ/胴部下位～底部ナデ	1区H9/SD4 外：タテ方向に黒斑	7
12 276	赤生土器 壺	口：15.0 高：7.5 底：-	焼：良好 色：白黄褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：口端部は頸部からやや屈曲して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/見かけ上は二重口縁に成形 頸部：ゆるやかに外反	外：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ	1区G9/SD1/中層	
12 277	赤生土器 壺	口：11.8 高：19.5 最：13.6 底：3.7	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部～頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：囊形/胴部中位で弱く張り出す/胴部下位窄まる 底部：平底	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部タテハケ/底部ハケ 内：口縁部～頸部ヨコハケ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～底部タテ方向のヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：口縁部～胴部下位スス附着/胴部下位一部剥離/全体歪む	7
12 278	赤生土器 壺	口：15.4 高：29.4 最：22.0 底：5.0	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 堅緻 3/4	口縁部～頸部：ゆるやかに外反気味に上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：胴部中位で張り出す 底部：平底	外：/口縁部～底部粗いハケ 内：口縁部ヨコハケ後ナデ/頸部コピナデ/胴部ヘラケズリ	1区I/SD1/上層 外：胴部中位スス附着/胴部下位被熱	
12 279	赤生土器 壺	口：27.4 高：12.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部：有段口縁/口端部上端を上方へつまみ出し、下端を下方へつまみ出す/口端部は外見上直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：外反して立ち上がる	外：/口縁部ヨコナデ/頸部は化粧土塗布後ナデ 内：口縁部～頸部ナデ	1区I9/SD1/上層 内：口縁部一部スス附着	7
12 280	赤生土器 壺	口：28.0 高：51.2 最：49.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 軟質 2/3	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部上端は上方へつまみ出す/口端部下端は下方へ肥厚して段をつくる/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反して上方へのびる 胴部：扁球形/胴部中位で大きく張る	外：口縁部ミガキ/頸部摩耗/胴部上位～下位ハケ後ミガキ 内：口縁部ミガキ/頸部ナデ・摩耗/胴部上位～下位ナデ	1区J9/包含層1区I9・10/包含層1区J9/SD11区I9/SD1 外：口縁部～頸部赤彩/胴部下位赤彩/胴部上位～中位黒斑	
13 281	赤生土器 壺	口：22.6 高：4.9	焼：良好 色：淡褐色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：口端部は内側への字に屈曲する/口唇部は丸く収める 頸部：ゆるやかに外反して立ち上がる	外：/口縁部～頸部貝殻条痕 内：口縁部～頸部ナデ	1区F9/表土1区G9/表土	
13 282	赤生土器 壺	口：16.0 高：8.5	焼：良好 色：淡橙褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：上方へ外傾した後、口端部が短く直立する/2条の浅い擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：ゆるやかに外反して上方へのびる/2条の斜め条線は記号・絵画か?	外：口縁部ヨコナデ/頸部ハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ	1区I9/SD1/下層 外：口端部一部スス附着	
13 283	赤生土器 壺	口：10.0 高：11.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：口端部はやや内湾して短く直立する/口唇部は丸く収める 頸部：直立して直線状に上方へのびる 胴部：倒卵形	外：口縁部ヨコナデ/頸部～胴部上位ミガキ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ/胴部上位ヘラケズリ	1区I/SD1	
13 284	赤生土器 壺	口：13.0 高：9.0 最：17.6	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 軟質 1/6	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/口端部下端の稜は明瞭/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 頸部：外反して上方へ立ち上がる 胴部：胴部上位で張る	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ミガキ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	1区I9/SD1/上層 外：口縁部一部スス附着 内：口縁部一部スス附着	7
13 285	赤生土器 壺	口：20.0 高：35.5 最：46.0	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 雲母 軟質 1/6	口縁部：直線状に斜め外方へ立ち上がる 胴部：扁球形/胴部中位で大きく張る	外：口縁部～胴部上位ナデ/胴部中位ヘラナデ・ミガキ/胴部下位ミガキ 内：口縁部ミガキ/胴部上位ナデ/胴部中位ヨコ方向のヘラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：口縁部～頸部スス附着/胴部中位一部剥離 内：口縁部スス附着/胴部下位一部剥離	
13 286	赤生土器 壺	口：15.0 高：44.3 最：45.4	焼：良好 色：黄褐色	微砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/2	口縁部：欠損頸部/直線状に直立して立ち上がる/胴部：扁球形/胴部中位で大きく張る	外：頸部ハケ後ナデ/肩部ハケ/胴部中位ヘラケズリ/胴部下位タテハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位螺旋状のヘラケズリ	1区H9/SD1/上層 外：口縁部～頸部スス附着 内：胴部上位スス附着	
14 287	須恵器 高台環	口：11.2 高：4.7 底：7.0	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/3	口縁部：直線状に外傾して立ち上がり、口唇部は丸く収める。 底部：平坦/高台端面は浅く凹み、端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後ナデ/中央ナデツケ 内：回転ナデ	8区F7/I・II層 外：降灰	7
14 288	須恵器 高台環	口：11.2 高：4.0 底：7.4	焼：良好 色：暗灰黑色	極砂粒 白色粒子 多量 堅緻 1/1	口縁部：直線状に外傾して立ち上がり、口唇部は丸く収める。 底部：平坦/高台端面は平坦で端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：回転ナデ	8区F8/II層 外：半身：降灰 内：降灰	7
14 289	須恵器 高台環	口：16.6 高：4.8 底：12.8	焼：良好 色：灰黑色	極砂粒 白色粒子 多量 精緻 1/4	口縁部：直線状に外傾して立ち上がり、口唇部はやや外反して丸く収める。 底部：平坦/高台端面は浅く凹み、端面内側で接地/シャープ	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後未調整 内：回転ナデ/中央ナデツケ	8区D7/I層8区F5・6/I層 外：降灰 内：漆被膜あり	7
14 290	須恵器 高台環蓋	口：14.8 高：2.8 天：7.6	焼：良好 色：青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/3	天井部：中央平坦/口縁部と天井部の稜線は明瞭/扁平擬宝珠ツマミ 口縁部：口端部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める/シャープ	外：天井部回転ヘラケズリ/口縁部回転ナデ 内：回転ナデ/回転台右回転	8区F7/I・II層 8区G8/I層 外：口端部に降灰	7

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出土地点	図版 番号
			色 調	残 存			備 考	
14 291	土師器 高坏	高：7.8 底：9.4	焼：良好 色：明橙色	微砂粒 軟質 2/3	受部：口縁部欠損 脚部：脚柱部は膨らみをもつ/脚裾部は屈曲して外方へ開く	外：受底部～脚部ナデ・摩耗 内：受底部ナデ・摩耗	8区F7/Ⅱ層8区 G7/Ⅱ層	7
14 292	土師器 鉢	口：10.6 高：9.0 底：8.0	焼：良好 色：淡灰茶色	小砂粒 軟質 1/2	口縁部：頸部から短く上方へ立ち上がり段をもつ/口唇部は丸く収める 頸部：ゆるやかに屈曲 体部：下膨れの扁球形 底部：丸底	外：口縁部～頸部ヨコナデ/体部ナデ/底部ヘラケズリ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/体部～底部ヘラケズリ	8区E4/Ⅰ層8区 F5/Ⅰ層	7
14 293	土師器 壺	口：7.8 高：11.0 底：2.0	焼：良好 色：明橙色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から直立気味に外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ/接合痕5段	8区F7/Ⅱ層8区 G7/Ⅱ層 内：体部下位～底部に付着物	7
14 294	手捏土器 鉢?	口：5.3 高：4.1 底：3.4	焼：良好 色：淡茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部：体部中位から斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：カップ形 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ユビナデ	8区F7/Ⅱ層8区 G7/Ⅱ層 外：全体スス付着全体的に歪む	7
14 295	手捏土器 鉢?	口：5.3 高：4.1 底：3.5	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 1/1	口縁部：体部中位から直線状に外傾して上方へのびる/口唇部はやや内傾する 体部：桶形/体部中位で括れる 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ナデ/シボリ痕	8区/Ⅲ/Ⅲ層	7
14 296	手捏土器 鉢?	口：5.3 高：4.1 最：3.6	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 1/1	口縁部：体部下位から緩やかに内湾して上方へのびる/口唇部はやや外反する 体部：体部下位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ナデ/接合痕	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8
14 297	土師器 小型壺	口：5.3 高：4.1 最：3.7	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 多量 軟質 5/6	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：中位で張り出す 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 内：底部に付着物	8
14 298	土師器 小型壺?	口：7.6 高：12.1 底：6.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 極多量 白色粒子 極多量 軟質 4/5	口縁部：直立して上方へのびる/口唇部は丸く収める/器壁厚い 体部：寸胴形/体部中位で張る/器壁厚い 底部：平底/器壁厚い	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部ハケ/体部上位ハケ/体部下位～底部ナデ/接合痕3段	8区/Ⅲ/Ⅲ層 外：半身黒斑全体大きく歪む	8
14 299	土師器 小型鉢?	口：9.0 高：9.7 底：7.6	焼：良好 色：淡灰褐色	微砂粒 多量 白色粒子 多量 4/5	口縁部：ゆるやかに内湾して体部中位から上方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：カップ形/器壁厚い 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部ナデ/体部下位～底部ユビナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 全体歪む	8
14 300	土師器 小型壺	口：6.8 高：7.8 最：8.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 若干量 軟質 1/3	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ/体部中位に接合痕2条	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8
14 301	土師器 小型壺	口：5.3 高：8.0 最：7.5	焼：良好 色：明褐色	微砂粒 堅緻 5/6	口縁部：頸部は外反し、口縁部中位で垂直に立ち上がる/口唇部は丸く収める/口縁部下端の稜は鈍い/シャープ 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～頸部ヨコナデ/肩部ミガキ/中位～底部ハケ後ナデ 内：口縁部ヨコナデ/体部ヘラケズリ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 体部下半：スス付着	8
14 302	土師器 小型壺	口：7.3 高：8.3 最：7.4	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 赤色粒子 軟質 2/3	口縁部：頸部からやや内湾して斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～肩部ナデ/体部中位～底部ハケ後ナデ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8
14 303	土師器 小型壺	口：6.5 高：6.8 最：7.2	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～肩部ナデ/体部中位～底部ハケ後ナデ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 内：底部に付着物	8
14 304	土師器 小型壺	口：7.0 高：6.4 最：8.2	焼：良好 色：橙色	極砂粒 堅緻 3/4	口縁部：頸部からやや内湾して斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/下位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～体部中位ナデ/体部下位～底部ハケ後ナデ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8
14 305	土師器 小型壺	口：7.3 高：8.0 最：7.8	焼：良好 色：橙色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～肩部ナデ・摩耗/体部中位～底部ハケ後ナデ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 全体やや歪む	8
14 306	土師器 小型壺	口：7.4 高：8.0 最：8.2	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 軟質 2/3	口縁部：頸部からやや内湾して斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部ナデ/肩部ハケ/体部中位～底部ナデ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 全体的にやや歪む	8
14 307	土師器 小型壺	口：9.0 高：7.5 最：7.3	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 軟質 1/1	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～肩部ナデ・摩耗/体部中位～底部ハケ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8
14 308	土師器 小型壺	口：7.4 高：7.1 最：8.1	焼：良好 色：橙色	極砂粒 白色粒子 若干量 軟質 4/5	口縁部：頸部からやや内湾して斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部ナデ/肩部ミガキ/体部中位ハケ/底部ヘラケズリ 内：口縁部～底部ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層 外：底部スス付着全体的に歪む	8
14 309	土師器 小型壺	高：5.5 最：8.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部：欠損 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：頸部～体部中位ハケ/底部ヘラケズリ 内：肩部ナデ/体部中位～底部指ナデ	8区/Ⅲ/Ⅲ層	8

第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
14 310	土師器 小型壺	高：7.3 最：8.9	焼：良好 色：こげ茶色	微砂粒 多量 白色粒子 軟質 3/4	口縁部：欠損 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：頸部～底部ハケ後ナデ 内：頸部ハケ/底部ナデ	8区/川/Ⅲ層	8
14 311	土師器 小型壺	口：7.0 高：9.4 最：8.3	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で張り出す 底部：丸底	外：口縁部～肩部ナデ/体部中位～ 底部ハケ 内：口縁部～底部ナデ	8区/川/Ⅲ層 全体的に摩耗	8
14 312	土師器 小型壺	口：9.1 高：11.0 最：13.8	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部：頸部から短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める。 体部：扁球形/中位で大きく張り出す 底部：丸底	外：口縁部～体部ナデ 内：口縁部～底部ナデ/頸部に接合 痕	8区/川/Ⅲ層 外：体部中位一部黒斑	8
14 313	土師器 高環	口：18.0 高：12.6 底：11.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 若干量 軟質 1/1	口縁部：直線状に斜め外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部は強く屈曲して短く外傾する/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部ナデ 内：口縁部～杯部ナデ/脚部ナデ	8区/川/Ⅲ層 外：口縁部一部黒斑 脚部歪む	8
14 314	土師器 高環	口：17.0 高：13.9 底：10.8	焼：良好 色：淡橙色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：やや外反して外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部は強く屈曲して短く開く/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部ナデ 内：口縁部～杯部ナデ/脚部ナデ 杯部ハケズリ/脚部ナデ	8区/川/Ⅲ層 全体やや歪む	8
14 315	土師器 高環	口：16.0 高：13.0 底：9.2	焼：良好 色：明橙色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：直線状に斜め外方へのびる/口唇部は薄くして丸く収める/受部との境は段をもつ/受底部は丸みを呈す 脚部：脚柱部は膨らみをもつ/脚裾部は屈曲して外方へ開く	外：口縁部～受底部ナデ・摩耗/脚 部ハケ後ナデ 内：口縁部～受底部ナデ・摩耗/脚 部ナデ・シボリ痕	8区/川/Ⅲ層 全体歪む	8
14 316	土師器 高環	口：14.8 高：13.2 底：11.4	焼：良好 色：赤橙色	微砂粒 堅緻 4/5	口縁部：直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は鈍い/器壁厚い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部は外反して開く/脚端面は丸く収める	外：口縁部ヨコナデ/脚部上 位ナデ/脚部ミガキ 内：口縁部摩耗/杯部ミガキ・摩耗/ 脚部ヨコ方向のヘラケズリ/脚部 ミガキ	8区/川/Ⅲ層 外：口縁部一部黒斑/ 口縁部～脚柱部化粧 土塗布後赤彩 ヘラケズリ	8
14 317	土師器 高環	口：16.6 高：13.8 底：10.4	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 1/1	口縁部：直線状に斜め外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部は強く屈曲して短く外傾する/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部ナデ・摩耗 内：口縁部ハケ/杯部ナデ/脚部ナデ・ 摩耗	8区/川/Ⅲ層 外：口縁部一部黒斑	8
14 318	土師器 高環	口：17.0 高：14.0 底：10.6	焼：良好 色：淡こげ茶 色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：ゆるやかに外反して斜めに開く/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の皿状/直線状に外方へのびる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/脚裾部は強く外方へ屈曲する/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部上位摩耗/脚部下 位ミガキ/脚部ナデ 内：口縁部下位ハケ/杯部ミガキ/脚 柱部ヘラケズリ/脚部ナデ	8区/川/Ⅲ層 全体大きく歪む	8
14 319	土師器 高環	口：16.0 高：6.5	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部：直線状に外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める 杯部：短く外反して開く/口縁部との境になる稜は鈍い/中央を棒状に厚くして脚部と接合	外：口縁部～杯部ナデ・摩耗 内：口縁部～杯部ナデ・摩耗	8区/川/Ⅲ層	9
14 320	土師器 高環	口：16.8 高：11.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部：直線状に外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める/器壁は厚い 杯部：外反して開く/口縁部との境になる稜は不明瞭/ 器壁非常に厚い 脚部：脚柱部はやや膨らみ下方へ開く	外：口縁部～脚部ナデ・摩耗 内：口縁部～杯部ナデ・摩耗/脚部 上位ナデ	8区/川/Ⅲ層 外：口縁部一部黒斑	9
14 321	土師器 高環	口：16.2 高：11.9 底：11.4	焼：良好 色：橙 色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部：直線状に斜め外方へ長くのびる/口唇部はやや外反して丸く収める 杯部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境になる稜は不明瞭/器壁厚い 脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へ開く/径0.9cmの円孔を1方向に配す/脚部は強く屈曲して短く開く/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部ナデ 内：口縁部～杯部ナデ/脚柱部ヘ ラケズリ/脚部ヘラナデ	8区G7/川/Ⅲ層 外：脚部一部黒斑 全体やや歪む	9
14 322	土師器 高環	口：12.8 高：16.5 底：16.0	焼：良好 色：明橙色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：外反して斜め外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める/器壁は厚い/平面は楕円形 杯部：浅身の皿状/やや内湾して外方へのびる/口縁部との境になる稜は鈍い/中央に径4.0cmの粘土板を充填して脚部と接合 脚部：ラップ状に開く/脚部は短く外反する/4方向に径1.4cmの円孔を配す/脚端面は丸く収める	外：口縁部～脚部ナデ・摩耗 内：口縁部～杯部摩耗/脚部上位シ ボリ痕/脚部ナデ	8区/川/Ⅲ層 全体大きく歪む	9
14 323	土師器 壺	口：24.6 高：8.4	焼：良好 色：白黄褐色	微砂粒 多量 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部：有段口縁/頸部は外反し、幅広い口端部はやや内湾気味に直立する/口唇部は平坦/口端部下端には鈍い突帯が巡る	外：口縁部～頸部ヨコナデ 内：口縁部ヨコハケ/頸部ハケ後ナ デ	8区/川/Ⅲ層	
15 324	土師器 甕	口：16.0 高：9.5 最：17.2	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 軟質 1/8	口縁部：有段口縁/幅広い口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口端部下端は下方へ肥厚/口唇部は外反して丸く収める/口端部に粗い縦凹線7条/シャープ/平面は楕円形 頸部：強く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で大きく張る	外：頸部ナデ/胴部上位ナメハケ 内：口縁部強いヨコナデ/頸部ハケ/ 胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/Ⅲ層 外：半身スス付着	9
15 325	土師器 甕	口：13.0 高：24.2 最：23.0	焼：良好 色：淡黄茶色	微砂粒 多量 白色粒子 多量 堅緻 1/4	口縁部～短く上方へ屈曲して立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：球形/胴部中位で張り出す 底部：丸底	外：/口縁部～頸部ナデ/胴部上位～ 下位タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位～ 中位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下 位～底部ナデ	8区/川/Ⅲ層 外：胴部上位～中位 一部黒斑	9

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
15 326	土師器 壺	口：17.0 高：6.7	焼：やや不良 色：橙褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10	口縁部：有段口縁/頸部から直線状に斜め外方に開いた後、短く直立気味に立ち上がる/口縁部は弱く外反して口唇部は平坦面をもつ	外：口縁部～頸部ミガキ 内：口縁部～頸部ナデ	8区/川/IV層 外：全体的に摩耗	9
15 327	赤生土器 高坏	高：19.4 底：15.0	焼：良好 色：淡黄茶褐色	極砂粒 堅緻 1/5	脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に外反して開く/脚台部上面縁に径0.7cmの円孔を4方向に配置/脚台部上・中・下位に3条の平行条線を施し、その間に渦状S字スタンプ文を施す/脚端部上下端をつまみ出す/脚端部下端は内面に段をもち接地/脚端面は浅く凹む/シャープ	外：脚柱部ハケ後ミガキ/脚台部摩耗 内：脚柱部ナデ/脚台部強いヨコナデ	8区/川/V-1層 外：脚柱部～脚裾部 赤彩痕内：脚柱部～脚台部黒色磨研	9
15 328	赤生土器 器台	高：15.6 底：19.4	焼：良好 色：淡黄褐色	微砂粒 堅緻 1/3	脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に外反して開く/脚柱部最下位に径1.0cmの円孔を配置・方向不明/脚台部上位に3条のヘラガキ条線を施す/右回りに渦状S字スタンプ文を施す/下位に9～10条のヘラガキ条線を施す/脚端部は丸く収める	外：脚部摩耗 内：脚柱部シボリ痕/脚台部上位ナデ/脚裾部ヨコナデ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層	9
15 329	赤生土器 高坏	口：29.4 高：17.0	焼：良好 色：白黄褐色	極砂粒 堅緻 1/5	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の皿状/直線状に外方にのびる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部は棒状	外：口縁部～杯部摩耗/脚柱部ミガキ 内：口縁部～杯部摩耗/脚柱部シボリ痕	8区/川/V-1層 8区/川/V層 8区/川/VI層	9
15 330	赤生土器 器台	口：27.6 高：8.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/3	口縁部：大きく外反して斜めに開く/12～13条の条線を施す/口端部下端は突出 受底部：深身/直線状に斜め外方へ開く/口縁部との稜は明瞭/シャープ 脚部：欠損	外：受底部ミガキ・摩耗 内：口縁部ミガキ/受底部摩耗	8区/川/V-1層 外：赤彩内：赤彩	9
15 331	赤生土器 高坏	口：18.0 高：9.0	焼：良好 色：赤橙色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：外反して上方へ開く/口唇部は丸く収める/口端部下端を肥厚/12～15条のヘラガキの擬凹線を施す/口端部下端に斜行刻目文を施す 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へのびる/口縁部との境に段をもつ/中央に径3.4cmの粘土板を充填して脚部と接合 脚部：脚柱部は棒状	外：杯部摩耗 内：口縁部～杯部ミガキ	8区F7/川/V-1層 8区F7/川/V-2層 外：口縁部一部スス付着/化粧土塗布後赤彩 内：口端部黒斑	9
15 332	赤生土器 裝飾器台	高：2.2 最：14.8	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒 堅緻 1/10以下	受部：欠損 垂下帯：幅1.5cm(推定2.5cm)/上端から下端へ内傾する/垂下帯下端欠損/4～5条の擬凹線	外：垂下帯上位ミガキ/垂下帯下位～受部ミガキ 内：受部ミガキ	8区/川/V-1層	
15 333	赤生土器 鉢	口：12.5 高：4.6 底：3.5	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 若干量 軟質 2/3	口縁部：短く直線状に立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める 体部：直線状に外方へのびる 底部：平底	外：口縁部ヨコナデ/体部ミガキ 内：口縁部ヨコナデ/体部ナデ	8区/川/V-1層	9
15 334	赤生土器 甕	口：15.0 高：5.8	焼：良好 色：淡茶褐色	小砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/7条の擬凹線を施す 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 口縁部～胴部上位スス付着	
15 335	赤生土器 甕	口：16.0 高：6.3	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 堅緻 1/10	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部に粗い擬凹線9～10条 頸部：短く屈曲して外反/シャープ 胴部：肩部張る	外：頸部ナデ/胴部上位タテハケ 内：口縁部強いヨコナデ/頸部ナデ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V層 外：全体にスス付着	9
15 336	赤生土器 甕	口：19.4 高：7.5 最：20.2	焼：良好 色：黒色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部上位で外傾する/11～12条の沈線/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ 内：口縁部～頸部強いヨコナデ/頸部ハケ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部～胴部上位スス付着	
15 337	赤生土器 甕	口：19.0 高：7.0	焼：良好 色：黒色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端はやや肥厚/シャープ/8～10条の擬凹線を施す 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ナメハケ 内：口縁部ヨコナデ・ユビ庄痕/頸部ハケ/胴部ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部スス付着	9
15 338	赤生土器 甕	口：13.6 高：12.5 最：15.0	焼：良好 色：黒色	小砂粒 若干量 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/3条の擬凹線 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位大きく張る	外：頸部ナデ/胴部上位タテハケ後ヨコハケ/胴部中位～胴部下位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下半ナメヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部～胴部下位スス付着	9
15 339	赤生土器 甕	口：18.8 高：11.8 最：21.6	焼：良好 色：黒色	極砂粒 堅緻 1/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/シャープ/5～6条の浅い擬凹線を施す 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部中位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部～胴部中位スス付着	9
15 340	赤生土器 甕	口：18.0 高：9.0 最：19.8	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒 堅緻 1/5	口縁部：有段口縁/幅広い口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚して突出/口端部に粗い9条の擬凹線 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ 内：口縁部～頸部強いヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部～胴部上位スス付着 内：口縁部～胴部上位変色	9
15 341	赤生土器 甕	口：14.0 高：8.6 最：20.8	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は弱く屈曲/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部中位で張る	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ユビ庄痕・ヨコ方向のヘラケズリ	8区F7/川/V-1層	
15 342	赤生土器 甕	口：35.6 高：18.5 最：38.4	焼：良好 色：淡白褐色	微砂粒 若干量 堅緻 1/8	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/口端部下端は肥厚して稜をもつ 頸部：短く屈曲して外反/シャープ 胴部：倒卵形/胴部上位が張り出す	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ナメハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層	



第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
16 343	赤生土器 高坏	口：28.0 高：6.7	焼：良好 色：暗赤色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/口唇部は丸く収める/シャープ 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へのびる/口縁部との境に段をもつ	外：口縁部ヨコナデ/杯部ミガキ 内：口縁部ヨコナデ/杯部摩耗	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：赤彩	
16 344	赤生土器 装脚器台	高：3.4 最：15.2	焼：良好 色：赤褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	垂下帯：幅3cm/上端から下端へ内傾する受部・脚部：欠損	外：垂下帯に9～10条の擬凹線	8区/川/V層	
16 345	赤生土器 壺	口：9.2 高：8.0 最：13.2	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部：頸部から直立気味に外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：フラスコ形/体部下位で張る/体部中位左右に半環状把手が横位に付いていた痕跡	外：口縁部～体部上位ミガキ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/体部上位～中位ハケ後ヘラケズリ	8区/川/V-1層	
16 346	赤生土器 壺	口：11.0 高：14.0 最：20.4	焼：良好 色：淡黄茶色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：内傾して弱く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：フラスコ形/体部下位で張る 底部～脚部：欠損	外：口縁部～底部ミガキ 内：口縁部～底部ナデ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 8区/川/V層 8区/川/V1層 外：体部下位一部黒斑全体垂む	10
16 347	赤生土器 壺	口：10.0 高：11.0 最：15.0	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 堅緻 3/4	口縁部：内傾して弱く外反する//口唇部は上方に直立して丸く収める 体部：フラスコ形/体部下位で張る/体部中位左右に半環状把手が縦位に付いていた痕跡 底部：丸底	外：口縁部1cm幅内に4条の平行条線/口縁部～底部ミガキ 内：口縁部～底部ナデ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 内：体部中位にスス付着	10
16 348	赤生土器 鉢	口：18.0 高：6.8	焼：良好 色：明赤茶色	微砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/10以下	口縁部：やや外反して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部に巻貝の押圧文 頸部：ゆるやかに屈曲して外反する 体部：扁平球形/体部中位で張る	外：頸部ミガキ/体部摩耗 内：口縁部～体部摩耗	8区/川/V-2層	
16 349	赤生土器 鉢	口：18.7 高：15.3 最：18.5	焼：良好 色：橙色	小砂粒 軟質 1/8	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く短く屈曲して外反 胴部：扁倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層	
16 350	赤生土器 鉢	口：9.2 高：7.4 底：2.0	焼：良好 色：淡橙色	小砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から短く外傾する/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 体部：扁球形/体部上位で張る/体部下位窄まる 底部：平底	外：口縁部～体部中位ナデ/体部下位ハケ 内：口縁部～底部ナデ	8区F7/川/V-1層 外：口縁部～底部化粧土塗布後赤彩全体垂む	10
16 351	赤生土器 鉢	口：11.0 高：5.3 底：3.0	焼：良好 色：淡白橙色	小砂粒 多量 堅緻 1/2	口縁部：緩やかに内湾しつつ外方へ開く/口唇部は丸く収める 体部：碗形 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ/底部シボリ痕 内：口縁部～底部ハケ後ナデ	8区/川/V層	
16 352	赤生土器 壺	口：11.4 高：6.0 最：14.2	焼：良好 色：黄茶色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部：内傾して窄まる体部上位から短く上方へ立ち上がる/口唇部は上方に直立して丸く収める 体部：扁球形/体部中位で張る	外：口唇部に斜行刻目文が巡る/口縁部～体部中位ミガキ 内：口縁部～体部中位ミガキ	8区/川/V層	10
16 353	赤生土器 壺	高：14.8 最：21.0 底：6.4	焼：良好 色：橙色	微砂粒 堅緻 1/5	口縁部：欠損 胴部：扁球形/胴部中位で張る/胴部下位窄まる/器壁は厚い 底部：平底/器壁は厚い	外：胴部上位～底部ミガキ 内：胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：胴部下位一部黒斑/胴部上位～下位化粧土塗布後赤彩 内：胴部上位～底部熱変色	
16 354	赤生土器 壺	高：14.3 最：24.2 底：4.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/3	胴部：扁球形/体部中位で大きく張る/体部下位窄まる 底部：平底	外：胴部中位～胴部下位ミガキ/底部ナデ 内：胴部中位ミガキ/胴部下位～底部ハケ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：胴部下位一部黒斑 内：胴部全体スス付着	10
16 355	赤生土器 壺	口：14.2 高：23.0 最：20.8	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 極多量 軟質 1/3	口縁部：有段口縁/口端部はゆるやかに外反して立ち上がる/口端部下端を下方に肥厚して段をつくる 頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる 胴部：囊形/胴部下位窄まる	外：口縁部～胴部中位ナデ/胴部下位タテハケ 内：口縁部ハケ後ナデ/頸部ハケ/胴部上位～下位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部～胴部下位化粧土塗布後赤彩	10
16 356	赤生土器 壺	口：17.0 高：17.3 最：24.0	焼：良好 色：淡黄褐色	微砂粒 堅緻 3/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部はやや外反して丸く収める/口端部下端は大きく肥厚して斜め下方へ張る/シャープ 頸部：屈曲して外反 胴部：扁倒卵形/胴部中位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位～中位タテハケ後ヨコハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：頸部～胴部下位スス付着 内：胴部上位～下位スス付着	10
16 357	赤生土器 壺	口：16.0 高：9.0	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 極多量 軟質 1/10以下	口縁部：口端部は平坦/斜行列点文を施す 頸部：ゆるやかに外反して立ち上がる 胴部：球形/胴部中位で張る	外：頸部上位ヘラガキの斜行刻目文/頸部中位タテハケ後ナデ/胴部上位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ後ヘラケズリ	8区/川/V-2層	
16 358	赤生土器 壺	口：16.4 高：5.9	焼：良好 色：淡茶灰色	微砂粒 多量 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部下端を斜め下方へ肥厚して内傾する口端面をつくる/2条の粗い凹線 頸部：屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位タテハケ後強いヨコナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部ヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：頸部スス付着	
16 359	赤生土器 甕	口：17.8 高：6.0 最：18.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/不明瞭な3条の擬凹線/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形	外：頸部ナデ/胴部上位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部スス付着	10

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
16 360	弥生土器 甕	口：16.0 高：9.5	焼：良好 色：黒色	小砂粒 多量 軟質 1/5	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部下端は肥厚/7条の擬凹線を施す/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ナデ/胴部上位～中位調整不明 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部スス付着	10
16 361	弥生土器 甕	口：17.0 高：6.3 最：15.0	焼：良好 色：淡黄褐色	小砂粒 多量 堅緻 1/8	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める。 頸部：短く屈曲して外反 胴部：胴部上位の張りは弱い	外：口端部に粗い擬凹線7～8条/頸部ナデ/胴部上位タテハケ 内：口縁部ヨコナデ/胴部上位粗いヘラケズリ	8区/川/V-2層 8区/川/V層 外：口縁部一部スス付着全体的に歪む	10
16 362	弥生土器 甕	口：13.0 高：5.3	焼：良好 色：淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/7条の擬凹線/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部～胴部上位ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：口縁部一部スス付着 内：口縁部～胴部上位部分的にスス付着	10
16 363	弥生土器 甕	口：16.6 高：5.4 最：18.0	焼：良好 色：橙褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部下端は肥厚/8条の粗い擬凹線/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部上位ヘラガキの斜行文を施す	外：頸部～胴部上位強いヨコナデ 内：口縁部～頸部強いヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部上位スス付着	
16 364	弥生土器 壺	口：15.0 高：15.5 最：20.4	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 多量 軟質 1/2	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/口端部下端が肥厚して段をつくる/5条の沈線/口唇部は丸く収める 頸部：屈曲して外反/器壁が厚い 胴部：扁球形/胴部中位で張る	外：/頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ハケ後ミガキ 内：口縁部強いヨコナデ/頸部ヨコハケ/胴部上位～下位ヘラケズリ	8区/川/V-1層 外：胴部上位一部黒斑/口縁部～胴部下位化粧土塗布後赤彩	10
17 365	土師器 器台	口：28.4 高：20.5 底：16.4	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 多量 軟質 3/4	口縁部：強く外反して外方に開く/口端部内側はわずかに肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 受底部：直線状に外方へ開く/口縁部との稜は明瞭 脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に開く/脚柱部最下位で径0.7cmの円孔を4方向に配す/脚台部上位に4条のヘラ描き条線を施し、その下に渦状S字スタンプ文を施す/脚端部内端を肥厚させ内面に段をもつ/脚端面は平坦で接地	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～受底部ミガキ/脚柱部シボリ痕/脚台部ハケ	8区/川/V-2層	10
17 366	弥生土器 高環	口：31.2 高：7.2	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/4	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める/平面は正円形 杯部：浅身の皿状/直線状に外方へのびる/口縁部との境になる稜は鈍い/シャープ	外：口縁部～杯部摩耗 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗	8区/川/V-2層	
17 367	弥生土器 高環	口：30.2 高：16.3	焼：良好 色：淡明茶色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める/平面は正円形 杯部：浅身の皿状/直線状に外方へのびる/口縁部との境になる稜は明瞭/シャープ/中央に粘土板を充填して脚部と接合 脚部：脚柱部は棒状	外：口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚柱部ミガキ 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚柱部ヘラナデ	8区/川/V-2層 外：口縁部スス付着/化粧土塗布後赤彩 内：口縁部スス付着全体やや歪む	10
17 368	弥生土器 高環	口：26.0 高：20.3 底：15.4	焼：良好 色：橙色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：やや外反して開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口端部外端を外方へつまみ出し丸く収める 杯部：浅身の皿状/直線状に外方へのびる/口縁部との境になる稜は鈍い/径4.0cmの粘土板を中央に充填して脚部と接合する 脚部：脚柱部は棒状/脚部は直線状にハの字に開く/径1.0cmの円孔を4方向に配す/脚端面は浅く凹面/脚端上端は上方へ突出/脚端部下位が肥厚して接地	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗/脚柱部上位～下位シボリ痕/脚部ハケ	8区/川/V-2層 8区/川/VI層 外：赤彩	10
17 369	弥生土器 高環	口：30.0 高：9.0	焼：良好 色：淡茶灰色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/不明瞭な8条の条線を施す/口唇部は丸く収める/シャープ 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へのびる/口縁部との境は屈曲して段をもつ	外：杯部ミガキ・摩耗 内：口縁部～杯部ミガキ・摩耗	8区/川/V-2層 8区/川/V層 8区/川/VI層	10
17 370	弥生土器 高環	口：26.0 高：7.3	焼：良好 色：淡橙色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：直線状に短く斜め外方へ開く/口唇部は外反して丸く収める/シャープ/口端部下端は肥厚して突出/2条の擬凹線 頸部：強く外反して開く 杯部：浅い鉢形/内湾して丸みをもち上方へ立ち上がる	外：頸部ヨコナデ/杯部ミガキ 内：口縁部ヨコナデ/杯部ミガキ	8区/川/V-2層	10
17 371	弥生土器 器台	口：30.0 高：19.7	焼：良好 色：白褐色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：直線状に斜め外方へ開く/口端部下端は肥厚して突出/シャープ/19条の擬凹線/口唇部は丸く収める 受底部：直線状に外方へ開く/口縁部との稜は明瞭	外：脚部～脚部ミガキ 内：口縁部～受底部ミガキ/脚柱部上位ヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：化粧土塗布後赤彩 内：化粧土塗布後赤彩	11
17 372	弥生土器 器台	高：12.8 底：21.0	焼：良好 色：淡橙色	極砂粒 堅緻 1/4	脚部：脚柱部は棒状/脚台部はハの字に外反して開く/脚柱部最下位に径1.0cmの円孔を4方向に配置/脚台部16条のヘラガキ条線/脚端部は丸く収める/シャープ/平面は楕円形	外：脚柱部ミガキ 内：脚柱部上位ヘラナデ/脚柱部中位擦痕/脚柱部下位ナデ/脚台部ミガキ	8区/川/V-2層 外：脚端部一部スス付着/脚部赤彩 内：脚端部スス付着	11
17 373	弥生土器 器台	高：13.0 底：15.7	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 若干量 堅緻 1/3	脚部：脚柱部は筒状/脚柱部上位において3方向に径1.0cmの円孔を配す/脚柱部下位において径1.0cmの円孔を3方向に配す/脚部は外反してハの字に開く/脚端部は屈曲して脚端面をつくる/3条のヘラガキ条線/シャープ	外：脚部ミガキ 内：脚柱部上位ミガキ/脚柱部中位～脚柱部ヘラケズリ/脚端部ヨコナデ	8区/川/V-2層	11
17 374	土師器 蓋	高：4.1 高：3.7 裾：12.8	焼：良好 色：黒色	微砂粒 軟質 1/2	幅み部：短く外方へ立ち上がる/幅み部端面は平坦/中央は凹む 裾部：伏皿形/直線状にハの字に開く/裾端部は丸く収める	外：幅み部中央ナデ/裾部ハケ 内：裾部ハケ	8区/川/V-2層 8区/川/VI層 外：半身スス付着 内：裾部スス付着歪む	11
17 375	土師器 蓋	高：3.2 高：5.6 底：14.6	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 多量 軟質 1/2	幅み部：短く外反して立ち上がる/中央は浅く凹む/幅み部端面は平坦 体部：伏皿形/やや内反気味にハの字に開く 裾部：裾端部は丸く収める	外：幅み部～体部ハケ後弱いミガキ・摩耗 内：体部ナデ	8区/川/V-2層	11

第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状・文 様	調 整	出 土 地 点	図 版 番 号
			色 調	残 存			備 考	
17 376	土師器 蓋	摘：3.5 高：6.0 裾：16.3	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	摘み部：短く外方へ立ち上がる/摘み部端面は平坦/中央は凹む 裾部：伏皿形/直線状にハの字に開く/裾端部は丸く収める	外：摘み部ミガキ/裾部ハケ 内：裾部ハケ	8区/川/V-2層 外：裾部下位スス附着 内：裾部上位～下位スス附着	11
17 377	小型土器 鉢	口：8.4 高：4.6 底：3.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部：碗形/底部の器壁は厚い 底部：短くハの字に開く/	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～底部ミガキ/脚部ミガキ	8区/川/V-2層 外：スス附着 内：スス附着	
17 378	土師器 小型鉢	口：6.8 高：5.9 底：1.7	焼：良好 色：黒色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：頸部から短く外反する/口端部部は平坦で外方へ向ける 体部：扁球形/肩部で張る 底部：先端凹底	外：口縁部～肩部ハケ後ミガキ/体部中位～底部摩耗 内：口縁部～肩部ナデ/体部中位～底部ユビナデ	8区/川/V-2層 外：黒色処理	11
17 379	小型土器 鉢	口：5.2 高：5.3 最：6.0	焼：良好 色：白黄褐色	極砂粒 堅緻 1/3	口縁部：体部下位から緩やかに内湾して上方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：半球形 底部：丸底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ナデ	8区/川/V-2層 外：体部下位～底部黒斑	
17 380	小型土器 鉢	口：5.8 高：7.0 最：5.5 底：2.2	焼：良好 色：茶褐色	極砂粒 堅緻 4/5	口縁部：直線状に短く外方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：肩部で張る 底部：平底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部粗いヨコナデ	8区/川/V-2層 外：胴部下位焼成前に一部欠損/黒斑全体的に歪む	11
17 381	小型土器 鉢	口：6.7 高：4.0 底：1.6	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 2/3	口縁部：体部中位から直線状に斜め上方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：体部中位で鈍い段をもつ 底部：丸底	外：口縁部～底部ミガキ 内：口縁部～底部ヘラケズリ	8区/川/V-2層 内：底部に黒斑	
17 382	小型土器 鉢	口：4.8 高：5.7 底：1.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 堅緻 1/2	口縁部：体部下位から直線状に上方へのびる/口唇部はやや外反する 体部：ガラス形/体部下位で張る 底部：尖底	外：口縁部～底部ナデ・手捏ね成形 内：口縁部～底部ナデ	8区/川/V-2層 外：体部下位に黒斑 製塩土器を模倣?	
17 383	小型土器 壺	口：7.8 高：9.9 最：8.2 底：0.6	焼：良好 色：黒色	微砂粒 堅緻 1/1	口縁部：頸部から直線状に斜め外方へのびる/口唇部は丸く収める 体部：倒卵形/上位で張る 底部：尖底	外：口縁部ナデ/胴部上位ハケ/胴部中位～底部ミガキ? 内：口縁部～胴部上位ナデ/体部中位～底部ヘラケズリ	8区/川/V層 8区/川/V-2層 外：全体黒色処理	11
17 384	赤生土器 壺	口：7.6 高：15.2 最：13.0	焼：良好 色：灰褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部：やや内傾して窄まる/口唇部は外側に小さい段をもつ 体部：フラスコ形/体部下位で強く張る 底部：体部下位で屈曲し脚柱部で窄まる 脚部：脚部は棒状	外：口縁部～脚部化粧土塗布後ミガキ 内：口縁部ナデ/体部中位ヨコ方向のヘラケズリ/体部下位～底部ナデ/脚部シボリ・ナデ	8区/川/V-2層 外：体部中位部分的にスス附着	11
17 385	赤生土器 壺	口：13.2 高：6.7 最：14.3	焼：良好 淡茶褐色	微砂粒 堅緻 1/6	口縁部：内傾して窄まる体部上位から短く上方へ外反する/口唇部は丸く収める/2条のヘラガキ条線 体部：扁球形/体部下位で張る	外：口縁部～体部ナデ 内：口縁部～体部ナデ	8区/川/V-2層	11
17 386	赤生土器 壺	口：14.4 高：11.1 最：17.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 堅緻 1/6	口縁部：内傾して直線状にのびて窄まる/口唇部は丸く収める 体部：深身/体部下位で張る/体部下位で屈曲して内湾/シャープ	外：口縁部～体部ミガキ 内：口縁部ヨコナデ/体部中位～下位ミガキ	8区/川/V-2層 外：体部下位に黒斑	
17 387	赤生土器 鉢	口：17.4 高：8.8 底：1.2	焼：良好 色：淡茶色	微砂粒 多量 堅緻 4/5	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：短く屈曲して外反 体部：半球形/体部上位で張る 底部：丸底	外：/口縁部～頸部ハケ後ミガキ/体部～底部ミガキ 内：口縁部～頸部ハケ後強いヨコナデ/体部～底部ヘラケズリ	8区/川/V-2層	11
17 388	赤生土器 壺	口：17.0 高：10.5 最：15.6 底：4.0	焼：良好 色：暗赤色	極砂粒 若干量 堅緻 3/4	口縁部：有段口縁/口端部は外反して斜め上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 体部：扁球形/体部中位で大きく張る 底部：丸底	外：口縁部～体部上位ミガキ・摩耗/体部下位摩耗 内：口縁部～頸部ミガキ/体部～底部ヘラケズリ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 8区/川/V1層 外：口縁部～体部中位赤彩 内：口縁部赤彩	11
18 389	赤生土器 壺	口：10.8 高：3.2	焼：良好 色：暗赤色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部下位を肥厚させて突出/7条の擬凹線/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反/頸部上位に径0.2cmの紐通し孔の円孔2つ	外：/頸部ナデ 内：口縁部～頸部ミガキ	8区/川/V-2層	
18 390	赤生土器 甕	口：11.8 高：3.5	焼：良好 色：淡茶色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外反して上方へ立ち上がる/7条の擬凹線/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反	外：/頸部ヨコナデ 内：口縁部～頸部ミガキ	8区/川/V-2層 外：口縁部～頸部スス附着	
18 391	赤生土器 甕	口：10.0 高：11.3 底：1.2	焼：良好 色：淡橙色	小砂粒 若干量 軟質 1/2	口縁部：短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/鈍い仕上げ 体部：扁倒卵形/体部上位で部で張る/体部下位窄まる 底部：平底	外：口縁部～頸部ヨコナデ/体部上位～下位ハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/体部螺旋状ヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～底部スス附着	
18 392	赤生土器 甕	口：19.0 高：5.0	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/明瞭な4条の条線/口端部下位の稜は鈍い 頸部：鋭く屈曲して外反	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：頸部一部スス附着	11
18 393	赤生土器 甕	口：18.6 高：4.3	焼：良好 色：黄褐色	微砂粒 堅緻 1/8	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は斜め下方へ肥厚/口端部上下に2条の条線/条線に間に6条の波状擬凹線/口端部下端の稜は鈍い 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ	8区/川/V-2層	

第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
18 394	赤生土器 甕	口：18.6 高：8.4 最：21.1	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 堅緻 1/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/6条の擬凹線を施す/シャープ 頸部：鋭く短く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位粗いナメハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部上位スス付着	11
18 395	赤生土器 甕	口：20.0 高：18.0 最：21.4	焼：良好 色：橙色	小砂粒 多量 1/4	口縁部：有段口縁/口端部は直立して上方へ立ち上がる/口端部下端は下方へ突出/不明瞭な5条の擬凹線/口唇部は丸く収める/シャープ 頸部：ゆるやかに外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部上位に斜行刻目文を施す	外：頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部下位タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部下位スス付着 内：胴部中位～下位スス付着全体大きく歪む	11
18 396	赤生土器 甕	口：15.4 高：21.1 最：18.0 底：6.0	焼：良好 色：淡茶褐色	極砂粒 多量 1/2	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚して段をつくる/シャープ/平面は楕円形/5条の擬凹線 頸部：鋭く短く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：平底/器壁は厚い	外：頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ナメハケ/胴部下位タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位ナメヘラケズリ/胴部中位～下位タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～底部全面スス付着 内：胴部下位～底部スス付着	12
18 397	赤生土器 甕	口：17.4 高：6.3	焼：良好 色：暗茶黒色	小砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚して突出/シャープ/口端部に明瞭な15条の細凹線 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ内 口縁部～頸部ハケ後ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部上位スス付着	
18 398	赤生土器 甕	口：17.2 高：4.8	焼：良好 色：暗茶色	小砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端突出/14条の擬凹線/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ハケ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～頸部スス付着	
18 399	赤生土器 甕	口：17.2 高：8.3 最：18.4	焼：良好 色：黄褐色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚/不明瞭な5～6条の擬凹線/口端部下端の稜は鈍い 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ後ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～頸部スス付着	12
18 400	赤生土器 甕	口：20.4 高：29.0 最：24.1 底：3.5	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：有段口縁/口端部下端を下方へつまみ出す/口端部は見かけ上直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：平底	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ハケ後ナデ/胴部中位～胴部下位ハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ナデ/胴部上位ナメヘラケズリ/胴部中位～下位タテ方向のヘラケズリ/底部ナデ	8区/川/V-2層 外：胴部中位～胴部下位スス付着	12
18 401	赤生土器 甕	口：24.4 高：36.2 底：9.0	焼：良好 色：淡橙褐色	微砂粒 軟質 4/5	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して上方へ立ち上がる/粗い5～6条の沈線/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：平底	外：頸部ヨコナデ/胴部上位タテハケ後ナデ/胴部中位ナメハケ/胴部下位タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～下位タテ方向のヘラケズリ/底部ナデ	8区/川/V-2層 全体やや歪む	12
18 402	赤生土器 甕	口：15.4 高：11.0 最：19.7	焼：良好 色：淡茶色	微砂粒 多量 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚して稜をもつ 頸部：鋭く屈曲して外反/シャープ 胴部：倒卵形/胴部上位で張る	外：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～中位タテハケ後ヨコハケ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ/胴部上位～中位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：胴部中位一部黒斑	
18 403	赤生土器 鉢	口：16.0 高：10.0 最：16.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 若干量 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端は肥厚して稜をなす/稜は鈍い 頸部：屈曲して外反 胴部：扁倒卵形/胴部上位で張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位～中位ハケ後ナデ 内：口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部中位スス付着	12
18 404	赤生土器 壺	口：14.8 高：8.0	焼：良好 色：淡白褐色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部～直線状に外傾して立ち上がる/口端部上端を上方へつまみ出し、口端面をつくる/口縁部中位に斜行刻目文8条 頸部：くの字に屈曲して開く	外：口縁部～頸部ヨコナデ後タテハケ 内：口縁部～頸部ヨコナデ後ハケ	8区/川/V-2層	
18 405	赤生土器 壺	口：12.4 高：7.2	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部～頸部：ゆるやかに外傾して上方へ立ち上がる/口端部外端がやや肥厚して端面をつくる/シャープ	外：口縁部～胴部強いタテハケ後強いヨコナデ 内：口縁部強いヨコナデ/頸部ナデ	8区/川/V-2層	12
18 406	赤生土器 壺	口：8.6 高：15.7 最：16.0	焼：良好 色：淡褐色	微砂粒 若干量 堅緻 1/2	口縁部～頸部：直線状に外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 胴部：フラスコ形/胴部下位で強く張る/胴部下位窄まる	外：口縁部～頸部強いヨコナデ/胴部上位～下位ハケ後ナデ 内：口縁部ヨコナデ/頸部～胴部上位ユビナデ/胴部中位～下位ナデ	8区/川/V-2層	12
18 407	赤生土器 壺	口：12.0 高：14.8 最：15.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 多量 軟質 1/4	口縁部～頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部に1条の浅い凹線 胴部：囊形/胴部中位で弱く張り出す/胴部下位窄まる	外：口縁部～胴部ミガキ 内：口縁部～頸部ヨコナデ後ミガキ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～底部タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層	
19 408	赤生土器 壺	口：32.0 高：56.5 最：47.0 底：11.0	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 若干量 軟質 4/5	口縁部：有段口縁/口端部は直立して立ち上がる/口唇部は丸く収める/6～7条の凹線/平面は楕円形 頸部：屈曲して外反し斜め上方へ立ち上がる 胴部：扁倒卵形/胴部上位で張る/胴部下位窄まる 底部：平底/器壁は厚い	外：頸部上位～中位タテハケ/頸部下位ナデ/胴部上位～中位ナメハケ・摩耗/胴部下位～底部ヘラケズリ後ミガキ 内：口縁部ナデ/頸部中位ヨコハケ後ナデ/頸部下位敲打/胴部上位～中位ナデ/胴部下位～底部ナデ後摩耗	8区/川/V-2層	
19 409	赤生土器 壺	高：33.0 最：24.2 底：6.4	焼：良好 色：灰褐色	小砂粒 堅緻 2/3	口縁部：欠損 頸部：ゆるやかに外反して上方へ立ち上がる 胴部：囊形/胴部中位で弱く張る/胴部下位窄まる 底部：平底	外：頸部強いヨコナデ/胴部上位～中位タテハケ/胴部下位ハケ後ナデ/底部ナデ 内：頸部～胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～底部タテ方向のヘラケズリ	8区/川/V-2層 外：頸部～底部スス付着・被熱/胴部上位焼成前から一部剥離 内：胴部下位被熱	12

第4節 第IV区域1・8区出土土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
19 410	赤生土器 壺	口：11.8 高：26.0 最：21.3	焼：良好 色：橙褐色	小砂粒 石英 軟質 3/4	口縁部：有段口縁/口端部は外傾して立ち上がる/口端部は浅く凹む 頸部：ゆるやかに外反して開く/6条の条線 胴部：橢形/胴部中位で張る/3条のヘラガキ条線/胴部下位窄まる	外：口縁部～胴部中位タテハケ/胴部下位ミガキ 内：口縁部～胴部上位ヨコハケ/胴部中位タテハケ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部中位黒斑・スス付着	12
19 411	赤生土器 壺	口：14.8 高：8.52 最：3.0	焼：良好 色：明茶色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：やや外反して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：外反して立ち上がる 胴部：球形/胴部中位で張る	外：口縁部～胴部上位条痕 内：口縁部摩耗/胴部上位条痕	8区/川/V-2層 外：胴部上位一部スス付着	
19 412	赤生土器 壺	口：7.0 高：6.0	焼：良好 色：橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部：頸部から緩やかに外反して立ち上がり口端部下位が肥厚/口端部上端を口唇部として丸く収める/口端部に2条の平行条線 頸部：4段の間隔が狭い波状文・4条の間隔が広い波状文	外：口縁部ハケ 内：口縁部ハケ後ナデ	8区/川/V-2層	12
19 413	赤生土器 甕	口：20.0 高：7.5 最：17.0	焼：良好 色：淡褐色	小砂粒 若干量 堅緻 1/10以下	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反し、口端面は平坦/押圧刻目文 胴部：倒卵形/胴部上位でやや張る/胴部下位窄まる	外：口縁部～胴部上位は条痕 内：口縁部～頸部ハケ/胴部上位ナデ	8区/川/V-1層 8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部上位黒斑	12
19 414	赤生土器 甕	口：17.9 高：8.7 最：15.3	焼：良好 色：黒色	小砂粒 若干量 軟質 1/8	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反する/口端部上端を上方へつまみ出し口端面をつくる/口端面は平坦/斜行刻目文 胴部：倒卵形/胴部上位でやや張る	外：口縁部～頸部ハケ/胴部上位13条の幅広いヨコハケ 内：口縁部～胴部上位ハケ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部上位スス付着	12
19 415	赤生土器 甕	口：13.2 高：8.0 最：12.4	焼：良好 色：黒色	微砂粒 若干量 堅緻 1/2	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反する/口端部は押圧文で波状になる/口端部は平坦 胴部：中位でやや張り出す	外：口縁部～頸部タテハケ/胴部上位～中位タテハケ後ヨコハケ 内：口縁部～頸部ハケ/胴部上位～中位タテ方向のユビナデ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部スス付着 内：口縁部～胴部スス付着	12
19 416	赤生土器 甕	口：12.6 高：10.0 最：11.0	焼：不良 色：暗褐色	微砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/6	口縁部：くの字口縁/口端部はやや外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める 頸部：やや外反 体部：寸胴形	外：口縁部～体部貝殻条痕・摩耗 内：口縁部～体部貝殻条痕	8区/川/V-2層	
19 417	赤生土器 甕	口：14.4 高：14.5 底：5.8	焼：良好 色：暗茶黄色	微砂粒 堅緻 2/3	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反し、口端面に斜行刻目文が巡る/頸部直下にヘラガキで8条の凹線 胴部：頸部～胴部上位は直立して立ち上がる/胴部下位窄まる 底部：平底/器壁厚い	外：口縁部～胴部中位タテハケ/胴部下位ナナメハケ・タテハケ/底部ナデ 内：口縁部～頸部ヨコハケ/胴部上位～底部ユビナデ	8区/川/V-2層 外：口縁部～胴部下位スス付着	12
19 418	赤生土器 鉢	口：19.4 高：15.0 底：6.3	焼：良好 色：明茶色	極砂粒 堅緻 3/4	口縁部～体部はゆるやかに内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は平坦/平面は楕円形 体部：カップ形/体部下位窄まる/シャープ 底部：平底/平面は楕円形	外：口縁部～体部中位粗いハケ/体部下位タテ方向のヘラケズリ/底部ナデ 内：口縁部～底部は外面と異なる粗いハケ	8区F7/川/V-2層 外：体部下位～底部スス付着 内：体部中位～下位一部黒斑・スス付着	
20 419	小型土器 鉢	口：6.0 高：4.8 底：5.0	焼：良好 色：橙色	極砂粒 雲母 軟質 2/3	口縁部：短く直線状に外方へ開く 脚部：脚柱部は短い/脚裾部は厚手で短くハの字に開く/裾端部は丸く収める	外：受部～脚部ナデ・手捏ね成形 内：受部弱いミガキ/脚裾部シボリ痕	8区/川/V層 8区/川/VI層 白のミニチュア土器?	
20 420	小型土器 鉢	口：7.2 高：5.2 底：5.6	焼：良好 色：淡こげ茶色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部：浅く内湾して立ち上がる 脚部：脚柱部は短い/脚裾部は稜をもちハの字に開く/裾端部は丸く収める	外：受部口縁部ナデ/脚柱部ミガキ/脚裾部ナデ 内：受部口縁部ナデ/脚部ナデ	8区/川/VI層 全体的に歪む	12
20 421	小型土器 鉢	口：9.2 高：6.5 底：5.4	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 多量 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部：体部中位から内湾して斜め上方にのびる/口唇部は丸く収める 体部：深身の碗形 脚部：短くハの字に開く	外：口縁部～体部中位ナデ/体部下位ミガキ 内：口縁部～底部ヘラケズリ/底部ミガキ	8区/川/V層 8区/川/VI層	13
20 422	小型土器 高坏	高：2.5 底：8.0	焼：良好 色：白褐色	微砂粒 軟質 1/5	受部：欠損 脚部：脚裾部のみ残存/脚柱部～脚裾部の間には有段/厚手でハの字に開く/裾端部は丸く収める	外：脚柱部ヨコナデ 内：脚裾部ヨコナデ	8区/川/V層 8区/川/VI層	13
20 423	赤生土器 高坏	高：10.3 底：15.0	焼：良好 色：灰褐色	極砂粒 堅緻 1/4	杯部：直線状に斜め外方へのびる 脚部：ハの字に開く/脚端面は平坦/脚裾部下位で接地/器壁厚い	外：杯部～脚部ハケ後ミガキ/脚端面ヨコナデ 内：杯部ミガキ/脚部ヨコハケ	8区/川/V-2層 8区/川/V層 8区/川/VI層 外：杯部スス付着	13
20 424	赤生土器 高坏	口：30.0 高：23.3 底：18.6	焼：良好 色：灰褐色	極砂粒 堅緻 2/3	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 杯部：浅身の皿状/直線状に外方にのびる/口縁部との境になる稜は鈍い 脚部：脚柱部は棒状/脚裾部はハの字に開く/径1.0cmの円孔を4方向に配す/脚端面は平坦/脚端部下位が肥厚して接地	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～杯部ミガキ/脚柱部上位～下位シボリ痕/脚裾部ハケ後ミガキ	8区/川/V-2層 8区/川/V層 8区/川/VI層 外：脚裾部一部黒斑	13
20 425	赤生土器 細頸壺	口：6.8 高：19.0 最：21.2 底：	焼：良好 色：灰茶色	小砂粒 多量 石英 軟質 1/2	口縁部：頸部から緩やかに外反して立ち上がる/口唇部に刺突文を施す/口端部～頸部においてタテ方向にヘラガキで右上がりの綾彩文・右下がりの綾彩文・6条の縦列平行条線 頸部：14条の条線 胴部：フラスコ形/上位にヘラガキで鍵状に屈折する2条の縦列条線を施した後、その上に波状文を施す/7条の条線の下に、前述の文様を再び施し、その下に9条の条線/平面は楕円形	外：口縁部文様で充填 内：口縁部ハケ後ナデ/頸部～胴部上位シボリ・ユビ圧痕/胴部中位ナデ	8区/川/V-2層 外：胴部上位一部黒斑	13
20 426	赤生土器 甕	口：24.2 高：8.1 最：22.0	焼：良好 色：淡茶褐色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：くの字口縁/口縁部は短く外反し、口端部に押圧貝殻条痕が巡る/口唇部は丸く収める 胴部：上位でやや張る	外：口縁部～胴部上位は貝殻条痕調整口縁部と胴部上位に貝殻刺突が巡る 内：口縁部貝殻条痕調整/胴部上位は横方向の植物質の条痕調整	8区/川/VI層	

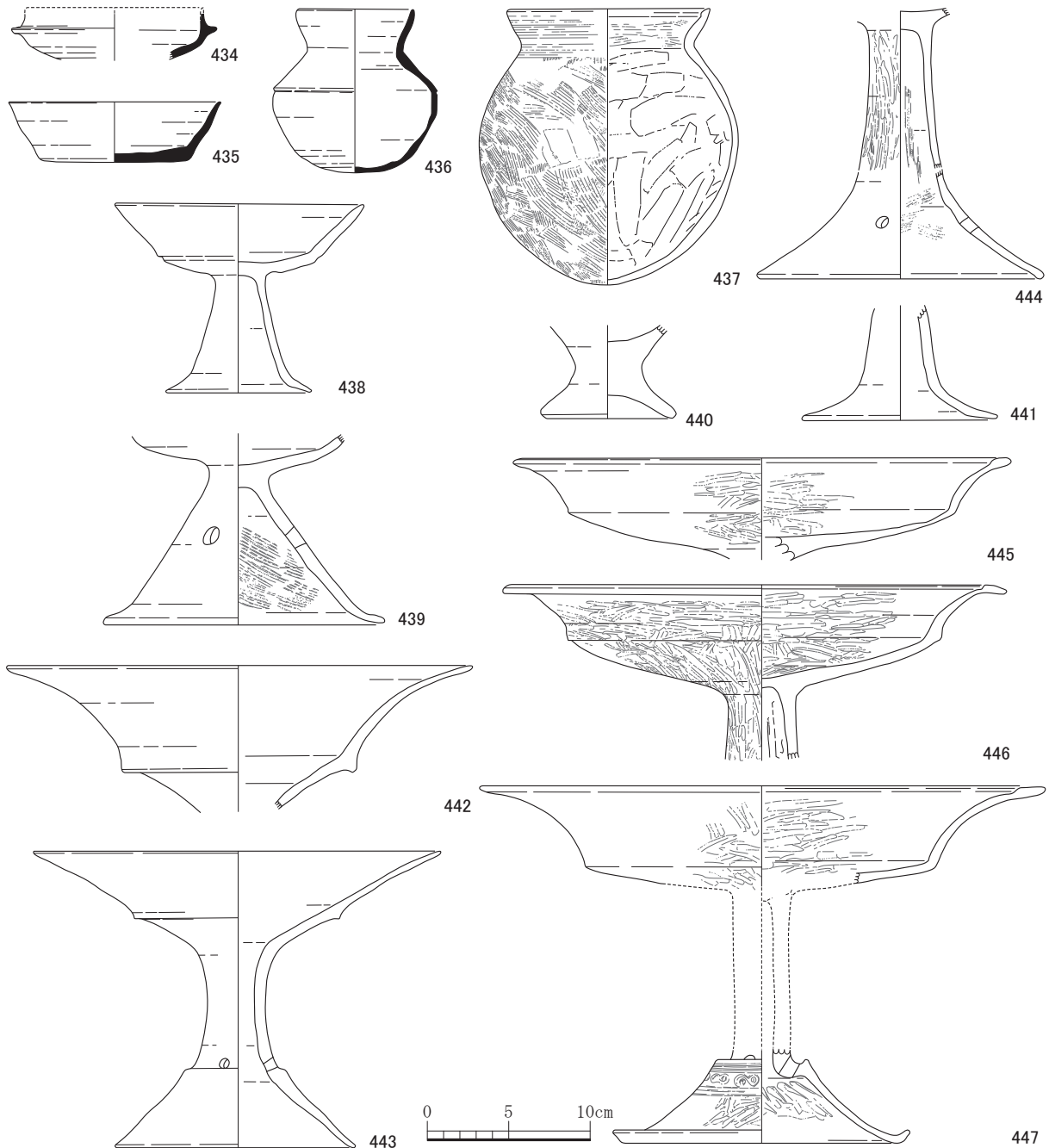
第1章 弥生時代・古墳時代・古代・中世の土器

( )は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器 種	法 量	焼 成	胎 土	形 状 ・ 文 様	調 整	出土地点	図版 番号
			色 調	残 存			備 考	
20 427	赤生土器 甕	口：17.0 高：5.3	焼：良好 色：白褐色	小砂粒 多量 赤色粒子 軟質 1/10以下	口縁部：有段口縁/口端部はやや外傾して短く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部に擬凹線5条 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：肩部張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位ヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ/頸部ナデ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/VII層 内：口縁部赤彩	
20 428	赤生土器 甕	口：19.0 高：7.0 最：20.0	焼：良好 色：黒色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部：有段口縁/幅広い口端部は直立して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部に擬凹線9条/シャープ 頸部：鋭く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部ヨコナデ/胴部上位粗いナメハケ 内：口縁部強いヨコナデ/頸部粗いカキメ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V層 8区/川/VI層 外：全体的にスス付着 内：吹きこぼれスス付着	
20 429	赤生土器 台付甕	口：20.6 高：9.0 最：23.6	焼：良好 色：白黄褐色	微砂粒 堅緻 1/4	口縁部：有段口縁/幅広い口端部は外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は外反して丸く収める/口端部に粗い擬凹線10条/シャープ 頸部：非常に短く屈曲して外反 胴部：胴部上位大きく張る	外：頸部ナデ/胴部上位粗いタテハケ 内：口縁部ヨコナデ・ユビ圧痕(右手中ユビ)/頸部粗いカキメ/胴部上位ヘラケズリ	8区/川/V-2層 8区/川/V層 8区/川/VI層 内：口縁部スス付着	13
20 430	赤生土器 台付甕	口：18.0 高：17.6 最：19.0	焼：良好 色：橙色	微砂粒 堅緻 4/5	口縁部：有段口縁/頸部は短く外反し、口端部はやや外反して開く/口唇部は平坦/口端部下端の稜はシャープ	外：口縁部～頸部強いヨコナデ/胴部上位ハケ後ナデ/胴部中位～下位ミガキ 内：口縁部ヨコナデ・ユビ圧痕/頸部ナデ/胴部ヘラケズリ	8区/川/VI層 外：胴部中位黒斑 内：胴部部分的にスス付着	13
20 431	赤生土器 壺	口：20.0 高：6.0	焼：良好 色：淡褐色	小砂粒 多量 堅緻 1/10以下	口縁部：頸部から直立気味に立ち上がり口端部で外反する/口唇部に棒状圧痕が巡る	外：口縁部ハケ後ナデ 内：口縁部ナデ	8区/川/V層 8区/川/VI層	
20 432	赤生土器 壺 または 甕	長：8.5 短：5.5	焼：良好 色：灰褐色	極砂粒 白色粒子 1/10以下	胴部：絵画土器/重弧文の線刻/鳥人か?	外：ハケ 内：摩耗	8区/川/V-2層	
20 433	赤生土器 壺	長：4.7 短：3.6	焼：良好 色：淡褐色	小砂粒 若干量 雲母 1/10以下	胴部：絵画土器/建物の線刻?	外：ナデ 内：ナデ	8区/川/V-2層	

第5節 第IV区域8区周辺工事立会出土土器

ここでは須恵器3点、土師器・弥生土器11点の合計14点を図化した。最も新しいのが古代の須恵器の無台坏（第21図435）である。残る須恵器2点は古墳時代の無台の坏身（第21図434）と、胴部から頸部への屈曲部に沈線を巡らせる無文の壺（第21図436）である。古墳時代前期の布留甕（第21図437）は、口縁内面の肥厚があまく盛り上がりも弱いため、布留甕でも後半と考えられるが、このような小型の甕は珍しい。また、口縁内面に弱いながらヨコハケを行う調整も前半などの肥厚が明瞭、または強いものには見られないため、布留甕製作時の決まりごとがなくなりつつある時期と判断した。高坏は「ハ」の字状に開く脚部が端部で水平近くに開くもので、このタイプの高坏に多いもの（第21図438）と屈曲が弱いもの（第21図441）、やや大きいものでは坏部に凸帯が付く事例の多いもの（第21図439）である。



第21図 第IV区域8区周辺工事立会出土土器（縮尺1/4）

弥生土器は後期のもの7点である。高坏はいずれも口縁内面が肥厚するもので、3点（第21図445～447）とも大型であるが器壁は薄い。脚部の柱状部はないが、胎土や色調から有段の脚部（第21図447）となるようである。脚部の有段直下の2段の沈線間にS字スタンプ文を加える通例のもので、端部は強く跳ね上げる。また、有段とならない「ハ」の字状に開く脚部もあるため、有段か無段かどちらかの脚部となる。器台は受部だけ復元できたもの（第21図442）と、脚部まで全体が復元できたもの（第21図443）があるが、摩滅がひどく施文などは確認できなかった。小さな脚台（第21図440）は鉢や壺などの小型の土器に付くと考えられる。

第5表 第IV区域周辺工事立会出土土器観察表（第21図、図版第13）

（）は推定値 単位：cm

挿図 番号 土器 番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版 番号
			色調	残存			備考	
21 434	須恵器 無台坏	高：3.0 底：7.0	焼：良好暗青 色：灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部：直線状に短く内傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/受部に1条の沈線/非常にシャープ 体部：内湾して立ち上がる	外：口縁部回転ナデ/底部回転ヘラケズリ 内：口縁部～底部回転ナデ	2010年2月立会	
21 435	須恵器 無台坏	口：13.0 高：3.7 底：8.6	焼：良好灰黒 色：色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 4/5	口縁部：直線状に外方へ立ち上がる/口端部でやや上方に屈曲する/口唇部は丸く収める 底部：平坦	外：口縁部回転ナデ/回転台右回転 底部回転ヘラ切り後粗いナデ 内：口縁部～底部回転ナデ	2010年2月立会 外：脚部中位ヤキハゲ	13
21 436	須恵器 小型壺	口：13.0 高：11.0 底：2.0	焼：良好灰黒 色：色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 4/5	口縁部～短く外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/平面は楕円形 胴部：扁球形/胴部上位で張り出し1条の浅い凹線を施す/胴部下位で窄まる 底部：丸底	外：/口縁部～胴部下位回転ナデ/底部回転ヘラケズリ 内：口縁部～底部回転ナデ	2010年2月立会 外：脚部中位ヤキハゲ	13
21 437	土師器 甕	口：12.4 高：17.0 底：1.0	焼：良好淡茶 色：色	微砂粒 白色粒子 軟質 2/3	口縁部～短く外傾して立ち上がる/口唇部肥厚/内側に段をもち丸く収める 胴部：球形/胴部下位で窄まる 底部：丸底	外：/口縁部～頸部ヨコナデ/胴部上位～下位タテハゲ/胴部中位ヘラケズリ 内：口縁部～頸部ヨコハゲ/胴部上位ヨコ方向のヘラケズリ/胴部中位～底部タテ方向のヘラケズリ	2010年2月立会 外：口縁部～底部スス付着	13
21 438	土師器 高坏	口：15.0 高：11.7 底：8.8	焼：良好淡橙 色：色	微砂粒 若干量 軟質 2/3	口縁部：直線状に斜め外方へ長くのびる/口唇部は丸く収める 坏部：浅身の椀状/やや内湾して立ち上がる/口縁部との境の稜は鈍い 脚部：脚柱部は直線状に下方へ開く/脚裾部は強く屈曲して短く外傾する	外：口縁部～脚部ナデ・摩耗 内：口縁部～坏部ナデ・摩耗/脚部ナデ・摩耗	2010年2月立会	13
21 439	土師器 高坏	高：11.8 底：17.4	焼：良好赤橙 色：色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/6	坏部：浅身の皿状/やや内湾して外方にのびる 脚部：ラッパ状に開く/脚裾部は短く外反/径1.0cmの円孔を4方向に配す	外：口縁部～脚部摩耗 内：坏部摩耗/脚部ハケ	2010年2月立会 全体大きく歪む	13
21 440	土師器 脚台	口：8.2 高：5.7	焼：良好淡茶 色：褐色	微砂粒 多量 軟質 2/3	受部：中央は浅い凹面/短く斜め外方へのびる/器壁厚い 脚部：ハの字に開く/受部と脚部の器壁厚い	外：受部～脚部ナデ 内：受部ナデ/脚部ナデ	2010年2月立会 SH-1	
21 441	土師器 高坏	高：6.8 底：12.0	焼：良好橙色 色：	微砂粒 多量 軟質 1/5	脚部：脚柱部はやや膨らみをもって下方へのびる/脚裾部は強く外反してラッパ状に開く/脚端面は丸く収める	外：脚部ナデ 内：脚部ナデ	2010年2月立会	
21 442	赤生土器 器台	口：28.5 高：9.0	焼：良好黄褐 色：色	微砂粒 多量 軟質	口縁部：大きく外反して斜めに開く/口端部下端は肥厚して突出受 底部：深身/直線状に斜め外方へ開く/口縁部との稜は鈍い	外：口縁部～受底部摩耗 内：口縁部～受底部摩耗	2010年2月立会	13
21 443	赤生土器 器台	口：25.6 高：18.3 底：14.8	焼：良好淡黄 色：灰色	微砂粒 多量 軟質 4/5	口縁部：直線状に斜めに開く/口唇部は丸く収める 受底部：直線状に外方へ開く/口縁部との境となる稜は鈍い/平面は楕円形 脚部：脚台部はハの字に開く/脚柱部最下位で径0.6cmの円孔を4方向に配す	外：口縁部～脚部ナデ・摩耗 内：口縁部～受底部ナデ・摩耗/脚柱部ナデ/脚台部ナデ・摩耗	2010年2月立会	13
21 444	赤生土器 高坏	高：16.3 底：17.0	焼：良好白褐 色：色	極砂粒 多量 軟質 1/3	脚部：脚柱部は弱く外反する/脚裾部は大きくハの字に開く/脚端部下端がやや肥厚/脚裾部中位において径0.7cmの円孔を4方向に配す	外：脚柱部ミガキ/脚裾部摩耗 内：脚柱部シボリ痕・ヘラナデ/脚裾部ハケ後ナデ	2010年2月立会	
21 445	赤生土器 高坏	口：30.8 高：6.3	焼：良好橙色 色：	微砂粒 軟質 1/2	口縁部：強く外反して開く/口端部内側は肥厚/段をもつ/口唇部は丸く収める 坏部：浅い鉢形/やや内湾して丸みをもち外方へのびる/口縁部との稜は鈍い	外：口縁部～坏部ミガキ・摩耗 内：口縁部～坏部ミガキ・摩耗	2010年2月立会 外：口縁部～坏部化粧土塗布後赤彩 内：口縁部スス付着	13
21 446	赤生土器 高坏	口：31.0 高：10.9	焼：良好淡黄 色：褐色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部：強く外反して開く/口端部内側は肥厚/段をもつ/口唇部は丸く収める 坏部：浅い鉢形/やや内湾して丸みをもち外方へのびる/口縁部との稜は鈍い	外：口縁部～脚部ミガキ 内：口縁部～坏部ミガキ 脚部：脚柱部上位シボリ痕	2010年2月立会 外：口縁部～脚部化粧土塗布後赤彩全体やや歪む	13
21 447	赤生土器 高坏	口：34.8 高：22.0 底：17.0	焼：良好橙褐 色：色	微砂粒 軟質 2/3	口縁部：強く外反して大きく開く/口端部内側は肥厚して段をもつ/口唇部は丸く収める 坏部：浅身の皿状/やや内湾して外方にのびる/口縁部との境の稜は明瞭 脚部：脚柱部最下位に径0.8cmの円孔を4方向に配す/脚台部はハの字に開く/脚台部上位に3条のヘラガキ条線・渦状S字スタンプ文・3条のヘラガキ条線	外：口縁部～脚部ミガキ・摩耗 内：口縁部～坏部ミガキ・摩耗/脚台部ミガキ	2010年2月立会	13

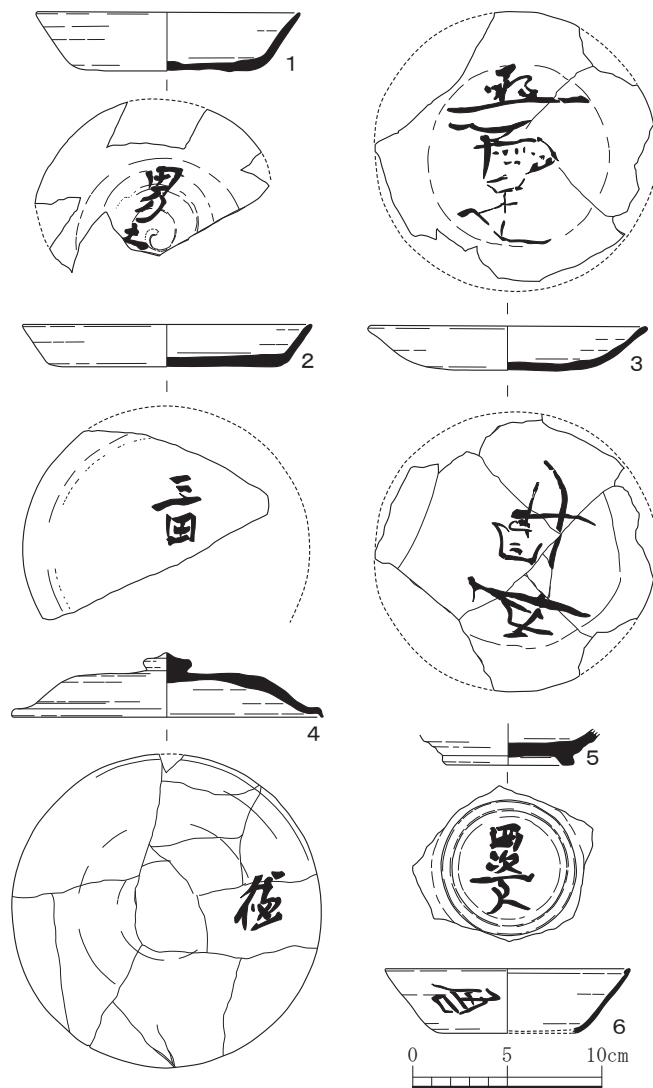


## 第6節 墨書土器

ここでは各地区から出土した墨書土器について説明していく。須恵器に墨痕が確認されたものは多数あるが、明らかに文字と判断できたものを取り上げ、単なる墨痕だけや文字ではあろうがその一部しか確認できなかったものについては図化していない。

ここで図化した墨書土器26点（第22図1～6、第23図7～26）について全体の概要を述べておく。出土した地区は、第5区から出土したものが14点（第22図2・4、第23図8・10～14・16・22～26）と最も多く、次いで7区から出土した7点（第23図7・9・17～21）である。8区からは3点（第22図1・3・6）、3区（第23図15）と6区（第22図5）からは各1点しか出土しておらず、東になると少なくなる。墨書土器の器種は無台坏が13点（第22図1・6、第23図13～15、17・19～25）と最も多く、次いで皿の8点（第22図2・3、第23図7～12）で、高台坏は2点（第22図5、第23図26）、蓋は1点（第22図4）だけである。また、文字は判読できたが、器種が特定できなかったものが2点（第23図16・18）ある。墨書される場所は、坏・皿類は基本的に底部外面で24点（第22図1・2・5、第23図7～26）と9割以上を占めるが、無台坏の側面にあるもの1点（第22図6）と、外面に加えてさらに内面にも墨書するものが2点ある。1点（第22図3）は确实であるが、もう1点（第23図9）は外面の墨書が不明瞭である。蓋（第22図4）の墨書の位置は内面の隅である。出土した遺構・または場所については包含層や表土からは4点（第22図1・3・6、第23図13）で、他の遺跡での出土例が多い溝からは、5区のSD1から7点（第22図2・4、第23図12・22・23・25・26）と同区から出土した墨書土器の半数を占める。5区から出土したのはこの他に表土から採集された1点（第23図13）だけである。また7区から出土した7点のうち6点（第23図9・17～21）がSD15からの出土である。井戸から出土した墨書土器は5区SE3から2点（第23図8・10）、3区SE5から1点（第23図15）、7区SE3から1点（第23図7）と4点の出土である。

ここで墨書土器が出土した遺構ごとに述べていく。西端の7区SE3から今回の墨書土器で最も鮮明で達筆の「五月女」の墨書のある皿（第23図7）が完形で出土している。南東から北西に流れるSD15からは内面に「寺」、外面にも判読不明の墨書がある皿（第23図9）や、「下家」（第23図17）、「幸？」（第23図18）、「罌本」（第23図19）、「五月？」（第23図20）、「吉万」（第23図21）などが無台坏の底部外面書かれたもの合計6点が出土してい



第22図 墨書土器（縮尺1/4）

る。内面の文字を「寺」の可能性を考えた皿（第23図9）の外面に同じような文字であるとする、「寺」の上の部分の「土」が消えて下の部分「寸」の一部だけが僅かに残されたと考えればつじつまがあう。また、「罌本」（第23図19）の「おか」については、一般的な「丘」「岡」ではなく「罌」と記載された墨書土器が鯖江市光源寺遺跡からも2点出土している事例があり、問題はないものと思われる。

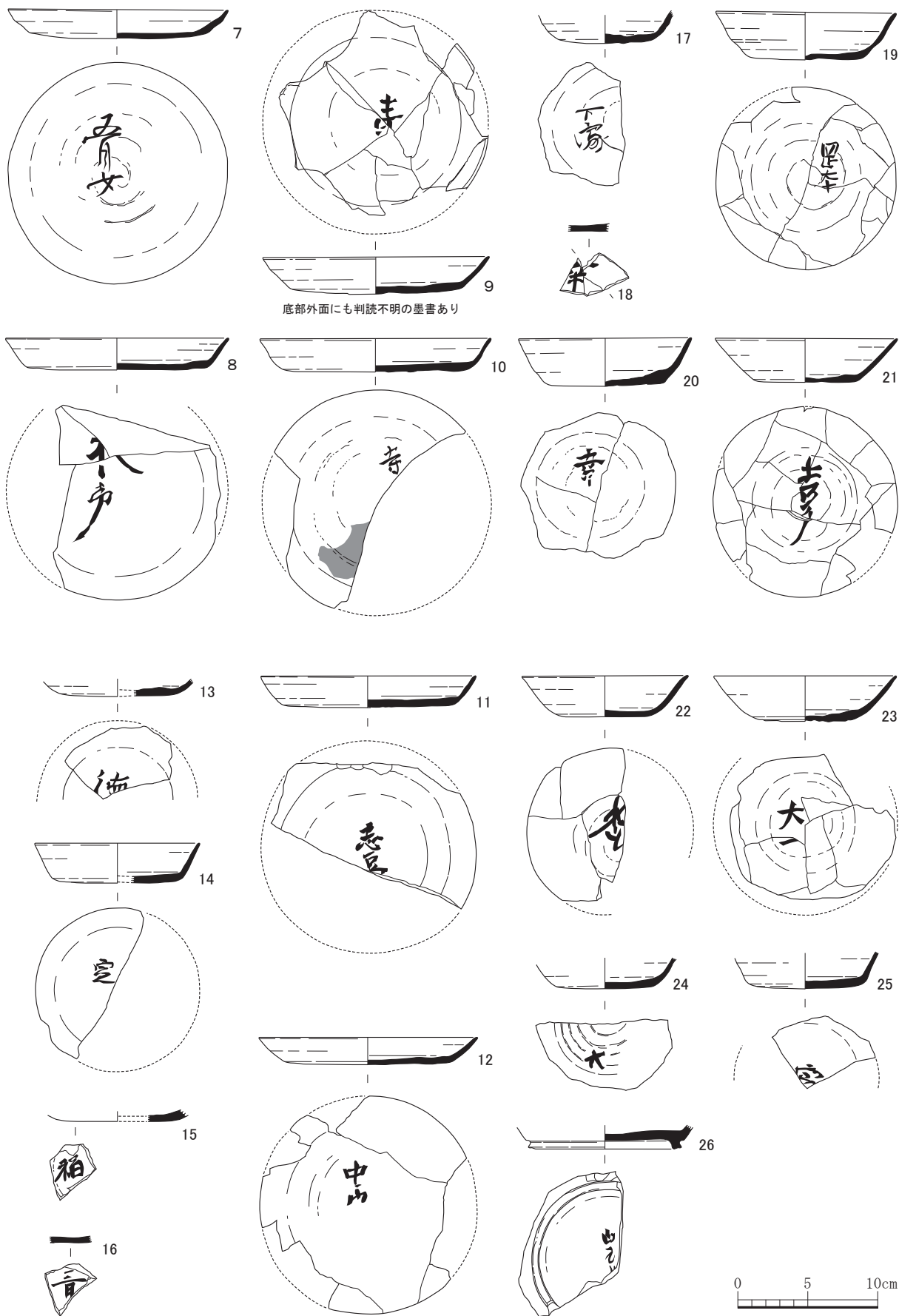
7区の東隣の5区SD1からは皿の底部外面に「三田」（第22図2）、「中山」または「中小」（第23図12）、蓋の内面に「徳」（第22図4）、高台杯の底部外面に「鬼口？」（第23図26）、無台杯の底部外面に「本」または「木口」（第23図22）、「大一」（第23図23）、「空」（第23図25）などの墨書土器が合計7点出土している。SE3からは皿の底部外面に「木戸」または「木万」（第23図8）と、「寺」（第23図10）の墨書土器が2点出土している。SB1の柱穴2からは皿の底部外面に「志豆口？」（第23図11）が、同じSB1の柱穴5からは無台杯の底部外面に「大」（第23図24）の墨書土器が出土している。SB2の柱穴2からは、高台が付くか付かないか不明の皿または杯の底部外面に「三月」（第23図16）と読める墨書土器が出土している。SB6の柱穴2からは無台杯の底部外面に「空」（第23図14）の墨書土器が出土している。さらに表土からは、無台杯の底部外面に「徳」（第23図13）の上半分が残された墨書土器が出土している。

5区の東隣の6区からは、ピット6から高台杯の底部外面に「田次丁人」（第22図5）の墨書土器が出土しており、墨の残りも比較的良好である。6区はこの1点だけである。

4区からは墨書土器の出土は確認されておらず、隣の3区の中世の遺物が複数出土したSE5から、無台杯の底部外面に「稲」（第23図15）の墨書土器が出土している。3区からはこの1点のみで、この墨書土器は中世の井戸への混入品と考えられる。

3区と道を挟んだ南東側の1区では墨書土器の出土は確認されておらず、調査区の最も東となる8区で3点の墨書土器を確認している。いずれも包含層からの出土で、皿の底部内外面2カ所に「五月女」（第22図3）、無台杯の底部外面に「男口」または「界口」（第22図1）、さらに無台杯の側面に「角口？」（第22図5）の墨書土器が出土している。

墨書土器の語句として注目されるのは「五月女」であろう。皿の底部外面の1カ所だけに書かれたもの（第23図7）は、文字の大きさは小さいものの非常に明瞭に残り「五月女」であるのは明らかである。今回出土した墨書土器でも最も墨が濃く、文字も明瞭で流れるような筆跡である。一方、内外面に書かれたもの（第22図3）は、どちらも立ち上がり近くまでの底部の前面に大きく墨書している。外面は墨が薄い、「五月女」と読んで問題はなさそうである。内面は墨がかすれていたりして1文字目は「五」で問題はなさそうであるが、特に2文字目と3文字目が不明瞭である。内外面の両面に同じ筆跡で書かれており、最初の文字が「五」で問題がなさそうなため、内面と同じく3文字で「五月女」となるものと判断した。また「五月」の次に明らかに文字が残されていないもの（第23図20）は、墨書の墨が非常に薄いため「五月」と読むのが正しいかは確実ではない。この他、同じ筆跡と思われるものに「空」がある。文字が「空」として正しいかは若干自信がないが、無台杯に書かれたものでほぼ完全に文字全体が残っていると思われるもの（第23図14）と、文字の下の部分が欠けているもの（第23図25）である。上の部分は大きさなども同じで、同じ筆跡と考えられる。



第23図 墨書土器 (縮尺1/4)

第6表 墨書土器観察表 (第22・23図)

( )は推定値 単位: cm

挿図番号 土器番号	器種	法量	焼成	胎土	形状・文様	調整	出土地点	図版番号
			色調	残存			備考	
22 1	須恵器 無台環	口: 14.0 高: 3.1 底: 9.0	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「男口」または「界口」の墨書?	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転 底部回転へラ切り後未調整/回転右回転 内: 回転ナデ	8区E4/I層 8区F5・6/I層	13 ・ 14
22 2	須恵器 皿	口: 15.2 高: 2.3 底: 12.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/3	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「三田」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転左回転/ 底部回転へラ切り後ナデ 内: 回転ナデ	5区P27/SD1 外: 口縁部焼きムラ/ 焼きムラ 内: 降灰	13 ・ 14
22 3	須恵器 皿	口: 14.8 高: 2.3 底: 8.0	焼: 不良 色: 淡灰色	極砂粒 白色粒子 4/5	口縁部: ゆるやかに内湾して斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「五月女」の墨書底部内面中央に「五百足」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後ナデ 内: 回転ナデ/中央ナデツケ	8区F8/II層 外: 口縁部ナマヤケ	13 ・ 14
22 4	須恵器 高台壺	口: 16.6 高: 3.3 天: 10.0	焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/1	天井部: 中央平坦/口縁部と天井部の稜線やや不明瞭/ 中央に扁平擬宝珠ツマミ 口縁部: 口縁部は一旦外方へ開いた後、口唇部を下方へ屈曲させ丸く収める 墨書: 内面縁側に「徳」の墨書	外: 天井部回転へラ切り後回転ナデ/ 回転右回転/口縁部回転ナデ 内: 回転ナデ/回転右回転/中央ナ デツケ	5区P27/SD1 外: 口縁部に焼きム ラ	14
22 5	須恵器 高台環	高: 2.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 暗赤紫灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部: 上位欠損 底部: 平坦/高台端面平坦/端面で接地/鈍い 墨書: 底部外面中央に「田次丁人」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ナデ 内: 回転ナデ/中央ナデツケ	6区N21/P6 外: 底部ヤキムラ	14
22 6	須恵器 無台環	高: 12.8 高: 3.4 底: 6.8	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 口縁部外面に横にした「角口」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/底部: 欠損 内: 回転ナデ	8区F5/I層 8区G6/I層	15
23 7	須恵器 皿	高: 15.8 底: 2.0 11.6	焼: 良好 色: 青灰色	白色粒子 多量 堅緻 1/1	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり中位でやや屈曲して開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「五月女」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	7区T42/SE3	14 ・ 15
23 8	須恵器 皿	口: 16.0 高: 2.3 底: 12.8	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「木万」の墨書か	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区Q30/SE3 外: 口縁部に焼きム ラ	14 ・ 15
23 9	須恵器 皿	口: 16.2 高: 2.5 底: 11.0	焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 白色粒子 軟質 3/4	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: やや丸みあり 墨書: 底部内面中央に「寺」か/底部外面中央に「×」または「寺」の下の部分の「寸」の墨書か	外: 口縁部回転ナデ。底部回転へラ 切り後粗いナデ調整/回転右回転 内: 回転ナデ/底部中央ナデツケ	7区S35/SD15/I層	14 ・ 15
23 10	須恵器 皿	口: 16.4 高: 2.5 底: 12.0	焼: 良好 色: 青灰色	粗白色粒子 堅緻 1/2	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央寄りに「寺」の墨書および墨痕	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後粗いナデ/底部 スノコ状圧痕 内: 回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区Q30/SE3 外: 口縁部に一部焼き ムラ	14 ・ 15
23 11	須恵器 皿	口: 15.4 高: 2.3 底: 12.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 やや多量 精緻 2/3	口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める/シャープ 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「志田口」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/底部回転へラ 切り後未調整/底部スノコ状圧痕 内: 回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区Q31/SB1柱穴P2 外: 口縁部に焼きム ラ	14 ・ 15
23 12	須恵器 皿	口: 15.6 高: 2.2 底: 11.0	焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 4/5	口縁部: 短く直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: やや丸みあり 墨書: 底部外面中央に「中山」または「中小」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ/底部中央ナデツケ	5区P27/SD1	14 ・ 15
23 13	須恵器 無台環	底: 7.8	焼: 良好 色: 明灰色	白色粒子 堅緻 1/10以下	墨書: 底部外面中央に「徳」の墨書	外: 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ/回転右回転	5区表土	14 ・ 15
23 14	須恵器 無台環	口: 11.8 高: 2.9 底: 8.0	焼: 良好 色: 淡灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央寄りに「空」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後粗いナデ/底部 スノコ状圧痕 内: 回転ナデ	5区Q28/SB6柱穴2 外: 口縁部に焼きム ラ	14 ・ 15
23 15	須恵器 無台環	底: 8.0	焼: 良好 色: 淡灰白色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	墨書: 底部外面縁側に「稲」の墨書	外: 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ	3区J14/SE5	15
23 16	須恵器 無台環	底: 8.0	焼: 良好 色: 淡灰褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	墨書: 底部外面に「三月」の墨書	外: 底部回転へラ切り後ナデ 内: 回転ナデ	5区P27/SB2柱穴2 (SK3)	15
23 17	須恵器 無台環	高: 2.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部欠損 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央寄りに「下家」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	7区S36/SD15/I層	14 ・ 15
23 18	須恵器 無台環	高: 2.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 堅緻 1/10以下	底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「幸」の墨書か	外: 底部: 回転ナデ 内: 底部: 回転ナデ	7区S36/SD15/I層	16
23 19	須恵器 無台環	口: 12.6 高: 3.4 底: 8.0	焼: 良好 色: 青灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 4/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部はやや外反して丸く収める/シャープ 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「翌本」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	7区T35/SD15/I層	14 ・ 15
23 20	須恵器 無台環	口: 12.2 高: 3.1 底: 7.6	焼: やや不良 色: 淡灰白色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/底部縁側の器壁は厚い/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「五月」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	7区S36/SD15/I層 外: 口縁部一部ヤキ ムラ	14 ・ 16
23 21	須恵器 無台環	口: 13.0 高: 3.1 底: 7.2	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「吉万」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	5区S35/SD15/I層 外: 口縁部一部ヤキ ムラ	14 ・ 16
23 22	須恵器 無台環	口: 12.0 高: 3.1 底: 6.0	焼: 不良 色: 灰褐色	白色粒子 若干量 軟質 1/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がり開く/口唇部はやや外反して丸く収める 底部: 平坦 墨書: 底部外面中央に「本」または「木口」の墨書か	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	5区P27/SD1	14 ・ 16
23 23	須恵器 無台環	口: 13.0 高: 3.3 底: 7.0	焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 白色粒子 若干量 軟質 1/2	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部は丸く収める 底部: やや丸みあり 墨書: 底部外面中央に「大」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ	5区P27/SD1	16
23 24	須恵器 無台環	高: 2.2 底: 6.4	焼: 良好 色: 明灰色	白色粒子 多量 堅緻 1/6	口縁部: 内湾しつつ外方へ立ち上がる 底部: 平坦 墨書: 底部外面縁側に「大」の墨書	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後未調整 内: 回転ナデ	5区R32/SB1柱穴5 (P14)	14 ・ 16
23 25	須恵器 無台環	高: 2.5 底: 7.0	焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり開く/口唇部欠損 底部: やや丸みあり 墨書: 底部外面中央に「空」の墨書か	外: 口縁部回転ナデ/回転右回転/ 底部回転へラ切り後ナデ 内: 回転ナデ	5区P27/SD1	14 ・ 16
23 26	須恵器 高台環	高: 1.6 底: 10.0	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 若干量 堅緻 1/5	口縁部: 欠損 底部: 平坦高台 端面: 平坦/端面内側で接地/シャープ 墨書: 底部中央に「口口口」の墨書/「鬼口」か	外: 底部回転へラ切り後粗いナデ 内: 回転ナデ/中央ナデツケ	5区P27/SD1	14 ・ 16

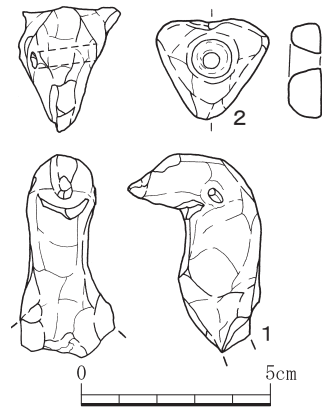
## 第2章 土製品、瓦

### 第1節 土製品 (第24・25図)

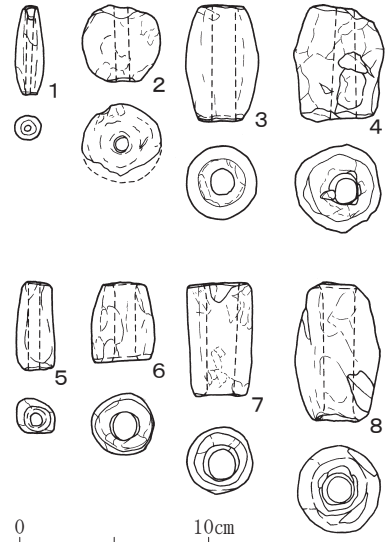
**鳥形土製品** (第24図1) 8区川V-1層から出土した。土器に貼付される装飾部と考えられる。頭部から首部が残存し、両眼は円孔により表現される。首末端部の上面は深く凹んでおり、厚みが薄い。首部以後が体部となるのか不明である。時期はおおむね弥生時代後期に位置づけられる。

**土製三角板** (第24図2) 8区川VI層から出土した。土器片の周縁を加工した転用品である。器体中央に片面穿孔による径5mmの円孔を有す。上辺中央がわずかに凹み、右辺は平坦に整形される。長さ2.8cm、幅0.8cm、重さは5.99gを測る。使用された土器片は縄文土器の可能性はある。

**土錘** (第25図) 土錘は8点が出土し、うち4点が3区から出土した。平面形には橢球形(1)、球形(2)、樽形(3・8)、筒形(4・5・7)、分銅形(6)がある。大半が棒巻き手捏ね成形である。1・4には両端部に紐擦れ痕、8には焼成前の切り込み痕が認められる。2については、8区川跡Ⅲ層出土である点、表面に研磨痕が残る点、胎土に砂粒を多く含む点などから、縄文時代晩期の有孔球状土製品の可能性がある。2以外については、おおむね中世の所産と考えられる。



第24図 鳥形土製品・土製三角板 (縮尺1/2)



第25図 土錘 (縮尺1/4)

第7表 土錘観察表 (第25図)

No.	長さ	幅	孔径	重さ	色調	残存	備考	出土地点
1	4.7	1.6	0.3	8.1	茶白色	1/1	紐擦れ痕	3区K14 SX2
2	4.0	4.2	0.8	41.5	茶褐色	2/3	有孔球状土製品か	7区T34 川a/Ⅲ層
3	6.2	3.8	1.3	73.7	淡橙色	1/1	上下端面面取	4区表土
4	6.2	4.8	1.9	90.4	橙色	2/3	紐擦れ痕	3区K14 SX2
5	4.7	2.0	0.7	20.1	茶色	1/1		1区G11 SE1
6	4.3	3.3	1.5	36.0	橙色	1/2		3区J14 SE5
7	7.1	3.4	1.9	66.7	淡茶色	1/1		3区J13 SE4
8	7.4	4.5	1.8	114.3	白褐色	4/5	焼成前切込	8区 川/I層

### 第2節 瓦 (第26図)

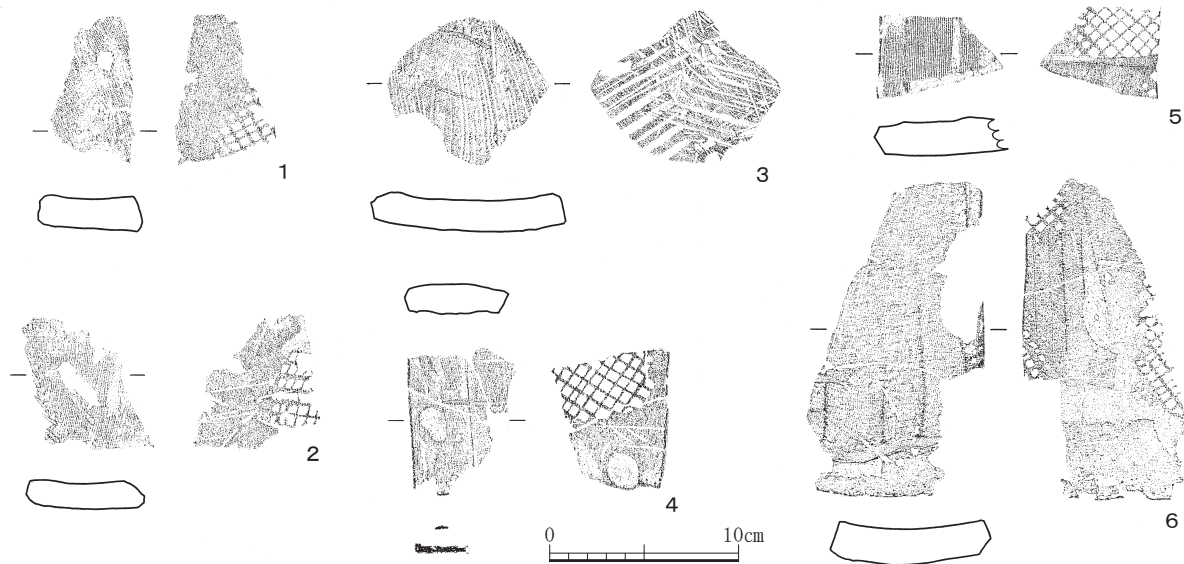
調査により出土した2点(1・2)と周辺の分布調査による採取品4点(3～6)を掲載する。

1・2は平瓦片である。1は厚みが1.7cm、凹面に布目と模骨痕があり、模骨の板幅は2.0cmである。

凸面には格子叩きがまばらにあり、叩き板の格子は縦横各4列が残る。2は厚みが1.5cm、凹面に布目と模骨痕があるが、模骨の板幅は不明で、布には糸縫いの痕跡がある。凸面には格子叩きがまばらにあり、叩き板の格子は縦横各7列が残る。4は軒平瓦、それ以外は平瓦片である。4は二重弧文軒平瓦であり、瓦当の厚みは平瓦部とほとんど変わらない直線顎だが、顎に連続した指押さえを行い、瓦当下縁を弱くではあるが波状に仕上げている。平瓦部の厚みは1.5cm、凹面に布目と模骨痕があり、模骨の板幅は1.7cmである。凸面には格子叩きがまばらにあり、叩き板の格子は縦横各9列が残る。格子のうち1列が他の列より幅が狭いという特徴を持つ。凸面・凹面ともに側縁に沿った部分に面取りを行う。

3は厚みが1.9cm、凹面には粘土の切り取り痕（糸切り痕状）と布目が残るが、模骨痕は確認できず、凸面には平行叩きが密に残る。5は厚みが1.8cm、凹面に布目と模骨痕があり、模骨の板幅は2.6cm、凹面には格子叩きがまばらにあり、叩き板の格子は縦横各8列が残る。4と同じく、格子のうち1列が、他の列より幅が狭い。凸面に一部段差があるが、これが何によるものかは不明である。側縁は角を切って、2つの面を持つように加工している。6は厚みが1.8cm、凹面に布目と模骨痕があり、模骨の板幅は2.2～2.8cm、下端部近くは面取りを行い、それに沿うように布の端部の痕跡が残る。凸面には格子叩きがまばらにあり、叩き板の格子は縦11列、横6列分が残る。側縁は角を切って、2つの面を持つように加工している。下端面には幅8mmほどの溝状のくぼみが3か所あり、成形後の乾燥時に何か当たった痕跡と考えている。凸面の叩きの無い部分は、下端部は横方向に、側縁部は縦方向になでているが、それ以外は明瞭ではない。同じく、1・2・4・5では、横方向に強くなでている。1～6の詳細な時期特定は困難であるが、おおむね7世紀後半から8世紀前半に位置づけられる。

本遺跡に隣接する波寄集落の南西には、土砂採取により大部分が消滅した丘陵がある。その丘陵には波寄城跡が立地し、古代の丸瓦・平瓦が採取されている（福井県1979、福井市1990）。平瓦の凸面調整痕跡には大小二種類の格子叩きと平行叩きの2種があり、格子叩きを持つ例には凹面に模骨痕がある。格子叩きの痕跡のうち、格子目が小さい例は、縦10列、横9列分が残り、1列の幅が他より狭い点で4・5に類似する。ただし、4・5は大きい格子叩きの部分が残っていない可能性もあるが、小さい格子叩きだけであり、波寄城跡採取品に認められる、一つの瓦に大小2種の格子叩きはない。これら波寄城跡採取品が瓦窯か寺院のいずれに伴うかは、遺跡の破壊と採取遺物の少なさから不明である。本遺跡の出土品は出土地点や状況、および量から推測すれば、波寄集落側からの混入品である可能性が高い。



第26図 瓦（縮尺1/4）

第8表 瓦観察表（第26図）

単位：cm/g

No.	種別	残長	残幅	厚さ	凸面成形	色調	焼成	出土地点	備考
1	平瓦	8.7	5.6	1.7	格子叩き	橙褐色	やや不良	波寄三宅田遺跡5区/表土	
2	平瓦	8.8	7.2	1.5	格子叩き	明灰色	良好	波寄三宅田遺跡8区D3/川II層	
3	平瓦	9.0	10.8	1.9	平行叩き	明灰色	良好	波寄三宅田遺跡 三角点南/1981年表採	凹面に切取痕跡
4	軒平瓦	8.3	6.3	1.5	格子叩き	橙褐色	やや不良	波寄古墳群・波寄城跡 土取場/1974年表採	二重弧文
5	平瓦	5.4	6.6	1.8	格子叩き	淡黄色	良好	波寄三宅田遺跡 三角点南/1981年表採	
6	平瓦	17.5	9.4	1.8	格子叩き	黄褐色	良好	波寄三宅田遺跡/1981年表採	端面に圧痕

## 第3章 石器・石製品

### 第1節 剥片石器、石核（第27～29図）

剥片石器とその製作に関わる石器として、石鏃・尖頭器・石匙・石錐・楔形石器・削器および石核が出土した。特徴的なものを除いて時期を特定し難いが、縄文時代から弥生時代のものである。

**石鏃**（第27図1～25） 直接打撃や押圧剥離によって先端部と着柄部を整えて鏃状にした小型の打製石器を石鏃とする。1～18・22は凹基無茎式である。特に22は縄文時代後晩期にみられる五角形鏃で、下呂石製である。19・23・25は平基無茎式、20は凸基無茎式、21は凸基有茎式である。24は、折損のため詳細は不明だが削器の可能性がある。25は、末端が僅かに磨耗しており、石錐の可能性がある。

石材は、下呂石を筆頭にサヌカイトなど様々な安山岩やチャートなどを用いる。

素材剥片の背面の可能性のある剥離痕をみると、背面構成は、25では素材剥片の打点と同じ向きである。素材剥片の用い方は、打点を横方向にするもの（6・8・15・17）と基部方向にするもの（21・25）とがある。しかし、素材剥片の剥離面を残す石鏃は少なく、一般的な傾向とみなすには足りない。

二次加工は、正裏面への直接打撃や押圧剥離で行う。各面へ剥離を施す順序は多様である。

福井県下の剥片石器使用石材の動向については、勝山市で積極的な分析がなされているほかは議論が少なく明らかでない。今回の調査では遠隔地の石材である下呂石製の石鏃がまとめて出土しているが、東海地方では下呂石などの流通について研究が進んでおり、福井県下でも検討が期待される。

一方、在地系の石材では、勝山市の滝波川や法恩寺山のものが知られているほか、剥片石器の石材としてはやや質が悪いものの、越前市の若須岳南斜面（N35° 53' 56" , E136° 1' 30"）や池田町の稗田川（N35° 55' 2" , E136° 26' 47"）で安山岩とみられる石材の露頭・転石を確認している。今回の資料では、明言はしかねるが、6は法恩寺山（N36° 4' 49" , E136° 33' 8"）で採取した礫に、17、第28図7、第29図14は滝波川（N36° 4' 30" , E136° 29' 22"）で採取した礫の一部に類似する。

**尖頭器**（第27図26～29） 先端部と着柄部を整えて槍状にした大型の打製石器を尖頭器とする。石鏃との区別が難しい部分もあるが、大きさにより分類した。

形態はいずれも細身であり、柳葉形や石鏃のような基部の膨れた形態にする。基部の平面形は直線的であり、26・29は基部から中央付近までを薄く仕上げる。一方で27は基部付近を最も厚くする。

石材は、いずれも安山岩を用いる。なお、26には、水による摩滅のみられない原礫面が残る。

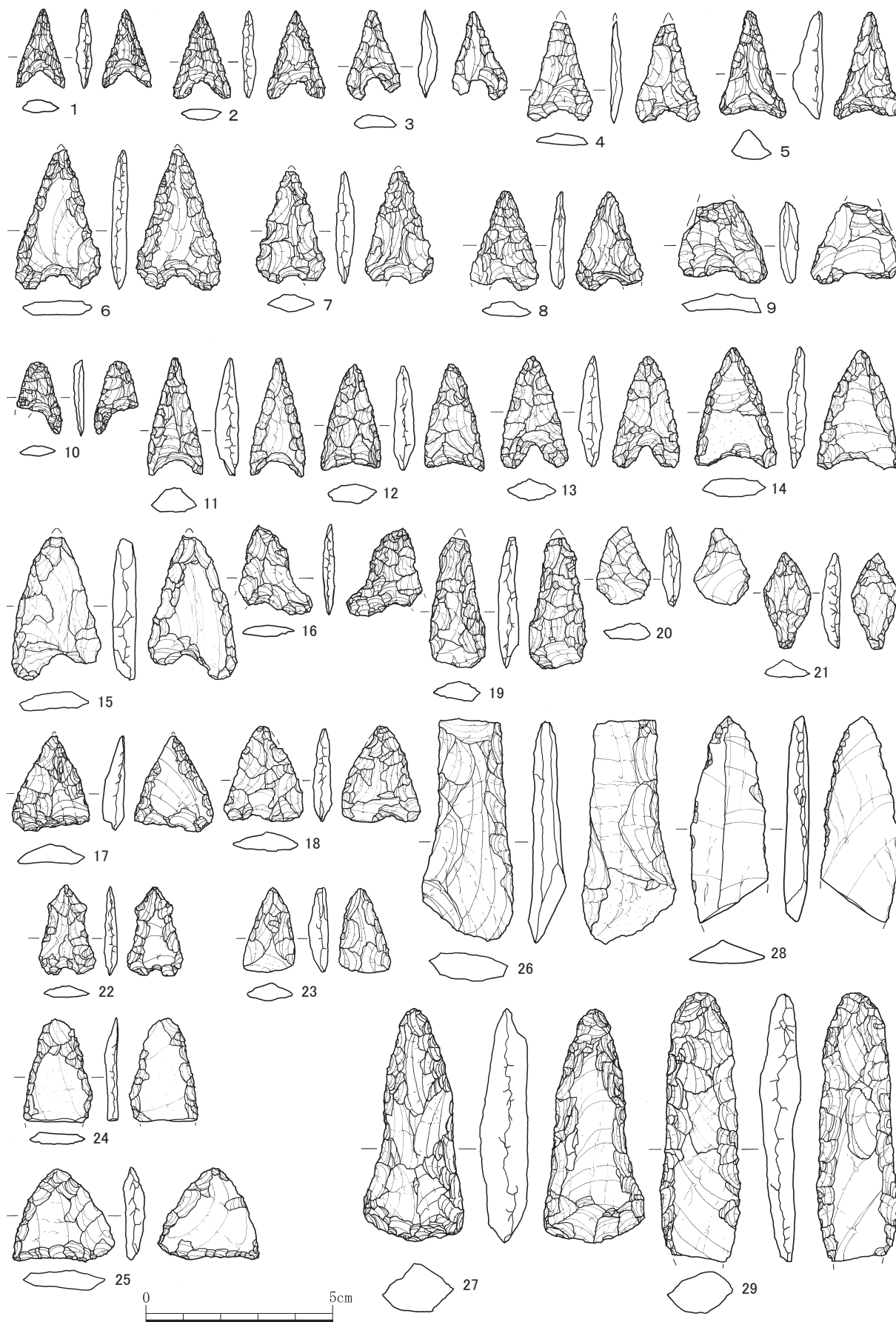
26・27・29には、素材剥片のもの可能性のある広い剥離面がある。しかし、いずれも平坦であり、腹面なのか背面なのかの判別は難しく、加えて、二次加工の剥離痕である可能性も十分にある。

二次加工をみると、26・27・29は、直接打撃による加工の後、縁辺に押圧剥離や直接打撃を施すことで平面形・断面形を整える。縁辺の剥離は交互剥離のようにもみえるが、26の左側縁では裏面への、右側縁では正面への、27の左右の側縁では裏面への、29の左側縁では正面への、右側縁では裏面への剥離を反対側の面への剥離の後に行う傾向がみられる。

28は、先端を中心に加工が甘い点、他のものより薄い点から尖頭器ではなく削器の可能性がある。

**石匙**（第28図1～3） 摘み状の小突起のある削器を石匙とする。

1は安山岩を、2は頁岩とみられる石材を用いた石匙である。共に素材剥片の縁辺を直接打撃と押圧剥離によって加工し、横長の石匙に仕上げる。



第27図 石鏃、尖頭器 (縮尺2/3)



3は、下呂石製の石匙である。縁辺を直接打撃と押圧剥離によって加工し、縦長の石匙に仕上げる。

**石錐**（第28図4・5） 先の尖った棒状の部位を押圧剥離などで作った打製石器を石錐とする。

4は、安山岩製で、押圧剥離によって平面形を三角形に仕上げる。先端部は磨耗する。

5は、安山岩製で、押圧剥離により棒状に仕上げる。なお、先端は折れ面様であるが、他の部位と同程度に風化していることと、磨耗していることの2点から、製作時ないし使用時に折れ面様の剥離痕が生じ、その後使用したと考えられる。

**楔形石器**（第28図6・第29図15） 対辺への打撃による剥離痕を残す石器を楔形石器とする。

6は、安山岩製の楔形石器である。おそらく剥片を素材とし、4辺に打撃を加える。なお、両極技法により素材剥片を剥離した石核ともとれるが、剥離痕の大きさを考慮し、楔形石器に分類した。

15は、安山岩製で、剥離の状況から楔形石器とした。4辺に打撃を加える。

**削器**（第28図7～10・第29図12・13） 剥片に連続した剥離で刃部を作った石器を削器とする。

いずれも安山岩を用いるが、石質は多様である。なお、12・13には水で摩滅した原礫面が残る。

7・9・12は横長剥片を用いる、ないし、その可能性のある資料である。8・10・13は縦長剥片を用いる、ないし、その可能性のある資料である。打面は、13が礫打面であるほかは二次加工のため明らかでない。背面構成には、素材剥片の剥離の向きと同じ方向のものや多方向のものがある。

二次加工は、7・9・10は全周で正裏面への剥離を施す。8・12・13は刃部を中心に剥離を施す。

**石核**（第29図14・16） 素材剥片を剥離したとみなし得る剥離痕をもつ打製石器を石核とする。

14は、安山岩を用いた石核である。両側縁から正裏面へ交互剥離する。なお、尖頭器などの両面加工体である可能性もあるが、折損により不明な点があるため、石核に含めた。

16は、サヌカイトを用いた石核である。円磨度4ないし5の礫を利用する。図の裏面を作業面として多方向から剥離を行った後、この面を打面、周縁部を作業面として剥離を行う。

なお、周縁部への剥離は、剥離痕がやや小さいので、素材剥片剥離ではなく打面再生を意図したものである可能性もある。しかし、剥離が全周で行われていることから、少なくとも一部の剥離は周縁部を作業面とする素材剥片の獲得に関連したものと想定した方がよい。また、図の裏面に残る小さな剥離痕で周縁部の剥離痕に切られているものは、打面調整によるものである可能性もある。

14のような剥離工程から生じる剥片は、剥離面打面・大きな剥離角・剥片と同一方向や逆方向の剥離痕が残る背面、となる。16のような剥離工程から生じる剥片は、剥離面打面・多方向の剥離痕が残る背面や、剥離面打面・小さな剥離角・剥片と同一方向の剥離痕が残る背面、となる。点数が少なく明言しかねるが、製品の素材剥片の背面構成に対して、14はやや異なる、16は矛盾のないものである。

## 第2節 礫器（第28図11、第29図17）

礫をそのまま素材とし、直接打撃により刃部を作出した打製石器で、打製石斧など定形的な器種に該当しないものを礫器とする。時期の特定が難しい器種であるが、共伴した遺物からみて縄文時代から弥生時代のものであろう。

11は、安山岩製である。円磨度4ないし5の礫を用い、多方向から裏面中央に及ぶ剥離を施す。左側縁は交互剥離状に加工する。刃部は正面への剥離を連続的に施すことで作る。

17は、安山岩製である。板状の礫の右側縁を直接打撃により剥離することで刃部を作る。なお、原礫や自然石である可能性もある。

第9表 石鏃観察表 (第27図)

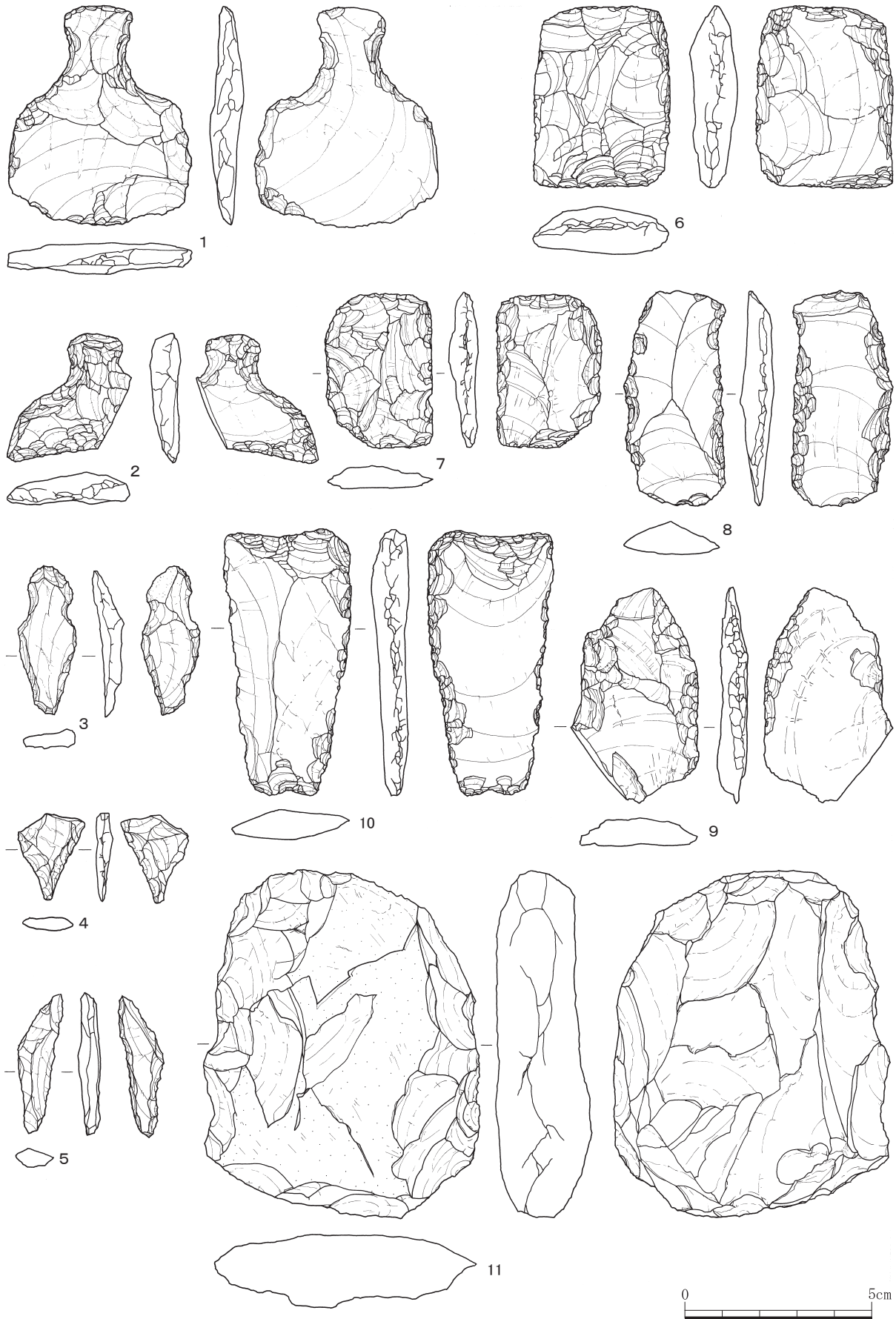
単位: cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	2.1	1.3	0.4	0.6	1/1	下呂石	暗灰色		8区/川 V-2層
2	2.4	1.5	0.4	0.8	1/1	下呂石	暗灰色		8区/川
3	2.4	1.5	0.3	0.9	1/1	頁岩か	暗灰色		1区/SD1
4	(2.6)	2.7	0.3	(1.0)	4/5	下呂石	黒色		1区/SD1
5	2.3	1.8	0.8	2.5	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
6	3.8	2.2	0.4	3.1	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
7	3.0	1.8	0.5	2.0	1/1	下呂石	黒色	安山岩か	8区/川 VII層
8	2.7	1.8	0.4	1.6	1/1	下呂石	黒色		8区/川 V-2層
9	(2.2)	2.2	0.5	(2.5)	1/2	安山岩	明灰色		8区/川 V層
10	1.7	(1.2)	0.3	(0.4)	3/4	チャート	黒色		7区/川c
11	3.2	1.6	0.7	2.4	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 V層
12	2.8	1.6	0.5	2.4	1/1	頁岩か	暗灰色		8区/川 V-2層
13	3.0	1.8	0.6	2.1	1/1	流紋岩か	灰褐色		8区/川 VI層
14	3.2	2.2	0.5	3.2	1/1	安山岩か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
15	4.0	2.3	0.6	5.3	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
16	2.5	(1.3)	0.3	(1.2)	4/5	下呂石	暗灰色		7区/SD16 上層
17	2.5	2.1	0.6	2.3	1/1	下呂石	黒色		8区/川 V-2層
18	2.6	2.1	0.5	2.0	1/1	安山岩	灰白色	平基無茎式か	5区R29/P40
19	(2.3)	1.4	0.5	(3.1)	4/5	安山岩	灰褐色		8区/川 II層
20	3.5	1.6	0.6	1.2	1/1	サヌカイト	淡灰色		8区/川 V-2層
21	2.1	1.5	0.4	1.3	1/1	サヌカイト	明灰色		1区/SD1
22	2.6	1.3	0.5	1.1	1/1	下呂石	灰色	五角形鏃	7区/Q32 包含層
23	2.4	1.5	0.3	1.4	1/1	安山岩	黒色		8区/川 V-2層
24	(2.8)	(1.8)	0.3	(1.9)	2/3	安山岩	灰色	削器か	8区/川 V-2層
25	(2.5)	(2.8)	0.6	3.0	1/1	下呂石	黒色	石錐か	8区/川 V-2層

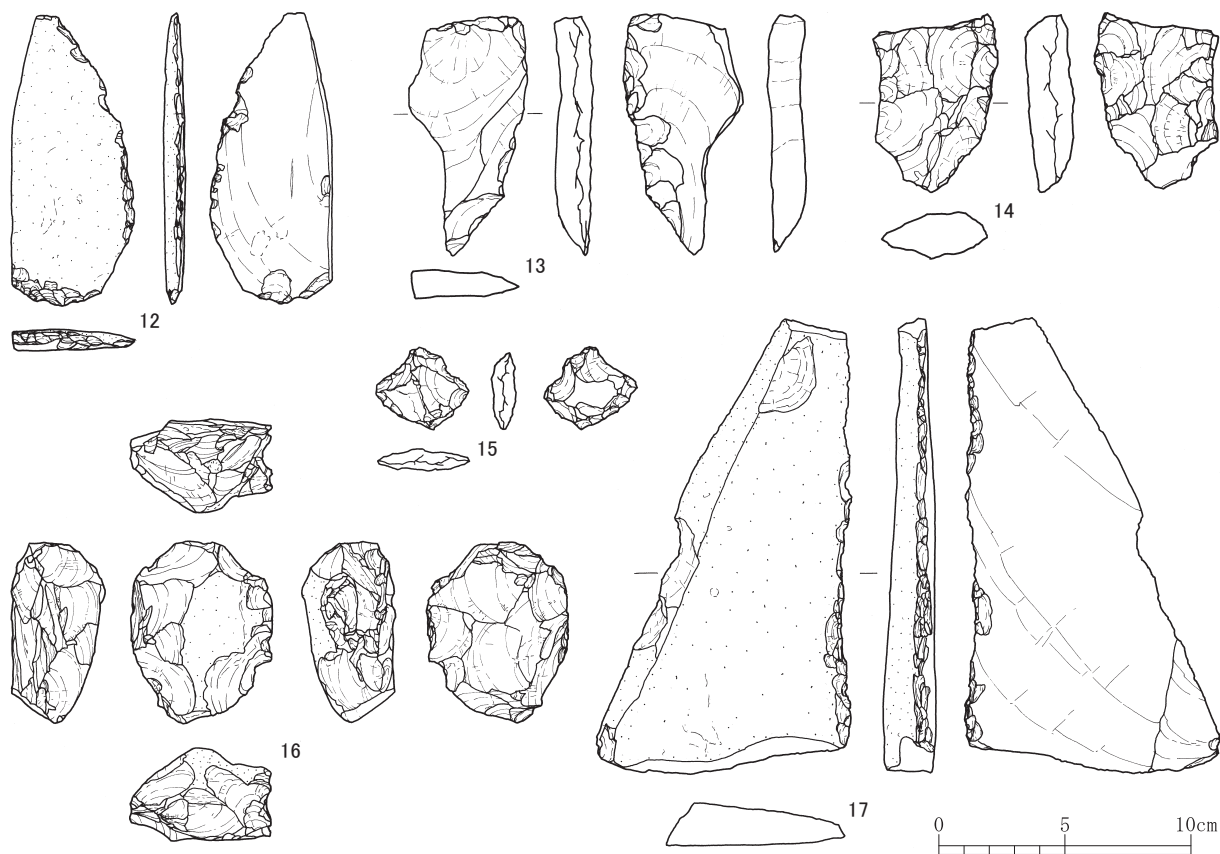
第10表 尖頭器観察表 (第27図)

単位: cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
26	(5.9)	2.5	0.7	(12.9)	4/5	安山岩	黒色	原礫面あり/角礫を利用か	1区/SD1
27	6.3	2.7	1.3	20.3	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VII層
28	(5.5)	2.0	0.7	(6.8)	4/5	安山岩	灰色	サヌカイトか/削器か	8区/川 V-2層
29	(7.2)	2.2	1.1	(16.9)	4/5	安山岩	暗青灰色		8区/川 VI層



第28圖 石匙、楔形石器、削器、礫器 (縮尺2/3)



第29図 楔形石器、削器、石核、礫器（縮尺1/3）

第11表 石匙、石錐、楔形石器、削器、石核、礫器観察表（第28・29図）

単位：cm/g（）は残存値

No.	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	石匙	6.0	5.0	0.9	22.7	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川/V-1層
2	石匙	3.5	(3.3)	0.8	(7.2)	2/3	頁岩か	灰白色		8区/川/III層
3	石匙	4.1	1.6	0.5	3.1	1/1	下呂石	黒色	原礫面あり/円礫を利用か	1区
4	石錐	(2.4)	(1.7)	0.5	(1.5)	2/3	安山岩	灰白色		8区/川/VI層
5	石錐	3.7	1.2	0.5	2.2	1/1	安山岩	黒色		1区/SD 1
6	楔形石器	4.9	3.7	1.2	28.7	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川/VI層
7	削器	4.2	2.9	0.7	11.1	1/1	安山岩	暗青灰色	楔形石器か	8区/川
8	削器	5.9	2.7	0.9	13.8	1/1	安山岩	黒色	サヌカイトか	8区/川/V-VI層
9	削器	5.8	3.5	0.7	15.7	1/1	安山岩	暗青灰色	下呂石か	8区/川
10	削器	7.2	3.5	1.0	23.8	1/1	安山岩	灰黒色	下呂石か	8区/川/VI層
11	礫器	9.5	7.5	2.0	233.7	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川/V-1層
12	削器	11.5	4.6	0.9	60.0	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川/VII層
13	削器	9.7	4.7	1.2	60.0	1/1	安山岩	青灰色	原礫面あり/円礫を利用	1区
14	石核	7.2	5.0	1.8	68.0	1/1	安山岩	灰黒色	両面加工体か	8区/川
15	楔形石器	3.4	3.8	1.0	7.3	1/1	安山岩	灰白色	サヌカイトか	8区/川/I層
16	石核	7.3	5.6	3.7	162.0	1/1	サヌカイト	黒色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川
17	礫器	18.2	10.5	2.0	343.4	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川/V-2層

## 第3節 打製石斧 (第30・31図)

打製石器のうち、斧状をし、一方の端部に刃部を作り出したものを打製石斧とする(1～32)。これらは縄文時代から弥生時代のものである。形態には短冊形・撥形・分銅形がある。

石材は、主に安山岩を用い、この中には長石の斑晶のある安山岩も含まれる。

製作技術について、図で裏面を展開していないため分かりづらい部分もあるが概観する。一部の資料には原礫面が残るが(1・4・5・11・12・16・17・20・22～25・27～32)、いずれも原礫面の形状や摩滅の具合から、円磨度4～6程度の礫を用いたとみられる。

素材剥片の腹面である可能性のある大きな剥離面を残す資料(4・5・7～9・16・20・24・21)がある。大きさや想定される打点の位置からみて素材剥片の剥離面である可能性はあるが、明瞭なポジティブバルブなど腹面と判断できる痕跡はみられず、二次加工のため切り合いからも判断できない。仮に腹面であるならば、打点を横方向にして用いた可能性がある。また、素材剥片の背面である可能性のある大きな剥離痕を残すものもあるが、いずれも縁辺が加工されていることから、断定できるものはない。加えて、未製品や剥片なども出土していないことから、素材剥片の剥離技術など二次加工より前の段階の製作技術について詳細を知ることはできないが、11・31・32は正裏面の両面に原礫面を残す。

一部の資料では、素材剥片を折断したり(17・20・23・26・27・32)、折断した面に対して剥離を施したり(11)することで側縁や基部を成形する。

二次加工は、直接打撃で行う。正裏面を打面とする剥離が多いが、折断面を打面とする剥離も行う。剥離痕には、後述の側縁への敲打によるものである可能性もあるが、器体の中央にまで及ぶものと、器体の中央まで達しないものの2種類がある。その後、多くの資料では刃部を除く両側縁に、垂直敲打技法・両極敲打技法の別は判断できないが、側縁に対して垂直方向からの打撃を加えて加工する。分銅形のものはこの敲打によって屈曲部を整える。

使用によると考えられる、剥離痕を切る磨耗が認められる資料がある。磨耗は主に刃部にみられるが、体部にまで及ぶものもある。また、磨耗に伴う線状痕は主に長軸方向に延びるが、19・29・31のように長軸に対してやや斜交する線状痕がみられる資料もある。

以下では、特徴的な資料をみていく。

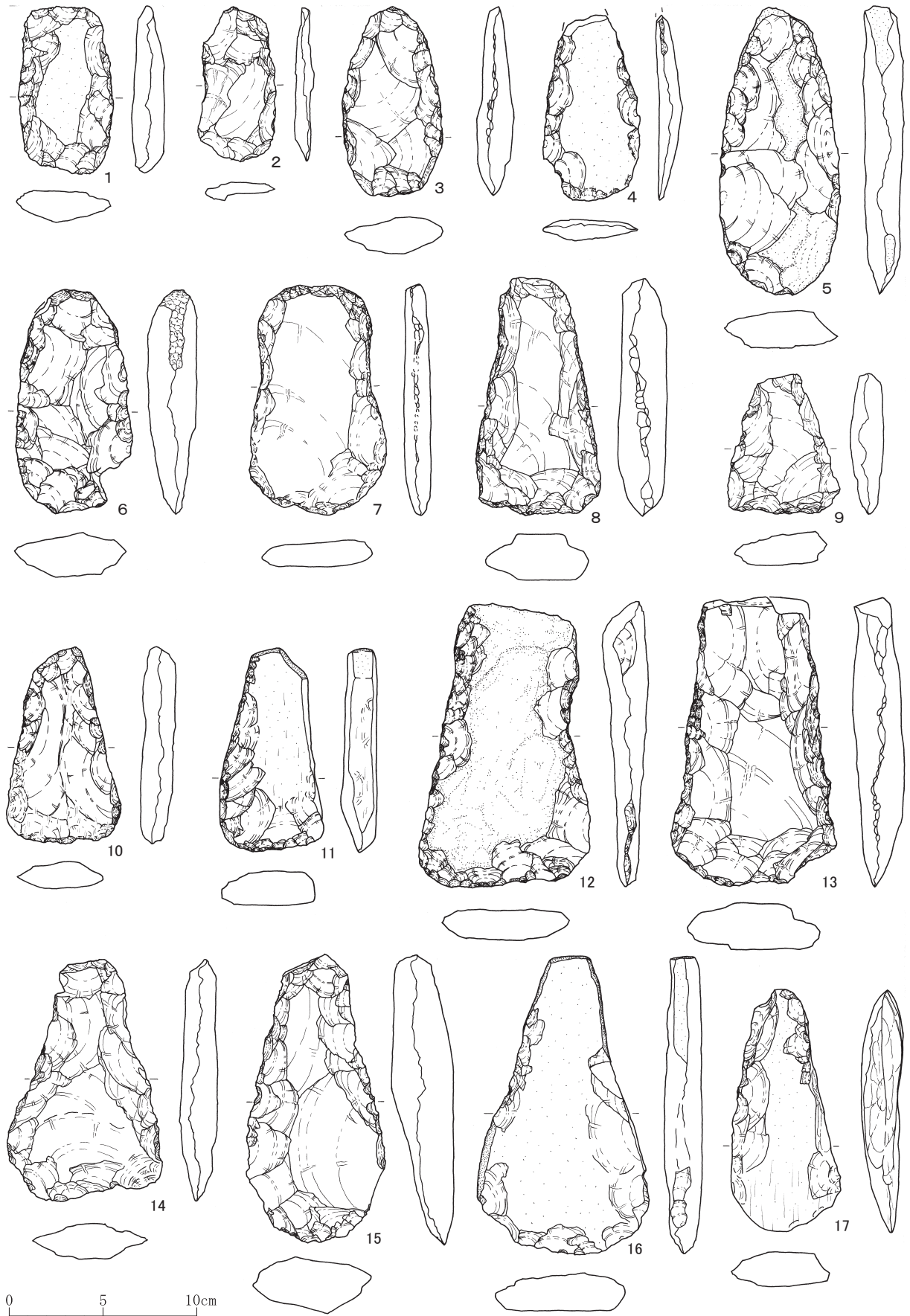
6は、短冊形をした打製石斧である。縁辺から器体の中央に至る剥離で成形し、器体中央に至らない剥離で形を整える。両側縁を敲打する。

7は、撥形をした打製石斧である。正面には、素材剥片の腹面の可能性のある大きな剥離面がある。直接打撃で器体中央まで及ばない剥離で成形した後、両側縁を敲打する。なお、刃部と側縁が磨耗するが、線状痕はみられない。

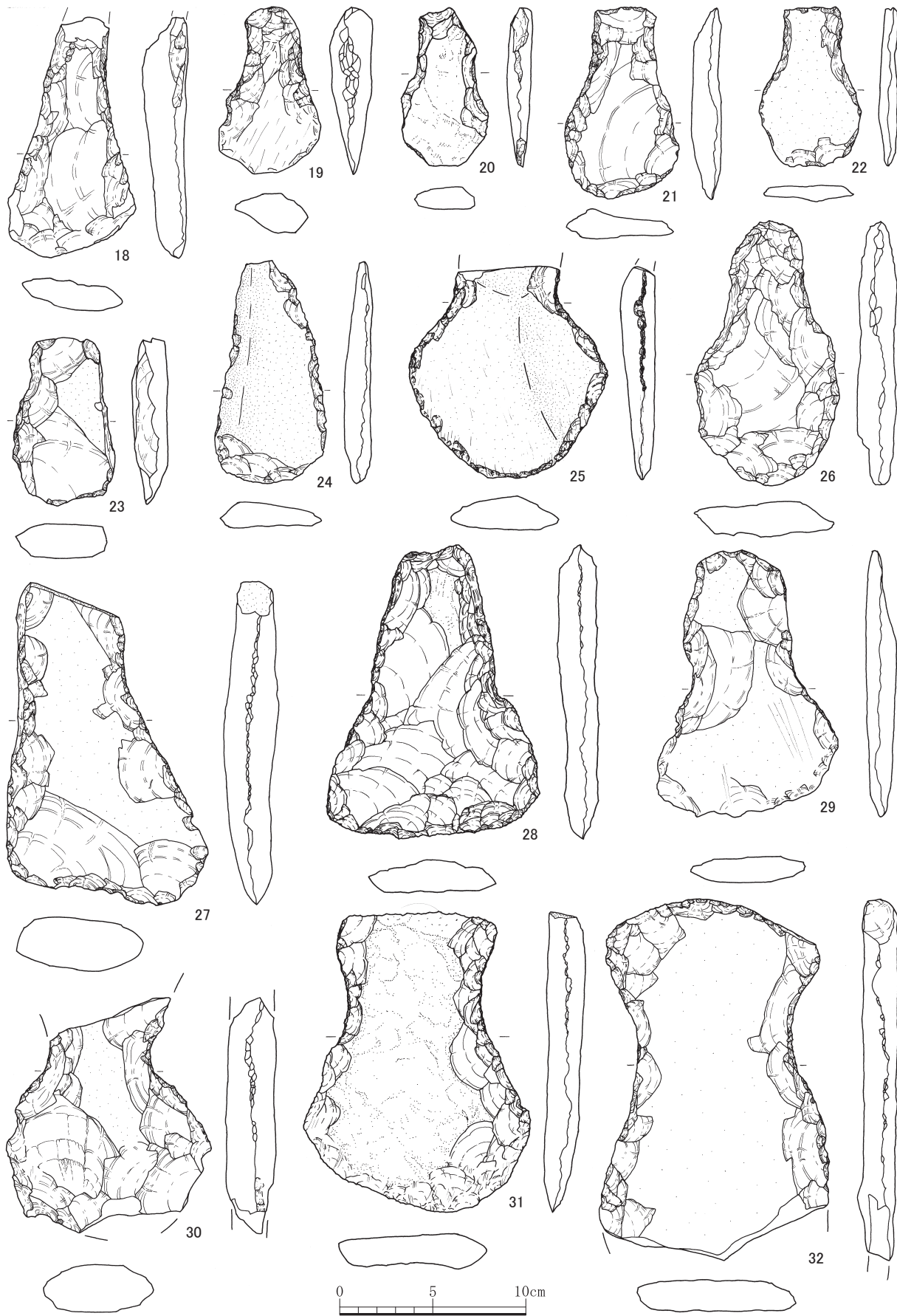
8は、撥形をした打製石斧である。正面には素材剥片の腹面の可能性のある大きな剥離面がある。直接打撃で器体中央まで及ばない剥離で成形した後、両側縁を敲打する。

11は、短冊形の打製石斧で、板状の礫を素材とする。左側縁を折断した後、刃部と右側縁、折断面を直接打撃で剥離し、左側縁を敲打する。なお、体部の正裏面と側縁に線状痕を伴う磨耗があり、線状痕は長軸方向に延びる。

27は、短冊形ないし撥形をした打製石斧であり、原礫面を残す剥片を用いる。左側縁を折断し、刃部を中心に直接打撃によって剥離する。右側縁を敲打する。なお、左側縁の折断面を打点とする小さな剥離があるが、これも、右側縁同様、垂直方向の打撃によるものである可能性がある。



第30図 打製石斧 (縮尺1/3)



第31圖 打製石斧 (縮尺1/3)

第12表 打製石斧観察表 (第30・31図)

単位: cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	8.7	5.1	1.7	96.9	1/1	安山岩	灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 V-2層
2	8.0	4.1	1.0	35.0	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
3	10.2	5.2	1.8	110.3	1/1	安山岩	灰褐色		1区/F9/SD1
4	10.0	5.1	1.1	71.8	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 V-1層
5	15.3	6.5	2.1	261.6	1/1	安山岩	灰褐色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VII層
6	11.9	6.2	2.6	216.7	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VII層
7	12.4	7.3	1.4	193.8	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
8	12.8	6.6	2.6	291.7	1/1	安山岩	褐灰色		8区/川 V-2層
9	7.5	6.1	1.6	81.5	1/1	安山岩	褐灰色		8区/川 VI層
10	10.5	6.2	1.8	125.2	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V・VI層
11	11.0	5.5	1.5	143.5	1/1	安山岩	灰色	正裏面に原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VII層
12	15.1	9.2	2.2	317.7	1/1	安山岩	褐灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VII層
13	15.5	9.0	2.3	397.1	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
14	12.8	8.1	2.0	192.5	1/1	緑色岩類	緑灰色		8区/川 V-2層
15	15.6	7.3	3.3	375.1	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VI層
16	15.9	8.2	2.0	291.3	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用か	8区/川 V-2層
17	13.1	5.7	2.2	180.3	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VI層
18	12.7	6.8	2.5	171.9	1/1	安山岩	黒色		8区/E4 調査区壁
19	9.1	5.6	2.1	87.9	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
20	8.5	4.5	1.1	52.1	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	3区/K17/SX3
21	10.2	6.0	1.5	88.7	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
22	8.4	5.5	1.0	47.3	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VI層
23	9.0	5.5	2.0	109.8	1/1	安山岩	灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 I・II層
24	12.0	5.9	1.3	107.4	1/1	安山岩	灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VI層
25	(11.7)	10.6	1.7	(213.0)	2/3	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	3区J13/SE4
26	14.1	7.7	2.2	262.7	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
27	18.2	10.7	2.6	485.3	1/1	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 V-2層
28	15.7	11.4	1.7	375.0	1/1	安山岩	灰白色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VII層
29	15.4	7.5	3.3	192.9	1/1	安山岩	灰色	原礫面あり/円礫を利用	7区/S36/SD15
30	(12.4)	11.0	2.6	(383.2)	4/5	安山岩	暗灰色	原礫面あり/円礫を利用	8区/川 V-2層
31	(16.2)	12.4	2.0	508.8	1/1	安山岩	暗灰色	正裏面に原礫面あり/円礫を利用	8区/川 VII層
32	(19.6)	12.4	2.3	(654.6)	4/5	安山岩	灰色	正裏面に原礫面あり/円礫を利用	8区/川 V-2層



## 第4節 磨製石斧（第32～34図）

磨製石器のうち、斧状をし、片方の端部に刃部を作り出したものを磨製石斧とする（1～57）。これらの時期は、縄文時代から弥生時代のものである。形態をみると、断面が、扁平で側面が平らなもの、楕円形ないし扁平で側面の丸いものがある。

石材は、緑色岩類やひん岩などを用いる。

製作技術は、直接打撃や敲打によって成形した後、研磨で仕上げたとみられる。研磨の方向は、長軸に対して斜交するものが多いが、部分的に長軸に対して並行や直交する方向に研磨するものもある。

刃部につぶれや刃こぼれ状の小さな剥離痕があるものや、それらが研磨面に切られているものがあり、使用と刃部の再生を行ったと推測できる。また、再加工した可能性があるもの（26・39・51）、楔形石器に転用した可能性のあるもの（38・41・42）、敲打石に転用したもの（7・28・45～47）がある。

以下では、特徴的なものをみていく。

19は、敲打の後、全面を研磨する。なお、正裏面は、刃部・基部・側面と接する部分などで研磨の方向を変えており、形状に合わせて研磨したことがうかがえる。側面は、47などとは異なり、一様な平坦面であり、長軸に対して僅かに斜交する複数方向の線状痕がある。

26は、全面を研磨する。なお、刃部には刃こぼれとみられる小さな剥離痕があり、加えて、刃部や基部は一般的な磨製石斧とは形態が異なり、折れ面のような形をしている。これらの剥離痕はいずれも研磨面に切られているため、刃部の研ぎ直しや、破損などの後、再加工したものと想定できる。

32は、敲打の後、研磨した小型の磨製石斧である。長軸に斜交する方向に研磨するが、断面六角形をした体部のそれぞれの面で方向を変える。

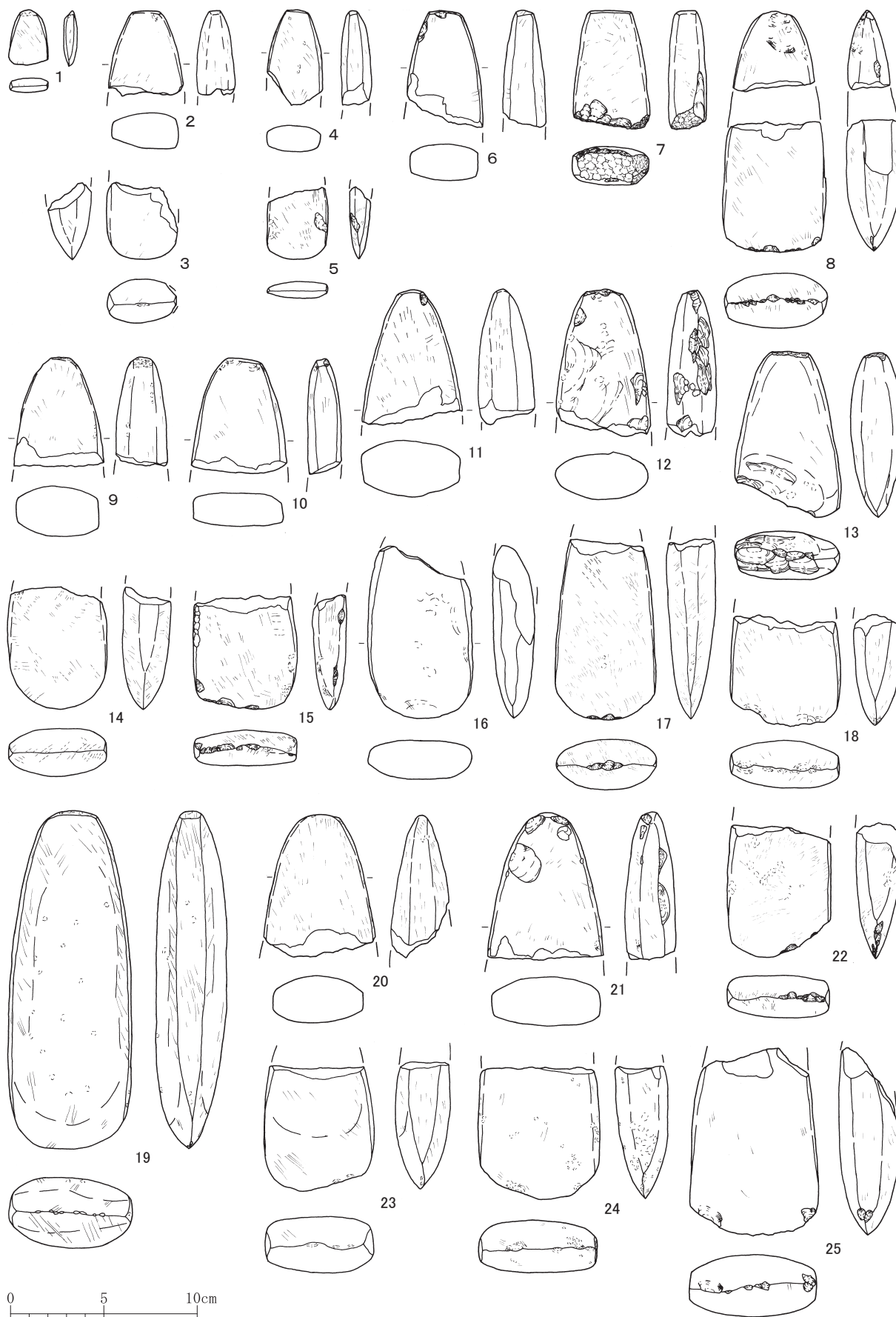
39は、研磨した後、側面と基部を中心に敲打する。なお、敲打痕は研磨面を切っているが、敲打痕の分布からみて敲打石に転用したとは考えづらく、磨製石斧を作り直そうとしたものとみられる。

41は、敲打の後、研磨を行い、その上で両側面から直接打撃を施す。なお、直接打撃による剥離痕は研磨面を切っている。39と同じく再加工である可能性もあるが、対になる辺に敲打痕や複数の階段状剥離があることから、楔形石器に転用した可能性も考えられよう。同様のものに38と42がある。

46は、敲打の後、体部の中ほどから刃部までを研磨する。なお、研磨の向きは、いずれも長軸に斜交するが、傾きは様々である。側面には長軸方向に延びる複数の平坦面があり、少しずつ位置を変えて研磨しながら側面のカーブを整えたことがうかがえる。また、正裏面には、研磨面に切られた成形時のものとみられる敲打痕に紛れている部分もあるが、研磨面を切るアバタ状の敲打痕と溝状の敲打痕の集中があり、敲打石に転用したことが分かる。このほか、刃部には研磨面を切る複数の剥離痕がある。

47は、敲打成形の後、全面を研磨する。研磨は、正裏面では長軸に斜交および直交する方向に、側面では長軸に直交する方向に、刃部では長軸方向および長軸にやや斜交する方向に行く。なお、正面は最大厚付近・それより基部より・側面と接する部分とで研磨の方向が異なっており、ものの形に合わせた研磨を行ったことがうかがえる。側面は、19などとは異なり、長軸方向に延びる複数の平坦面からなる。少しずつ位置をずらしながら研磨し、側面のカーブを整えたものと考えられる。線状痕の向きは、側面の稜付近・それより正面より・裏面よりで僅かに異なる。また、正面には研磨面を切る溝状の敲打痕の集中が2カ所あり、敲打石に転用したことが分かる。

なお、8は、同じ遺構から出土したものを同一個体のように図化しているが、石質がやや異なることから別個体である可能性がある。



第32図 磨製石斧 (縮尺1/3)



第33圖 磨製石斧 (縮尺 1/3)



第34図 磨製石斧 (縮尺 1/3)

第4節 磨製石斧

第13表 磨製石斧観察表 (第32~34図)

単位: cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	2.9	2.1	0.8	8.4	1/1	緑色岩類か	緑灰色		8区/川 V-2層
2	(4.5)	(4.1)	(2.0)	(56.2)	1/3	安山岩か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 V-2層
3	(4.2)	3.9	(2.4)	(41.4)	1/3	緑色岩類	灰白色		8区/川
4	(5.1)	(3.0)	1.3	(38.8)	2/3	緑色岩類か	暗灰色		8区/川 V-2層
5	(3.8)	3.2	(0.8)	(20.9)	1/2	緑色岩類か	灰白色		1区/SD 1 上層
6	(6.4)	4.2	(2.0)	(84.2)	2/3	緑色岩類か	暗オリーブ灰色		8区/川 VI層
7	(6.4)	4.2	2.1	(93.4)	2/3	ひん岩か	灰色	敲石に転用	8区/川 V-1層
8	(12.8)	5.5	3.0	(232.0)	4/5	緑色岩類か	不明	全面に鉄分付着/2個体か	8区/川 V-2層
9	(5.9)	(4.9)	2.7	(113.5)	1/2	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 VI層
10	(6.2)	(5.0)	1.8	(105.5)	1/2	蛇紋岩か	暗緑灰色		8区/川 VI層
11	(7.2)	(5.3)	3.0	(139.5)	1/2	ひん岩か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
12	(7.9)	(5.0)	2.5	(1556.0)	2/3	緑色岩類か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
13	9.0	5.7	2.7	168.4	1/1	閃緑岩類	暗灰色		8区/川 V-2層
14	(6.7)	5.4	2.6	(131.7)	1/3	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 VII層
15	(6.1)	5.5	1.9	(107.1)	1/2	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 VI層
16	(9.3)	5.7	2.3	(144.6)	4/5	緑色凝灰岩	灰白色		8区/川 IV層
17	(9.5)	5.4	2.7	(208.4)	3/4	ひん岩	灰褐色		8区/川 V-2層
18	(5.9)	5.8	2.6	(135.1)	1/3	緑色岩類か	オリーブ灰色		8区/川 V-2層
19	18.3	6.6	3.3	776.7	1/1	緑色岩類	暗灰色		8区/川 VII層
20	(7.7)	(6.0)	(2.7)	(158.8)	1/2	緑色岩類か	暗緑灰色		8区/川 V-2層
21	(7.9)	6.2	2.6	(184.0)	1/2	ひん岩か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
22	(7.0)	5.5	2.3	(145.7)	1/2	緑色岩類か	オリーブ黒色		8区/川 V-1層
23	(6.8)	5.9	2.9	(193.6)	1/2	閃緑岩類	暗灰色		8区/川 VI層
24	(7.2)	6.3	2.8	(220.2)	1/2	緑色岩類か	灰色		8区/川 V-1層
25	(10.0)	6.9	3.5	(355.5)	2/3	緑色岩類か	オリーブ灰色		8区/川 VI層
26	(6.7)	5.2	2.3	(143.3)	2/3	斑れい岩か	灰色	再加工か	8区/川 VI層
27	(9.2)	5.8	2.5	(245.2)	4/5	緑色岩類	暗灰色		8区/川 III・IV層
28	(13.2)	6.9	3.2	(492.1)	4/5	安山岩	暗灰色	敲石に転用	8区/川 VI層
29	(9.0)	5.7	2.9	(216.0)	1/2	蛇紋岩か	暗灰色		8区/川 VI層

第3章 石器・石製品

単位：cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
30	(6.4)	(5.3)	(2.5)	(108.3)	1/2	緑色岩類か	暗灰色		1区/F9 包含層
31	(4.5)	(5.1)	(2.4)	(83.8)	1/4	蛇紋岩か	オリーブ黒色		8区/川 VII層
32	(2.2)	2.0	0.8	(5.2)	1/2	斑れい岩か	黒色		8区/川 V-1層
33	(6.5)	4.2	2.1	(93.7)	1/2	緑色岩類か	緑灰色		8区/川 VII層
34	10.0	5.2	2.2	207.4	1/1	緑色岩類か	青灰色		8区/川 VI層
35	(5.5)	5.5	3.3	(150.4)	1/2	凝灰岩類	暗灰色		7区/R35 包含層
36	(5.7)	5.5	2.5	(133.7)	1/3	緑色岩類か	灰白色		7区/SD16
37	(5.5)	4.5	1.0	(52.1)	1/2	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 VI層
38	7.1	4.2	2.0	93.9	1/1	蛇紋岩か	灰白色	楔形石器に転用か	3区/K14 SX2
39	7.2	4.7	2.8	131.5	1/1	蛇紋岩か	オリーブ灰色	再加工か	8区/川 VII層
40	9.3	5.6	2.1	166.7	1/1	緑色岩類か	灰色		8区/川 VII層
41	5.0	4.1	2.1	51.8	1/1	緑色岩類	暗緑灰色	楔形石器に転用か	8区/川 V層
42	9.4	5.6	3.4	269.0	1/1	ひん岩	暗灰色	楔形石器に転用か	1区/F9 包含層
43	(4.8)	5.7	4.0	(119.1)	1/4	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 V-2層
44	(8.9)	6.4	(4.5)	(240.5)	1/4	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 V-1層
45	(8.6)	7.0	4.7	(381.6)	1/3	ひん岩	灰色	敲石に転用	8区/川 VII層
46	13.8	6.7	4.2	587.1	1/1	ひん岩	灰白色	敲石に転用	8区/川
47	13.5	5.9	3.8	547.9	1/1	緑色岩類か	灰色	敲石に転用	H20年確認踏査
48	13.6	6.0	4.2	588.3	1/1	緑色岩類	緑灰色		8区/川 VII層
49	14.2	6.4	4.1	(584.9)	4/5	斑れい岩か	暗灰色		8区/川
50	(13.0)	5.8	3.7	(436.7)	4/5	ひん岩	明オリーブ灰色		8区/川 III層
51	10.6	6.8	4.4	477.3	1/1	ひん岩	灰色	再加工か	8区/川 VII層
52	(12.4)	6.5	3.8	(371.2)	1/2	斑れい岩か	黒色		8区/川 VII層
53	(5.4)	(4.0)	(2.7)	(76.1)	1/3	斑れい岩か	暗灰色		8区/川 VII層
54	(12.0)	6.5	4.0	(556.7)	4/5	ひん岩か	灰白色		8区/川 VI層
55	(13.0)	6.4	4.8	(660.6)	2/3	ホルンフェルス	黒色		8区/川 VII層
56	(11.8)	6.7	5.0	(681.2)	1/2	閃緑岩	明緑灰色		8区/川 VI層
57	(17.8)	6.6	4.8	(1013.4)	4/5	閃緑岩	暗灰色		8区/川 VII層

## 第5節 磨石類、石皿、多孔石、砥石（第35～41図）

**磨石類**（第35図1～15、第36図16～34、第37図35～52、第38図53）手に持って操作できる大きさの礫をそのまま用いた石器で、磨耗痕があるものを磨石、敲打痕や敲打に伴う剥離痕があるものを敲打石とする。内面が磨耗した播鉢状の凹みを作り出した石器を凹石とする。これらは技術論的にも機能論的にも分類を異にするが、同一個体に重複していることが多く、器種ごとに項目を立てると記述が煩雑となるため、合わせて報告し便宜的に磨石類と総称する。いずれも時期の限定が難しい器種であるが、各地の事例や共伴した遺物からみて縄文時代から弥生時代のものであろう。

なお、使用痕の認定に当たっては、実験や自然礫の観察をもとに自然にできたものとある程度区別でき、かつ、埋没後の過程で形成されたものではないことを要件とした。したがって、同一個体の他の面より明確に摩滅している場合を除く自然でも起こり得る摩滅や、水流の関わる摩滅ではないと起こり得ない細かな凹凸の内側に及ぶ摩滅とそのような摩滅を受けた凹凸、平坦面など一見整ったようにみえる面で自然にもでき得る程度のもの、埋没後の着色・変色・付着物、まったく風化していない傷や破損などは使用痕をはじめとする過去の人為の痕跡とはみなせない。

また、記載の際は、図の向きに関係なく、資料の長軸を縦とし、長軸と幅軸からなる面に並行な面を正裏面、長軸と短軸からなる面に並行な面を側面、幅軸と短軸からなる面に並行な面を端面と呼称する。

1は、使用痕がみられない。44は、正面中央に棒状のものを刺したような穴があり、一般的な磨石類とは異なる。石製品に含めるべきかもしれない。7・15・53は、大きさや形態、使用痕とその切り合いの点で特異な資料である。

**磨石** 様々な石材の、平面形が円形ないし円形に近い楕円形をした円磨度6の礫を用い、A類：比較的平坦な正裏面の全面（2～4・6・22・33・34・37・40・46・49）や、B類：丸みを帯びた正裏面の全面（5・35・47）を利用するものが多いが、側面や端面を利用するもの（43・47）もある。

磨耗痕は、いずれも通常のツルツルした磨耗痕であり、光を反射するほど光沢をもった磨耗痕や、ザラザラした磨耗痕はみられない。また、53を例外として、全国的な傾向と同じく線状痕は伴わない。

**敲打石** 様々な石材の、いずれも円磨度6の礫を用いる。敲打痕には、アバタ状の敲打痕と、両極技法による石器製作との関係が指摘されている溝状の敲打痕とがある。アバタ状の敲打痕を有する敲打石は、礫の形態・使用面・使用面の形状・使用部位・敲打痕の密度といった点で多様であるが、代表的なものとして、I類：円形ないし円形に近い楕円形の礫を用い比較的平坦な正裏面の中央に敲打痕が密集するもの（4～6・20・22・23・25・26・29～34・36・38・49・51、第33図45）、II類：円形～楕円形の礫を用い丸みを帯びた側面に部分的に敲打痕が密集するもの（3・4・16～18・21・24・25・29・30・32～40・45・46・48・49）、III類：方形ないし楕円形をした礫の平坦な側面の中央や全面に敲打痕が密集するもの（10・13・14・42・50～52）、IV類：方形ないし楕円形をした礫の端面に敲打痕が密集するもの（10・42・43・52）、V類：IV類と類似するが、方形の礫を用い、端面全面に敲打痕が密集するもの（13・14・50・51・第32図7・第33図28）。VI類：楕円形をした礫の端面と側面の境界付近に敲打痕が密集するもの（9・41）、が挙げられる。

溝状の敲打痕を有する敲打石は、平面形が円形～楕円形や方形をした円磨度6の礫を用い、i類：平坦な正裏面中央を利用するもの（14・21・24・27・28・32～40・42・43・45～52、第33図46・第34図47）や、ii類：平坦ないし比較的平坦な側面の中央を利用するもの（14・39・42・51）などがある。

**凹石** 16・18・19は凹石で、いずれも平面形が円形ないし円形に近い楕円形をした円磨度6の礫の、

比較的平坦な正裏面中央に凹みを設ける。多孔石と共に、西日本では事例の少ない器種である。

**使用痕の重複** 円形ないし円形に近い楕円形をした礫で、磨石A類、敲石Ⅰ・Ⅱ・ⅰ・ⅱ類の各類型が重複する。しかし、いずれかの類型を欠くものや、他の類型と重複しない個体があるなど、一定したセット関係はみられない。これは、使用痕の成因の検討や他の遺跡の資料も踏まえた数量的な分析を行わなければならないが、それぞれの類型の成因となる行為を同じ個体を使って行うという規範や必然性がなかったことを意味するであろう。したがって、これらの使用痕の重複は兼用ではなく転用の結果であると推測できる。特に、正裏面で磨耗痕と敲打痕が切り合っている際は、一般に磨耗痕が敲打痕に先行することが知られており示唆的である。なお、磨耗痕と溝状の敲打痕の重複は、それぞれ植物質食料の加工と石器製作に関わる使用痕と目されているため、転用の結果といえる。

敲石Ⅲ類とⅣ・Ⅴ類は、ほとんどが重複することから同一ないし関連する作業に使われた可能性がある。しかし、点数が少ないため検討を要する。

**石皿** (第38図54～60、第39図61～66) 磨耗痕がある石器のうち、手に持って操作できない大きさのものを石皿とする。石皿は、凹部を作り出した有縁石皿と、凹部を作らない無縁石皿に分類する。いずれも縄文時代から弥生時代のものである。

**有縁石皿** (第38図56・57、第39図61・62・65) 56・61は、西日本では類例が少ないが、典型的な有縁石皿である。56は、破損しているものの、楕円形とみられる平面形をし、その中に細長い凹部を作る。裏面は、平坦に成形し、一部を凹ます。いずれの面も敲打によって加工する。なお、凹部は図の上部で浅くなっており、掃き出し口の可能性も考えられる。

61は、破損のため形態は明らかでないが、全面を敲打によって成形した有縁石皿である。

57は、典型的な有縁石皿とは言い難いが、三角形をした礫の正面に凹部を設けたもので、凹部の内部には敲打痕とそれを切る磨耗痕がある。裏面には線状痕と敲打痕がある。右側面は、一見すると破断面のようにも見えるが、原礫面と同程度に風化していることと、原礫面や凹部との稜が丸くなっていることの2点から使用後の破損とみることはできない。

62は、破損のため形態は明らかでないが、使用面である図の正面が縦断面で見ると反っているため、有縁石皿の可能性が考えられる。図では表現できていないが、側面の下半から裏面にかけて敲打痕がある。また、図では原礫面とした側面の上半も、摩滅しているものの、加工痕の可能性のある凹凸がある。正面には磨耗痕とそれに切られる敲打痕がある。また、線状痕があることから、砥石の可能性もある。

**無縁石皿** (第38図54・55・58～60、第39図63・64・66) 無縁石皿は、自然礫の形態を大きく変えずに用いた。例外的に使用部位には磨耗痕に切られた敲打痕があるものがあることや、自然礫ではあまりみない広い平坦面を有しているものがあることから、ある程度の加工を施した可能性がある。しかし、使用による変形や敲打の可能性があることや、今回出土した資料はいずれも正裏面の全面を使用しているため面が磨耗痕に覆われていることから、加工の有無や程度を明確にすることは難しい。

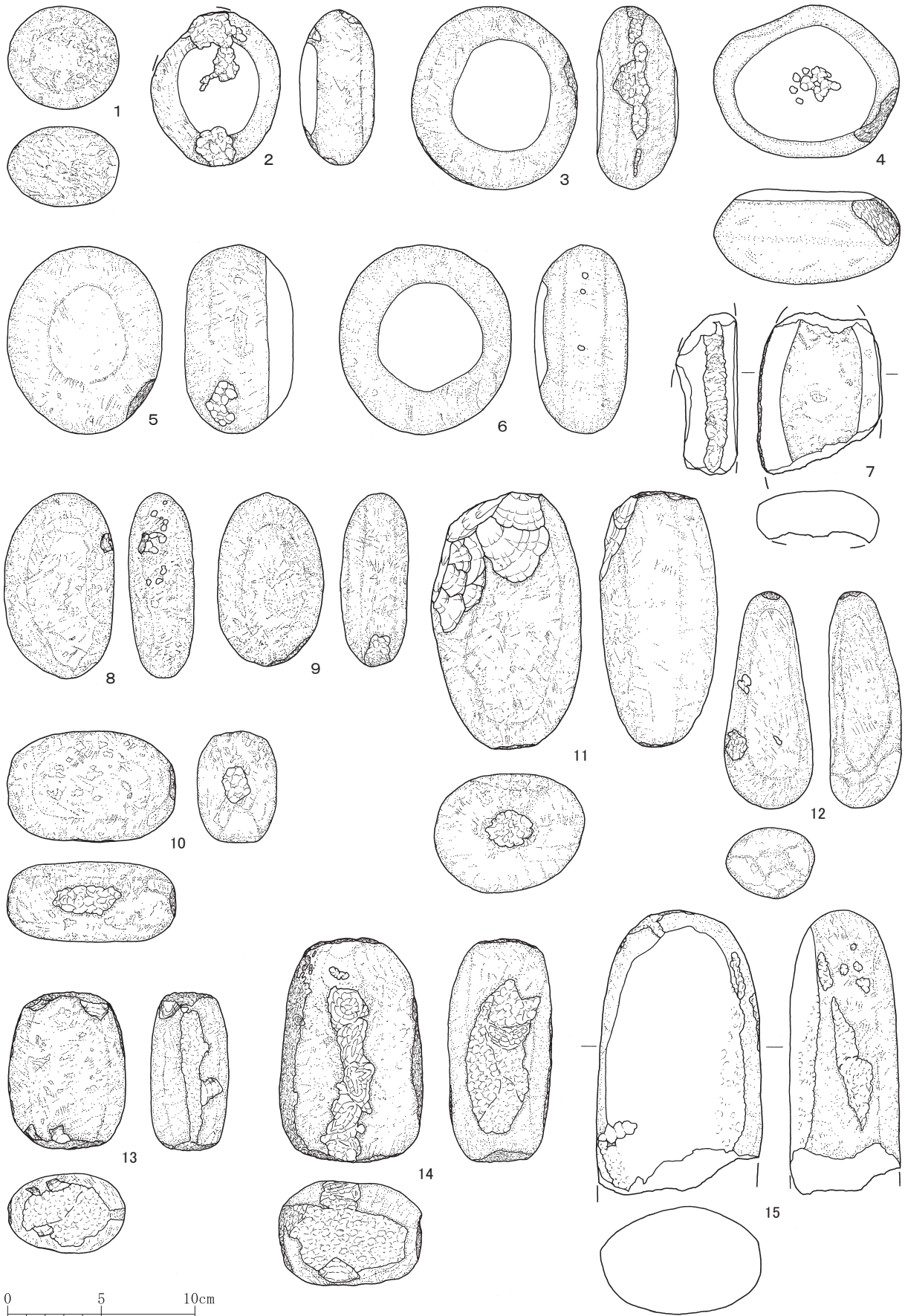
58は、鏝のため観察しづらいが、正面の平坦面に磨耗痕があり、側面は稜の丸くなった凹凸がある。

59は、平面形は円形ないし方形をし、平坦な正面を使用する。なお、裏面には凸部を中心に微弱な磨耗痕がある。また、側面には、摩滅しているものの、凹凸がある。

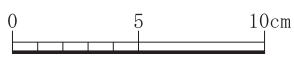
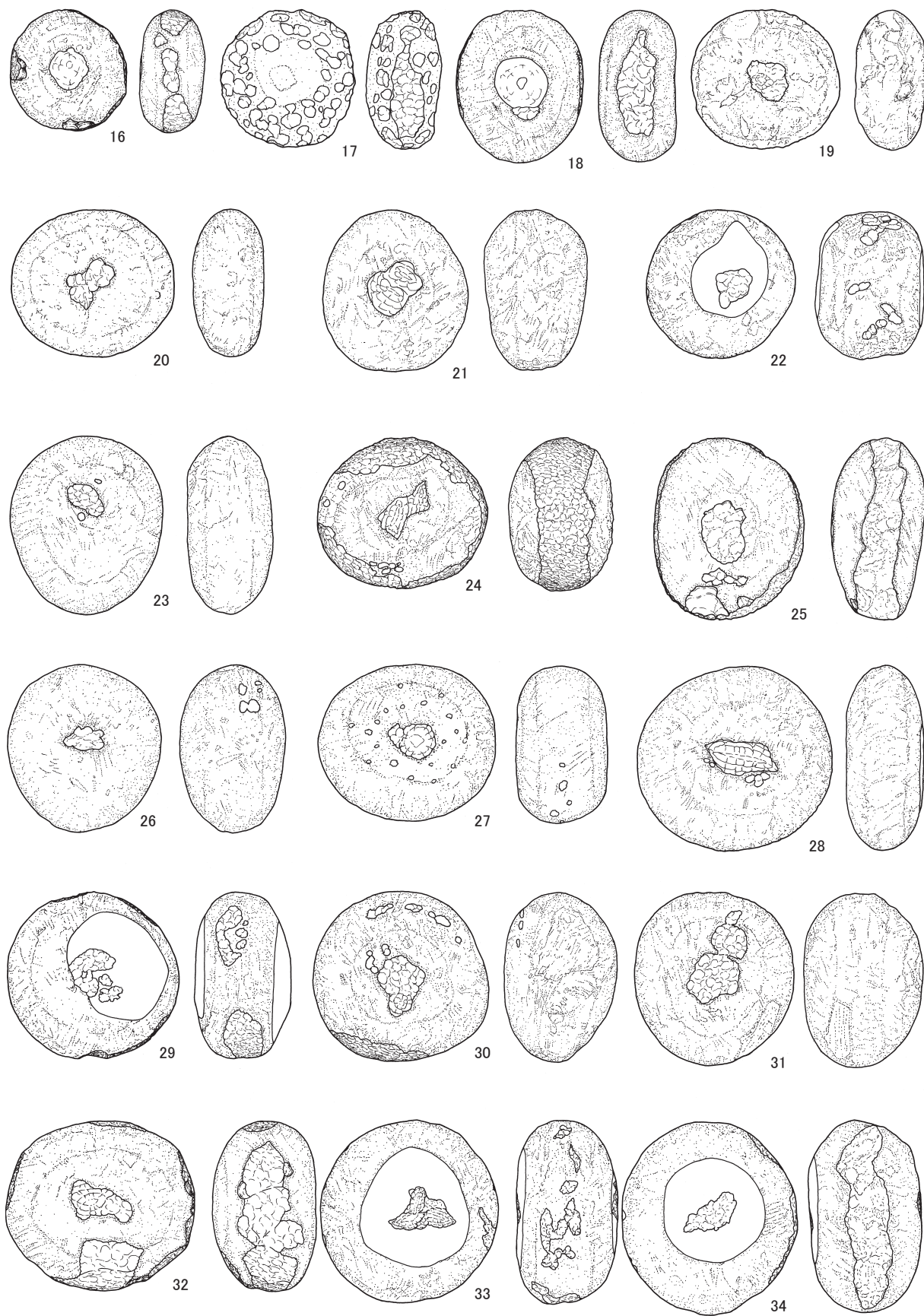
58・59の側面の凹凸は、剝離痕や敲打痕が摩滅したものであるが、人為的な剝離痕・敲打痕が磨耗したものであるのか、自然の衝撃痕跡を残す礫を用いた結果であるのか判断しかねる。

66は、断面楕円形の棒状の礫の正面を使用する。使用面は僅かな凹凸により3つに区画される。

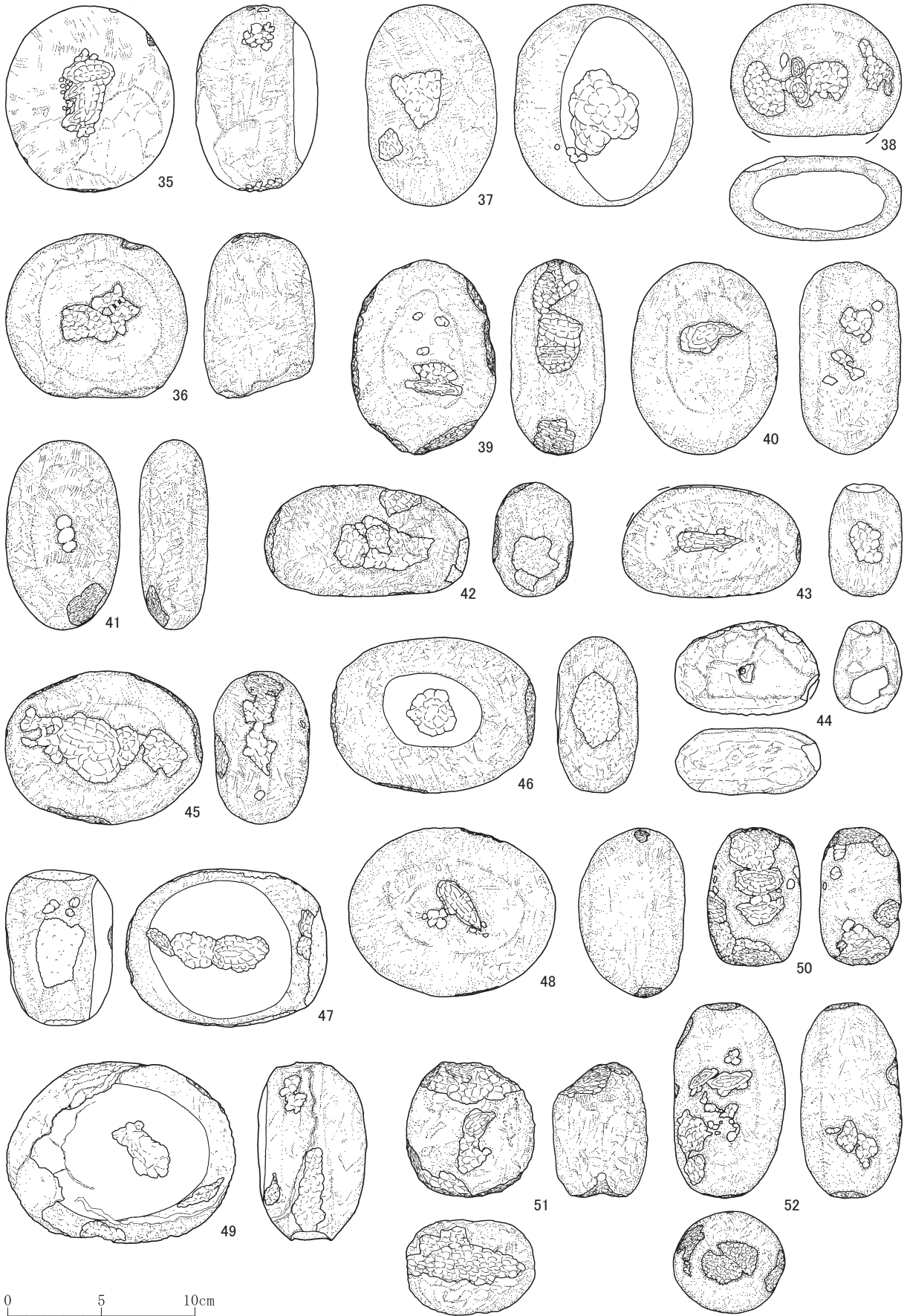




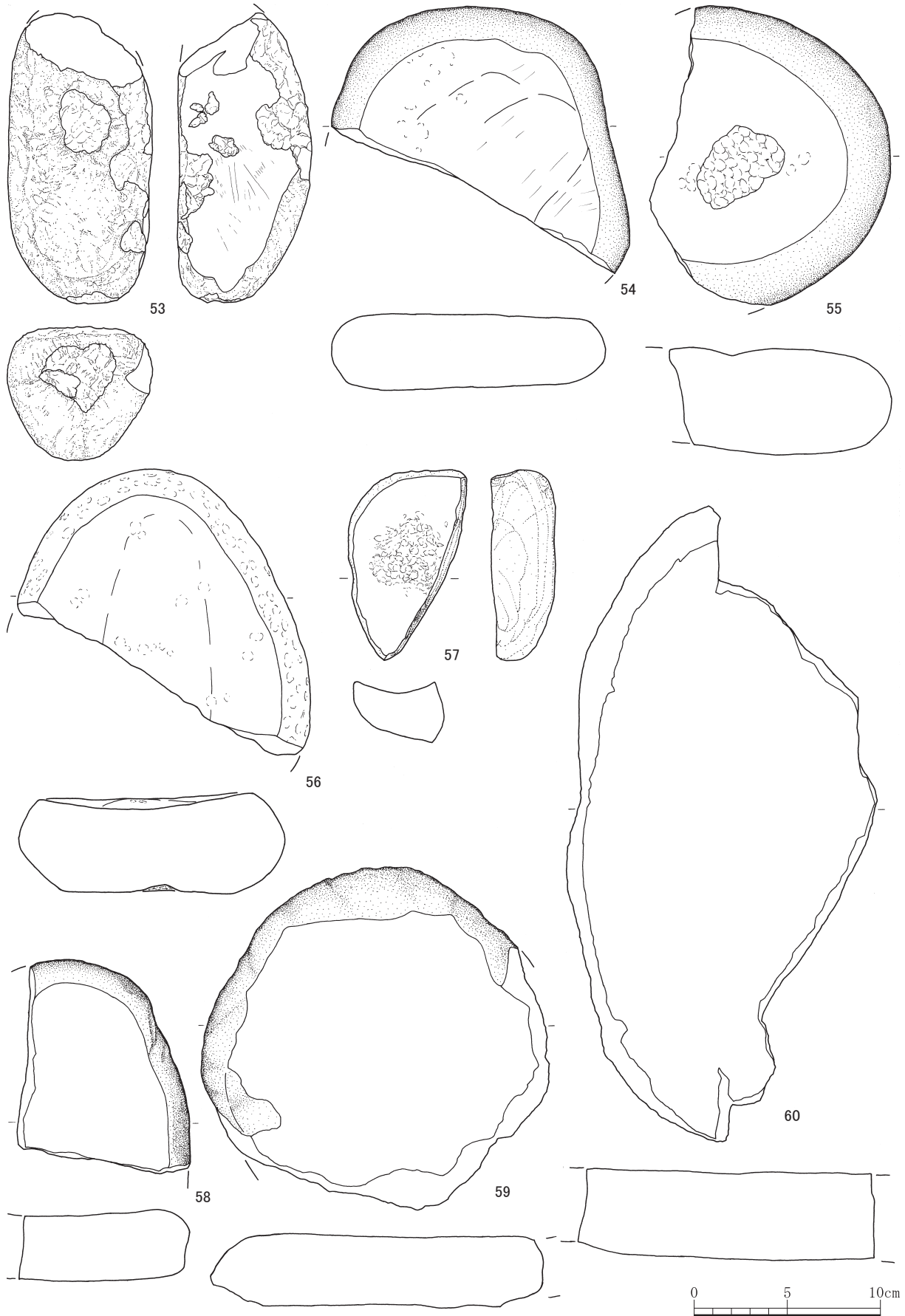
第35図 磨石類 (縮尺1/3)



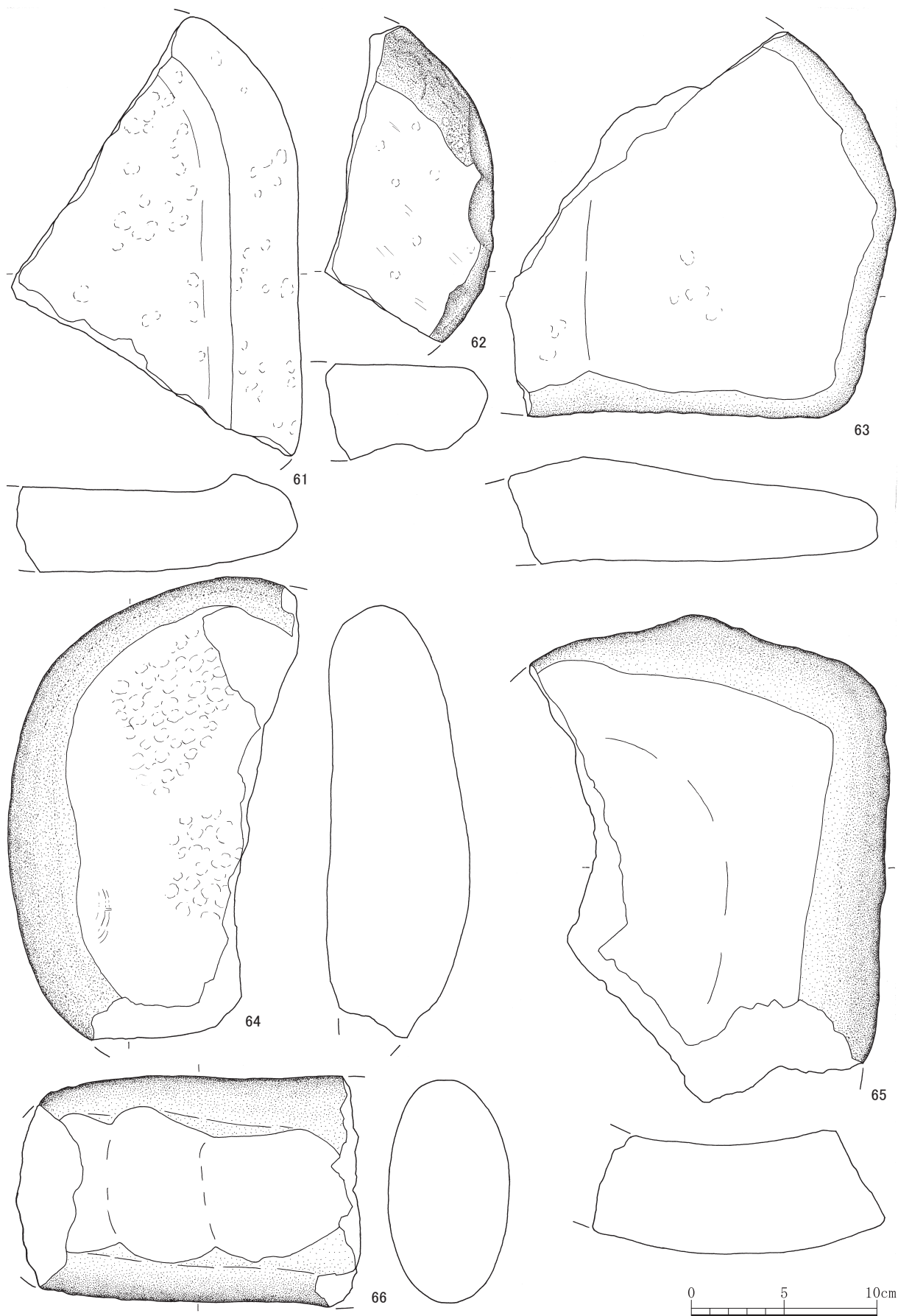
第36図 磨石類 (縮尺1/3)



第37図 磨石類 (縮尺 1/3)



第38図 磨石類、石皿 (縮尺1/3)



第39図 石皿 (縮尺1/3)

第14表 磨石類観察表 (第35～38図)

単位: cm/g ( )は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	6.0	5.5	4.3	196	1/1	安山岩	灰白色	使用痕なし/磨石類状	8区/川 VII層
2	8.3	6.9	4.0	(307)	4/5	安山岩	暗灰褐色		8区/川 V-1層
3	9.7	8.9	4.4	528	1/1	安山岩	灰色		3区/J14 SE 5
4	9.5	8.2	5.1	590	1/1	花崗岩類	灰白色		1区/SD 1 I層
5	10.0	8.3	5.7	657	1/1	安山岩	灰褐色		3区/K17 SX 3
6	10.2	9.2	5.0	726	1/1	安山岩	明紫灰色		8区/川 V-1層
7	(8.6)	(6.7)	(3.2)	(221)	-	砂岩	暗灰色	正裏面の縁に磨耗痕/磨耗痕は敲打痕を切る	8区/川 V-1層
8	9.9	5.9	3.5	314	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
9	9.2	5.7	3.6	279	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
10	9.0	5.9	4.3	332	1/1	安山岩	灰褐色		1区/SD 1 中層
11	13.7	8.0	6.2	964	1/1	安山岩	灰褐色	上端面と左側面上端寄りから剥離	7区/SD15 I層
12	11.7	4.8	3.8	288	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
13	8.3	6.2	4.3	334	1/1	安山岩	灰色		3区/K17 SX 3
14	11.8	7.5	5.6	661	1/1	安山岩	明紫灰色		8区/川 VI層
15	(15.0)	8.7	5.8	(1,090)	2/3	安山岩	灰白色	正面に敲打痕を切る磨耗痕	7区/T3 SP65
16	6.3	6.0	3.3	156	1/1	安山岩	暗灰色		1区/SD 1 上層
17	7.1	7.0	3.9	250	1/1	安山岩	白色	正裏面は未使用か	8区/川 V-2層
18	7.9	6.6	4.0	278	1/1	花崗岩類	灰褐色		8区/川 VI層
19	7.7	7.2	3.7	298	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 III層
20	8.5	7.8	3.7	303	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VII層
21	8.5	7.6	5.3	424	1/1	安山岩	灰白色		1区/SD 1 上層
22	7.8	7.8	5.6	469	1/1	安山岩	暗灰色		2区/I13 SE 3
23	9.4	8.0	4.4	478	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
24	8.9	8.9	5.5	513	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VI層
25	9.4	7.9	4.8	514	1/1	花崗岩類か	灰色		8区/川 III～V-1層
26	8.7	8.0	5.5	550	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
27	9.3	8.1	4.7	565	1/1	安山岩	暗褐色		8区/川 V-2層
28	10.1	9.6	4.0	587	1/1	花崗岩類か	暗褐色		1区/F9
29	9.0	8.7	5.0	592	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VII層
30	9.2	8.9	5.9	613	1/1	安山岩	灰褐色		1区/F9
31	9.1	8.3	6.1	626	1/1	安山岩	灰色		3区/K17 P45 3
32	9.9	8.9	5.4	672	1/1	閃緑岩類	灰褐色		8区/川 VII層
33	9.6	9.3	5.3	699	1/1	花崗岩類	灰白色		2区/I 1 2 SX 1
34	10.0	9.2	5.8	769	1/1	緑色岩類	灰白色		1区/F9

第5節 磨石類、石皿、多孔石、砥石

単位：cm/g ()は残存値

No.	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
35	10.0	9.0	6.5	803	1/1	安山岩	灰白色		1区/SD 1 中層
36	9.7	8.8	6.0	725	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川VI層
37	10.8	9.5	7.0	1010	1/1	安山岩	灰白色		8区/川VI層
38	9.3	(7.1)	4.5	(396)	4/5	安山岩	灰褐色		8区/川V層
39	10.5	7.7	5.0	494	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V-2層
40	10.2	7.9	5.4	659	1/1	安山岩	灰褐色		8区/C4 II層
41	10.2	6.0	3.6	331	1/1	砂岩	灰褐色		8区/川 VI層
42	10.9	6.0	4.3	432	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
43	9.6	6.0	3.9	(314)	4/5	安山岩	灰白色		3区/M1 8 SK 1 4
44	7.7	5.0	3.7	93	1/1	凝灰岩類	にぶい黄橙色	中央に穴をあける/石製品か	8区/川 VII層
45	10.5	8.1	5.0	538	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VII層
46	11.0	8.2	4.5	598	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
47	10.8	8.4	5.6	758	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V層
48	11.0	9.1	5.7	786	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VII層
49	12.3	9.6	5.8	989	1/1	安山岩	灰白色		7区//川C IV層
50	7.5	4.9	4.3	226	1/1	閃緑岩類	灰褐色		8区/川 VII層
51	7.2	6.8	5.0	349	1/1	安山岩	灰白色		3区/M1 8 SK 1 4
52	10.5	6.0	5.3	463	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
53	(15.7)	7.8	7.0	(1,115)	4/5	流紋岩	灰白色		7区/SD 1 5 II層

第15表 石皿観察表 (第38・39図)

単位：cm/g ()は残存値

No.	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
54	無縁	(14.4)	(16.0)	4.1	(1,130)	1/2	安山岩	暗灰色		8区/川 VII層
55	無縁	(13.0)	(16.0)	5.6	(1,464)	1/2	安山岩	灰色		8区/川 VII層
56	有縁	(14.8)	(15.3)	5.5	(1,182)	1/2	安山岩	灰色		8区/川 VI層
57	有縁	10.0	6.0	3.3	281	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
58	無縁	(11.5)	(9.5)	3.7	(603)	1/4	不明	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
59	無縁	(18.6)	(18.7)	3.8	(2,280)	2/3	花崗岩類	灰白色		8区/川 VI層
60	無縁	(34.5)	(16.7)	4.7	(3,985)	1/3	安山岩	灰色		8区/川 VI層
61	有縁	(23.9)	(15.6)	4.5	(1,857)	1/3	安山岩	灰白色		7区/川 aX004
62	有縁	(17.0)	(9.0)	5.3	(1,004)	1/5	安山岩	暗灰色	砥石か	1区/SD 1 上層
63	無縁	20.9	21.0	5.6	(3,481)	1/2	安山岩	灰白色		1区/F9 下層
64	無縁	(24.9)	(15.6)	7.9	(4,208)	1/2	安山岩	暗灰色	凹部に敲打痕顕著	8区/川 VI層
65	有縁	(26.5)	(19.5)	6.0	(3,939)	2/3	安山岩	黄灰色		1区/F9 包含層
66	無縁	(18.7)	12.5	6.5	(2,276)	3/4	安山岩	黒褐色		8区/川 VI層

**多孔石**（第40図9、第41図12） 内面が磨耗した播鉢状の凹みを複数作り出した石器で、大型のものを多孔石とする。時期は、西日本では事例が少ないため判断しづらいが、東日本の事例からみて、縄文時代前期後葉以降のものであろう。

9は、おおむね立方体をし、各面の平坦面を整形する技術は定かでないが、敲打と剝離により成形し、それぞれの面に1～3個の凹みを設ける。

12は、部分的に残存する原礫面から判断して、現状と大きくは変わらない角柱状の礫を用いる。全面を剝離と敲打によって成形し、裏面と両側面に各3～5個の凹みを設ける。なお、右側面に部分的に線状痕がある。正面は、図の上下の端が高く、中央は不定形に浅く凹み、磨耗痕がみられる。

**砥石**（第40図1～8・10・11、第41図13～15） 砥面をもつ石器を砥石とする。時期を限定し難い器種であるが、角柱状など定形的なものは古墳時代以降のものである。凝灰岩類を用いるものが多い。

1は、上下端を欠損しているが、現状では断面四角形の柱状をし、正面には反りがある。敲打により砥面の再生を行い、正裏面と両側面を使用する。いずれの面でも長軸に対して斜交する方向に研ぐ。

2は、一部欠損しているが、現状では板状をし、右側面には長軸方向に湾曲して延びるごく浅い溝がある。敲打による成形ないし砥面の再生を行う。正裏面と両側面を使用し、長軸に斜交する方向に研ぐ。

3は、下端面を欠損しているが、現状では断面四角形の柱状をし、各面には複数の平坦面がある。上端面は敲打で成形する。正裏面と両側面を使用し、長軸に対して斜交およびやや斜交した方向に研ぐ。

4は、上下端を欠損しているが、現状では断面四角形の柱状をし、正面に反りがある。敲打により成形ないし砥面の再生を行い、全面を使用する。長軸に対して斜交および直交する方向に研ぐ。

5は、現状では板状とする。上端面は磨耗しているが、僅かに敲打痕が残る。下端面は剝離により成形する。敲打により砥面の再生を行い、正裏面と両側面を使用する。正裏面では長軸にやや斜交および斜交する方向に、両側面では長軸に斜交および長軸方向に研ぐ。

6は、上下端を欠損しているが、断面四角形の柱状をし、残りの4面に反りがある。敲打により砥面を再生し、正裏面と両側面を使用して、長軸に斜交および長軸方向に研ぐ。

7は、現状では断面四角形の柱状とする。正裏面と両側面に敲打・剝離により成形ないし砥面の再生を行う。全面を使用し、おおむね各面の長辺に斜交および長辺方向に研ぐ。

8は、大きく破損しているが、現状では板状とする。周縁部は礫のままで、正裏面を敲打により成形ないし砥面の再生を行い使用する。線状痕は顕著でないが、辺に対してやや斜交する方向に研ぐ。

10は、上下端を欠くが、現状では断面五角形をした柱状とする。敲打により成形ないし砥面の再生を行い、正裏面と両側面を使用する。いずれの面も長軸に対してやや斜交する方向に研ぐ。

11は、上下端を欠くが、現状では断面六角形をした柱状とする。敲打・剝離によって成形ないし砥面の再生を行い、正裏面と両側面を使用する。いずれの面もおおむね長軸に対して斜交する方向に研ぐ。

13は、断面四角形の柱状の礫を素材とし、正面を僅かに敲打する。右側面は剝離・敲打により成形ないし砥面の再生を行い、線状痕は明瞭ではないが、長軸にやや斜交する方向に研ぐ。

14は、大きく破損するが現状では板状をし、正面と右側面を使用する。正面は敲打によって成形ないし砥面の再生を行い、長軸方向に研ぐ。また、図の上半には長軸方向の浅い溝を設ける。右側面は剝離により成形ないし砥面の再生を行い、長軸に直交および斜交する方向に研ぐ。

15は、現状では直方体とする。側面と端面は削りと剝離により成形する。正面は敲打と溝状の痕跡を残す工具で成形ないし砥面を再生し、長軸に斜交する方向に研ぐ。なお、裏面は磨耗し複数の溝がある。





第40図 多孔石、砥石 (縮尺1/3)



第41図 多孔石、砥石 (縮尺1/3)

第5節 磨石類、石皿、多孔石、砥石

第16表 多孔石観察表 (第40・41図)

単位：cm/g ()は残存値

No.	長	幅	厚	重	残存	石材	色調	正裏面	左右側面	上下端面	備考	出土地点
9	7.3	5.7	6.2	326.0	1/1	凝灰岩類 <sup>カ</sup>	緑灰色	正裏：凹み	右左：凹み	上下：凹み		8区/川V-1層
12	24.0	8.1	8.1	1,567.0	1/1	砂岩	暗灰色	正：不明 不定形のへこみ 裏：凹み	右左：凹み	上：原礫面・剝離痕・敲打痕 下：原礫面・剝離痕・敲打痕		8区/川VII層

第17表 砥石類観察票 (第40・41図)

単位：cm/g ()は残存値

No.	長	幅	厚	重	残存	石材	色調	砥面			備考	出土地点
								正裏面	左右側面	上下端面		
1	(11.5)	4.7	4.4	(309.5)	3/5	凝灰岩類	白色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：欠損		3区/J13 SE 4
2	(15.2)	6.0	3.2	(485.2)	5/6	砂岩	暗灰色	正裏：砥面	右左：砥面	上：欠損 下：一部欠損		8区/川V-2層
3	(10.8)	5.7	5.0	(484.9)	4/5	砂岩	灰白色	正裏：砥面	右左：砥面	上：敲打痕 下：欠損	両端面加工 <sup>カ</sup>	3区/R29 P39
4	(8.3)	4.1	4.2	(202.4)	1/2	凝灰岩類	白色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：欠損	欠損後も使用 <sup>カ</sup>	3区/J14 SE 5
5	8.8	5.2	2.2	169.8	1/1	安山岩	暗灰色	正裏：砥面	右左：砥面	上：敲打痕 下：剝離痕		8区/川V-2層
6	(10.8)	7.8	7.7	789.7	—	凝灰岩類	暗灰色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：欠損		3区/J13 SE 4
7	10.5	7.8	4.5	639.2	1/1	凝灰岩類	灰色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：砥面		7区/川a III層
8	(12.5)	(9.0)	5.6	(1,073.4)	4/5	流紋岩	灰白色	正裏：砥面	右：原礫面 左：欠損	上：欠損 下：原礫面		8区/川VII層
10	(10.3)	6.4	5.8	(438.9)	—	凝灰岩類	灰白色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：欠損		8区/川V-2層
11	(11.5)	8.0	6.2	(729.4)	—	凝灰岩類	白色	正裏：砥面	右左：砥面	上下：欠損		7区/川C IV層
13	25.6	8.1	7.9	2,962.1	1/1	安山岩	暗灰色	正：原礫面・敲打痕 裏：原礫面	右：砥面 左：原礫面	上：原礫面 下：原礫面		8区/川VI層
14	(38.3)	16.4	8.5	(8,008.0)	—	安山岩	灰白色	正：砥面 裏：原礫面	右：原礫面・砥面 左：原礫面・欠損	上下：欠損		8区/川VII層
15	13.5	10.0	6.0	1,149.7	1/1	凝灰岩類	灰白色	正：砥面 裏：溝・摩滅	右：剝離痕・削り 左：削り	上：剝離痕・削り 下：削り		3区/J13 SE 4

## 第6節 石錘（第42～44図）

礫の対になる辺に紐掛け状の凹部を作り出した石器を石錘とし、まとめて報告する。凹部の製作技術に注目して、擦切りにより溝を作り出した切目石錘と、直接打撃によって凹部を作り出した礫石錘とに分類した。いずれも、縄文時代から弥生時代のものである。

**切目石錘**（1～15・17～19・21～23・25～36） 様々な石材の、平面形が楕円形～長楕円形をした横断面が扁平な円磨度6の礫を用いるものが主である。長軸の両端に1カ所ずつ擦切りを施すものが多いが、複数個所に施すもの（10・11）や、溝が廻る有溝石錘（35・36）もある。

一部の資料には、紐によって擦れたと推測できる線状の磨耗がある（8）。

以下では特徴的な資料をみていく。

8は、平面形が楕円形で断面が扁平な礫を用い、両端部に擦切りを施す。なお、紐を掛けて使用した際に擦れたためか、切目の先端が線状に磨耗する。

13は、平面形が楕円形で断面が扁平な礫の両端に擦切りを施す。なお、切目の周辺に線状痕がある。

35・36は、不定形な礫を用い、長軸に沿って溝を1周廻らせる。なお、溝は1本の直線ではなく、短い直線が折れ線グラフのように連結したり、交差したりしているが、これは擦切りの単位であろう。このような複数の直線からなる切目は27・28にもみえる。

**礫石錘**（16・20・24・37～99） 石材は様々で、平面形が円形～長楕円形をした断面が扁平な円磨度6の礫を用いるものが多いが、円磨度5ないし6の板状の不定形な礫を用いたものもある。いずれも、長軸の両端に打撃を加えて凹部を作り出している。また、剝離と擦切りを共に施すものもある（20・24・43・48・71・99）。

製作技術には、具体的な認定基準については検討を要するものの、剝片石器の製作技術についての知見を援用するならば、打点の位置・剝離痕の形状・敲打痕の有無から判断して、正裏面の縁辺を打点として反対側の面へ剝離するもの（45・46・48・50・55・62・64・72・75・87・89・95～97・99）や、礫の縁辺を垂直方向から打撃して剝離や敲打で成形するもの（16・37～39・41～43・47・49・52～54・56・57・59・60・65～67・69～71・73・76・79・84・86・92）がある。

なお、縁辺を垂直に打撃するものについて、両極技法ないし台石を用いたことを確認できる資料が1点ある（41）。しかし、一般的に、礫石錘の定義上、両極技法を認定する際の条件である対になる辺からの打撃が認められること、という基準が使いつらいたため、縁辺を垂直に打撃する際に両極技法を用いたとは言にくい。したがって、41のような確実な資料を除いて、縁辺に対して垂直方向からの打撃、とするにとどめ、詳細は今後の検討をまちたい。

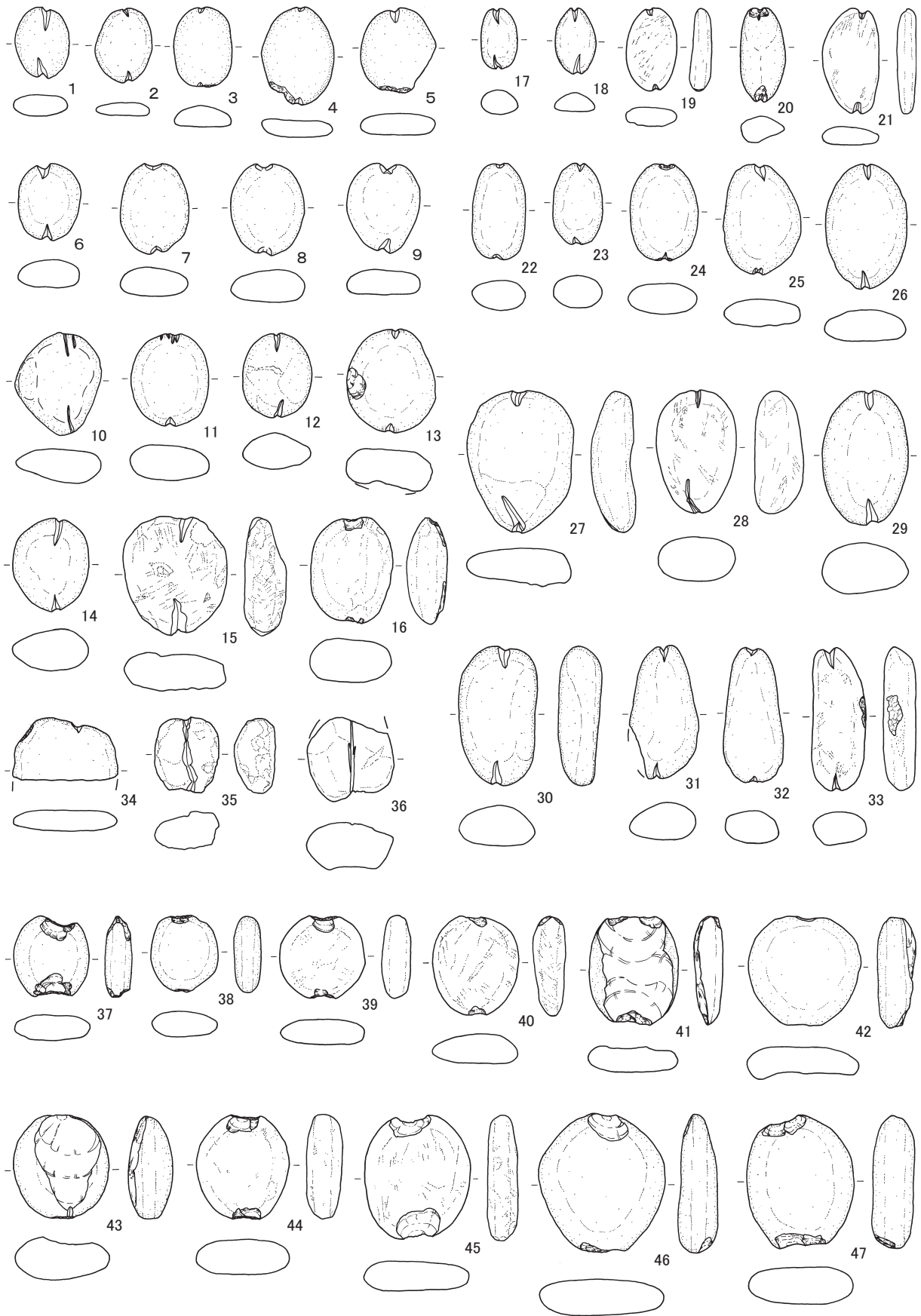
一部の資料には、紐によって擦れたと推測できる線状の磨耗がある（39・73）。

以下では特徴的な資料をみていく。

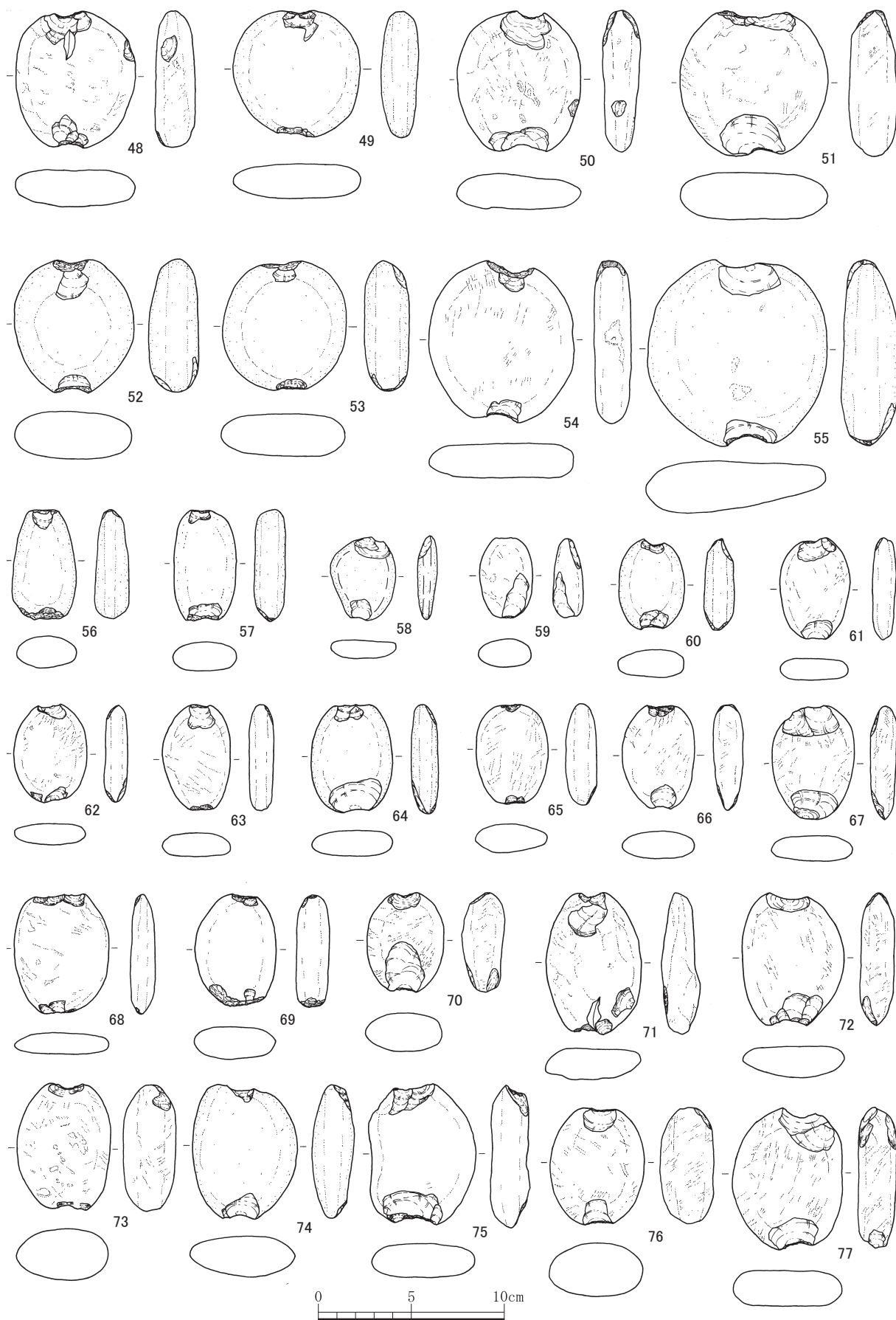
39は、平面形が円形をした断面が扁平な礫を用い、両端を直接打撃によって加工する。なお、下端面の剝離痕は、紐を掛けて使用した際に擦れたためか、線状に磨耗する。

41は、平面形が楕円形で断面が扁平な礫を用い、両端を直接打撃によって加工する。なお、剝離痕は正裏面にあるが、このうち、正面には、両極技法ないし台石を用いたことを示す、相対する辺から広がるリングとフィッシャーがみられる剝離痕がある。また、この剝離痕を切る小さな剝離痕が両端にある。

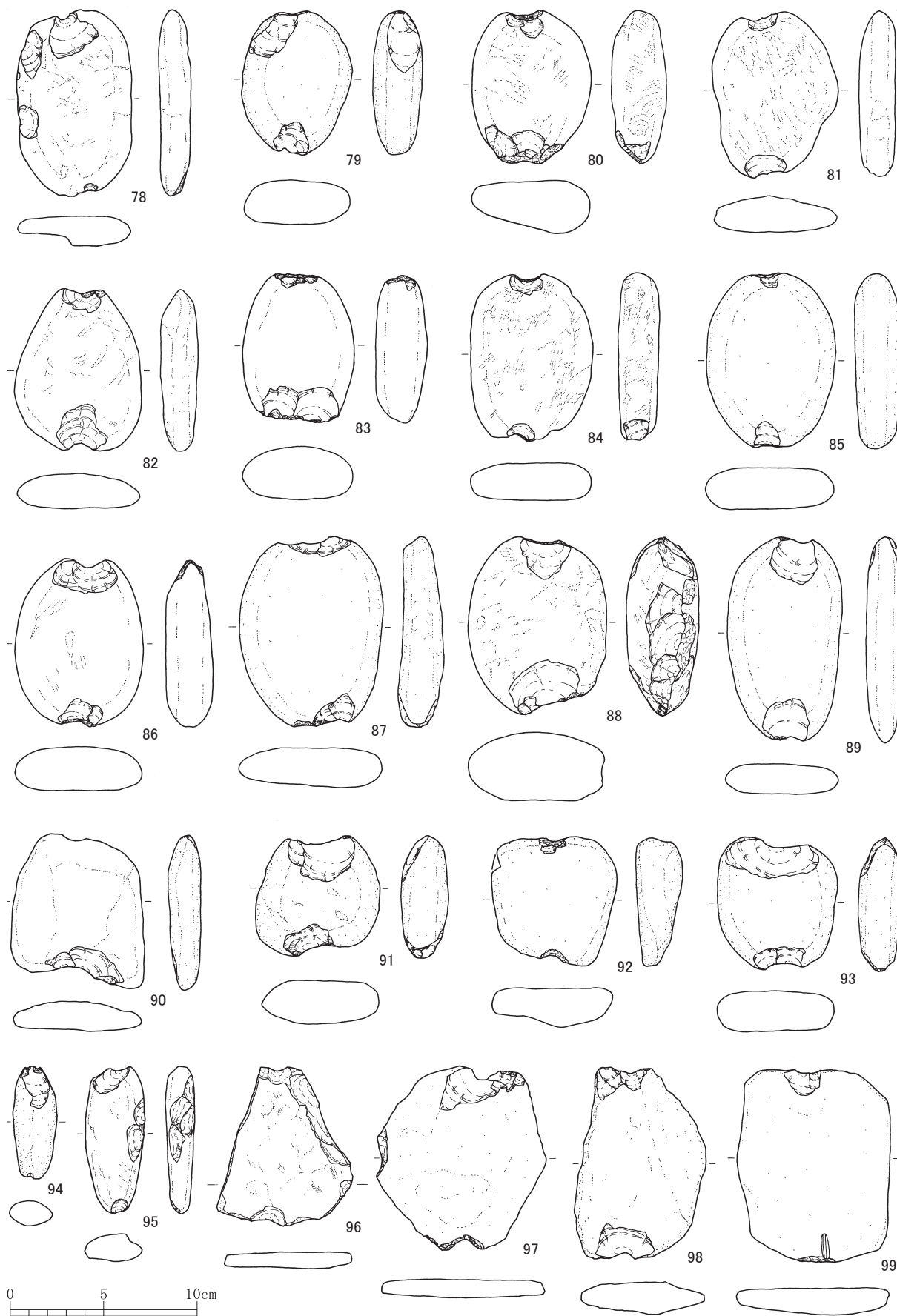
73は、平面形が長楕円形で断面が扁平な礫を用い、両端面に直接打撃によって凹部を作り出す。なお、剝離痕の一部は、紐を掛けて使用した際に擦れたためか、線状に磨耗する。



0 5 10cm  
第42図 石錘 (縮尺 1/3)



第43図 石錘 (縮尺1/3)



第44圖 石錘 (縮尺1/3)

第18表 石錘観察表（第42～44図）

単位：cm/g ()は残存値

No.	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	切目石錘	3.7	2.8	1.2	19.9	1/1	頁岩か	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VII層
2	切目石錘	4.0	3.0	0.7	11.2	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
3	切目石錘	4.1	3.1	1.1	22.2	1/1	砂岩	灰白色		8区/川 VI層
4	切目石錘	5.0	3.8	0.9	22.7	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 VI層
5	切目石錘	4.5	(4.0)	1.1	(24.4)	3/4	砂岩	暗灰褐色		8区/川 VI層
6	切目石錘	4.0	3.3	1.5	29.2	1/1	頁岩	暗灰色		8区/川 VI層
7	切目石錘	4.8	3.6	1.5	27.8	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
8	切目石錘	4.7	3.9	1.7	31.5	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
9	切目石錘	4.6	3.9	1.4	32.9	1/1	砂岩	暗褐色		8区/川 VI層
10	切目石錘	5.4	4.5	1.7	41.5	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
11	切目石錘	4.9	4.2	1.9	41.8	1/1	流紋岩	灰白色		8区/川 VI層
12	切目石錘	4.5	3.7	2.0	43.1	1/1	頁岩	黒褐色		8区/川 VI層
13	切目石錘	5.4	4.2	2.0	61.1	1/1	凝灰岩類	明オリーブ灰色		8区/川 V・VI層
14	切目石錘	5.0	4.0	2.2	64.0	1/1	頁岩	暗青灰色		8区/川 VII層
15	切目石錘	6.2	5.5	1.9	65.0	1/1	凝灰岩類	灰褐色		8区/川
16	礫石錘	5.6	4.3	2.2	75.9	1/1	流紋岩	青灰色		8区試掘坑3
17	切目石錘	3.1	1.9	1.3	10.4	1/1	安山岩	褐灰色		8区/川 VI層
18	切目石錘	3.5	2.1	1.0	9.8	1/1	不明	不明	全面に鉄分付着	8区/川
19	切目石錘	4.4	2.7	1.6	19.1	1/1	安山岩	暗灰色		8区/川 V-2層
20	礫石錘	4.9	2.4	1.3	20.5	1/1	安山岩	暗灰色	切目あり	8区/川 VI層
21	切目石錘	5.4	3.0	1.0	24.4	1/1	頁岩	黒色		8区/川 V-1層
22	切目石錘	5.0	2.8	1.6	27.0	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
23	切目石錘	4.3	2.1	1.7	29.5	1/1	泥岩	オリーブ黒色		8区/川 VI層
24	礫石錘	5.1	3.6	1.6	39.7	1/1	砂岩	灰色	切目あり	8区/川 VI層
25	切目石錘	5.8	4.1	1.5	41.2	1/1	閃緑岩類	灰白色		8区/川 V-2層
26	切目石錘	6.6	4.3	1.6	52.3	1/1	閃緑岩類	灰褐色		8区/川 VI層
27	切目石錘	7.5	5.8	2.0	84.1	1/1	凝灰岩類	灰褐色		8区/川 V-2層
28	切目石錘	6.4	4.3	2.3	81.8	1/1	流紋岩	暗灰色		8区/川 V-1層
29	切目石錘	7.0	4.5	2.6	89.1	1/1	砂岩	灰白色		8区/川 V-2層
30	切目石錘	7.3	4.0	2.1	106.4	1/1	頁岩	暗灰色	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
31	切目石錘	7.0	3.7	2.0	(50.9)	4/5	不明	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
32	切目石錘	7.1	3.1	1.7	54.2	1/1	砂岩	灰色		8区/川 VI層
33	切目石錘	7.6	2.8	1.8	57.5	1/1	安山岩	灰色		2区排土
34	切目石錘	(3.2)	(5.5)	1.1	(29.5)	1/2	凝灰岩類	灰褐色		8区/川 VII層



第6節 石 錘

単位：cm/g ( )は残存値

No.	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
35	切目石錘	4.0	3.9	2.0	28.3	1/1	凝灰岩類	灰色	有溝石錘	8区/川 V-2層
36	切目石錘	(4.4)	4.7	2.4	(45.9)	3/4	凝灰岩類	暗灰色	有溝石錘	8区/川 V-2層
37	礫石錘	4.2	4.0	1.3	27.3	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
38	礫石錘	4.0	3.6	1.3	29.6	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
39	礫石錘	4.4	4.5	1.4	46.4	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VII層
40	礫石錘	5.3	4.5	1.5	49.8	1/1	閃緑岩類	灰白色		8区/川 V-2層
41	礫石錘	5.7	4.7	1.3	54.5	1/1	安山岩	灰褐色	両極技法による成形	8区/川 V・VI層
42	礫石錘	5.8	6.0	1.5	69.4	1/1	砂岩	灰褐色		8区/川
43	礫石錘	5.4	5.1	2.2	85.0	1/1	安山岩	不明	切目あり/全面に鉄分付着	8区/川 VI層
44	礫石錘	5.4	4.9	1.8	75.7	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-1層
45	礫石錘	6.4	5.6	1.5	83.1	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VII層
46	礫石錘	7.2	6.7	1.9	107.8	1/1	凝灰岩類	灰白色		8区/川 VI層
47	礫石錘	7.0	5.6	2.0	121.6	1/1	花崗岩類	灰白色		8区/川 VI層
48	礫石錘	7.3	6.5	2.0	110.0	1/1	凝灰岩類	灰白色	切目あり	1区/SD 1 II層
49	礫石錘	6.8	6.9	1.9	126.2	1/1	流紋岩	灰白色		8区/川 VI層
50	礫石錘	7.6	6.6	1.8	142.3	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V-2層
51	礫石錘	7.6	7.9	2.5	234.9	1/1	閃緑岩類	灰褐色		8区/川 V-2層
52	礫石錘	7.1	6.4	2.6	181.1	1/1	安山岩	暗褐色		8区/川 VI層
53	礫石錘	6.9	6.7	2.2	164.3	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
54	礫石錘	8.7	7.7	1.8	209.4	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 V-2層
55	礫石錘	10.0	9.7	2.8	344.8	1/1	砂岩	暗褐色		8区/川 VI層
56	礫石錘	5.8	3.5	1.8	52.4	1/1	安山岩	暗灰褐色		8区/川 VI層
57	礫石錘	5.9	3.4	1.5	54.5	1/1	安山岩	暗褐色		8区/川 VI層
58	礫石錘	4.4	3.5	1.1	20.0	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
59	礫石錘	4.3	2.9	1.6	23.3	1/1	流紋岩か	白色		8区/川 V-2層
60	礫石錘	4.9	3.5	1.5	42.5	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
61	礫石錘	5.5	3.8	1.2	39.2	1/1	安山岩	暗灰褐色		8区/川 V-2層
62	礫石錘	5.3	3.9	1.1	38.0	1/1	安山岩	暗灰褐色		8区/川 VII層
63	礫石錘	5.7	3.6	1.3	44.7	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 V-2層
64	礫石錘	5.9	4.4	1.4	57.0	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
65	礫石錘	5.3	3.9	1.5	52.4	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VII層
66	礫石錘	5.6	3.9	1.5	53.1	1/1	安山岩	暗灰褐色		8区/川 VII層
67	礫石錘	6.1	4.5	1.4	54.8	1/1	安山岩	暗灰褐色		8区/川 V-2層
68	礫石錘	6.3	5.1	1.1	62.5	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V-2層

第3章 石器・石製品

単位：cm/g ()は残存値

No.	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
69	礫石錘	6.0	4.4	1.8	67.0	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 V-2層
70	礫石錘	5.4	4.1	2.1	70.1	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V-2層
71	礫石錘	7.5	5.1	1.5	81.8	1/1	安山岩	灰色	切目あり	3区/I13・14 包含層
72	礫石錘	7.1	5.5	1.7	99.5	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VII層
73	礫石錘	6.7	5.0	2.8	110.0	1/1	凝灰岩類	灰褐色		8区/川 V-2層
74	礫石錘	7.2	5.7	2.2	118.2	1/1	不明	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
75	礫石錘	7.6	5.7	1.9	132.0	1/1	頁岩	緑灰色		8区/川 V-1層
76	礫石錘	6.2	5.0	2.8	133.3	1/1	砂岩	灰褐色		8区/川 V-2層
77	礫石錘	7.5	6.0	1.9	140.1	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 V-2層
78	礫石錘	10.1	6.1	1.6	138.8	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VII層
79	礫石錘	7.7	5.8	2.4	160.3	1/1	凝灰岩類	灰色		8区/川 III層
80	礫石錘	8.2	6.4	2.9	159.6	1/1	砂岩	灰色		8区/川 VII層
81	礫石錘	9.0	6.8	1.9	171.3	1/1	流紋岩	黄灰色		8区/川 V-2層
82	礫石錘	8.8	6.9	1.9	177.4	1/1	安山岩	灰色		1区/I9 包含層
83	礫石錘	8.0	6.0	2.9	191.9	1/1	安山岩	にぶい黄橙色		8区/川 V-1層
84	礫石錘	8.9	6.6	2.0	213.6	1/1	安山岩	黄灰色		8区/川 V-1層
85	礫石錘	9.4	6.9	2.5	236.8	1/1	安山岩	灰褐色		8区/川 VI層
86	礫石錘	8.9	6.9	2.4	236.5	1/1	安山岩	灰色		8区/川 V-2層
87	礫石錘	10.2	7.7	2.1	288.0	1/1	安山岩	オリーブ灰色		8区/川 VI層
88	礫石錘	9.5	7.5	3.6	333.5	1/1	花崗岩類	灰白色		8区/川 VII層
89	礫石錘	10.8	6.0	1.6	168.7	1/1	流紋岩	灰白色		8区/川 VI層
90	礫石錘	8.4	7.1	1.5	134.2	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
91	礫石錘	6.4	6.6	2.3	131.1	1/1	流紋岩	灰白色		8区/川 VI層
92	礫石錘	6.8	6.7	2.1	139.6	1/1	泥岩	黒褐色		8区/川 VI層
93	礫石錘	7.1	6.4	2.2	146.6	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
94	礫石錘	6.1	2.4	1.4	25.7	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
95	礫石錘	7.9	3.1	1.4	53.4	1/1	安山岩	不明	全面に鉄分付着	8区/川 VI層
96	礫石錘	8.7	7.3	0.8	74.4	1/1	安山岩	灰白色		8区/川 VI層
97	礫石錘	9.9	9.1	1.0	134.0	1/1	安山岩	灰色		8区/川 VI層
98	礫石錘	10.4	7.0	1.9	168.2	1/1	安山岩	褐灰色		8区/川 VI層
99	礫石錘	10.3	8.2	1.5	230.3	1/1	安山岩	灰白色	切目あり	8区/川 VI層

第7節 その他の石器・石製品 (第45・46図)

ここでは、石製品を中心に、出土量が少なく個別に項目を立てると記述が煩雑になる器種を一括して報告する。第45図1は大珠、2～10は石棒、11・12はその他の石製品、第46図1は石庖丁である。

**大珠** 1は、破損しているものの、長楕円形とみられる平面形をする、いわゆる鯉節形大珠である。敲打成形の後、全面を研磨し穿孔する。なお、孔の内面には横方向の線状痕があることから、工具を回転して穿孔したことがうかがえる。縄文時代の石製品である。

**石棒** 石棒は主に縄文時代にみられる石製品で、特に小型石棒は縄文時代後晩期によくみられる。

2は、破損しているが小型石棒である。線状痕は見えないが、全面を研磨し、端部に向かって細くなるように仕上げる。また、研磨の単位が平坦面として観察でき、各単位は長軸に沿って細長く延びる。

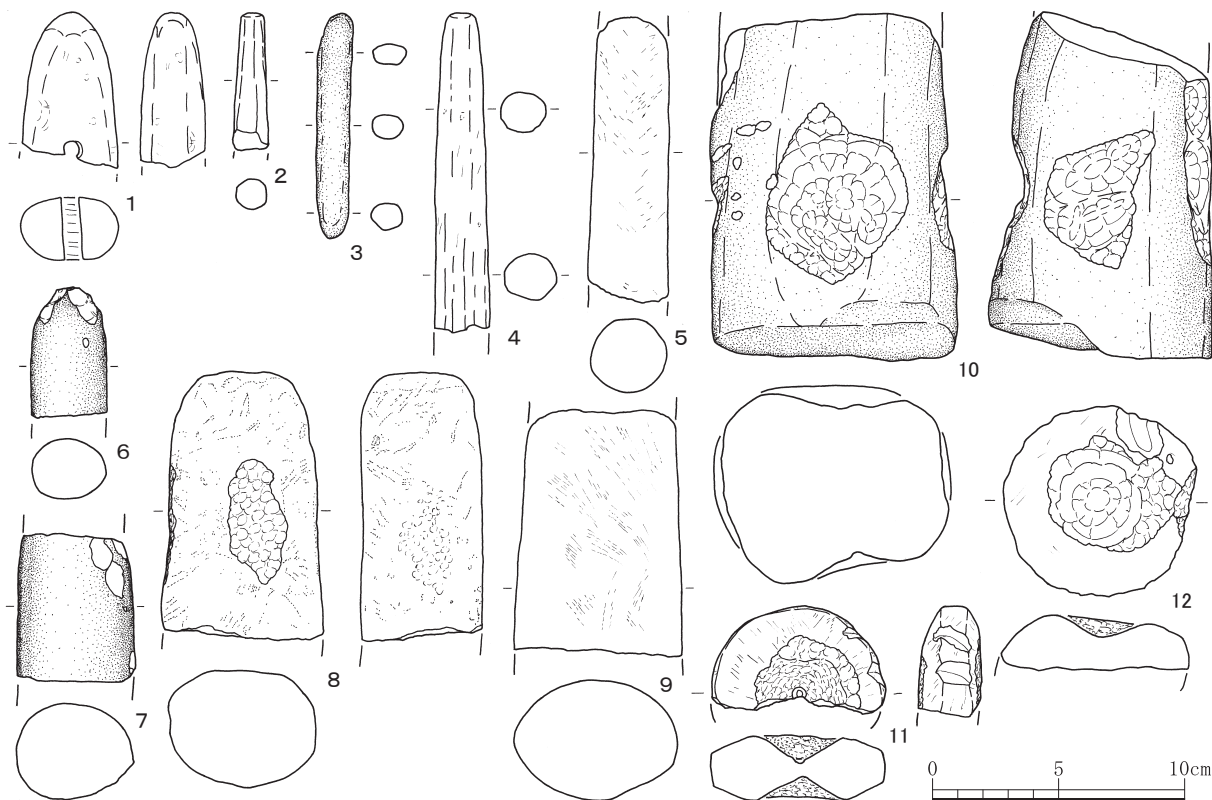
4は、破損しているが小型石棒である。敲打によって成形した後、全面を長軸にやや斜交する方向に研磨し、端部に向かって細くなるように仕上げる。なお、研磨の単位が平坦面として観察でき、各単位は長軸に沿って細長く延びる。また、単位を異にしても研磨の方向は変わらない。

5は、破損しているが小型石棒である。全面を研磨して仕上げる。

8は、棒状の礫を用いる。おおむね原礫面であるが、正面と左側面にアバタ状の敲打痕が密集する。

9は、棒状をし、全面を研磨する。明瞭ではないものの、全面に線状痕がある。

10は、破損しているものの、断面四角形の棒状の礫を用いたものであろう。表面は敲打痕が密集した部分と破損部位を除いて原礫面である。溝状の敲打痕の集中が各面に1～2カ所ある。この敲打痕の集中について、一般的にみられる敲打成形の加工痕はアバタ状の敲打痕である点、石棒製作において凹みを作る必要がない点、溝状の敲打痕は両極技法に使用した加工具に残る敲打痕と考えられている点、の3点から、石棒製作に関わる加工痕とみることはできない。礫の形態を踏まえて考えるならば、石器製

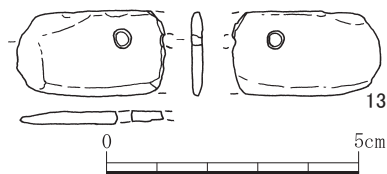


第45図 その他の石器・石製品 (縮尺1/3)

作時の下石として使用した際の使用痕とみるべきである。なお、下端面は、破損しているようにみえるが、他の原礫面と同程度に風化していることと、稜が丸くなっていることから判断して原礫面である。一方で図の上端面は、敲打痕に比べ風化が進んでおらず、後世の破損によって生じた面である。

3は自然石、6・7は剥離痕や敲打痕が僅かにみられる資料である。いずれも石棒とは言い難いが、石棒状の形態をしているためこの節で記載した。

**石庖丁** 13は、粘板岩製で、全面を研磨し穿孔する。なお、研磨方向は様々で、長軸に対して斜交～直交するが、体部と刃部で研ぎ分けている。孔の内面には横方向の線状痕がある。



第46図 石庖丁 (縮尺2/3)

**その他の石製品** 11・12は上記以外の石製品である。類例を確認できず、時期は判断し難い。

11は、破損しているものの、平面形は円形とみられる。断面凸レンズ状をし、正面は研磨する。正裏面に凹みを敲打によって作り出すが、貫通はしない。側面に溝を2カ所設ける。

12も11と類似したものとみられるが、下半を欠損しており詳細は不明である。11同様円形とみられる平面形をし、正面を研磨する。敲打によって凹みを作り出す。側面の一部に溝を設ける。

第19表 その他の石器・石製品観察表 (第45・46図)

単位: cm/g ( )は残存値

No.	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	大珠	(6.2)	3.8	2.5	(89)	1/2	蛇紋岩	灰白色		8区/川VI層
2	石棒	(5.4)	1.4	1.2	(18)	—	緑色片岩	暗青灰色		8区/川V-1層
3	石棒か	8.9	1.3	1.1	20	1/1	緑色片岩か	黒褐色	加工痕なし/石棒状	8区/川VI-2層
4	石棒	(12.6)	2.0	1.9	(89)	1/2	緑色片岩	青灰色		8区/川V層
5	石棒	(11.3)	3.0	3.0	(150)	1/2	緑色岩類	明灰色		8区/川V・VI層
6	石棒か	(5.1)	3.0	2.4	(60)	—	安山岩	灰褐色	先端に剥離面/石棒状	8区/川VI層
7	石棒か	(5.8)	4.7	3.8	(200)	—	安山岩	灰褐色	表面に僅かに敲打痕か/石棒状	8区/川VII層
8	石棒	10.5	6.4	4.7	565	1/1	安山岩	灰白色	敲石か	5区/P27SD1
9	石棒	(9.6)	6.7	4.8	(555)	1/3	斑れい岩か	灰白色	磨製石斧か	8区/川V-2層
10	石棒	(13.8)	9.7	7.6	(1,160)	1/2	凝灰岩類	灰白色	台石か	8区/川V-2層
11	不明石製品	(7.0)	7.0	2.9	(81)	1/2	砂岩	灰色		8区/川V-2層
12	不明石製品	7.6	7.5	(2.1)	(135)	—	砂岩	灰褐色		8区/川V-2層
13	石庖丁	(15.9)	3.4	0.5	(18)	1/2	粘板岩	黒色		3区/M18SK14

参考文献

三好雅也・山口和真 2016「勝山市長尾山・松田遺跡から出土した剥片の岩石学的特徴」『荒土町松田遺跡 ―ホームセンター建設に伴う発掘調査―』(『勝山市埋蔵文化財調査報告書』第24集) 勝山市教育委員会

川添和暁 2002「東海地方における縄文時代後晩期の石鏃について」関西縄文研究会編『関西縄文時代における石器・集落の諸様相 関西縄文論文集』2 六一書房

田部剛士 2001「石器石材の変遷と流通 ―主に愛知県の下呂石を中心に―」『三河考古』第14号 三河考古学談話会

## 第4章 玉作り関連遺物、玉製品

### 第1節 玉作り関連遺物（第47～50図）

#### 原石段階（1～4）

4点あり、いずれも板状に摂理したもので風化面が顕著に残る。一部に不規則な剝離痕が認められるが意図的なものとは判断できない。重量は200～340gで、大きさは8～10cm程度と手のひらに載る程度のものである。大きく割り取った形跡が認められないことから、このサイズで原石を産地から持ち込んだと考えられる。

#### 石核段階（5～9）

5点が該当する。緑色凝灰岩製のものは、長さは5～10.9cmと幅があるものの、幅と厚さは3～4cm前後に収まる。7は柱状で長さが10.9cmあり、2側面は摂理剝離面で、内1面には短軸方向の研磨が見られる。この面を打面として横長剝離がなされ、反対面は逆方向への横長剝離により形成され、その先端部は研磨面を挟むように入り込む。また、その面の打面に扇型の剝離も認められるが、失敗した感も強い。2つの横長剝離は残された剝離面から、板状剝片を作出したと考えられる。5は自然風化面と摂理面を表裏に残し、板状原石を分割して石核としたもので、分割した側面を利用し、摂理面から風化面への剝離によって剝片を作出している。6は全面に不規則な剝離が加えられているが、有効な剝片を作出した感は薄く、打面調整で終わっているものと考えられる。8は上面の摂理による平坦面を打面とし、縦長気味に剝片を作出している。下端部分は小さめの打撃が裏面側から連続してなされ、小剝片は作出できた可能性もある。9はメノウ製で玉錐の製作を意図したものとも考えられ、自然風化面が多く、小さな転石から薄い小型の剝片を作出している。

#### 荒割段階・形割段階（10～29）

13は厚みのある不定形なもので、表面下部から表面にかけてと平坦な面を有する右側面には微調整を加えられている。12・16・17は板状を呈する剝片である。12は先端が薄くなる縦長の板状剝片で、両側片は平らに微調整される。16は施溝分割により横長に剝離したものに、上下右側面を中心に調整剝離が施されている。17は裏面に摂理剝離面を持つ整えられた板状で、表面と両側面に研磨痕が明瞭に認められる。18は断面が三角形状を呈する入母屋風の塊で、稜部分に施溝がなされ、下方向への割取りがなされ分割されたと考えられる。また、右側面上部にも溝とそれに伴う擦痕が見られるが、割り取られた形跡は確認できないため、施溝のみで終わった可能性がある。細かな剝離はほとんどなく、大きく割り取っている段階のものであろう。20も断面が三角形状を呈する塊で、頂点側に溝が施され、下方向へ分割されている。18とは異なり細かな剝離が裏面方向から多く施されている。19は立方体状のもので、施溝により正面は形成され溝を挟んだ反対面は研磨され、右側面は細かな調整剝離で平坦に成形される。下面は摂理剝離面で他は大きな打撃剝離によって形成されている。21は板状剝片を分割したのと考えられ、裏面側からの打撃で割られているが、分割面は屈曲してしまっている。分割面の反対面には研磨痕が認められる。22はやや長い板状剝片を分割したと考えられ、右側面は自然風化面と思われる部分も残す。材質は荒く、良材とはいいがたい。23は施溝を2本有するものである。摂理面に施溝して分割後、その剝離面に1本目の溝に直行する形で再度施溝し分割している。24は施溝により縦方向に割り取られたもので、直方体の塊から分割した後、反対側から打撃により割られている。

#### 角柱状未成品段階（30～34）

30は上下両端部に施溝痕を残すもので、上の溝は板状剝片の短軸方向に施され、長軸方向へ割取りが

なされた痕跡で、その後、剝離面の下端部に施された溝により、短軸方向表面側に割取りがなされている。これは端部調整を意識したものの可能性がある。31も2条施溝痕が残るが、いずれも長軸方向で、板状剥片の表裏から横長状に連続して割り取られたものである。やや幅広になった部分には調整剝離が見られる。32は短軸方向に1条の溝が残る。横長の板状剥片の端部側を施溝分割により割り取っており、風化部分が多く残ることから、それを効率よく除去するための施溝分割の可能性がある。34は長軸方向に1条の施溝があり、その剝離面を研磨している。また、側面に押圧剝離調整が顕著に認められる。28は長軸方向の2条の溝が表裏にみられる。やや厚みのある剥片の両側面を切り落としたようにして、厚みのある角柱状品を作出している。33は押圧剝離が施された長さ1.5cmの角柱状品で施溝痕はない。41は唯一の管玉の完成品で、両側穿孔とみられる。穴の形状から、鉄製の穿孔具が用いられた可能性が高い。

#### 施溝具 (35~38)

4点出土しており、36は頁岩製で他は紅簾片岩製である。38は片辺を欠損するが他の3点と同様に両辺に平行する刃を有するものと考えられる。35は青灰色を呈し、ほぼ完全な形を残す。

#### 管玉製作の様相

原石は手のひらサイズのもので持ち込まれている。産地については明らかではないが、材質的には比較的良質なものが多い。林・藤島遺跡に比べ、濃緑色のものも多く、どちらかといえば加戸下屋敷遺跡のものに近い。玉作りに使用可能な緑色凝灰岩が、遺跡南に位置する鷹栖山周辺で採集されているとの情報もあることから、このあたりから持ち込まれた可能性もある。

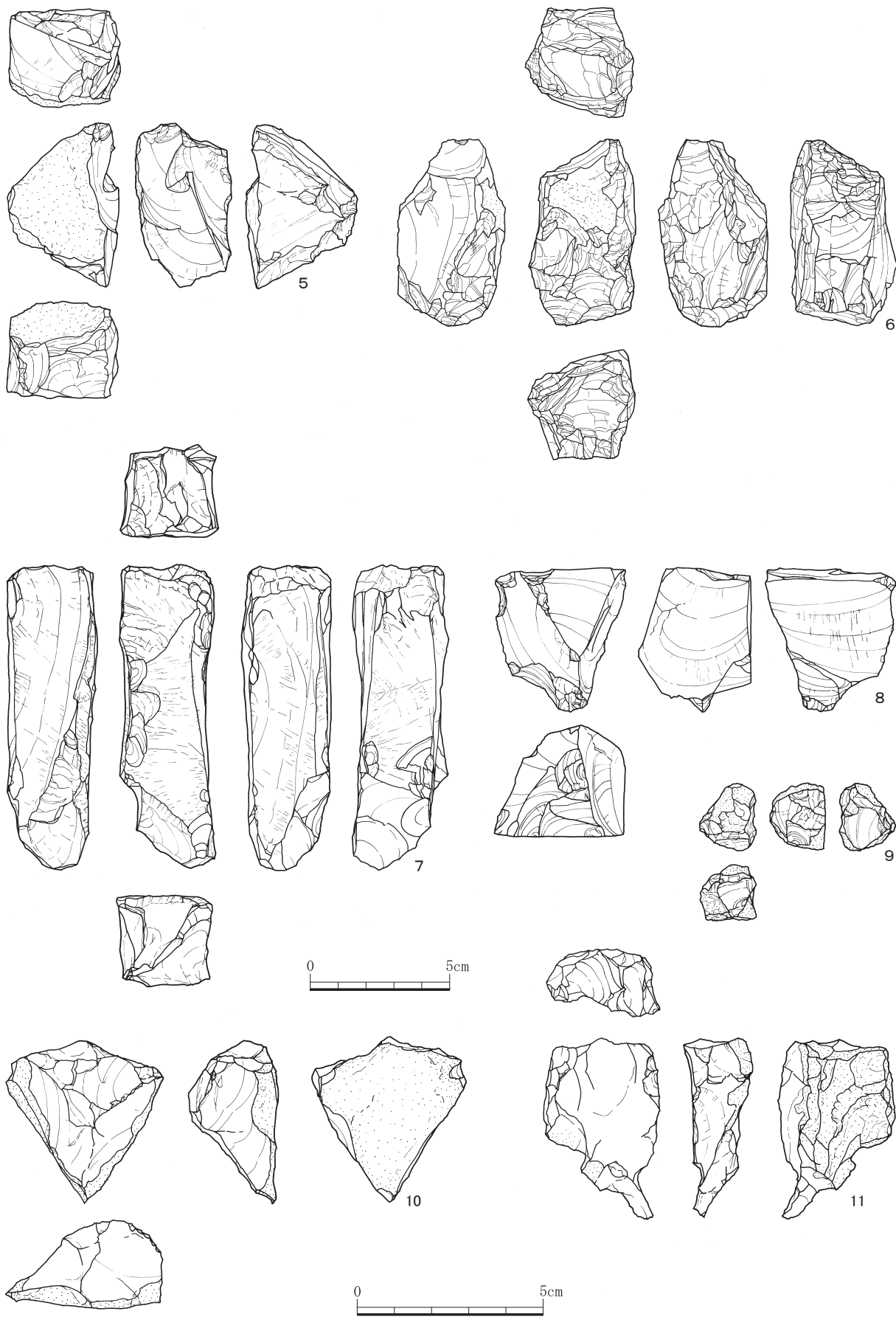
製作技術は原石から板状剥片を作出することが第1段階である。これは、原石に摂理面が顕著に認められ、施溝分割により角柱状品を作出する。この際板状の短軸方向に溝を切り、縦長方向に割り取る例が大半を占め、それらを組み合わせることがない。また、連続する剝離の場合、向かい合う形になることが多い特徴を持つ。このように施溝分割を多用し、施溝具もわずかながら出土していることから、弥生時代中期的様相を示している。加戸下屋敷遺跡では、板状剥片の作出は顕著ではなく、施溝分割を行う位置も一定方向からではなく石材を回転させるように様々な方向から行っており、技法的に差が認められる。これは、摂理が発達し同一方向に割れやすい石材の特徴が大きく起因しているといえる。このことからすれば、加戸下屋敷遺跡と石材が異なっていることを示しているともいえる。一方で、1点出土している完成品の穿孔には鉄製工具が用いられた可能性が高く、弥生時代後期的な様相もうかがえる。この完成品とその他の未成品が同一時期のものかは、最終段階の未成品類が全く検出されていないことから確定はできない。もし、同じ工程の中で出来上がったものであれば、穿孔のみに鉄製工具が使用されていたことになり、中期的様相と後期的様相が混在した時期と考える必要がある。出土量は少なく、県内の弥生遺跡で多く見られる散発的な玉作りと考えられる。ただ、中期の土器がほとんど出土しておらず、弥生時代では法仏期が主体で、この時期の所産とすれば、同時期の林・藤島遺跡の技術と大きな差異があることになり、技術変化の新たな問題提起例ともいえる。

## 第2節 その他の玉類 (第50図42~54)

42は厚さ1cm強で頭部にやや丸みを帯びる直方体の緑色凝灰岩の片面に横方向に5条の溝、反対面上部に深めの溝を施し、頭部面との間に口径2mm弱の穴が穿たれた垂飾玉と考えられるものである。溝は、施溝分割で用いられる摺り切り具で付けられたもので、管玉未成品と同時期のものと考えられる。54は滑石性の扁平な勾玉で、上下2カ所に穿孔されている。上部が欠損しているが、尾部がわずかに作りだされたややいびつな形状を呈する。43~53は滑石製の白玉で、直径は最小(43)が3.6mmで他は4.6~5.5mmである。



第47図 玉作り関連遺物 (縮尺1/2)



第48図 玉作り関連遺物 (5~8縮尺1/2、9~11縮尺2/3)





第49図 玉作り関連遺物 (縮尺2/3)



第50図 玉作り関連遺物、その他の玉類 (23~42縮尺 2/3、43~54縮尺 1/1)

第2節 その他の玉類

第20表 玉作り関連遺物観察表（第47～50区）

単位：cm/g

No.	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
1	原石	8.7	8.3	3.6	340.0	—	緑色凝灰岩	表面：自然風化面/右側面：割取 左側面と上面：不規則な荒割り調整 裏面：節理/形状は板状体	暗濃緑色 硬質 上質	8区/川 V-2層
2	原石	8.2	8.4	3.8	280.0	—	緑色凝灰岩	表裏面：風化面 周囲：不規則な荒割り調整 形状は板状体	淡灰緑色 硬質 縞状スジ多し	3区/K14 SX1
3	原石	10.0	5.2	2.7	200.0	—	緑色凝灰岩	表面：風化面/裏面：節理 周囲：層状に節理/表裏で材質が異なる 形状は板状体	表面：明黄緑色 裏面：暗濃緑色 硬質/上質	8区/川 V-1層
4	原石	2.4	2.7	1.3	6.9	—	緑色凝灰岩	表面：下端に風化面/裏面：節理 周囲：層状に節理	淡緑灰色 やや軟質	7区/SD15
5	石核	5.8	4.0	3.5	85.6	—	緑色凝灰岩	表面：風化面/裏面：節理 右側面：下端風化面/周囲：荒割り調整板 状原石を分割	暗濃緑色 硬質/上質	8区/川 V-2層
6	石核	6.9	4.0	4.9	117.2	—	緑色凝灰岩	表面：上部に風化面/裏面：荒割り調整 周囲：荒割り調整/節理が多い 形状は直方体	淡緑灰色 硬質/上質	3区/SD1
7	石核	10.9	3.5	3.3	185.0	—	緑色凝灰岩	表裏面：節理/左側面：節理 右側面・上下面：荒割り調整 形状は直方体	暗濃緑色 硬質/上質	8区/川 VII層
8	石核	5.0	4.6	4.0	96.9	—	緑色凝灰岩	表裏面：層状に節理/上面：節理、風化 左右側面：節理に荒割り調整 形状は三角柱状体	暗濃緑色 硬質/上質	3区/J13 SE4
9	石核	2.4	2.0	2.0	10.9	—	メノウ	自然面多くあり/乱雑な剥離 玉錐製作を意識	透赤橙色 硬質/上質	3区/M17 SK18
10	荒割未 成品	4.4	4.1	2.4	27.3	—	鉄石英	表面：中央に良質の材 裏面：風化	赤色 硬質	8区/川 III層
11	荒割未 成品	4.7	3.1	1.9	18.0	—	緑色凝灰岩	表面：下半に良質の材 裏面：風化	濃緑色 硬質	1区/F9 包含層
12	荒割未 成品	4.8	3.5	1.2	24.6	—	緑色凝灰岩	板状剥片/表面：荒割り調整 周囲：荒割り調整/裏面：節理	暗濃緑色 硬質/上質	8区/川 V-2層
13	荒割未 成品	5.6	3.6	2.5	35.3	—	緑色凝灰岩	意図的な剥離はない 原石から大きく剥離されたもの 右側面：下端に風化	暗濃緑色 硬質/上質	8区/川 V-2層
14	荒割未 成品	2.7	2.4	1.2	8.0	—	緑色凝灰岩	表裏面：節理 右側面：調整	暗濃緑色 硬質/上質	3区/J13 SE4
15	荒割未 成品	3.1	3.6	0.7	7.2	—	緑色凝灰岩	表裏面：剥離 横長の剥片	淡緑灰色 硬質	8区/川 V-2層
16	荒割未 成品	5.0	3.7	1.7	27.5	—	緑色凝灰岩	表面：左端に施溝痕/右方向に研磨 左側面：施溝後の打撃痕	淡緑灰色 硬質/上質	8区/川 V-2層
17	荒割未 成品	4.1	3.3	1.0	19.5	—	緑色凝灰岩	板状品/表面：研磨/右側面：研磨 裏面は節理	淡緑灰色 硬質/上質	2区/J13 P253
18	荒割未 成品	2.6	3.3	2.3	15.3	—	緑色凝灰岩	表面：風化面 裏面：上頂点施溝痕	淡緑灰色 硬質	3区/SD1
19	荒割未 成品	2.4	2.6	2.6	26.2	—	緑色凝灰岩	表面：節理/上端に施溝痕 左側面：研磨/形状は立方体	暗深緑色 非常に硬質/上質	8区/川 VI層
20	形割未 成品	3.2	2.7	2.3	15.7	—	緑色凝灰岩	右側面：左端に施溝痕 裏面：上端敲打周囲荒割調整 下面：研磨	淡緑灰色 硬質/上質	3区/M18 P389
21	形割未 成品	2.7	2.3	1.7	6.7	—	緑色凝灰岩	表面：節理/左側面：風化面 形状は立方体	淡緑灰色 硬質	1区/SD1
22	形割未 成品	2.9	1.9	1.0	6.7	—	緑色凝灰岩	表面：風化面 下面：風化面	暗深緑色 硬質	3区/K15 SB3 柱穴1
23	形割未 成品	2.3	2.1	2.0	8.2	—	緑色凝灰岩	表面：研磨、左端に施溝痕	暗深緑色 硬質/上質	8区/川 V-2層
24	形割未 成品	2.1	1.5	1.4	4.5	—	緑色凝灰岩	表面：研磨、上端に施溝痕 上面：研磨	暗深緑色 硬質/上質	8区/川 V-2層
25	角柱状 未成品	1.9	1.3	0.8	1.8	—	緑色凝灰岩	右側面：研磨 裏面：研磨	淡緑灰色 硬質/上質	1区/SD4
26	角柱状 未成品	1.5	1.2	1.4	2.3	—	緑色凝灰岩	周囲調整	淡緑灰色 硬質	1区/SD5
27	角柱状 未成品	2.3	1.3	1.2	3.2	—	緑色凝灰岩	三角柱状 周囲剥離調整	淡緑灰色 硬質	2区/J12 P143
28	角柱状 未成品	1.9	1.3	1.6	3.0	—	緑色凝灰岩	表面：節理面 裏面：右端に施溝痕	暗深緑色 硬質/上質	3区/M17 SK16
29	角柱状 未成品	2.6	1.5	0.9	3.8	—	緑色凝灰岩	裏面：節理 周囲剥離調整	淡緑灰色 硬質	3区/M17 SK14

第4章 玉作り関連遺物、玉製品

単位：cm/g

No.	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
30	角柱状未成品	3.4	1.5	1.3	8.7	—	緑色凝灰岩	表面：上端に施溝痕/裏面下端に施溝痕 上面研磨/形状は直方体	暗深緑色 硬質/上質	8区/川 V-1層
31	角柱状未成品	2.5	1.0	0.8	3.0	—	緑色凝灰岩	表面：研磨/左端に施溝痕 右側面：下半調整/裏面：左端に施溝痕 上面：研磨/形状は直方体	暗深緑色 硬質/上質	3区/J13 SE 4
32	角柱状未成品	2.8	1.0	0.7	1.9	—	緑色凝灰岩	表面：風化面/左側面：風化面 右側面：上端に施溝痕/裏面：節理 形状は直方体	暗深緑色 硬質/上質	3区/K17 SK19
33	角柱状未成品	1.5	0.9	0.9	1.7	—	緑色凝灰岩	左側面：風化面/右側面：節理 裏面：剝離/下面：研磨/形状は直方体	暗深緑色 硬質/上質	5区/排土
34	角柱状未成品	1.5	0.7	0.7	1.1	—	緑色凝灰岩	左側面：調整/下面：調整 形状は直方体	淡緑灰色 硬質	3区/J13 SE 4
35	玉鋸	5.2	1.5	0.4	1.8	—	紅簾片岩	上・下辺断面：両刃/端部は折り取り	灰黒色 硬質	1区/G7 SD 1
36	玉鋸	2.4	1.9	0.2	1.8	—	紅簾片岩	上・下辺断面：両刃/表裏面研磨調整/端部は折り取り、研磨	灰黒色 硬質	3区/I13 SK 5
37	玉鋸	4.0	2.0	0.3	3.2	—	紅簾片岩	下辺断面：両刃 片端部を直線的に成形	明灰色 硬質	3区/I13 SK 5
38	玉鋸	3.6	1.6	0.3	2.3	—	紅簾片岩	下辺断面：両刃 元来上辺にも刃部があった可能性あり 片端部を断面半円形に成形	赤紫灰色 硬質	3区/I13 SK 5
39	玉鋸材	2.0	1.5	0.8	5.7	—	結晶片岩	左側面：自然風化右側面折損	暗灰色 硬質	8区/川 VI層
40	筋砥石	5.4	3.7	2.2	41.1	—	泥岩	右側面：筋面/下部欠損 周囲・上面：砥面/断面五角形	灰黒色 硬質/仕上げ砥	8区/川 V-2層
41	管玉	1.0	0.3	—	5.6	1/1	緑色凝灰岩	略完成品/上下面に孔径1.3mm 孔未貫通	淡緑灰色 やや軟質	8区/C3 I層

第21表 その他の玉類観察表（第50図）

単位：cm/g

No.	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	残存	石材	色調	備考	出土地点
42	垂飾品	1.3	2.1	1.1	8.5	1/1	緑色凝灰岩	全面研磨調整/上面の孔径1.2mm 裏面に幅1.5mmの断面V字状の溝を横位に5条の 施溝/裏面上端に幅3mmの溝を横位に施溝/上面 の孔貫通	暗深緑色 非常に硬質 上質	8区/川 VI層
43	白玉	0.36	0.15	0.12	0.02	1/1	滑石	薄厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
44	白玉	0.46	0.15	0.15	0.05	1/1	滑石	薄厚/側面に研磨痕	暗灰色	8区/川 III層
45	白玉	0.59	0.15	0.13	0.05	1/1	滑石	薄厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
46	白玉	0.48	0.14	0.17	0.06	1/1	滑石	薄厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
47	白玉	0.50	0.15	0.18	0.08	1/1	滑石	薄厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
48	白玉	0.48	0.16	0.17	0.08	1/1	滑石	薄厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
49	白玉	0.46	0.15	0.30	0.06	1/1	滑石	中厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
50	白玉	0.49	0.14	0.25	0.10	1/1	滑石	中厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
51	白玉	0.52	0.14	0.31	0.09	1/1	滑石	中厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
52	白玉	0.47	0.15	0.22	0.08	1/1	滑石	中厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
53	白玉	0.46	0.14	0.30	0.12	1/1	滑石	太厚/平滑	暗灰色	8区/川 III層
54	勾玉	2.8	1.4	0.5	3.60	3/4	滑石	上下に穿孔2箇所 上孔径1.5mm/下孔径1.0mm 上部欠損/表裏面研磨 背部に直交する研磨痕/腹部平滑	暗灰色	8区/川 II・III層

## 第5章 木器・木製品

木器・木製品は、第Ⅳ区域8区の川から出土したものが大半を占め、時期は弥生時代後期から古墳時代前期のものが主体となる。その他は、第Ⅲ区域2・3区の中世の井戸から出土したものがこれに次ぐ。木器・木製品の種類については、雑器、容器、農工具、部材、用途不明材、祭祀具に大別した。以下、概要を述べる。詳細については第21～26表に付した。

### 第1節 雑器 (第51～52図 第22表)

1～3・5は8区の川から出土した。弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。1は把手であり、ハート形の板状の把手部に楕円形の穿孔を4カ所入れる。把手部上端はやや捩じれる。軸部との境に突帯を有す。匙柄の可能性が高い。樹種はクワ属である。2は紡錘車で径5.8cm、高さ1.4cmを測る。上面内側は段差をもって削り出され、ハツリ痕が残る。側面は笠状に内湾する。樹種はクワ属である。3は指物であり、長さ16.9cm、幅3.0cmを測る。木取りは柾目であり、両端の突起には浅い凹み残り、箱状の組物の部品と考える。樹種はスギである。5は杓子であり、長さ12.2cm、幅9.0cmを測る。杏仁形の浅い底部から径0.6cmを測る棒状の柄が削り出されている。

4・6～8・11は3区の中世の井戸SE5から出土した。4は下駄であり長さ24.4cm、幅13.0cmを測る。鼻緒孔は3孔を有す。底部には歯部が2枚削り出され、歯部の断面は逆台形を呈す。樹種はケヤキである。6・7は両口箸であり、中央に膨らみをもつ。長さ21～22cm、幅0.5～0.6cmを測る。6は断面が六角形、7は長方形を呈す。樹種はスギである。8は曲物の底板と推定する。一隅は弧状に加工され、周縁に木釘を留めた円孔が残る。片面に鳥の頸部を描いたような線刻を有す。樹種はスギである。

9は折敷を俎板に転用したものと推定する。非常に密な柾目板を用い、表面に無数の刃傷が付く。11は曲物の底板である。径約15.0cm、厚さ1.1cmを測る。周縁は、内面から外面にかけて斜めに面取りし、側板のクレソコを嵌めた痕が残る。樹種はスギである。

10は7区の奈良・平安時代の井戸SE2から出土した曲物の底板である。11と同様に周縁に側板のクレソコを嵌めた痕が残る。樹種はスギである。12・13は3区SX1から出土した曲物である。12は径13.5cm、高さ7.6cmを測る。長さ約40cmの柾目板を側板にする。底板は側板のクレソコに嵌め込まれ、0.3cm上げ底になっている。側板内面には綾杉状のケビキ線が残る。側板閉合部に長方形穿孔を9ヶ所設けて、幅0.8cmの樺状樹皮を通して固定している。

14は3区の奈良・平安時代の井戸SE1、15は同時代の井戸SE3の底面に井戸枠として据えられていた曲物である。樹種はともにスギである。14は径54.0cm、高さ46.4cmを測る。幅2.8cmの側板外板が最下位に残る。側板の内面に縦線ケガキが1.0～2.0cm間隔で施される。側板の閉合部には縦1列に縦0.2cm、横0.4cmの長方形孔を17カ所設けて樺状樹皮で固定している。15は径48.4cm、高さ42.2cmを測る。側板は外板と内板となり、外板は3枚、内板は1枚となる。内板内面に縦線ケガキが1.0～2.0cm間隔で施される。側板の閉合部には縦1列に縦0.2cm、横0.4cmの長方形孔を20カ所設けて樺状樹皮で固定している。外板と内板の間には部分的に縦板を挿入し固定している。

16・17は3区の奈良・平安時代の井戸SE3から出土した漆器椀である。16・17の底部はベタ高台であり、内外面は黒漆地で仕上げる。高台部に漆は塗布していない。16は内外面に朱漆で木葉文を描き、樹

種はケヤキである。17は内面底部に朱漆で文様を入れる。

18は3区の中世の井戸SE5から出土した漆器皿であり、内外面は黒漆地で仕上げ、内面に朱漆で文様を描く。高台にも漆が塗布されていたと考える。樹種はブナ属である。

19～21は2区の中世の井戸SE2から出土した漆器椀である。19・20の底部はベタ高台であり、内外面は黒漆地で仕上げる。19の高台に漆は塗布していないが、20の高台周縁には漆がわずかに残る。共に樹種はケヤキである。21の高台はベタ高台であり、内外面は黒漆地で仕上げ、朱漆で「片輪車文様」を施す。片輪車は波切車とも言われ、「波(難)を切る」縁起文であり、源氏物語9帖や御伽草子では「生のあはれ」の象徴としても詠われている。樹種はケヤキである。

## 第2節 容器 (第52・53図 第23表)

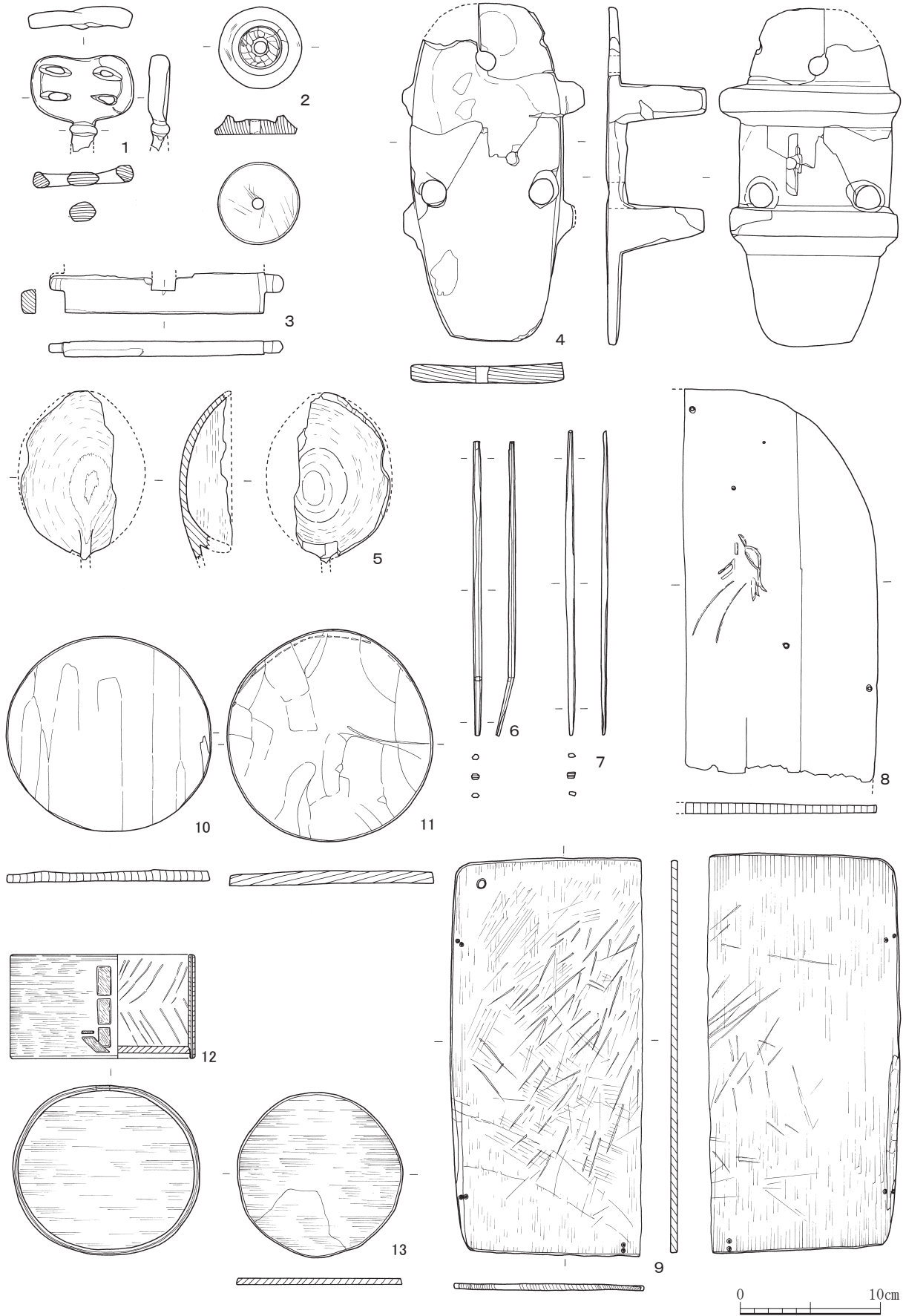
22～30は8区川IV・V層を中心として出土した。弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。23・26・29を除き、いずれも樹種はスギと判明した。

22は槽の脚部を転用しようと削り出した部材と推測する。23は本来、板目材の盤であり、板状の突起は脚部と考える。転用品として一部が切り取られた可能性がある。24～30は槽である。24は台形脚部が1脚残り、端部で内湾して立ち上がる。25は底部裏側を弧状に成形した後、中央を方形に抉る。底部内側の両端には、転用前の加工と見られる幅1.0cmの切れ込みが残る。26は内側を椀状に削り貫き、口縁部周縁を面取りする。27は平面形が長楕円、側面が舟形を呈し、脚の一部が残る。28は両側面が上方へ立ち上がり、断面はコノ字を呈す。端部は欠損しているが、緩やかに底部から立ち上がると考えられる。29は端面が厚く、内湾して立ち上がる。桶状の容器に再加工した可能性がある。30は端部が上方へ立ち上がる。側面は緩やかに内湾して立ち上がる。底部に径0.4cmの補修孔らしき円孔が2カ所ある。

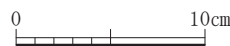
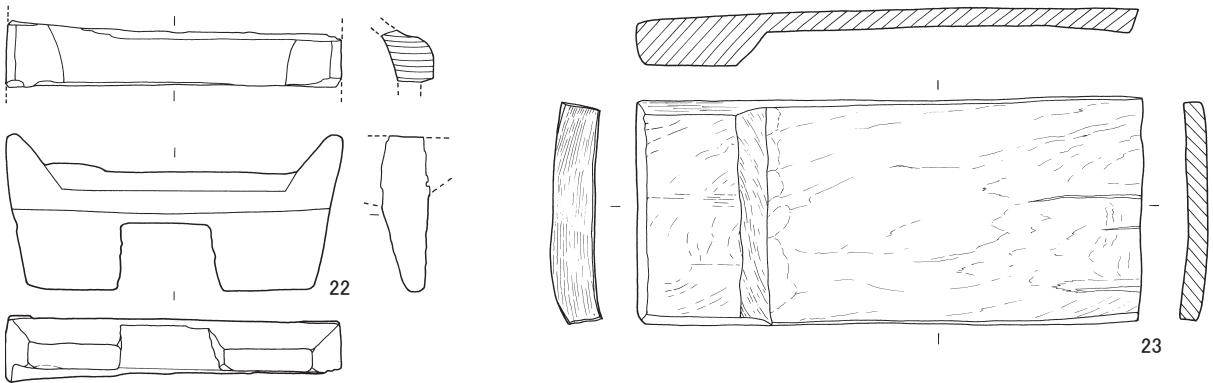
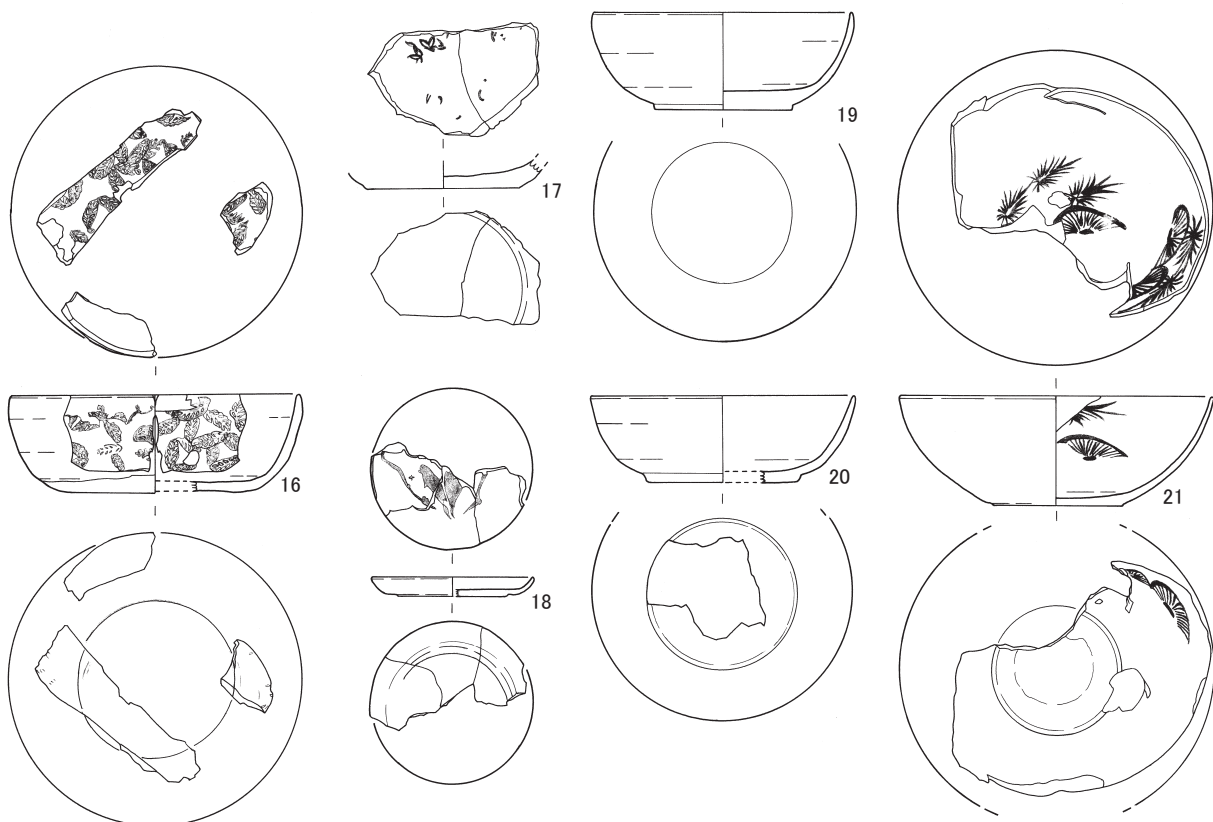
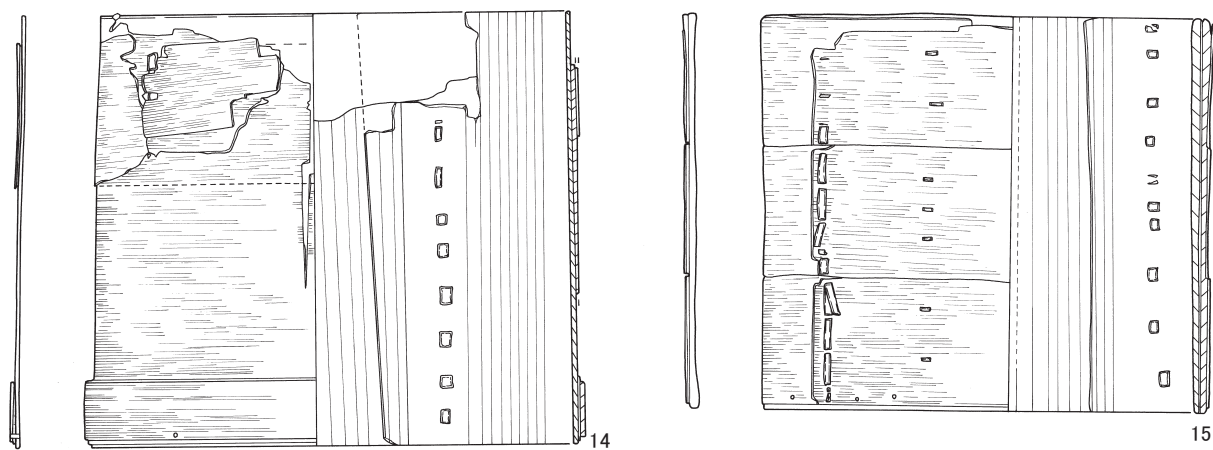
## 第3節 農工具 (第54・55図 第24表)

31～39・41・43は8区川のV層から出土した。時期は弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。

31～33は鋏であり、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。31・32は、共に上端部を三角形に加工した曲柄平鋏である。33は逆涙滴状の柄孔部を削り出し、柄孔部の左右に長方形孔をもつ。38のような柄を装着した直柄平鋏と考えるが、泥除けを装着していた可能性がある。34は中央部左右に半円形の孔をもち、周縁を両刃状に加工している。有頭状の基部は柄を装着するため裏面を平坦に加工している。鋤とされる木製品だが、掘削具としての耐久性に疑問点もあり、攪拌具や儀仗とも考えられる。樹種はスギである。35は中央に棒を差し込み、片側に同様の部品を装着して、「工」の字に組んだ糸巻き具、杵と考えられる。樹種はアサダである。36は上端を平坦に面取りし、下端が緩やかに曲がる。形状から儀器としての戈または手斧の柄と考える。樹種はクワ属である。37は上端が尖頭に加工された板目材であり、布織具の可能性がある。40は鋏の柄であり、7区SE2の底面から出土した。断面は多角形を呈し、下端を丸く面取りしている。41・42は木錘である。41は扁平気味な直方体の角を削り、両側面中央に紐掛け溝としてV字状の抉りを左右に入れる。42は3区の中世の井戸SE5から出土し、棒材を鼓状に加工し、端部周縁を面取りする。41の樹種はムクロジ、42はコナラ属アカガシ亜属である。43は芯持丸木を用いた横槌である。奈良・平安時代のものとする。長さは16.8cmを測る。打面部上端周縁は面取りされ、使用による凹みが顕著に残る。柄部には、疱瘡除けの祭祀に用いられる土馬などに見られる同心円文を15個線刻しており、まじない具としての使用も想定できる。樹種はマツ属複雑管束亜属である。

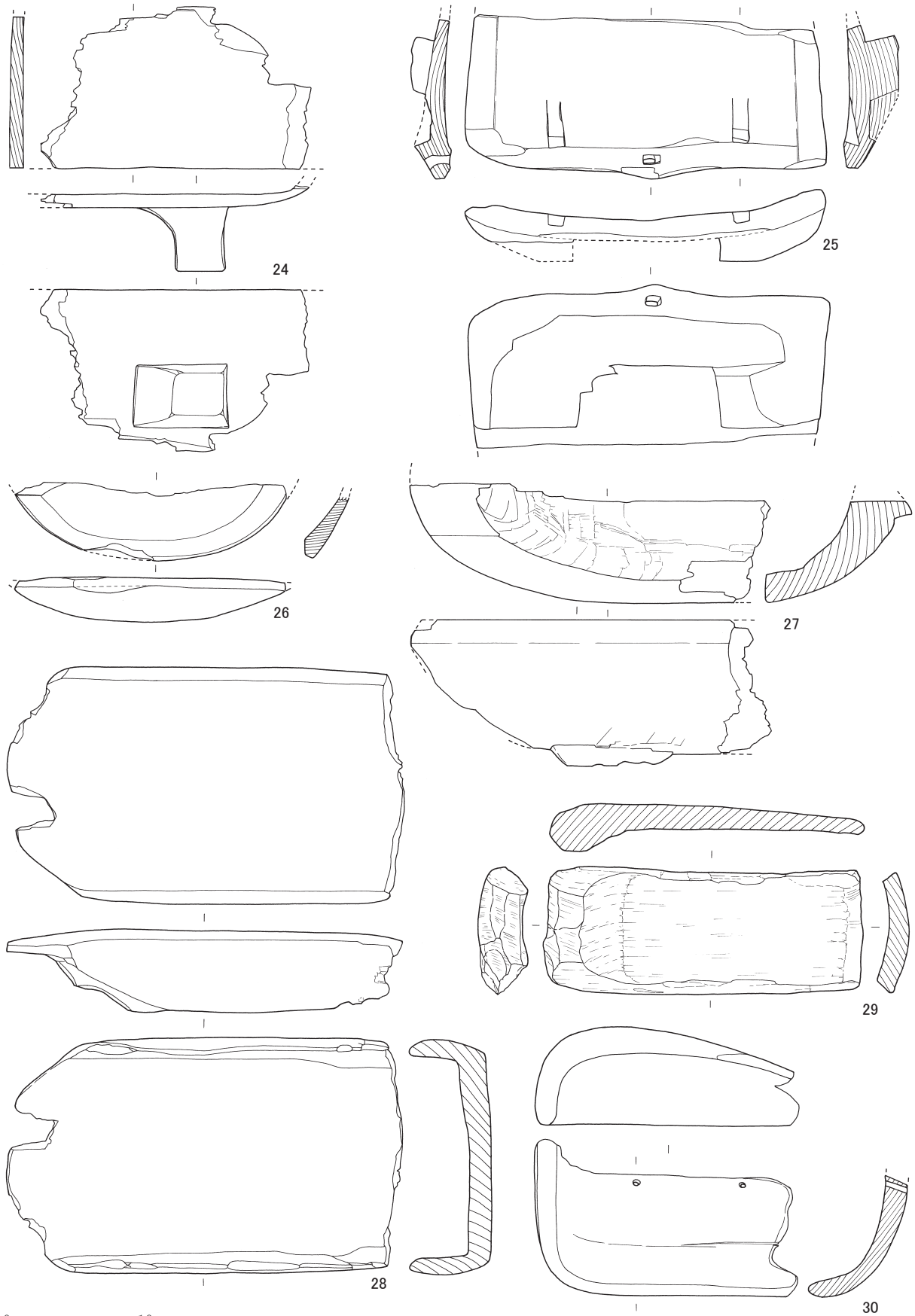


第51図 雑器 (縮尺1/4)

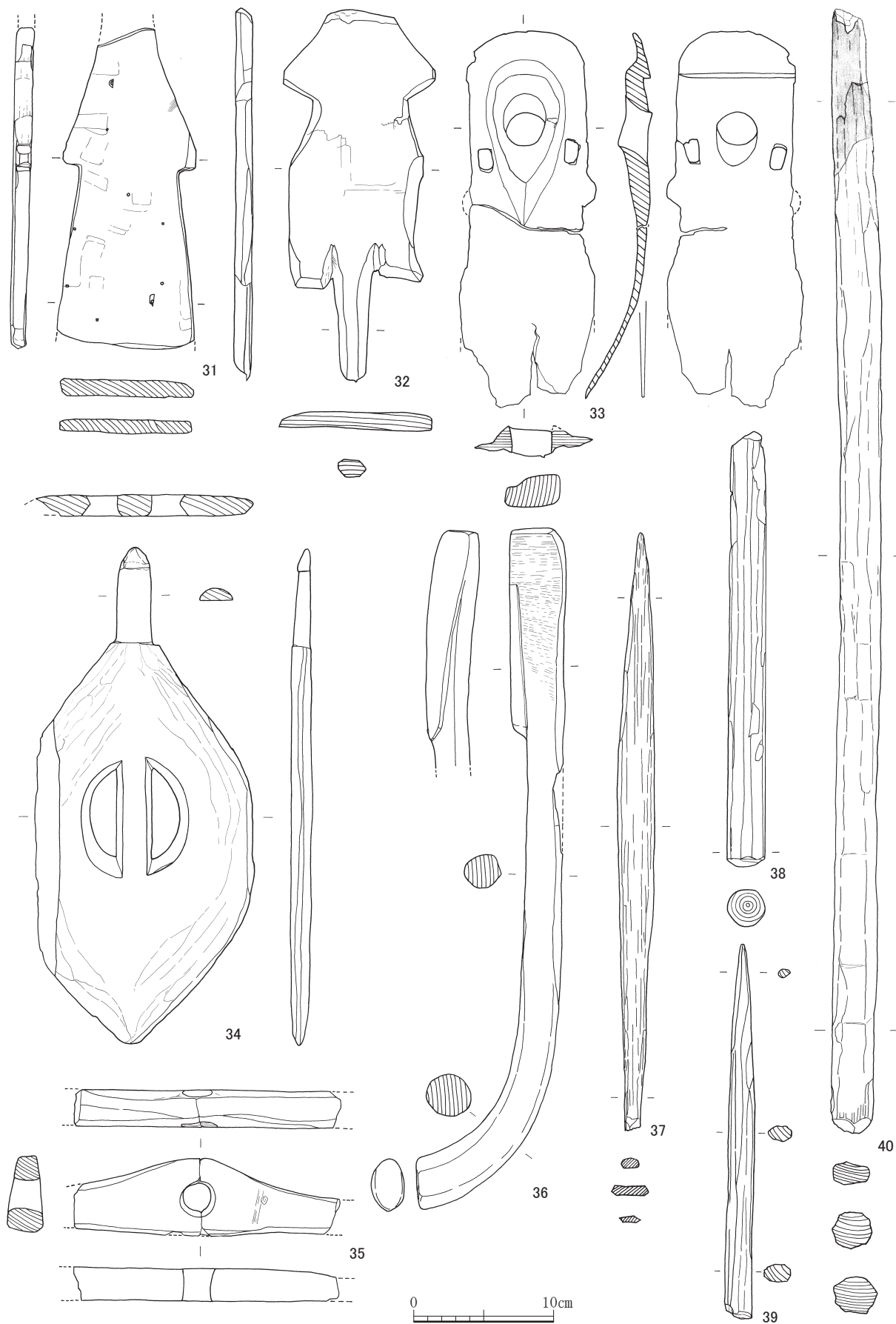


第52図 雑器、容器 (縮尺1/4)

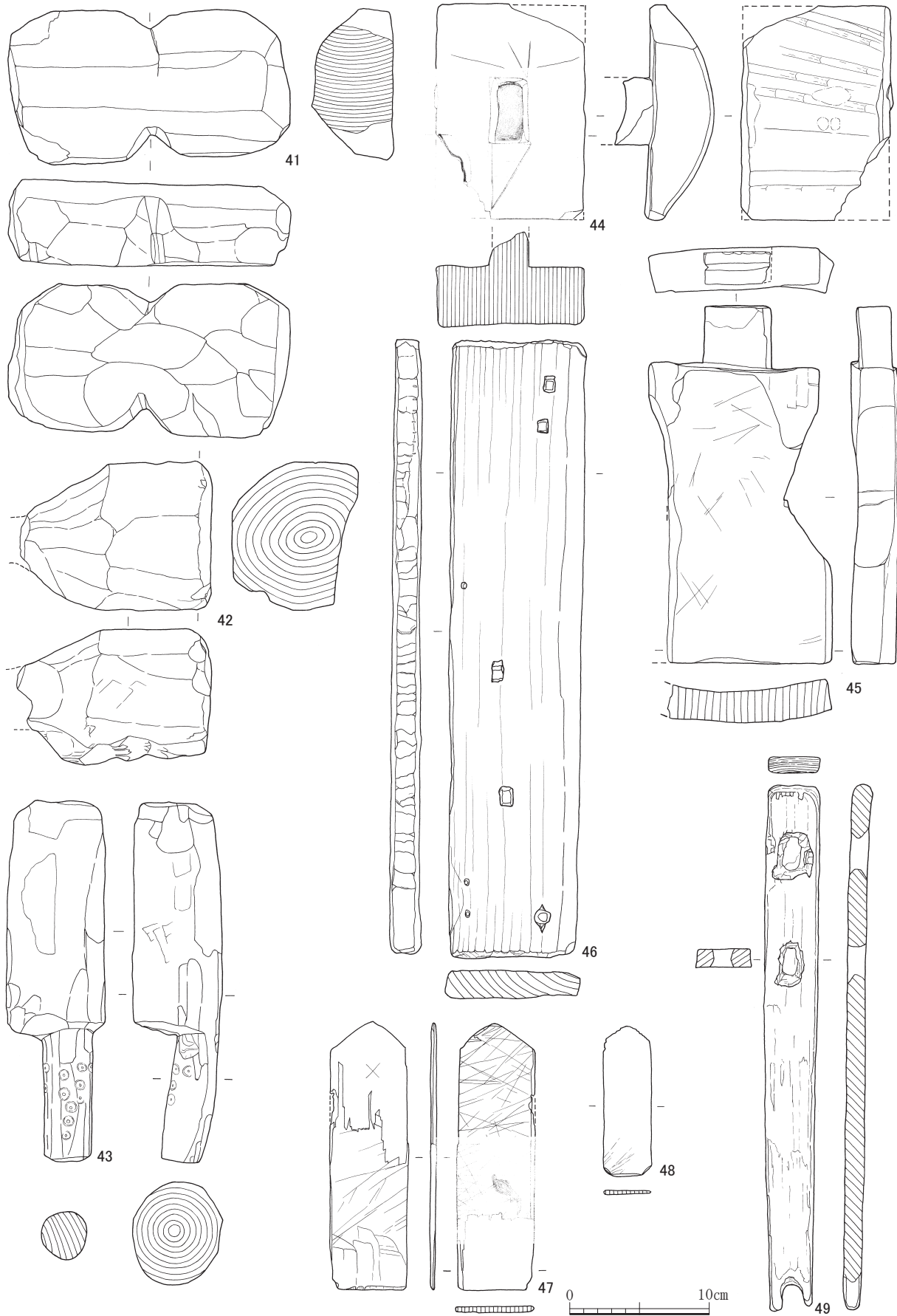




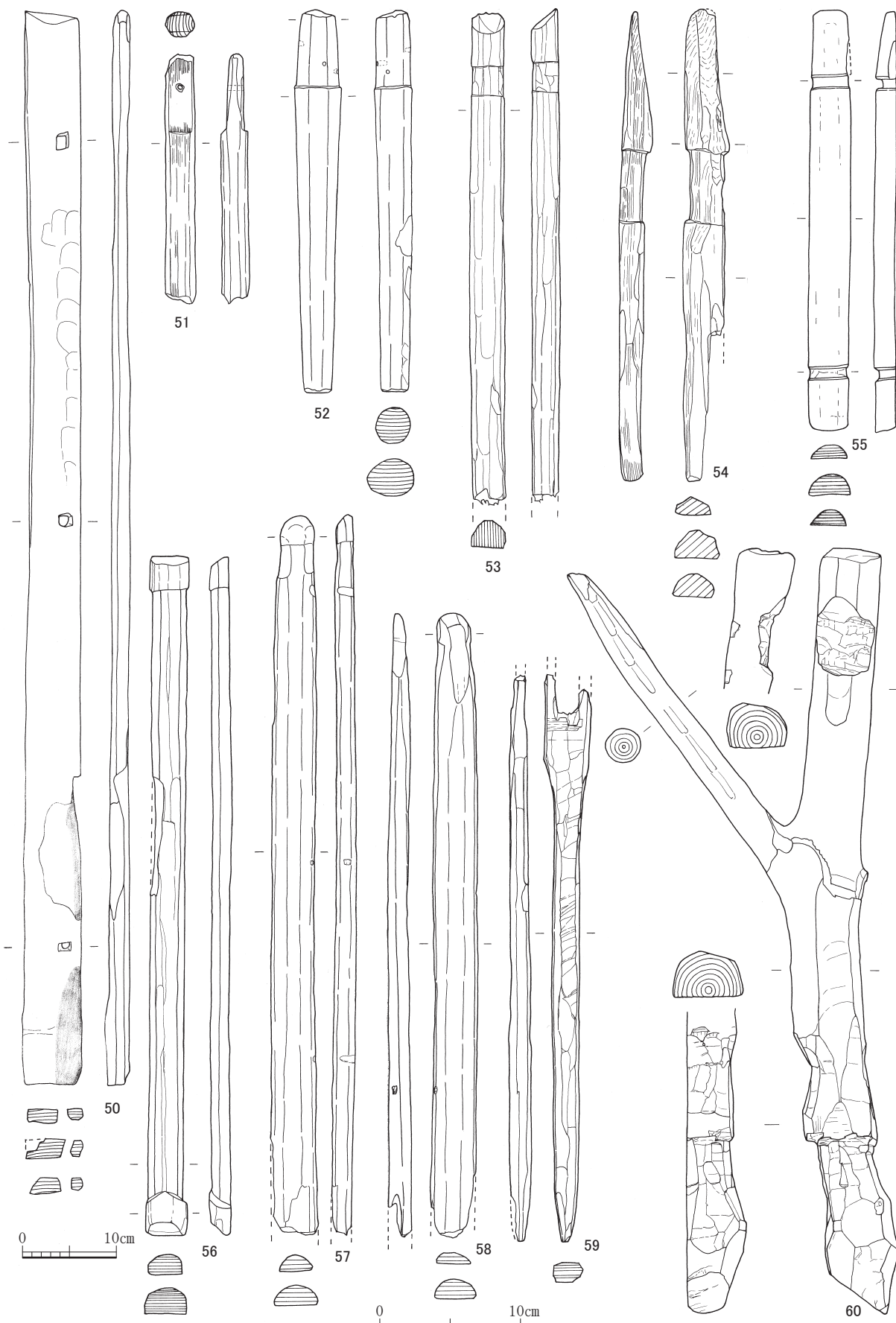
第53圖 容器 (縮尺 1/4)



第54図 農工具 (縮尺1/4)



第55圖 農工具、部材 (縮尺1/4)



第56図 用途不明部材 (縮尺 50 : 1/6、その他 : 1/4)

## 第4節 部材 (第55図 第25表)

44～46は8区川のV層から出土した。弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。

44は蒲鉾状の板材に長方形のホゾをもつ部材であり、蒲鉾状の外面に線状の加工痕が5条残る。組物の部材または叩く機能を有した農具の可能性ある。樹種はスギである。45は端部にホゾをもつ厚手の板材であり、全長25.6cm、幅13.2cm、厚さ3.3cmを測る。形状から腰掛の脚部とする。側面は2次加工を受けている。樹種はスギである。46は長さ43.3cm、幅9.5cm、厚さ2.1cmを測る板材である。左側面に加工痕をもつ。右側面は片刃状に加工している。長方形孔が数カ所あり、舟の舷側板の一部の可能性ある。47・48は3区の中世の井戸SE5から出土し、一端を山型に加工している。47は裏面下端は斜めに面取りしている。樹種はヒノキである。48も同様な形状だが表面下端両隅を斜めに切っている。樹種はスギである。49は8区川のVI層から出土した。弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。薄手の板材であり、上端近くに長方形孔が2個ある。上端面両隅は丸く加工し、下端側にも同様な孔があったと想定され、大足の一部とする。

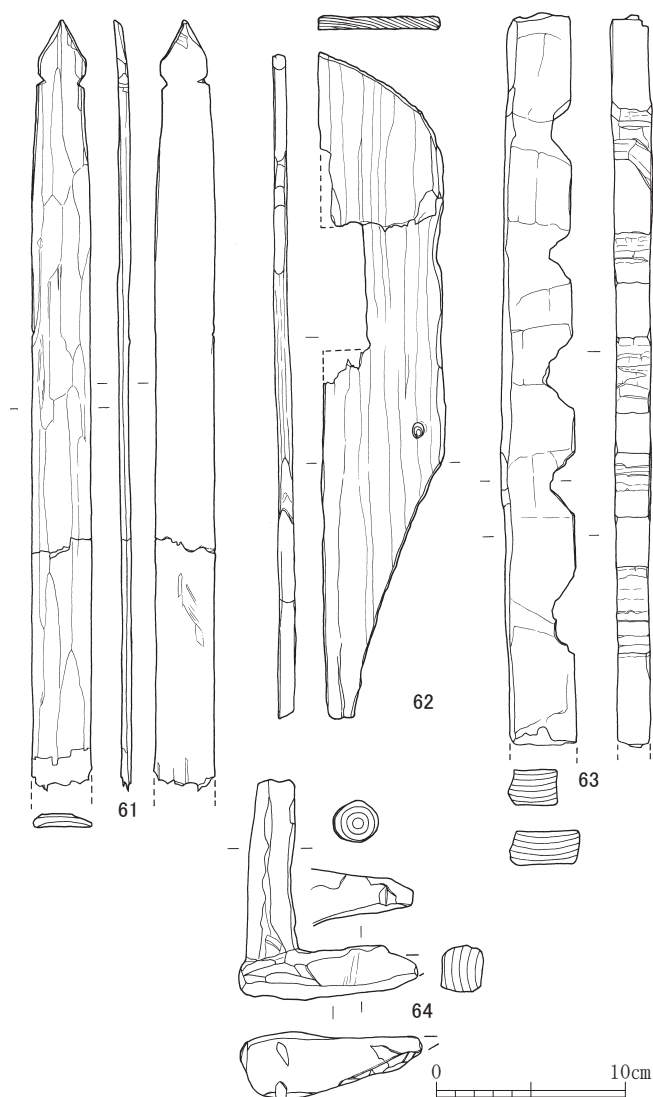
## 第5節 用途不明部材

(第56図 第26表)

50～60は8区川のV層から出土した。弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。60を除き、樹種はスギである。

50は全長114cm、幅6.3cmの板材であり、1.0cm角の方形孔が40cm間隔で3カ所配されている。表面に加工痕が残る。51は一端をホゾ状に加工した棒材であり、ホゾの中央に円孔が1カ所ある。52は上端部にホゾを削り出し、径0.3cm、深さ0.8cmの穿孔が4カ所ある。榊の腕木とする。53～58は断面が蒲鉾状となる。53は上端面を斜めに削り、段差を設けて有頭部を削り出している。54は先端をクサビ状に加工している。55は上下端に切り込みを入れて有頭部を削り出している。56は全長48.2cm、幅3.0cm、厚さ1.5cmを測る。完形の部材であり、上下端に0.2cmの段をもうけて有頭部を削り出している。57は上端部を浅く削り有頭部を削り出している。同様な特徴を備える58と対となる経巻具の可能性ある。59は表裏面を平坦に削り、上端は二又に加工し、横方向の線刻をもつ。下端は2次加工を受け、尖頭状に加工する。本来は榊の腕木とする。

60は全長54.5cm、幅5.0cm、厚さ4.2cmを測



第57図 祭祀具 (縮尺1/4)

る棒材に枝材がついたものであり、棒材上端には切れ込みが入り、棒材下端は槍状の差込部をもつ。背負子と考える。

## 第6節 祭祀具 (第57図 第27表)

61～64は8区川のV層から出土した。61は斎串であり、奈良・平安時代のものとする。上端左右側面に切れ込みを入れ、宝珠状に加工している。樹種はスギである。62～64は弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。62は鳥形または鋏先の転用品とも考えられ、上端部は丸く、下半は斜めに削れている。左辺中央に方形状の袢が入る。63は火鑽臼であり、右側辺に2段階で削られたV字溝を5カ所もつ。樹種はスギである。64は刀形の柄部であり、L字状に成形されている。柄端の平面形は長三角形を呈す。樹種はクワ属である。

## 参考文献

- 伊藤雅文編 2017 『金沢市畝田・寺中遺跡、畝田遺跡、畝田大徳川遺跡、畝田B遺跡、畝田C遺跡、畝田・無量寺遺跡』国道改築一般国道305号(海側幹線)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 石川県教育委員会 (公財)石川県埋蔵文化財センター
- 井之口茂 2011 「第4章第2節5木製品」『府中石田遺跡』第1分冊本文編 福井県埋蔵文化財調査報告第121集 田中祐二編 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 宇野隆夫編 2018 『モノと技術の古代史』木器編 吉川弘文館
- 大西顕編 2008 『七尾市小島西遺跡』石川県教育委員会 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 大藤春代 2003 「第2章出土遺物17木製品」『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書』第1分冊遺物編 吹田市教育委員会
- 景山和也編 2016 『大友E遺跡』金沢市文化財紀要305-2 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 金子裕之 1980 「古代の木製模造品」『研究論集VI』奈良国立文化財研究所
- 黒崎 直 1970 「木製農具の性格と弥生社会の動向」『考古学研究』16巻3号 考古学研究会
- 黒須亜希子 2007 「紡織具の導入とその変遷」『木器研究最前線-出土木器が語る考古学』大阪文化財センター
- 黒須亜希子 2007 「織機の構造とその変遷-民具と出土遺物の比較を中心として-」『財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館 2005年度共同研究成果報告書』財団法人大阪文化財センター
- 小島孝修 2015 『入江内湖遺跡』Ⅲ 一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書3 滋賀県教育委員会 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
- 佐々木彰 1997 水山昭宏 三ヶ島誠次男 佐々木美穂子編『伊興遺跡』足立区伊興遺跡調査会 1997年
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1994 『財団法人静岡県文化財調査研究所設立10周年記念シンポジウム 第4回東日本埋蔵文化財研究会 第2回東海考古学フォーラム「古代における農具の変遷-稲作技術史を農具から見る-」』資料集第2分冊(新潟県～三重県)
- 名久井文明 1999 『樹皮の文化史』吉川弘文館
- 根木修 1976 「木製農具の意義」『考古学研究』22巻4号 考古学研究会
- 橋本達也 1999 「盾の系譜」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室
- 広田和徳編 1999 『榎田遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12-長野市内その10-第1～4分冊 日本道路公団 長野県教育委員会 長野県埋蔵文化財センター
- 町田章 上原真人編 1985 『木器集成図録』近畿古代編 奈良国立文化財研究所
- 山田昌久 2003 『考古資料大観』8 弥生・古墳時代-木・繊維製品 小学館
- 山田昌久 1986 「くわとすきの来た道」『新保遺跡I』本文編 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山本暉久 谷口肇編 1993 『池子遺跡群X No. 1-A地点』第1～4分冊 神奈川考古学財団調査報告46 池子米軍家族住宅建設にともなう調査 財団法人かながわ考古学財団

第6節 祭祀具

第22表 雑器観察表 (第51・52図)

単位: cm/g

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
1	把手	7.0	—	—	板目	薄手の板材/形状: ハート形/把手部表裏面摩耗・剥離 把手部裏面: 2cm×0.5cmの長楕円形穿孔4/表裏面から穿孔 把手部上端面: ねじれ状の加工 把手部下端面: 中央に突帯をもつ軸部/径1.5cm/やや反る 把手部断面: 扁平/軸部断面: 楕円形/匙柄か	8区/川 VI層
		7.5	1.6		クワ属		
2	紡錘車	上径 4.0	1.4	1/1	板目	形状: 円形/断面: 扁平台形 上面: 内傾する幅0.4cmの縁部内を深さ0.4cm削り有段にする 縁部内: 加工痕/中心に径0.8cmの円形穿孔/穿孔内に軸の一部残存 下面: 線状キズ/側面: 匙面状に内湾/使用痕	8区/川 V-2層
		下径 5.8	—		クワ属		
3	指物	16.9	—	—	角材追根目	薄手の板材/上端左右側辺: 長さ0.8cm×幅0.8cmの突起を配置 左右突起: 端面は半円形/突起面: 幅0.4cmの浅い凹み 上端面中央: 幅1.6cm×深さ0.7cmのコの字形抉り/下端面は平坦 小箱形指物の小口板か糸巻具か	8区/川 V層
		3.0	1.1		スギ		
4	下駄	24.4	7.1	1/1	板目	足板: 左右側辺膨らむ/鼻緒孔3/先端一部欠損/歯幅13.0cm/歯高6.3cm/歯厚1.5cm 断面台形/一木削出の連歯下駄	3区/J14 SE5
		13.0	1.2		ケヤキ		
5	杓子	12.2	3.5	1/2	芯持丸木	形状: 平面形は杏仁形/浅い椀状/底部の中心に芯部を利用 柄部: 底部から径0.6cmの棒状の柄を削出/左側縁欠損	8区/川 VI層
		9.0	0.6		クワ属		
6	箸	21.2	—	1/1	削出	上端: 端面から長さ0.5cmの範囲が削られる 中央: やや膨らむ/下端: 折損/断面六角形に面取	3区/J14 SE5
		0.6	0.5		スギ		
7	箸	22.0	—	1/1	削出	上端: 端面平坦/中央: 膨らむ/下端: 先端丸く収める 断面: 長方形に面取	3区/J14 SE5
		0.5	0.6		スギ		
8	曲物 底板	28.4	—	1/4	根目	上端湾曲/下端欠損/木目は密 表面中央: 鳥の頭部が線刻/径0.2cmの穿孔5 楕円形の組板、曲物の桶底板、隅丸方形の折敷底板か	3区/J14 SE5
		14.1	0.8		スギ		
9	組板	28.9	—	—	根目	形状: 長方形/木目は非常に密/左側縁の角は丸く成形/周縁: 丁寧な面取 表面: 摩耗、刃物キズ無数/裏面: 刃物キズ若干 径0.12cmの円孔が一對となり、左側縁に2対、下端に1対穿孔	8区/川 V-2層
		13.8	0.5		未鑑定		
10	曲物 底板	14.0	—	1/1	根目	底板: 円形/表面: 加工痕/裏面: 摩耗/木目は密 周縁: 内側から外側へ斜めに面取 木釘を3~4本を1単位として3単位3方向	7区/S41 SE2
		14.7	0.9		スギ		
11	曲物 底板	15.3	—	1/1	板目	底板: 円形/表面: 加工痕/周縁上部: 側板のクレゾコを嵌めた痕 周縁: 表面から裏面へ斜めに面取	3区/J14 SE5
		14.8	1.1		スギ		
12	曲物	13.5	側板 0.2	1/1	側板: 根目 根目	底板: 平面形は楕円形/表裏面平滑/木目は密/周縁: 内側から外側へ面取 側板: 長さ40cm、幅: 7.6cmの根目材/内面: 綾杉状のケビキ線 両端: 1.0cm×0.2cmの長方形穿孔9/木目は密 底板と側板の接合: 側板のクレゾコに底板周縁をはめ込み、3mm上げ底 側板を閉じ合せた後、長方形穿孔に幅0.8cmの樺状樹皮を通す	3区/K14 SX1
		12.1	底板 0.5		未鑑定		
13	曲物 底板	11.8	—	—	根目	底板: 平面形は円形/表裏面平滑/木目は密/周縁: 内側から外側へ斜めに面取 底板と側板の接合: 側板のクレゾコに底板周縁をはめ込む技法	3区/K14 SX1
		11.7	0.5		未鑑定		
14	曲物	46.4	—	2/3	側板: 根目	側板外板: 最下段のみ現存 側板外板最下段: 長さ約175cm×幅2.8cm×厚さ0.3cm/下端に径0.2cmの木釘1 側板内板: 1段/長さ約175cm×幅23cm×厚さ0.3cmの材 内面に1.0~2.0cm間隔の縦線ケガキ 縦1列に縦0.2cm×横0.4cmの長方形孔17箇所以上 内外側板: 樺状樹皮で固定/内外側板の隙間に縦板材挿入/井戸枠材	3区/G14 SE1
		54.0	0.3		スギ		
15	曲物	42.2	42.2	1/1	側板: 根目	側板外板: 3段 1段: 長さ約160cm×幅7.2cm×厚さ0.2cmの材/縦1列あたり縦0.2cm×横0.4cmの 長方形孔を7~10箇所入れ、2列で樺状樹皮を通して閉じ合わす/最下段は径1.5 mmの木釘を2cm間隔で3本嵌入 側板内板: 1段長さ約160cm×幅25cm×厚さ0.5cmの材/内面に1.0~2.0cm間隔の縦 線ケガキ/縦1列に0.2cm×横0.4cmの長方形孔を20箇所入れ、内外側板を樺状樹皮 で固定 内外側板の隙間に縦板材挿入/井戸枠材	3区/H14 SE3
		48.4	0.5		スギ		

第5章 木器・木製品

単位：cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
			材厚		樹種		
16	漆器椀	15.2	5.0	1/10以下	縦木取り	底部：平底/体部は内湾して立ち上がる 体部外面：黒漆地 底部外面：ベタ高台/漆ハゲ 体部内面：黒色漆地に朱色で木葉文を充填/大きく歪む	3区/H14 SE 3
		10.0	0.5		ケヤキ		
17	漆器椀	—	—	1/4	横木取り	底部のみ残存/表面漆塗膜剥離大 体部外面：黒漆地 底部外面：ベタ高台/高台高0.1cm/漆ハゲ 体部内面：黒漆地に朱漆の木葉文様を描く	3区/H14 SE 3
		8.2	0.9		未鑑定		
18	漆器皿	8.6	1.0	1/2	横木取り	体部は内湾して短く立ち上がる体部外面：黒漆地 底部外面：ベタ高台/高台高0.1cm/漆ハゲ 体部内面：黒漆地に朱漆の文様を描く	3区/J14 SE 5
		6.6	0.3		ブナ属		
19	漆器椀	14.0	5.2	2/3	横木取り	体部は内湾して立ち上がる体部外面：黒漆地 底部外面：ベタ高台/高台高0.3cm/周縁に輪状の沈線/漆ハゲ 体部内面：黒漆地/歪み大	2区/K12 SE 2
		7.4	1.0		ケヤキ		
20	漆器椀	14.0	4.6	1/1	横木取り	体部は内湾して立ち上がる体部外面：黒漆地 底部外面：ベタ高台/高台高0.5cm 体部内面：黒漆地/歪み大	2区/K12 SE 2
		8.0	0.6		ケヤキ		
21	漆器椀	16.8	5.8	1/2	横木取り	体部は緩やかに内湾して立ち上がる 体部外面：黒漆地に朱漆で片輪車文様を描く 底部外面：ベタ高台/高台高0.2cm/中央：漆ハゲ 体部内面：黒漆地に朱漆の片輪車文様を中心と体部に描く/歪み大	3区/J14 SE 2
		7.0	0.5		ケヤキ		

第23表 容器観察表 (第52・53図)

単位：cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
22	槽	3.3	8.3	1/10以下	板目	底部表側：平滑に加工/左右側縁は斜め外方へ短く立ち上がる/底部厚1.7cm 底部裏側：中央を幅5.0cm、高さ3.5cmでコの字に割り貫き二又の脚部を削出 大部分欠損/槽の脚部を削り出した断面部分を薄い板材として転用	8区/川 V-2層
		17.9	3.4		スギ		
23	盤	26.7	2.7	—	板目	底部裏側：心材側/平滑に加工/断面：緩やかに左右側辺湾曲 上端：幅11.0cm、長さ4.8cm、高さ1.8cmの脚部を削出 底部表側：平滑 左右側辺欠損/下端部：面取/槽の底部・脚部のみが残存/板状に加工して転用	8区/川 VII層
		11.9	2.7		未鑑定		
24	槽	19.0	6.1	—	板目	底部表側：平滑に加工/上端で上方へ反る/底部厚1cm 底部裏側：長さ6.2cm、幅4.4cm、高さ4.5cmの台形脚部を削出 台形脚内側：底面へ湾曲して接続 槽の一脚部のみが残存/四脚槽と推定：平面寸法は推定長さ約50cm、幅25cm	8区/川 VI層
		11.5	—		スギ		
25	槽	23.2	5.0	1/2	板目	底部表側：平滑に加工/左右に用途不明の切れ込み有り 下端中央：1.2×0.8cmの長方形穿孔1/上方へわずかに反る 底部裏側中央を削り左右に脚部を設ける/上半欠損	8区/川 V層
		12.0	1.7		スギ		
26	槽	25.2	3.3	—	板目	底部表側：平滑に加工/左側縁部のみ残存/内側を椀状に割り貫く 口縁部周縁：0.5cm幅で面取/一部欠損	8区/川 V-2層
		13.3	1.3		未鑑定		
27	槽	25.6	10.2	1/10以下	縦木取り	平面：長楕円形/側面：舟形/深底 底部内側：側縁の立ち上がり明瞭な加工痕 底部外側：平滑/脚の一部削出	8区/川 V層
		8.5	3.0		スギ		
28	槽	28.2	5.8	—	柾目	底部表側：平滑に加工/浅底/断面コの字 端部は欠損しているが緩やかに上方へ上がる/側面：垂直に立ち上がる	8区/川 V層
		16.7	2.0		スギ		
29	槽	22.6	3.5	1/10以下	柾目	底部表側：平滑に加工/浅底/断面内湾/左右側面欠損 上端側面：緩やかに内湾して立ち上がる/加工痕 左側辺：心材/右側辺：辺材槽の把厚した上端を容器の底部に再加工	8区/川 V-1層
		8.6	3.0		未鑑定		
30	槽	18.7	7.0	1/4	縦木取り	底部表側：平滑に加工、摩耗/端部は急に内湾して立ち上がる/側面：緩やかに内湾して立ち上がる/中心に沿って補修孔らしき径0.4cmの円孔2ヶ所	8区/川 V-1層
		11.1	1.6		スギ		



第6節 祭祀具

第24表 農工具観察表 (第54・55図)

単位: cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
31	鍬	22.9	9.5	2/3	追衾目	上半部: 三角形に加工/基部装着部/左右側辺1cmの段差で張り出す 下半部: 長台形の刃先部/基部上端、刃部欠損/断面扁平 表面: 加工痕 裏面: 摩擦損傷/径0.6cmの穿孔2、径0.2cmの穿孔6/曲柄平鍬	8区/川 V-1層
		9.5	1.3		コナラ属 アカガシ亜属		
32	鍬	22.9	—	2/3	衾目	上半部: 三角形に加工/基部装着部/基部端欠損/左右側辺2cmの段差でくの字状に張り出す/下半部: 長台形の刃先部/断面扁平/左右側縁欠損 中心: 二次加工により長さ7.5cm×幅2.3cm茎状に削出/表面: 摩擦 曲柄多又鋤または曲柄平鍬	8区/川 V層
		9.5	1.3		コナラ属 アカガシ亜属		
33	鍬	27.0	柄孔部2.0	4/5	衾目	鋤部: 形状は長方形/上端: 弧状に加工 表面: 逆涙滴形の柄孔部を削出/柄孔径3.0cm/段差1.0cm/柄孔部左右: 1cm×1.5cmの長方形孔を配置/裏面: 上端に直線状の0.5cmの段差/柄と鍬先の角度60° 左右側辺中央: 2.0cm×0.6cmの台形突起/刃部欠損/全体歪み大/直柄平鍬	8区/川 V-1層
		9.8	刃先部0.4		コナラ属 アカガシ亜属		
34	鋤	35.4	—	1/1	板目	鋤部: 形状は縦長六角形/長さ28.6cm/中央部左右に半円状の孔/周縁を両刃状に加工/断面レンズ状/右辺欠損/基部: 表面先端6.8cm範囲を段差をもって有頭状に加工/裏面は柄との接合面となり平坦/基部断面カマボコ形/分類上、鋤と呼称されているが、攪拌具または儀仗の可能性あり	8区/川 V層
		15.7	1.5		スギ		
35	杵	19.1	—	2/3	芯無削出丸木	厚手の板材/上端面: 中央幅が山形に上方へ広がる/表裏面: 線状痕 下端面: 平坦/中央柄孔: 径2.0cm/柄孔断面に顕著な傾斜角なし 表面の孔は裏面よりやや径が大/左右端部欠損/杵か	8区/川 V-2層
		5.6	2.6		アサダ		
36	柄	47.9	—	1/1	芯持丸木	全体的に摩擦/木目は密 上端: 下から10cmの範囲を面取/一面に線状痕/断面: 長方形 下端: 緩やかに曲がる/端面平坦/断面: 楕円形/戈または手斧の柄か	8区/川 V-2層
		4.0	3.8		クワ属		
37	板材	42.8	—	1/1	板目	形状は槍状/上端は尖頭に加工 断面: 上端楕円、中央扁平、下端扁平	8区/川 V層
		2.7	0.6		スギ		
38	柄	31.2	—	—	芯無削出丸木	下端周縁は面取 断面: 円形/上端の斜面2次加工	8区/川 V-1層
		2.7	2.5		ヒノキ		
39	柄	26.8	—	—	板目	上端: 尖頭に加工 断面: 楕円	8区/川 V-1層
		1.8	1		未鑑定		
40	柄	80.5	—	1/1	芯縁丸木	全体的に加工痕明瞭/上端: 上から7.0cmの範囲は平滑/先細り気味に加工 下端: 周縁を面取/断面: 多角形/鍬の柄部か	7区/S41 SE2
		3.0	2.6		アカガシ亜属		
41	木錘	20.2	—	1/1	角材	表裏面、上下面の加工痕明瞭/扁平気味な直方体の角を斜めに削る 上下辺中央: 紐掛け溝として幅5.0cm、深さ1.3cmのV字状の抉りを入れる	8区/川 V-1層
		11.1	6.3		ムクロジ		
42	木錘	13.8	—	1/2	芯無削出丸木	棒材を鼓状に加工/片側欠損/加工痕明瞭/端部周縁は面取 斜めに加工した紐掛け部分の加工は粗い	3区 SE5
		10.8	9.8		コナラ属 アカガシ亜属		
43	横槌	25.8	—	1/1	芯持丸木	打面部: 長さ16.8cm、幅7.0cm/断面: 楕円状/使用痕顕著/打面部上端周囲面取/ 柄部: 長さ9.0cm、幅3.0cm/断面: 円形/柄部下面に同心円文15ヶ所/柄部の加工痕明瞭/柄部下端周囲面取	8区/川 V層
		7.1	6.4		マツ属複雑管束亜属		

第25表 部材観察表 (第55図)

単位: cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
44	農具	15.5	7.1	—	角材	表面: 長方形/平滑/中央: 長さ4.6cm×幅2.7cm×高さ2.5cmの長方形ホゾを削出/ ホゾ端面欠損/裏面: 中央で膨らむ弧状に加工/幅0.5~1cmの線状加工痕5条/摩擦 耗/組物の部材または叩く機能を有した農具	8区/川 V層
		10.8	—		スギ		
45	腰掛	25.6	—	—	衾目	厚手の板材/長方形/下端に長さ4.0cm、幅4.8cm、厚さ2.5cmの長方形突起を削出/ 腰掛座面左右に差し込み接合/表面/刃物キズ多し/右側辺: ゆるやかに内湾/左 側辺幅10.0cm、深さ3.5cmにV字切込/断面: 扁平/木目は密/腰掛脚部を2次加工 して部材として転用	8区/川 V-1層
		13.2	3.3		スギ		
46	板材	43.3	—	—	板目	厚手の板材/全体平滑/断面: 扁平 上下端欠損/左側辺: 加工痕/右側辺: 表面を片刃状に加工 上端部: 右側辺寄りに長さ0.6cm×幅0.6cm大の長方形穿孔2 下半部: 中央寄りに長さ0.8cm×幅0.6cm大の長方形穿孔2 下端部右側辺寄りに径0.7cmの円孔1/下端部左側辺寄りに径0.2cmの円孔2 本来は舟の舷側板か	8区/川 V-1層
		9.5	2.1		未鑑定		
47	板材	19.1	—	1/1	衾目	薄手の板材/上端は山型に加工/表裏面: 刃物キズ多数/裏面下端: 斜めに面取/断 面: 扁平/組板の再利用品か	3区/J14 SE5
		5.7	0.4		ヒノキ		

単位：cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
48	板材	10.8	—	1/1	柾目	薄手の板材/上端は三角に加工/表面下半：刃物キズ 表面下端両隅：斜めに面取/全体摩耗/断面：扁平	3区/J14 SE5
		3.5	0.3		スギ		
49	大足	37.7	—	1/2	板目	薄手の板材/全体平滑/断面：扁平/上端部：長さ2.2cm×幅1.2cm大の長方形孔2ヶ所 穿孔：表裏両面/上端面左右隅：丸く仕上げる/下端部：同様の穿孔痕あり大足の側面	8区/川 VI層
		3.9	1.5		未鑑定		

第26表 用途不明部材観察表（第56図）

単位：cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
50	板材	114.4	—	1/1	角材板目	薄手の板材/上端は一部炭化/表面：弱い加工痕 右側縁：1cm角の方形孔が40cm間隔で3つ/断面：扁平	8区/川 V-1層
		6.3	2.7		スギ		
51	ホゾ材	17.9	—	—	板目	全体平滑/断面：円形/上端から5.7cmを厚さ1.3cmのホゾに加工/ホゾ断面：長方形 ホゾ中央：径0.3cmの円孔1/左右側面：加工痕	8区/川 V・VI層
		2.1	2.0		スギ		
52	椀	27.2	—	1/1	芯無削出丸木	上端から5.5cmの位置で0.2cmの段を有し、最大幅を測る/上端部削出し 両端で先細る/上端部に径0.3cm、深さ0.8cmの穿孔が不規則に4ヶ所 断面：上端円形、最大径楕円、下端は歪三角	8区/川 V-2層
		3.4	2.6		スギ		
53	棒材	35.1	—	—	半割	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/表面の加工痕明瞭 上端面は斜行/上端の2.34cm下に長さ2.2cm、幅2.3cmの段差帯 上端を有頭状に成形/経巻具か	8区/川 V-1層
		2.5	2.1		スギ		
54	有頭棒	33.7	—	—	板目	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/表面の加工痕明瞭 上端：10cm範囲をクサビ状に加工/直下に幅5.0cm×深さ0.4cmの溝/下半右側面欠損 経巻具か	8区/川 V-2層
		3.2	2.2		アスナロ属		
55	有頭棒	29.9	—	1/1	半割	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/全体平滑 上下端に幅0.8cm×深さ0.2cmの帯状の溝/溝の間隔は20.0cm/上端部斜めに加工	8区/川 V層
		2.8	1.5		スギ		
56	有頭棒	48.2	—	1/1	角材	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/表面の加工痕明瞭 上下端は0.2cmの段を付けて有頭状に成形/上端有頭部は長さ2.2cm、幅2.8cm、段差は直線状/下端有頭部は長さ3.0cm、幅3.0cm、段差は三角状に突出/上端有頭部ともに表面から裏面に向けて斜めに削る/経巻具か	8区/川 V-2層
		3.0	1.5		スギ		
57	有頭棒	44.5	—	—	芯無削出丸木	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/表面の加工痕摩耗 上端は先端を丸く削り出し、緩やかな括れた有頭状に成形 上端有頭部は長さ2.5cm、幅2.4cm/下端は欠損/経巻具か58と対になるか	8区/川 V-2層
		3.2	1.6		スギ		
58	有頭棒	51.2	—	—	芯無削出丸木	裏面を平坦に削り断面カマボコ状に加工/表面の加工痕摩耗 上端は先端を丸く削り出し、緩やかな括れた有頭状に成形 上端有頭部は長さ4.0cm、幅2.3cm/下端は欠損/経巻具か57と対になるか	8区/川 V-2層
		3.3	1.7		スギ		
59	椀	40.3	—	4/5	角材	表裏面を平坦に削り扁平に加工/上端は中心を長さ2.0cm、幅1.5cmほど削り二又に加工/二又の直下に横方向の線刻を表面裏に施す/下端は尖頭に加工 本来は布巻具の椀の腕木/下端は二次加工か	8区/川 V-1層
		3.4	1.6		スギ		
60	背負子	54.5	—	1/1	芯持丸木	椀材に枝材が1本付く/椀材断面：カマボコ形/椀材上端：幅3cm、深さ1cm浅い挟り 椀材下端：下端11cmの範囲を加工して槍状の差込部を削出 差込部直上も7cmの範囲を加工して幅5cm、深さ1cm浅い挟りを入れる 枝材：長さ25cm、径2.5cm/断面円形/尖頭に加工/一對あれば背負子の椀木か	8区/川 V層
		5.0	4.2		マツ属複雑管束亜属		

第27表 祭祀具観察表（第57図）

単位：cm

No.	種類	長さ	高さ	残存	木取	特 徴	出土地点
		幅	材厚		樹種		
61	斎串	40.8	—	3/4	板目	薄手の板材/上端左右側面に切り込み/宝珠状に加工 表面：加工痕/裏面：非常に平滑/断面：扁平	8区/川 V-1層
		3.2	0.7		スギ		
62	鳥形	35.0	—	—	板目	薄手の板材/上端右側縁：弧状に加工/下端右側縁：斜めに加工 左側縁中央：コの字に幅7.5cm×深さ2.0cm挟り 右側縁中央やや下に径0.3cmの円孔1/断面：扁平/鳥形もしくは鋸先の転用品か	8区/川 V-1層
		6.3	0.9		未鑑定		
63	火鑽臼	38.6	—	—	角材	表裏面：摩耗/断面長方形/左側面：平坦/右側面：幅2.5～3.0cm、深さ1.2cmの浅いV字溝が5つ/V字溝は2段階で刻まれるが加工は雑/加工面摩耗/上下端欠損 儀式用の火鑽臼か	8区/川 V-2層
		3.9	2.2		スギ		
64	刀形	11.6	—	—	芯持丸木	形状：L字状/加工痕/柄部：心材中央を利用/断面：円形/摩耗 柄端：長三角形/端面：平滑/断面：方形/先端欠損/両側縁欠損	8区/川 V-2層
		3.5	2.5		クワ属		

## 第7節 樹種同定

## 1 試料と方法

試料は、弥生時代後期～古墳時代前期の河川跡から出土した農工具や紡績具、容器、部材が33点、古代の井戸（7区SE2、3区SE1・3）、中世の井戸（2区SE5、3区SE5）から出土した漆器碗や装身具が15点あり、合計49点を数える。

これらの試料から、剃刀を用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。プレパラートは、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 2 結果

樹種同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属と、スギ、ヒノキの3分類群、広葉樹ではアサダと、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、ケヤキ、クワ属、ムクロジの6分類群の計9分類群が確認された。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を第58・59図に示す。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylo* マツ科 第58図 1a-1c (60)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、韌性は大である。

(2) スギ *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don スギ科 第58図 2a-2c (No. 61)、3a-3c (45)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(3) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第58図 4a-4c (47)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

第28表 遺構別集計表

分類群	時代 遺構	弥生時代後期 ～ 古墳時代前期					計	
		川跡	3区 SE 1	3区 SE 3	7区 SE 2	2区 SE 5		3区 SE 5
マツ属複維管束亜属		2					2	
スギ		20	1	1	1	5	28	
ヒノキ		1				1	2	
アサダ		1					1	
ブナ属						1	1	
コナラ属アカガシ亜属		3				1	4	
ケヤキ				2		3	6	
クワ属		4					4	
ムクロジ		1					1	
計		32	1	3	1	3	9	49

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きい。また、耐朽性および耐湿性が高く、狂いが少ない。

(4) アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 第58図 5a-5c (35)

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1～4列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

(5) ブナ属 *Fagus* ブナ科 第59・59図 6a-6c (18)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと同段階の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

(6) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 第59図 7a-7c (42)、8a (31)

円形でやや大型の道管が、単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織がある。

アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、アカガシやシラカシ、ツクバネガシ、アラカシなど8種がある。イチイガシ以外は木材組織からは識別困難なため、イチイガシを除いたアカガシ亜属とする。材はきわめて堅硬および強靱で、水湿に強い。

(7) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 第59図 9a-9c (4)、10a (19)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3～5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や溪畔によく生育する。材は重硬だが加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

(8) クワ属 *Morus* クワ科 第59図 11a-11c (36)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは数個複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は3～5列幅で、上下端の1～2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は温帯から暖帯、亜熱帯に分布する落葉高木で、ケグワやマグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、靱性に富む。

(9) ムクロジ *Sapindus Mukurossi* Gaertn. 第59図 12a-12c (41)

大型でやや厚壁の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では小道管が数個放射方向に複合して散在する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管の内胞にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔組織は周囲状～帯状となる。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性、3～5列幅のややいびつな紡錘形である。

ムクロジは茨城県と新潟県以南の暖帯から亜熱帯に分布する落葉高木である。材はやや重硬から中庸程度である。

### 3 考 察

波寄三宅田遺跡から出土した木製品の樹種同定の結果、全49点中スギが28点と最も多く確認された。器種別の樹種構成を第28表に示す。農工具や雑器とした紡績車や把手、漆器では広葉樹が多くみられたが、漆器以外の容器や箸、祭祀具、板材、部材などでは針葉樹が多く、特にスギが多く使用されていた。

弥生時代後期から古墳時代前期の川跡から出土した木製品では、農工具の鋏と鋤、漆塗りではない容器、槽脚、祭祀具の斎串や火鑽臼、部材でスギの利用が確認された。また、古代の井戸（3区SE1・SE3、7区SE2）、と中世の井戸（3区SE5）から出土した曲物や底板、箸、板材でスギの利用が確認された。スギは割裂性が大きく、製材や加工が容易な材である。スギを多用する木材利用傾向は北陸地方を中心とした日本海側地域で顕著であり、福井県でも縄文時代から中世にかけてスギを多用する傾向が確認されている（伊東・山田編 2012）。スギが多く確認された本遺跡の木材利用傾向は、これまでに確認されている地域的傾向とも一致する。

弥生時代後期から古墳時代前期の川跡から出土した農工具および部材では、広葉樹が多く確認された。袷に使用されていたアサダは非常に硬い材である。また、鋏に使用されていたアカガシ亜属、把手、柄、紡績車、祭祀具とした刀形に使用されていたクワ属も重硬で靱性のある材、木錘に使用されていたムクロジも比較的硬な材であり、強度を必要とする部位に適した樹種が使われている。

漆器では、古代の井戸（3区SE3）から出土した椀1点、中世の井戸（3区SE5）から出土した椀3点と皿1点を対象として次節で塗膜分析を行った。漆器の皿に使用されていたブナ属と、椀に使用されていたケヤキは、一般的に漆器の木地によく利用される樹種である。漆器木地などの挽物の樹種は、北陸地方では古代から中世にケヤキが多く、中世以降になるとブナ属が増加する傾向がある（伊東・山田編2012）。今回は、分析点数が少ないため時代による樹種の違いは確認できなかったが、漆器の皿にはブナ属、椀にはケヤキが使用されており、器種によって樹種を選択していた可能性がある。

第29表 器種別の樹種構成表

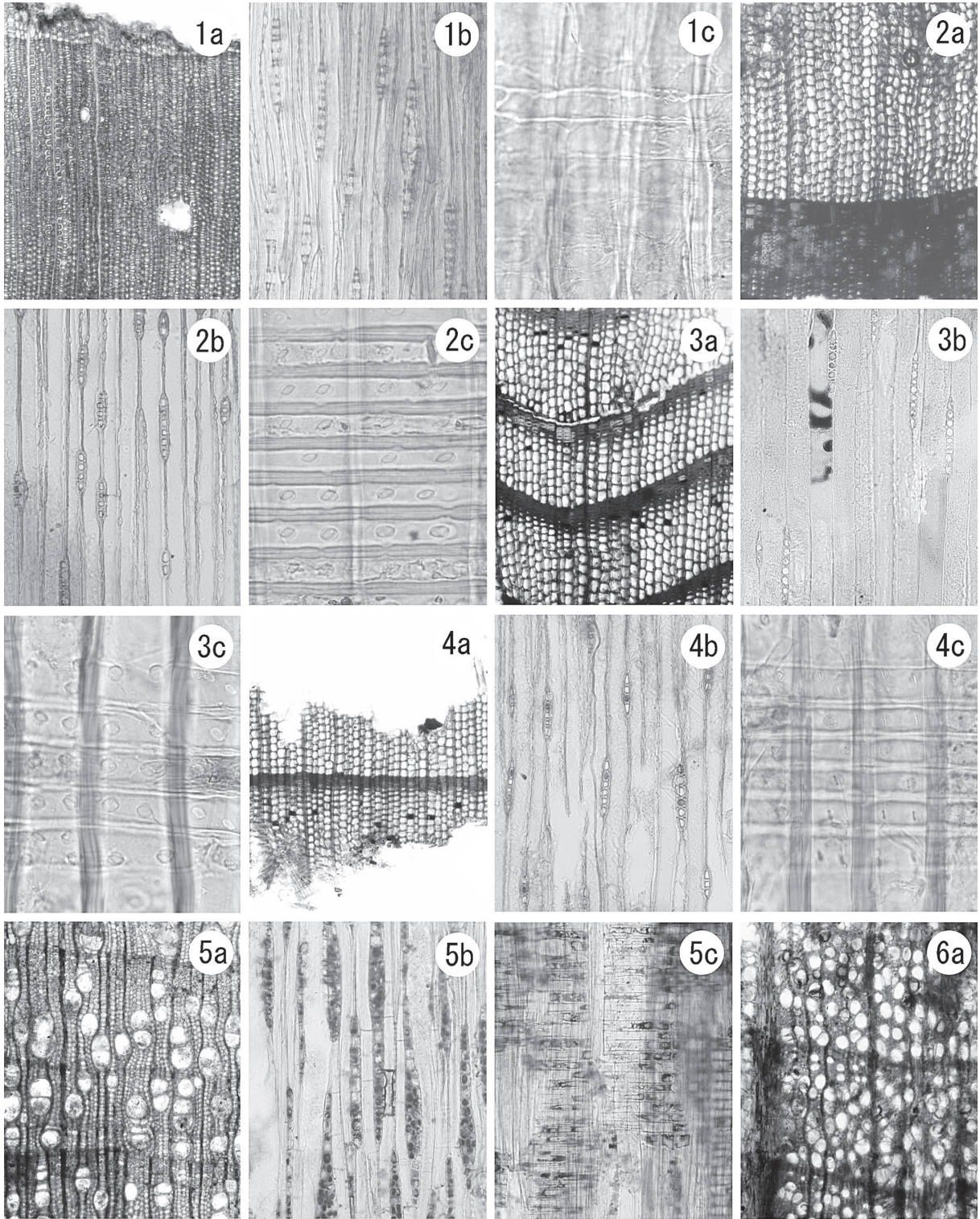
器種 遺構	農耕具						容器							雑器				部材			不明部材				祭祀具		計					
	鋏	鋤	杵	柄	横槌	木錘	槽	曲物	曲物	曲物 底板	曲物 底板	漆器 椀	漆器 椀	漆器 皿	紡績 車	把 手	指 物	下 駄	箸	農 具	腰 掛	板 材	板 材	板 材	棒 材	有 頭 棒		背 負 子	斎 串	火 鑽 臼	刀 形	
分類群	8区川跡						3区SE5	8区川跡	3区SE5	3区SE5	7区SE5	3区SE5	3区SE5	2区SE5	3区SE5	8区川跡				3区SE5	8区川跡				8区川跡							
マツ属複雑管束亜属					1																						1					2
スギ		1					6	1	1	1	2					1		2	1	1	1	1	1	2	1	4	1	1	1	1	28	
ヒノキ				1																			1								2	
アサダ			1																												1	
ブナ属														1																	1	
コナラ属アカガシ亜属	3																														4	
ケヤキ												2	3				1														6	
クワ属				1											1	1														1	4	
ムクロジ						1																									1	
計	3	1	1	2	1	1	6	1	1	1	2	2	3	1	1	1	1	2	1	1	2	1	2	1	4	1	1	1	1	49		

#### 引用文献

伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学』－出土木製品用材データベース－ 449p 海青社

第30表 樹種同定結果一覧表（第51～57図）

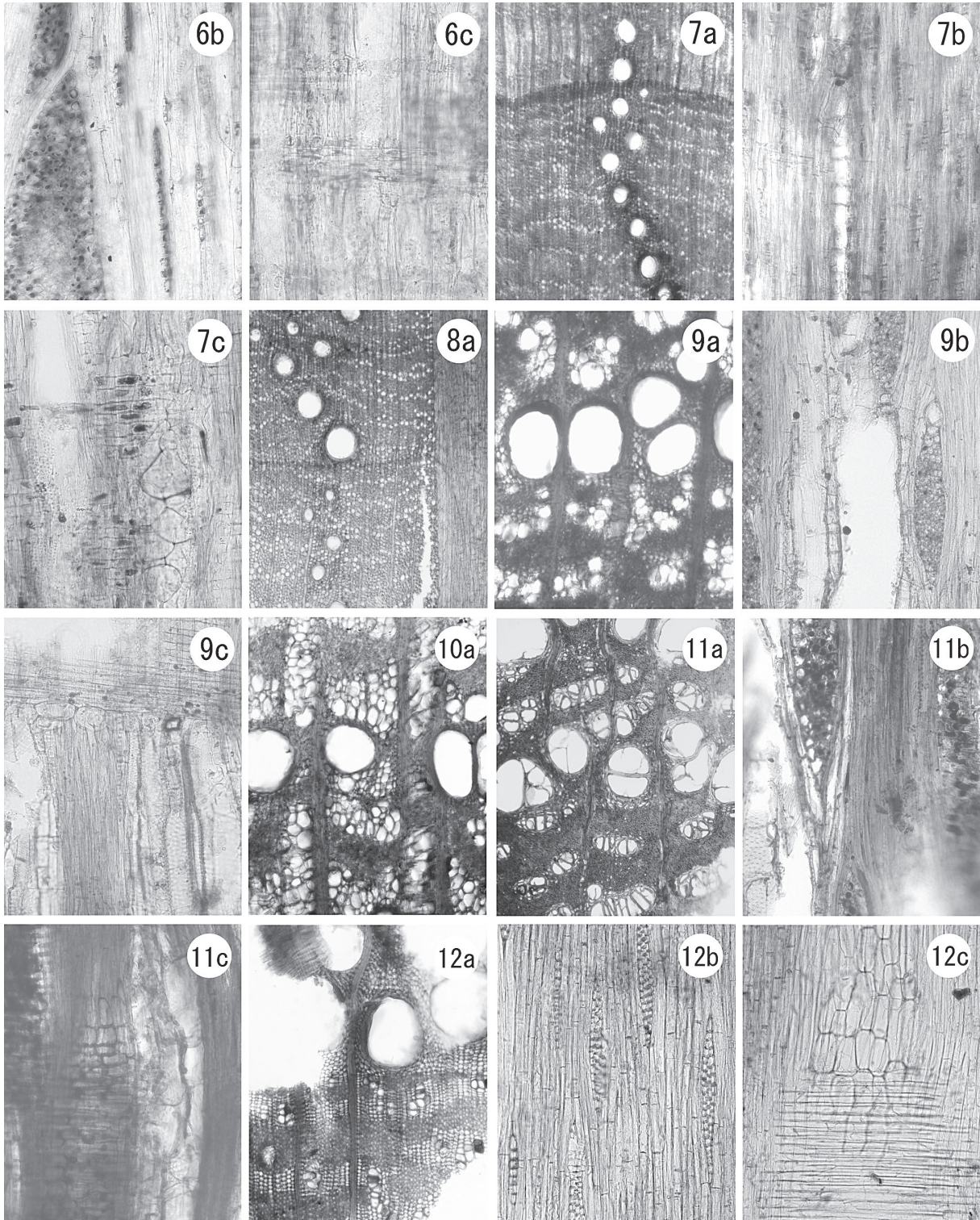
挿図 番号	遺物No.	出土位置	分類	器種	樹種	備考	出土地点	
第51図	1	8区川VI層	雑器	把手	クワ属	板目	弥生後期～古墳前期	
	2	8区川V-2層		紡錘車	クワ属	板目	弥生後期～古墳前期	
	3	8区川V層		指物	スギ	角材（追柱目）	弥生後期～古墳前期	
	4	3区SE5		下駄	ケヤキ	板目	中世	
	6	3区SE5		箸	スギ	削出	中世	
	7	3区SE5		箸	スギ	削出	中世	
	8	3区SE5		曲物底板	スギ	柱目	古代	
	10	7区SE2	曲物底板	スギ	柱目	古代		
	11	3区SE5	曲物底板	スギ	板目	中世		
	第52図	14	3区SE1	容器	曲物	スギ	柱目	古代
		15	3区SE3		曲物	スギ	柱目	古代
16		3区SE3	漆器椀		ケヤキ	縦木取り	古代	
17		3区SE3	漆器椀		ケヤキ	縦木取り	古代	
18		3区SE5	漆器皿		ブナ属	横木取り	中世	
19		2区SE2	漆器椀		ケヤキ	横木取り	中世	
20		2区SE2	漆器椀		ケヤキ	横木取り	中世	
21		3区SE2	漆器椀		ケヤキ	横木取り	中世	
22		8区川V-2層	槽		スギ	板目	弥生後期～古墳前期	
第53図		24	8区川VI層		槽	スギ	板目	弥生後期～古墳前期
	25	8区川V層	槽	スギ	板目	弥生後期～古墳前期		
	27	8区川V層	槽	スギ	縦木取り	弥生後期～古墳前期		
	28	8区川V層	槽	スギ	板目	弥生後期～古墳前期		
	30	8区川V-1層	槽	スギ	縦木取り	弥生後期～古墳前期		
	第54図	31	8区川V-1層	農工具	鋏	コナラ属アカガシ亜属	追柱目	弥生後期～古墳前期
32		8区川V層	鋏		コナラ属アカガシ亜属	柱目	弥生後期～古墳前期	
33		8区川V-1層	鋏		コナラ属アカガシ亜属	柱目	弥生後期～古墳前期	
34		8区川V層	鋤		スギ	板目	弥生後期～古墳前期	
35		8区川V-2層	棗		アサダ	芯無削出（丸木）	弥生後期～古墳前期	
36		8区川V-2層	柄		クワ属	芯持丸木	弥生後期～古墳前期	
38		8区川V-1層	柄		ヒノキ	芯無削出（丸木）	弥生後期～古墳前期	
第55図		41	8区川V-1層		部材	木錘	ムクロジ	角材
	42	3区SE5	木錘	コナラ属アカガシ亜属		芯無削出（丸木）	中世	
	43	8区川V層	横槌	マツ属複雑管束亜属		芯持丸木	弥生後期～古墳前期	
	44	8区川V層	農具	スギ		角材	弥生後期～古墳前期	
	45	8区川V-1層	腰掛	スギ		柱目	弥生後期～古墳前期	
	47	3区SE5	板材	ヒノキ		柱目	中世	
	48	3区SE5	板材	スギ		柱目	中世	
	第56図	50	8区川V-1層	用途不明 部材		板材	スギ	角材（板目）
52		8区川V-2層	棗		スギ	芯無削出（丸木）	弥生後期～古墳前期	
53		8区川V-1層	棒材		スギ	半割	弥生後期～古墳前期	
55		8区川V層	有頭棒		スギ	半割	弥生後期～古墳前期	
56		8区川V-2層	有頭棒		スギ	角材	弥生後期～古墳前期	
57		8区川V-2層	有頭棒		スギ	芯無削出（丸木）	弥生後期～古墳前期	
58		8区川V-2層	有頭棒		スギ	芯無削出（丸木）	弥生後期～古墳前期	
59		8区川V-1層	棗		スギ	角材	弥生後期～古墳前期	
60		8区川V層	背負子		マツ属複雑管束亜属	半割	弥生後期～古墳前期	
第57図		61	8区川V-1層		祭祀具	斎串	スギ	板目
	63	8区川V-2層	火鑽臼	スギ		角材	弥生後期～古墳前期	
	64	8区川V-2層	刀形	クワ属		芯持丸木	弥生後期～古墳前期	



1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No. 23)、2a-2c. スギ (No. 13)、3a-3c. スギ (No. 31)、4a-4c. ヒノキ (No. 39)、5a-5c. アサダ (No. 24)、6a. ブナ属 (No. 38)

a: 横断面 (スケール=250  $\mu$  m)、b: 接線断面 (スケール=100  $\mu$  m)、c: 放射断面 (スケール=1c-4c: 25  $\mu$  m、5c: 100  $\mu$  m)

第58図 出土材の光学顕微鏡写真



6b-6c. ブナ属 (No. 38)、7a-7c. コナラ属アカガシ亜属 (No. 34)、8a. コナラ属アカガシ亜属 (No. 26)、9a-9c. ケヤキ (No. 33)、10a. ケヤキ (No. 27)、11a-11c. クワ属 (No. 1)、12a-12c. ムクロジ (No. 20)  
 a: 横断面 (スケール=250  $\mu$  m)、b: 接線断面 (スケール=100  $\mu$  m)、c: 放射断面 (スケール=100  $\mu$  m)

第59図 出土材の光学顕微鏡写真



## 第8節 漆製品の塗膜分析

## 1 試料と方法

分析対象は、井戸より出土した漆器5点である(第31表)。いずれも漆器内面より塗膜片を少量採取し、分析試料とした。

分析は、表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察、およびX線分析を行った。

赤外分光分析は、メスを用いて表面塗膜層から削り取った試料を、厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光(株)製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計FT/IR-410、IRT-30-16を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して包埋し、薄片作製機および精密研磨フィルム(#1000、#4000、#8000)を用いて厚さ約50 $\mu$ m前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製JSM-5900LV)による反射電子像観察を行った。さらに、主に赤色塗膜層を対象として、電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型X線分析装置(同JED-2200)による定性・簡易定量分析を行った。その後、再度精密研磨フィルム(#1000、#4000、#8000)を用いて厚さ約20 $\mu$ m前後に調整した後、偏光顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

第31表 分析対象一覧表(第52図)

遺物No.	種類	出土遺構	時期	寸法(cm)		備考
				全長	厚さ	
17	漆器椀	2区SE3	古代(平安時代)	—	—	縦木取り、ケヤキ、黒漆に赤漆で文様
18	漆器皿	2区SE5	中世(鎌倉時代)	8.5	0.9	横木取り、ブナ属、黒漆に赤漆で文様
19	漆器椀	2区SE2	中世(鎌倉時代)	11.8	5.0	横木取り、ケヤキ、黒漆
20	漆器椀	2区SE2	中世(鎌倉時代)	14.0	4.5	横木取り、ケヤキ、黒漆
21	漆器椀	3区SE2	中世(鎌倉時代)	14.0	5.0	横木取り、ケヤキ、黒漆に赤漆で文様

## 結果および考察

以下に、塗膜分析結果について述べる。なお、各試料の表面部分の赤外吸収スペクトル図(第61図2~6)では、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber (cm<sup>-1</sup>);カイザー)を示す。各スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は生漆の赤外吸収位置を示す(第32表)。各塗膜の特徴は第34表にまとめた。

## (1) 17(漆器椀)

赤色文様部の塗膜層は、木胎a層、炭粉からなる下地b層、塗膜層c1層、赤色塗膜層c2層で構成されていた(第60図4a、4b)。表面塗膜層では、赤外分光分析により漆成分のウルシオール(No. 6~8)が確認された(第61図5)。赤色塗膜層c2層は、X線分析で水銀(Hg)が検出され(第33表)、水銀朱による着色であった。

第32表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

(2) 18 (漆器皿)

赤色文様部の塗膜層は、木胎a層、炭粉からなる下地b層、塗膜層c1層、赤色塗膜層c2層で構成されていた(第61図1a、1b)。表面塗膜層では、赤外分光分析により漆成分のウルシオール<sup>(1)</sup>の吸収(No. 6~8)が確認された(第61図6)。赤色塗膜層c2層は、X線分析で水銀(Hg)が検出され(第33表)、水銀朱による着色であった。

(3) 19 (漆器椀)

黒色塗膜層は、木胎a層、炭粉からなる下地b層、塗膜層c層で構成されていた(第60図1a、1b)。表面塗膜層では、赤外分光分析により漆成分のウルシオール<sup>(1)</sup>の吸収(No. 7、No. 8)が、やや明瞭でないが、確認された(第61図2)。なお、表面塗膜層が断片的に分布することから、漆成分の吸収が不明瞭であったと考えられる。

(4) 20 (漆器椀)

黒色塗膜層は、木胎a層、炭粉からなる下地b層、塗膜層c層で構成されていた(第60図2a、2b)。表面塗膜層では、赤外分光分析により漆成分のウルシオール<sup>(1)</sup>の吸収(No. 6~8)が確認された(第61図3)。

(5) 21 (漆器椀)

赤色文様部の塗膜層は、木胎a層、炭粉からなる下地b層、塗膜層c1層、赤色塗膜層c2層で構成されていた(第60図3a、3b)。表面塗膜層では、赤外分光分析により漆成分のウルシオール<sup>(1)</sup>の吸収(No. 7、

第33表 赤色塗層膜のX線分析結果表

遺物No.	塗膜層	C	SiO <sub>2</sub>	SO <sub>3</sub>	HgO	合計
17	c2層	70.70	2.91	8.95	17.44	100.0
18	c2層	60.67	2.09	11.05	26.19	100.0
21	c2層	60.95	2.65	11.54	24.86	100.0

(mass%)

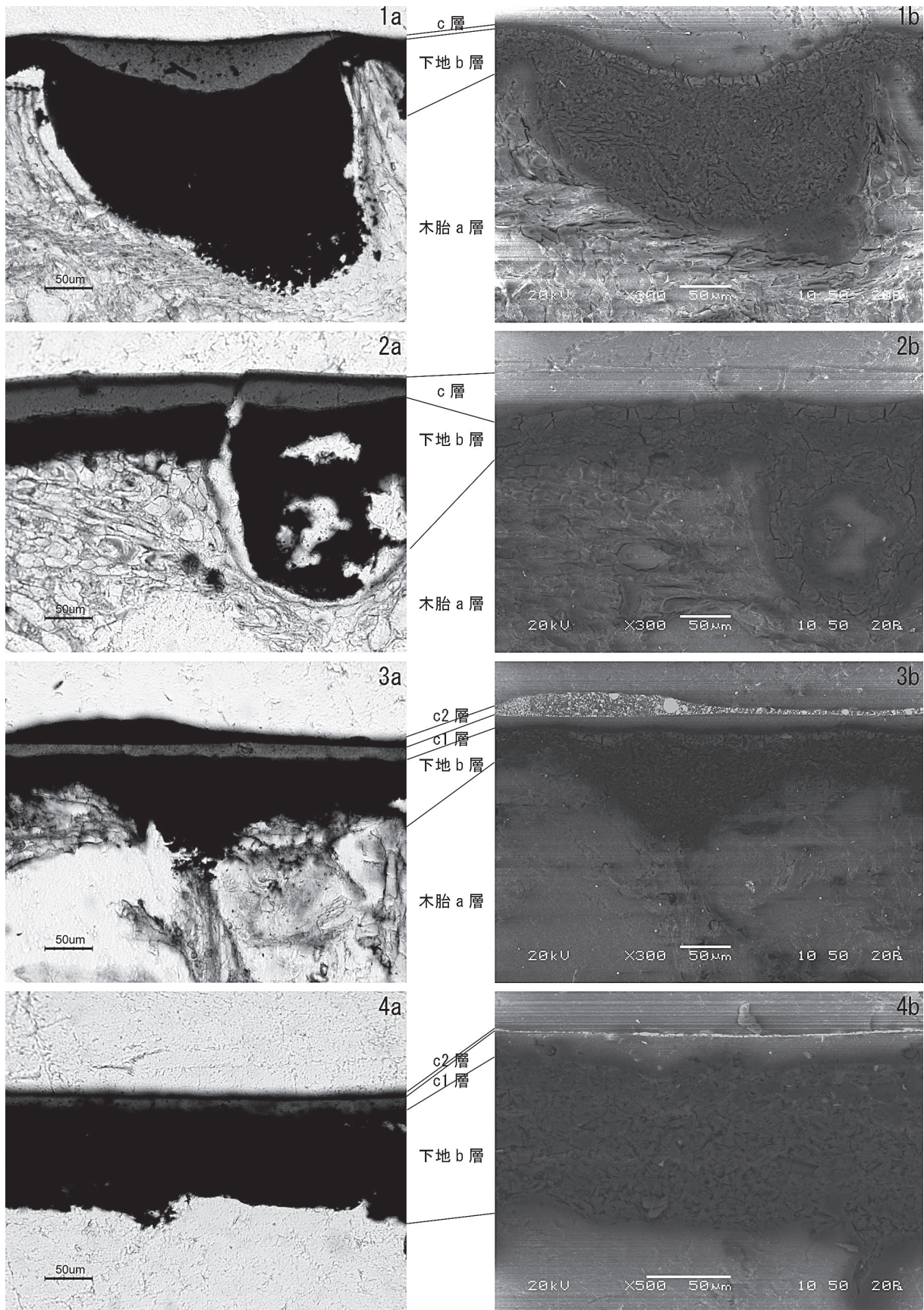
No. 8)が確認された(第61図4)。赤色塗膜層c2層は、X線分析で水銀(Hg)が検出され(第33表)、水銀朱による着色であった。

### 3 まとめ

波寄三宅田遺跡から出土した漆製品について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、いずれの漆製品も炭粉下地層および塗膜1層からなり、さらに21、17および18の赤色文様部では、赤色塗膜層より水銀朱が検出された。

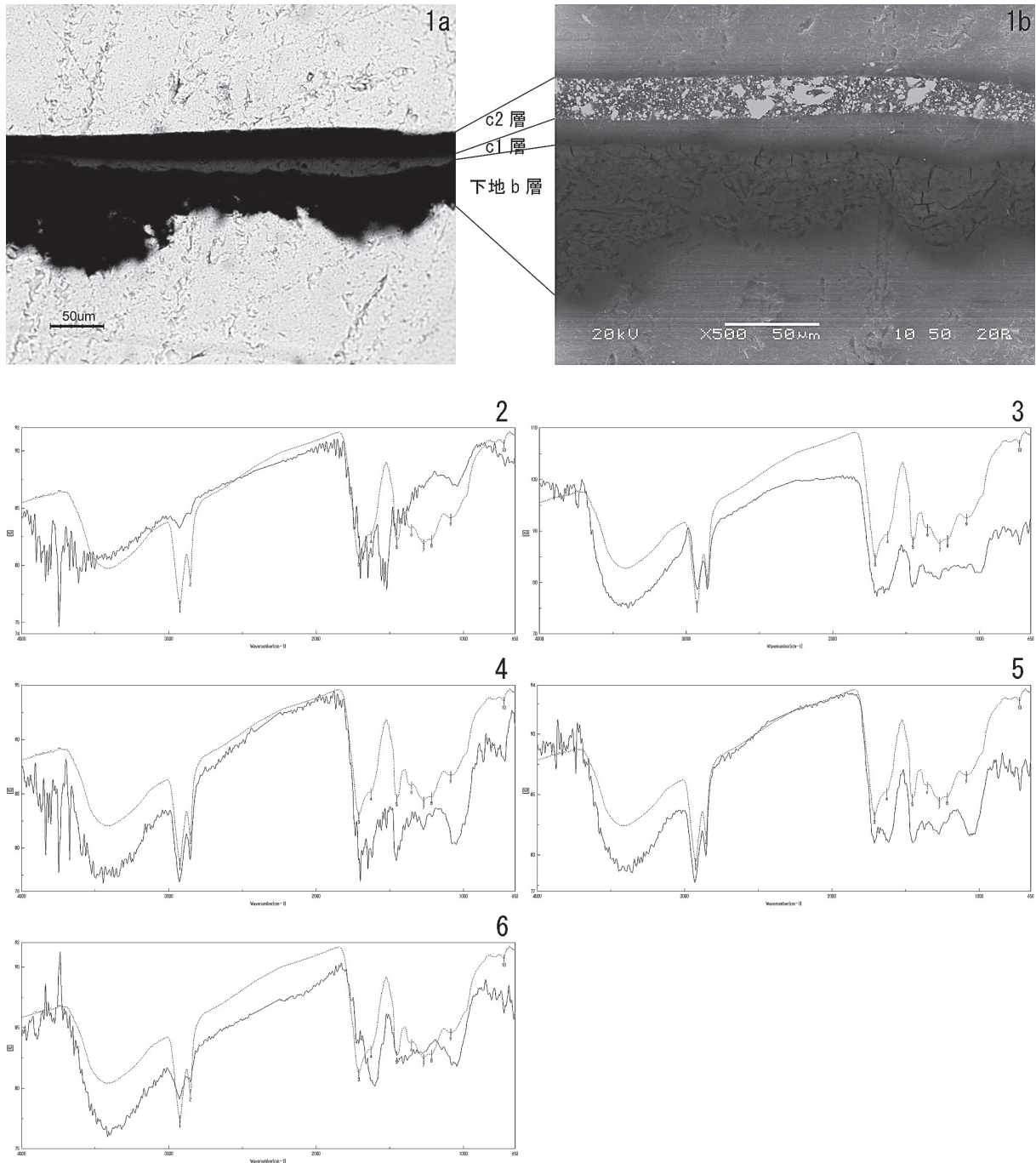
第34表 塗膜分析結果表(第61図)

遺物No.	種類	塗り	下地	塗膜層	文様部の使用顔料
17	漆器椀	黒色(赤色文様有り)	炭粉	1層	水銀朱
18	漆器皿	黒色(赤色文様有り)	炭粉	1層	水銀朱
19	漆器椀	黒色	炭粉	1層	—
20	漆器椀	黒色	炭粉	1層	—
21	漆器椀	黒色(赤色文様有り)	炭粉	1層	水銀朱



1. 19 黒色塗膜 2. 20 黒色塗膜 3. 21 黒色塗膜と赤色文様部 4. 17 黒色塗膜と赤色文様部

第60図 塗膜構造 (a) と反射電子像 (b)



実線：分析試料、点線：生漆 (No. は主な吸収位置)

1. 18 黒色塗膜と赤色文様部 2. 19 3. 20 4. 21 5. 17 6. 18

第61図 塗膜構造 (a) と反射電子像 (b) および赤外分光スペクトル図 (2～6)

## 第6章 まとめ

ここではこれまでに説明してきた弥生時代から古代・中世の遺物とともに、第1分冊に収録した遺構と合わせて波寄三宅田遺跡の概要を時代ごとにまとめておきたい。最初に簡単に表としてまとめたものを次項に呈示しておき、以下、時期ごとに概要を述べていきたい。

弥生時代中期 中期前半と考えられる土器が出土した土坑は、調査区の西端の7区で2基（SK2とSK4）、調査区の中ほどの4区で1基（SK1）、3区で6基（SK4・SK5・SK14・SK15・SK17・SK19）ある。その他、時期細分は特定できなかったが、中期と考えられる土器が出土した土坑は3区に1基（SK6）ある。このように中期前半の遺構が7区から3区の調査区西から中ほどまで、密度は低いながら点在している。一方、中期でも中頃以降の遺構は1区のSD3とSD4で構成されるSX1の方形周溝墓1基のみであるが、その東側の川から後期の土器に混じって周溝墓と同じような時期の土器（第16図356、第19図410・412～418）が出土している。この中には近江の受口状口縁甕（第19図414）もあるが、中期でこの種の甕の出土は、少なくとも越前最北の事例で、加賀では北陸を代表する拠点集落の八日市地方遺跡で確認している。玉作関連遺物は、7区の古代の須恵器を出土したSD15から1点だけ出土しているが、その東の5区・6区では中期の遺構は確認されず、土坑1基（SK1）のみが確認された4区でも出土していない。この時期の土器を確認している3区のSK5・SK14・SK19や、弥生時代より降る時期の遺構である、古代の掘立柱建物の柱穴（SB3の柱穴1）や中世の井戸（SE4）や時期は特定できないが、その東の2区のピット（P143・P253）などからも玉作関連遺物が出土している。しかし、弥生時代後期の土器を出土した遺構には伴わない。中期の玉作関連遺物である紅簾片岩製玉鋸も5点（第50図35～39）出土していることから、玉作の作業は中期に限定され、その中心も3区から2区の限られた範囲に限定できそうである。坂井平野や足羽川以北の福井平野北部の中期前半から中頃までの遺跡では、点数は少ないがいずれの遺跡でも玉作関連遺物は出土しているが、弥生時代も後期になるとそれは限られた遺跡のみで出土する状況に合致する。

1区で検出され方形周溝墓と判断されたSX1は、その西側のSD3から壺（第7図189）が、SD4から鉢（第7図191）が出土しており、この2点は周溝墓への供献土器であったと考えられる。SD4からは時期が後期に降る甕の口縁部が出土しているが、本文でも述べたようにこの土器は混入と考えられる。その理由は供献土器と考えた器形と大きさで、同じような中期中頃から後半の時期（凹線文系土器が波及する直前）の壺と鉢が、福井市別所遺跡や今市岩畑遺跡で出土しているためである。この時期の供献土器は小型から中型の受口状、または袋状口縁の壺と鉢で構成されることが多いので、この判断に問題はないと考えられる。またこの時期の周溝墓には隣接、または近接して付近に集落域が想定できないことが多い。本遺跡でも川からは同時期と考えられる土器は出土しているものの、調査区内では周溝墓以外の遺構はなく、墓域と集落域が離れた場所に形成されていたものと考えられる。

弥生時代後期 後期の土器を出土した遺構は、7区で井戸1基（SE1）・土坑1基（SK3）が、5区で井戸1基（SE1）が確認されているが、3区ではこの時期の遺構は未確認である。7区と5区には井戸があるのに対し建物などの居住施設は未確認であるが、その理由として、古代または近代の圃場整備で削平されたことが挙げられよう。弥生時代全般を通じて、扇状地を除く沖積地では竪穴住居は検出されていない。竪穴住居があるのは加越丘陵などの台地上の遺跡のみである。沖積地での住居は基本的に

地面を掘り窪めない「平地式住居」、または「周溝を持つ建物」である。数本（多くの場合は6本か10本程度か）の柱穴の周囲に不整形の浅い溝を巡らすもので、遺存条件が良ければ柱穴と周溝の間に周堤の盛土を検出できるが、周溝を認めなければ柱穴群だけでは建物と認識できない。そこで7区で検出された弥生時代後期の井戸（SE1）と古代の井戸2基（SE2とSE3）の残された深さを比較すると、前者の弥生時代の井戸であるSE1は最も深いところで72cmに対して、後者の古代の井戸であるSE2は102cm、SE3が112cmで、両時代の井戸の深さには30cmから40cm以上の差がある。建物の周囲に巡らされる溝の検出事例は20cm前後のものがほとんどであり、この井戸の遺存状況からすると、建物に伴う周溝は削平された可能性があり本来は井戸の付近に平地式建物があったとも考えられる。これは北陸で竪穴住居の検出事例が少ない弥生時代中期についても同様と考えられる。

後期の土器は8区の川からの出土が最も多いが、2区の北東隅に一部かかるSD1出土の4点（第5図128～131）と、その南に伸びた1区のSD1から溝に充満するような状況で出土した87点（第7図193～201、第8図202～214、第9図215～238、第10図239～242・244～257、第11図258～273、第12図274～280）の土器を図化した。土器の時期は法仏式の範疇に限定され、時間幅も短い。総延長では60m近くあるが、幅が2mに満たず、深さも最大で60cm程の溝からの出土点数としては非常に多いが、その西側の2区・3区の遺構密度からは考えられない土器量である。このことから後期の集落はこの溝の東側、川の北側に大きく広がるものと考えられる。

弥生時代の遺物として注目されるのが鳥形土製品（第24図1）である。長さが5.2cmほどの顔と頸の部分だけで、頸から伸びるはずの胴部への盛り上がりが見られないため、頸の下の部分が僅かに内湾するように窪んでいる。また、割れた断面の幅も1cmほどと薄いことから胴部の表現がなく、頸から上を容器型土製品に貼り付ける飾り、もしくは把手としたものと考えられる。同じ川のV-1層から出土している土器は弥生時代後期の法仏式土器で、色調がこの時期の高坏などの優品に多い燈褐色から淡燈褐色で、胎土の特徴も類似する。同じ事例は確認できていないが、石川県などではこの時期に容器型土製品があり、本例もこのような特殊な土製品の一部と考えられる。

古墳時代前期 明らかに古墳時代に下ると考えられる土器で図化できたのは、川から出土した山陰の影響がある2点の甕（第15図341、第18図402）だけである。多数の破片の中に存在するかもしれないが、口縁内面が肥厚する布留式の甕は図化できていない。

古墳時代中期 現段階で編年の指標となる甕や須恵器が少ないので、明確な時期を特定できないが、おそらく5世紀代と考えられる手捏土器（第14図294～296）や小型土器（第14図300～311）が多数出土しており、大型壺の口縁部（第14図323）なども同様の時期と考えられる。さらにほぼ同じ大きさと形状の高坏も8点（第14図313～321）出土している。これらの土器が出土した川のⅢ層からは玉が10個出土しているが、これは周辺で白玉を用いた祭祀行為が行われた痕跡と考えられる。この5世紀代から6世紀代の集落遺跡の調査事例は少ないが、時期の指標となる須恵器そのものがまだ集落域で多いものではないため、土師器の編年が早急に必要であることを痛感している。なお、本文中で一般の集落からはほとんど出土例のないTK47の須恵器坏蓋については陶邑産ではなく、この周辺にこの時期の窯の存在がある可能性を述べた。本遺跡から北東へ約13km離れた加賀との国境に近い北潟湖畔に面した細呂木阪東山遺跡では須恵器窯は検出されず、包含層からTK47を前後する須恵器が多数出土し、その中には古墳の副葬品である装飾器台などもある。これら5世紀を主体とする須恵器の窯跡が若狭を除く北陸では未確認であるが、この遺跡の周辺にそれらがある可能性を考えている。つまり細呂木阪東山遺跡の古墳時代

の須恵器は、現段階では未確認の窯跡群から集積された製品の一部と考えており、本遺跡の古墳時代の須恵器もこれらと同じ可能性がある。

古代・中世 ここでは掘立柱建物と井戸などの遺構が検出された古代と中世の両時期について検討する。柱穴から須恵器が出土した建物と、これに長軸の方位が合致するものを古代の掘立柱建物として認定する。中世の遺物を出土した柱穴の掘立柱建物、古代と想定した掘立柱建物と重複するもの、柱穴が小さいものを中世の掘立柱建物と考える。古代の掘立柱建物の柱穴は方形の平面形で大きいものが特徴で、これらの条件から全体を概観する。7区では掘立柱建物などは検出されていないが、調査区の西端に井戸が2基(SE2とSE3)あり、そのうちの1基(SE3)からは「五月女」の墨書土器が出土している。古代の建物は川とSD15の東の5区から長軸を揃えるように並んで10棟の掘立柱建物(SB1～SB10)が、さらに6区では5区の掘立柱建物と約36mはなれて1棟(SB1)が検出されている。掘立柱建物が1棟だけ検出された古代の遺構がやや閑散な6区と、須恵器を出土した土坑(SK2)が1基だけの4区を挟んだ3区で、整然と並んだ掘立柱建物が7棟(SB1～SB7)、隣接する2区で1棟(SB2)が検出されている。SB3とSB4は近接しており同時期に併存したとは考えられないが、同じ方向に柱穴が並び、中世の遺物を出土したSE5が柱穴の過ぎ脇にある。また、同じ柱穴の方向のSB2では、中世の遺物を出土したSE4が柱穴に重複する。このことからSB2・SB3・SB4の3棟の掘立柱建物は古代の建物と指摘できる。また、これらと同じ向きのSB1と重複するSB8は、柱穴が古代としたものよりも小さく、向きもやや異なり、柱穴から中世の遺物(第5図132のカワラケ)が出土していることから、中世の建物と考えられる。この掘立柱建物の周辺には中世の遺物を出土した井戸が6基(3区SE1・SE3・SE4・SE5、2区SE3・SE4)検出され、これらの井戸とは間隔を空けたSB9やSB10が中世の掘立柱建物と考えられ、遺構の分析では古代の建物と仮定した2区のSB1にもその可能性は残される。

道路を挟んだ1区では、井戸1基(SE1)のみの検出である。このように概観すると、1棟だけ掘立柱建物が検出された6区と、1基だけ井戸が検出された4区の古代の遺構が閑散としか残されていない地区を挟んで、西側の5区で10棟と、東側の3区の8棟に掘立柱建物が分かれているように見えるが、実際に建物がなかったのであろうか。6区と隣の4区では北西から南東に並ぶ細長い溝が多数検出されているが、西の5区と東の3区でも似たような溝が少ないながらも検出されており、これらは4・6区の溝とはほぼ直角の方向である東西に近い方向で検出されている。また、掘立柱建物の柱穴は最も深いものは5区ではSB3の柱穴4の77cmで、多いのが40cmから70cmである。3区ではSB3の柱穴10の136cmで、多いのが50cmから70cmである。これに対して6区のSB1の柱穴の深さは、最も深い柱穴8の37cmで、その他の柱穴も25cm前後から30cmと比較的浅い。掘立柱建物の柱穴の深さは建物の性格によっても変わると思われるが、この状況から6区は東西両側の5区や3区よりも本来の地山面が高くあったのが後世に大きく削平された可能性が大きい。つまり、単純には5区と3区の2つの建物群で構成されたとするとはできず、その間にも本来は建物があった可能性が残される。

墨書土器は溝や井戸などの水に関する遺構からの出土が多く、本遺跡でも7区のSD15や5区のSD1などから図化した墨書土器26点の半数である13点が出土しているが、5区の3棟の掘立柱建物(SB1・SB2・SB6)の柱穴から4点の墨書土器が出土しているのは珍しい。遺物では次に説明する表採または表土からの出土である布目瓦のほか、墨書土器以外に特筆できるようなものは確認できていない。

表採または表土出土の遺物として古代の布目瓦を6点図化しているが、これは調査地の南西約2kmの木下廃寺から運び込まれたものと考えられる。木下廃寺については瓦が出土したとの情報しかなく、実

際にこの場所に存在したのかさえ不明であるが、九頭竜川西岸のこの周辺で他に瓦が出土した遺跡はない。古代寺院推定地で最も近いのが、九頭竜川を越えて坂井平野を挟んだ約13km東の加越山地山麓部に近い女形谷廃寺であるがこの距離を運んだとは考えられないため、やはりこの遺跡周辺にまだよく知られていない古代寺院があったと考えられる。その背景には高串庄の存在が大きいと思われる。高串庄とは奈良国立博物館所蔵の天平神護二（766）年十月二十一日付の『東大寺開田図端書』の「越前国坂井郡高串村東大寺大修多羅供分田」に示された荘園であり、今回検出された古代の整然とした掘立柱建物群は、この荘園に関連したもので官衙的な様相を示している可能性が高い。福井市和田防町遺跡も掘立柱建物が整然と並ぶため古代足羽郡の官衙関連と考えられるが、ここには東へ約3.5kmの篠尾廃寺から布目瓦が複数運び込まれている。一般的な集落ではこのような事例は確認されていないことから、この遺跡が官衙関連であったとすれば、波寄三宅田遺跡も同様な性格であったと言えよう。

以上のようにこれまで時代ごとに調査成果を概観してきたが、波寄三宅田遺跡の所在地は福井市でも川西地区と呼ばれ、1967年に福井市に合併されるまでは坂井郡川西町で、その川西町も1955年に鶴村・本郷村・藁村・鷹巣村が合併した川西村が町となったものである。この中で本遺跡のある波寄は鶴村に含まれる。西隣となる藁村は三里浜の南部を占めて日本海に面する。この地域はこれまで大規模な開発事業がなかったように思われるが、1969年に発表された福井新港建設計画で、1970年代を中心として大規模な建設工事が進められた。この当時ではまだ開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査は徹底されておらず、製塩遺跡などがあったと思われるが、何ら調査されることなく工事が行われたことは今になっては残念である。しかし最近、その工事開始当初と思われる1978年頃の三里浜砂丘で、新潟の研究者が表採した古式土師器について資料紹介をする機会があった。その場所は遺跡地図では三里浜新保遺跡付近（第1分冊 第7図の08104）にあたる。工事前の地図によると、当時のこの周辺の標高は10m以上あったと思われるが、採取されたのは地表下約8mとのことで、現在も建物や道路の下に未確認の遺跡が残されている可能性が高い。さらに第二次世界大戦後に刊行された「浜四郷村誌」には、場所は明確ではないものの村内の砂丘の下から、埋没していた大型の組合せ五輪塔が発掘された記録が残されている。このような砂丘で最高の標高が30mを超える場所が残る三里浜の内陸部は、かなり遅くまで内海（潟湖）が残されていたと考えられる。東を九頭竜川、西を三里浜、南を丹生山地の山麓部に囲まれた、この三角形の低地帯は「千町ヶ沖」と呼ばれていたらしい。元禄十二（1699）年の幕府裁決で米納津村が早魃による漁労不能時には作付けを許したとの記録があり、漁業ができるほど魚が泳ぐ水面が残され、海水が入り込んだ潟湖があったことが、先の記録からも裏付けられる。遺跡のある波寄町と西隣の村となる三里浜砂丘上の米納津・白方・浜島町との間には現在は家などが何もない大きな水田地帯が広がっているが、遺跡地図では表採された土器などから弥生時代から平安時代の遺跡として「水切・波寄遺跡」としている。この遺跡の存在は先の「千町ヶ沖」の存在と矛盾する。この周辺が絵図に残る高串荘であることから、過去にここには水田が開田できるほどの広い平野があったことは間違いない。この矛盾についてのヒントとして、近年研究が盛んになってきた気候変動が過去の歴史に大きく影響を与えたとの説が注目される。平安時代に最も進んだとされるロットネスト海進によって、現在より海水面が高くなったとの説がある。海水面が低かった奈良時代に高串庄は成立するが、その後の海進により塩害が始まり、さらに海水そのものが三里浜砂丘の背後にまで入り込むことで潟湖が広がり、荘園としての経営も成り立たなくなったのではないかとと思われる。つまり江戸時代の記録にある「千町ヶ沖」が出現したのであろう。



これまで福井平野の沖積地で多くの集落遺跡が発掘調査されたが、遺物の出土量や調査事例が多い弥生時代後期末から古墳時代前期の遺構は未確認で、その時代の土器も極端に少ない。特に口縁内面が肥厚する布留式甕が図化できていないのは、この時期の集落が周辺にはないためと考えられる。その中で先に触れた新潟の研究者に表採された土器は、この時期に該当する。砂丘の下深くから出土したことを考えれば、この時期の集落が砂丘に覆われた地中に残されていることも想定される。古代から中世の海進海退の問題とともに、海退に伴って出現して陸化した砂洲に立地する日本海沿岸の古代から中世の遺跡（近くでは石川県金沢市普正寺遺跡・羽咋市寺家遺跡・輪島市門前町道下元町遺跡などがある）は大規模な飛砂の供給増によって埋没したことが指摘されているが、これに先行した古墳時代などにもあった可能性がある。

本県の、特に福井平野が、海水面の変動と地域の歴史とで比較検討されたことはないが、まだ資料が不十分なこともあって、ここではこの問題について深く論じることはできない。今後は自然科学分野の研究成果なども視野に入れて、福井平野の集落の検討を進めたい。

## 参考文献

### (第1章・第6章)

- 赤澤徳明編 2008 『今市岩畑遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告 第34集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 赤澤徳明 2015【港町をめぐる】「越前三国湊」仁木宏・綿貫友子編『中世日本海の流通と港町』清文堂
- 赤澤徳明 2020 「福井県坂井市三国町三里浜砂丘表採土器の紹介－(資料紹介)「く」の字口縁甕再考の契機として－」『古墳出現期土器研究』第7号 古墳出現期土器研究会
- 下中国彦編 1981 『福井県の地名』日本歴史地名大系 第18巻 平凡社
- 中塚武監監修 2020 『気候変動から読みなおす日本史』4 気候変動と中世社会
- 浜四郷村役場 1956 『浜四郷村誌』
- 福井県 1993 『福井県史』通史編1 原始・古代
- 福井市 1989 『福井市史』資料編別巻 絵図・地図
- 1997 『福井市史』通史編1 古代・中世
- 福井市 福井市文化財保護センター編 2012 『別所遺跡』一般県道徳光・福井線改良工事に伴う発掘調査報告書
- 村上勇 2009 「パリア海退が中世地域社会に与えた影響について－日本海沿岸の遺跡を中心にして－」『西国城郭論集Ⅰ』河瀬正利先生追悼論集 中国・四国地区城館調査検討会

### (第2章)

- 福井県教育委員会 1979 「I 三里浜周辺の遺跡について」(福井県埋蔵文化財調査報告第3集『重要遺跡緊急確認調査報告(Ⅱ)』)
- 福井市 1990 「菖蒲谷遺跡群」(『福井市史』資料編1 考古)

### (第4章)

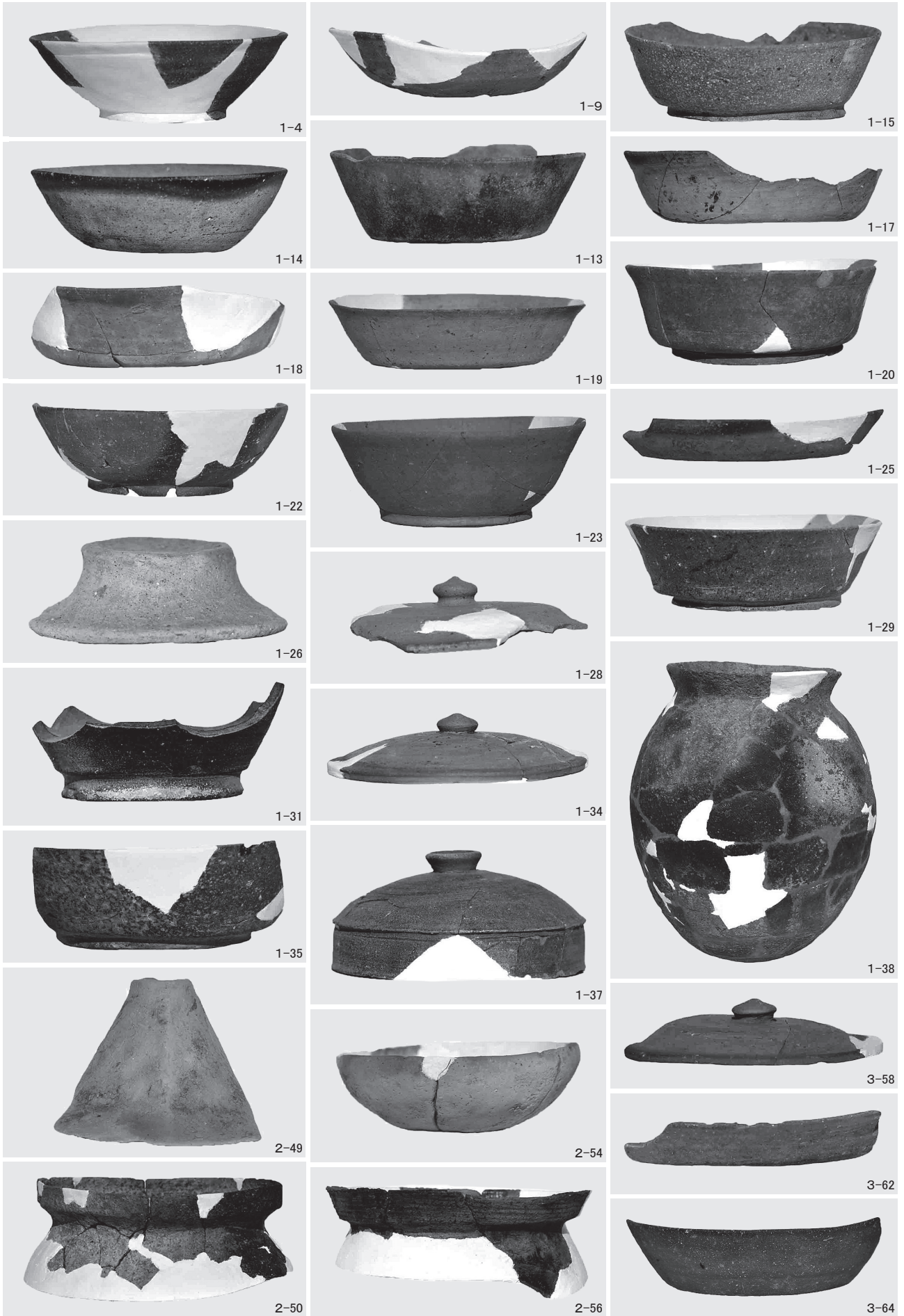
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009 『林・藤島遺跡泉田地区』
- 山本暉久 谷口肇編 1993 『池子遺跡群X No. 1-A地点』第1～4分冊 神奈川考古学財団調査報告46 池子米軍家族住宅建設にともなう調査 財団法人かながわ考古学財団



# 写 真 图 版



图版第一 第I·II区域出土土器



图版第二  
第II·III区域出土土器

